



Title	中国語臨海方言の記述的研究 : ヴォイス・アスペクト体系を中心に
Author(s)	根岸, 美聡
Citation	北海道大学. 博士(学術) 甲第13389号
Issue Date	2018-12-25
DOI	10.14943/doctoral.k13389
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92148
Type	theses (doctoral)
File Information	Misato_Negishi.pdf



[Instructions for use](#)

中国語臨海方言の記述的研究

——ヴォイス・アスペクト体系を中心に

根岸美聡

中国語臨海方言の記述的研究

——ヴォイス・アスペクト体系を中心に

目次

第一章 序論

1. 1	研究の背景	1
1. 1. 1	中国語方言の概略と臨海方言の位置づけ	1
1. 1. 2	中国語方言研究史の概略	5
1. 1. 3	中国語方言類型論	5
1. 1. 4	臨海方言の先行研究	6
1. 1. 4. 1	音韻	7
1. 1. 4. 2	語彙	7
1. 1. 4. 3	文法	8
1. 1. 4. 4	総合的な研究	8
1. 2	研究の目的と方法	8
1. 2. 1	研究の目的および期待される意義	8
1. 2. 2	研究の方法	9
1. 2. 2. 1	記述・分析の方法	9
1. 2. 2. 2	調査の概要	10
1. 3	本論文の構成	11

第二章 臨海方言音韻概説

2. 1	音節構造	12
2. 1. 1	声母	12
2. 1. 2	韻母	13
2. 1. 3	声調	13
2. 2	変調	14
2. 2. 1	小称変音	14
2. 2. 2	連読変調	15

第三章 臨海方言文法概説

3. 1	統語構造	18
3. 1. 1	主述構造	20
3. 1. 2	動目構造	20

3. 1. 3	述補構造	21
3. 1. 3. 1	結果補語	21
3. 1. 3. 2	方向補語	22
3. 1. 3. 3	可能補語	22
3. 1. 3. 4	状態補語	23
3. 1. 4	偏正構造	23
3. 1. 5	並列構造	24
3. 1. 6	連動構造	24
3. 2	品詞分類	25
3. 2. 1	品詞体系	25
3. 2. 2	名詞	25
3. 2. 2. 1	場所詞	26
3. 2. 2. 2	方位詞	27
3. 2. 3	数詞・量詞 (数量詞)	28
3. 2. 4	代詞	29
3. 2. 4. 1	人称代詞	29
3. 2. 4. 2	指示代詞	30
3. 2. 4. 3	疑問代詞	31
3. 2. 4. 3. 1	一般的な用法	31
3. 2. 4. 3. 2	疑問代詞の非疑問用法	32
3. 2. 5	動詞	32
3. 2. 5. 1	動詞の重ね型	33
3. 2. 5. 2	動詞の接尾辞	33
3. 2. 5. 3	動詞句の接尾辞	34
3. 2. 5. 4	助動詞	35
3. 2. 6	形容詞	36
3. 2. 7	副詞	36
3. 2. 7. 1	一般的な副詞	36
3. 2. 7. 1. 1	範囲副詞	36
3. 2. 7. 1. 2	程度副詞	37
3. 2. 7. 1. 3	時間副詞	38
3. 2. 7. 2	否定副詞	39
3. 2. 7. 3	副詞接尾辞	40
3. 2. 8	介詞	41
3. 2. 9	接続詞	45
3. 2. 10	構造助詞	45

3. 2. 1 1	文末助詞	46
3. 2. 1 1. 1	“爻□fia ⁰ ”、“□fia ⁰ ”	46
3. 2. 1 1. 2	“哇”	46
3. 2. 1 1. 3	“呢”	47
3. 3	構文	47
3. 3. 1	疑問を表す構文	47
3. 3. 1. 1	諾否疑問文	47
3. 3. 1. 2	選択疑問文	48
3. 3. 1. 3	正反疑問文	49
3. 3. 1. 4	疑問詞疑問文	50
3. 3. 1. 5	推測疑問文	50
3. 3. 2	命令文	51
3. 3. 3	存現文	51
3. 3. 4	“是…个”分裂文	52
3. 3. 5	動詞コピー構文	53
3. 3. 6	目的語主題化構文	53

第四章 臨海方言のヴォイス体系

4. 1	共時的体系	55
4. 1. 1	概略	55
4. 1. 2	受動構文	57
4. 1. 2. 1	基本的な特徴	57
4. 1. 2. 2	介詞による差異	59
4. 1. 3	使役構文	60
4. 1. 3. 1	基本的な特徴	61
4. 1. 3. 2	介詞による差異	61
4. 1. 4	処置構文	62
4. 1. 4. 1	基本的な特徴	62
4. 1. 4. 2	注目すべき用法	64
4. 1. 5	介詞“拨”のもたらす多義性とその軽減方法	65
4. 2	介詞“拨”の多機能性の分析	66
4. 2. 1	共時的状況	67
4. 2. 1. 1	用語の定義	67
4. 2. 1. 2	介詞“拨”の用法の整理	68
4. 2. 2	介詞“拨”の通時的な機能拡張プロセスの推定	71

第五章 臨海方言のアスペクト体系	
5. 1 概略	75
5. 2 アスペクト形式の機能と分布	79
5. 2. 1 将然・開始・起動	79
5. 2. 1. 1 【将然】“快/块要/要” + 動詞句 + “□fiɔ ⁰ ” 「もうすぐ～しそうだ」	79
5. 2. 1. 2 【開始】“□k ^h œ ²⁴ 想” + 動詞「～しつつある」	80
5. 2. 1. 3 【起動】動詞 + “起来” 「～し始める」	81
5. 2. 2 持続・進行・継続	82
5. 2. 2. 1 【持続】動詞 + “□k ₃ ʔ ⁰ □t ₃ ʔ ⁰ ” 「～している」	82
5. 2. 2. 2 【進行】“在 (□k ₃ ʔ ⁰)” + 動詞「～しているところだ」	83
5. 2. 2. 3 【継続】動詞 + “落去” 「～し続ける」	84
5. 2. 3 実現・経験・終結・出来事の発生	85
5. 2. 3. 1 【実現】動詞 + “□l ₃ ʔ ⁰ ”、動詞 + “爻” 「～した」	85
5. 2. 3. 2 【経験】動詞 + “过” 「～したことがある」	85
5. 2. 3. 3 【終結】動詞 + “完” 「～し終わる」	86
5. 2. 3. 4 【出来事の発生】文 + “爻□fiɔ ⁰ / □fiɔ ⁰ ” 「～した」	88
5. 3 実現相を表す“□l ₃ ʔ ⁰ ”と“爻”	89
5. 3. 1 統語的な特徴	90
5. 3. 2 意味機能	90
5. 3. 2. 1 行為動詞と共起する場合	90
5. 3. 2. 2 二段階動詞と共起する場合	90
5. 3. 2. 3 変化動詞と共起する場合	91
5. 3. 2. 4 “□l ₃ ʔ ⁰ ”と“爻”の意味機能のまとめ	92
第六章 終章	94
参考文献	96

付録1：臨海方言同音字表

付録2：臨海方言文法調査データ

中国語臨海方言の記述的研究
ーヴォイス・アスペクト体系を中心に

第一章 序論

第一章では中国語方言研究の歴史と現状、ならびに中国語方言の概略と其中での臨海方言の位置づけについて触れた後、臨海方言の記述研究の有する意義を述べ、研究の目的を明らかにする。

1. 1 研究の背景

1. 1. 1 中国語方言の概略と臨海方言の位置づけ

本論文は、中国浙江省の中部に位置する臨海市で用いられている、中国語の方言の一つである臨海方言を対象とするものである。国土の広さからも想像されるように、中国で用いられている言語は、少数民族言語であれ、中国語方言であれ、多様であり、差異もまた大きい。そのうち中国語方言については、標準中国語の基礎方言である北方方言（官話方言）以外に、晋方言、呉方言、徽方言、湘方言、贛方言、客家方言、粵方言、閩方言、平話方言といった大方言区に分類されており（【図 1-1】）、この大方言区を越えての相互のコミュニケーションが困難であるのはもちろんのこと、北方方言以外の方言区では、同一方言区内の隣接した地域の方言であっても、しばしば意思疎通に大きな支障が生ずる¹。この中国語方言の多様性は、数の多さと複雑さの点で特徴づけられ、大方言区間の言語的な距離の遠さは、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語といったロマンス諸語の間のそれに喩えられるほどである²。

臨海方言は、上述の中国語方言の分類では呉方言に属し、その中でも台州片に属するとされる（【図 1-2】）³。「片」は呉方言内部の下位分類である。呉方言は主に江蘇省南部、上海市、浙江省に分布している。中国語方言の中における呉方言の最も大きな特徴は、音節頭子音のうち閉鎖音と破擦音に有声・無声無気・無声有気の三つの対立があることである。標準中国語を含む多くの中国語方言では、閉鎖音と破擦音の音節頭子音は有気・無気の二つの対立であることが一般的である。この音節頭子音の特徴と地域的な分布により呉方言は周辺の方言と区別されている。

呉方言の下位分類である六つの「片」のうち、太湖片を北部呉方言、その他の台州片・瓊江片・婺州片・処衢片・宣州片を併せて南部呉方言と分類することがある。しかし、北部呉方言と南部呉方言の内実は異なっている。北部呉方言は分布地域が広いものの均質的であり、意思の疎通に大きな問題は生じないと言われている。一方で、臨海方言の属する

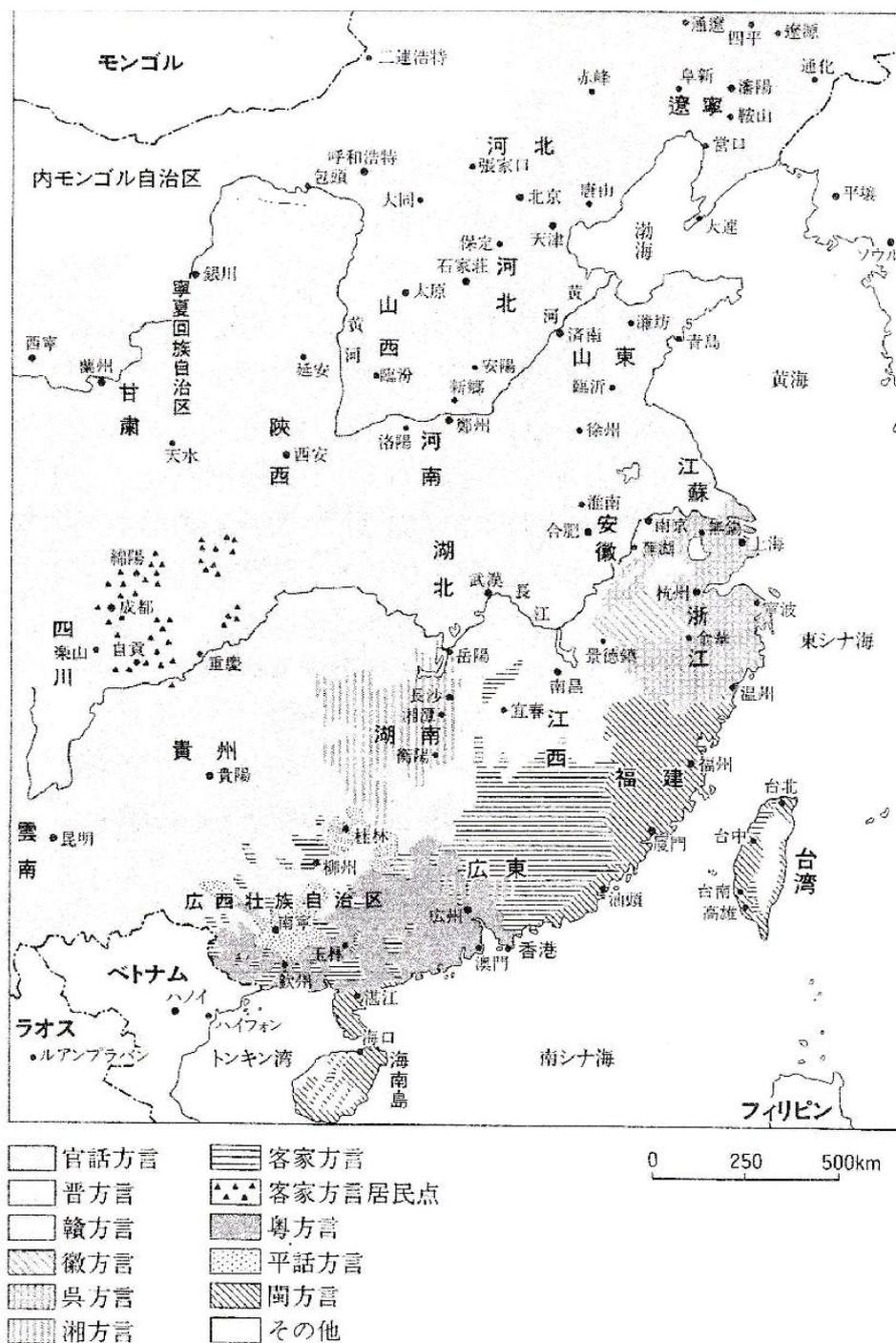
¹ 大方言区の内訳については候精一主編(2002)参照。

² Ramsey, S. Robert (1987). *The Languages of China*, Princeton University Press. (高田時雄他訳(1990)『中国の諸言語:歴史と現況』、大修館書店)参照。

³ 中国社会科学院和澳大利亚人文科学院(1988)参照。

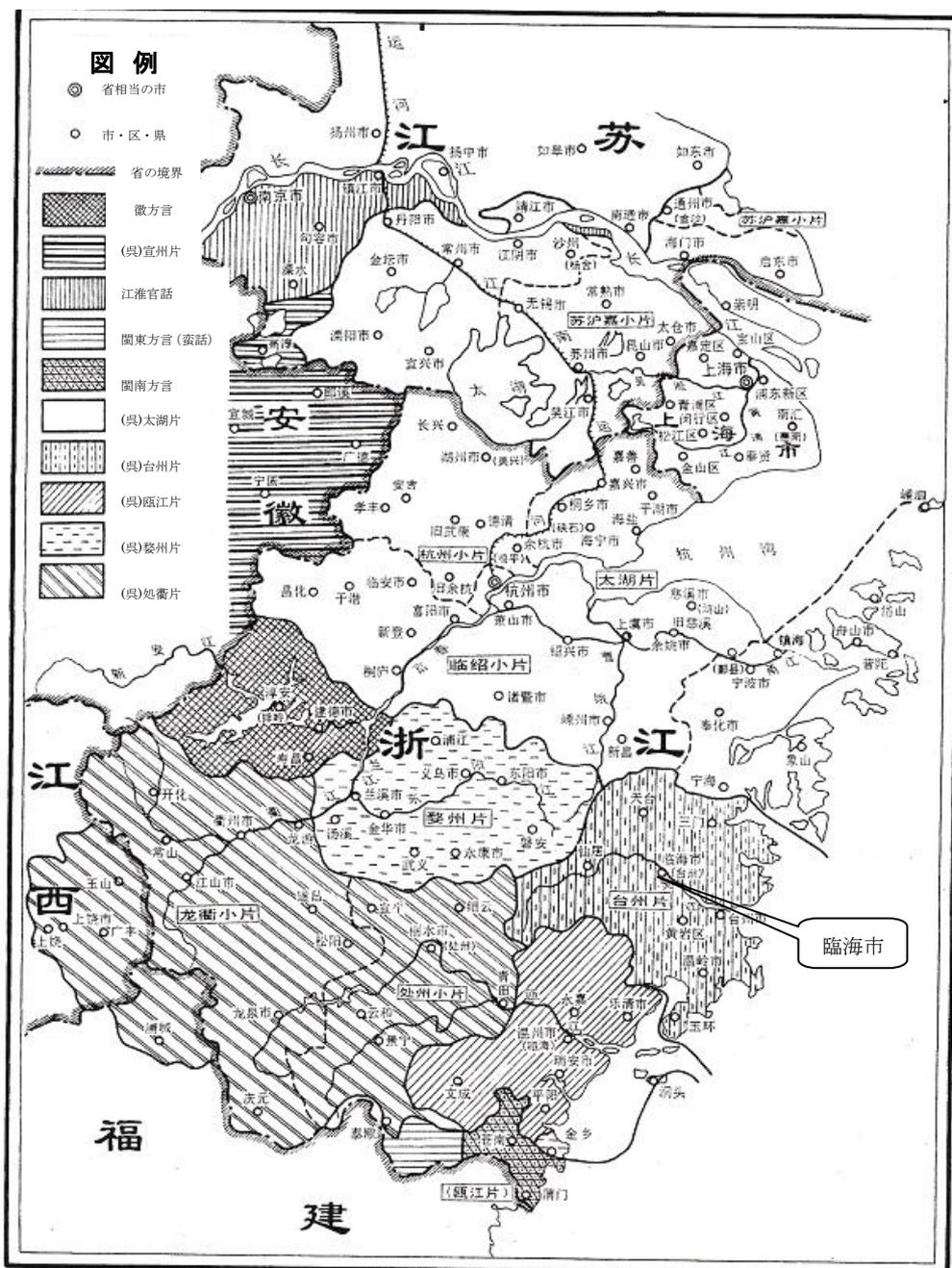
南部吳方言は五つの下位方言を内包することからも分かるように、内部差異が非常に大きい。吳方言は、1. 1. 3でも後述するように、文法面でも標準中国語との差異が少なからずあり、文法研究の対象としてとりわけ価値が高いと考えられる。

【図 1-1：中国語方言分布図】⁴



⁴ 木村英樹(1996)『中国語はじめの一步』筑摩書房、p.61より引用。中国語の大方言の分布を示した地図は他にも存在するが、この地図が日本語で書かれており、また地図上に示された方言分類が学問的に信頼し得るものと考えられるため、ここに掲載する。

【图 1-2：吴方言分区图】⁵



⁵ 侯精一主編(2002:68)を引用の上、一部改変。図例の方言分類において、「(呉)」と頭につくものは呉方言の下位分類である。それ以外は呉方言に属するとされる方言ではない。

1. 1. 2 中国語方言研究史の概略

中国語方言の言語学的研究は、20世紀初頭のベルンハルト・カールグレンによる字音調査にまで遡る。これは中古音（隋代音）再構のために比較言語学を運用する際の資料として、代表的な方言地点の音声調査をしたものであり、研究を進める上での手段としての調査であった。方言そのものを明らかにすることを目的とした本格的な記述研究は、呉方言を対象とした趙元任(1928)『現代吳語的研究』から始まると言える。これはアメリカで教育を受けた言語学者・趙元任による厳密な記述言語学的手法による画期的な成果であったが、音韻論に重きが置かれており、文法記述は比較的簡単なものに止まっていた。趙氏の研究以降、中国語方言研究は音韻論、語彙論では隆盛となるものの、文法研究は相対的には低調であった。上述のような状況に変化がみられたのは1980年代であり、朱德熙(1985)「汉语方言里的两种反复问句」(『中国语文』第1期 pp.10-20)を発端として、比較方言文法が盛んになってきたためであるという(岩田(1994:196))。

そして、近年においては、方言文法はむしろ中国語研究のなかで最も盛んな分野の一つとなっている。研究者自身の母語である方言の文法を記述する研究も発表されており、各地の方言における、特徴的な機能語や標準中国語には見られない文法現象などに関するデータが蓄積されつつある。

以上で述べたように、中国語方言研究全体を一つのものとして捉えれば、進展していると言える。しかし、その内実は決して楽観できるものではなく、広東語（粵方言の一つ）や上海方言（呉方言の一つ）をはじめとするいわゆる「大方言」に関しては音韻・語彙・文法の全てにおいて研究が広く進められているものの、多くの「小方言」の研究に関しては、その数の多さと複雑さのために、依然として音韻体系の調査を主としたものに限られる傾向があり、文法体系については、標準中国語にみられる文法範疇を担う言語形式のリストを掲げるといった基礎的な調査や個別の文法現象を論じた研究があるだけの段階に止まっている⁶。中国の方言は多種多様であり、記述研究の対象としての高い価値を備えているはずであるが、標準語教育の浸透による方言の標準語化が各地で進んでおり、同時に、方言を話すことのできない人も増加している。いまや本格的な記述研究がされないまま消滅の危機に瀕している方言も少なくないのである。

1. 1. 3 中国語方言類型論

それぞれの方言により記述の深度は異なるものの、前節で述べたような記述的な文法研究の増加を背景に、中国語方言類型論とも称される理論的研究が興隆してきている。主に語順やヴォイスの構造化パターンなど、類型論的に重要なパラメーターの各方言における類型を整理し、その上でそれらの通時的な生成プロセスを議論する一連の研究である⁷。

⁶ 本論文では、中国語の方言は全て「～方言」という表記で統一したが、広東語については「広東語」という呼称が通用しているため、「広東語」のままとした。

⁷ 中国語は典型的な孤立語であり、標準中国語であれ方言であれ、ごく一部の例外的現象を除けば形態変化の無い言語として知られる。臨海方言もまた例外ではない。しかし、形態変化が無いことがすぐにヴォイスという文法

例えば、語順を議論した本格的な中国語方言類型論としては劉丹青(2003)が挙げられる。劉氏は、介詞（ここでは前置詞(preposition)・後置詞(postposition)・周置詞(circumposition)の上位概念を指す語として使われている）の類型と、述語動詞と介詞句や目的語との語順などをパラメーターとして、標準中国語と上海・蘇州・紹興といった吳方言に属する方言を対象として論じている。そして、例えば吳方言においては、被動作者が主語（S）と述語動詞（V）の間の位置に副主題（T）として生起する条件が広く、標準中国語よりも典型的なSVO型から遠ざかっていると考えられることや、標準中国語と比べて前置詞が発達しておらず、しばしば後置詞の方が統語論的に重要な地位を占めていることなどが指摘されている。

また、ヴォイス体系を論じた中国語方言類型論研究の例としては、木村・楊(2008)が挙げられる。木村・楊(2008)は、中国語方言ではしばしば授与動詞が文法化して、一つの方言体系内で受動文の動作者を標示するだけでなく他の意味役割をも標示する前置詞となっている現象に注目し、そのヴォイス体系の生成プロセスを推定している。具体的には、北京方言と上海方言において使役文の被使役者と受動文の動作者とを目的語にとり、授与動詞に由来する前置詞の文法化・機能拡張のプロセスを推定し、北京方言では授与動詞“给”が「授与動詞>授与目標マーカ―→受益者マーカ―→受動文動作者マーカ―」というプロセスを、上海方言では授与動詞“拨”が「授与動詞>不許容使役文の被使役者マーカ―→受動文動作者マーカ―」というプロセスを経たものという仮説を提出している⁸。同じく授与動詞に由来する受動文動作者マーカ―たる前置詞が、方言によって異なる機能拡張のプロセスを経たことになり、今後、それぞれのタイプにどのような方言があるのか、或いは他のプロセスを経たケースもあり得るのかといったことが視野に入ってくるであろう。以上のような方言類型論的研究の成果は、一般言語学の理論研究にも貢献するところが大きいと予想され、大きな言語学的価値を備えるものだと考えられる。

1. 1. 4 臨海方言の先行研究

臨海方言に関する研究は、近年散見されるようになってきているが、決して多いとは言えない。既発表の論文は音韻の分野に関するものであるか、文法に関するものであれば個別の現象を扱ったものがほとんどで、アスペクト体系などの重要な文法項目の詳細は未だ明らかにされていない。

ここでは、臨海方言を対象とした研究について、以下、論文の内容から音韻・語彙・文

範疇の不在を意味するわけではない。中国語では一般に〈受動〉、〈使役〉などの意味を特定の構文を使って体系的に表しており、その意味でヴォイスが構文レベルで文法化されていると考えられる。例えば木村(2012:187)は、「ヴォイスとは、動詞の形態変化の有る無しにかかわらず、『動作者と主語の関係を中心に、名詞表現の意味役割と格表示の対応関係の変更が何らかのかたちで言語形式上に明示的かつ規則的に反映される現象』と捉え直すなら、……中国語は、動詞の形態変化こそ伴わないものの、統語的ないしは構文的レベルにおいては、ヴォイスと呼ぶにふさわしい文法現象をもち合わせている」と述べている。

⁸ 「>」は文法化、すなわち当該の語の持つ実質的な意味が薄れ、機能語としての役割を持つようになることを、「→」は機能拡張、すなわち当該の語が新しい機能を獲得することを、それぞれ表す。

法・総合的な研究の四つに分けて紹介する。本論文の内容に深く関わるものについては後に詳しく言及するため、ここでは題名を紹介するに止める。なお、呉方言或いは台州片を対象とした論文の中で臨海方言にも触れられていることがあるが、ここで逐一挙げることは控えることとする。

1. 1. 4. 1 音韻

声調を扱ったものとして、張燕春(2005)「臨海方言单音节声调的实验研究(臨海方言における単音節声調の実験音声学的研究)」、張燕春(2006)「臨海方言双音节连读变调实验研究(臨海方言における二音節連読変調の実験音声学的研究)」があり、それぞれ臨海方言の単音節の声調と二音節の連読変調について、実験音声学の手法を用いて分析している⁹。しかし、例字の選定に問題があり、本論文で得られた調査結果とは大きく異なっている。

その後、音韻体系を記述したものとして、黄晓东(2007)「浙江臨海方言音系(浙江省臨海方言の音韻体系)」が発表された。これは字音調査に基づいて臨海方言の声母・韻母・声調の体系をまとめ、その特徴を中古音の枠組みに基づいて分析しているほか、同音字表も整理されたものであり、その内容も総じて信頼しうるものである¹⁰。但し、連読変調についてはほとんど言及しておらず、その点を補う必要がある。

1. 1. 4. 2 語彙

語彙については、周静怡(2013)「臨海方言中的古语词例释(臨海方言内部における古語の例示とその意味分析)」が、臨海方言の語彙のうち古語の残存とみられるものについて例を挙げ分析している。卢笑予(2013b)「浙江臨海方言的人称代词(浙江省臨海方言における人称代詞)」は、臨海方言の人称代詞体系が複雑であることに着目し、臨海方言の内部における差異も含めて分析し、人称代詞の通時的变化の問題を論じている。卢笑予(2017)「从臨海方言“以=”看tc-类近指词在吴语区的分布与演变(臨海方言の“以=”から見たtc-類近称指示詞の呉方言区における分布と変遷)」と卢笑予(2018)「浙江臨海古城方言的指示词系统(浙江省臨海市古城方言の指示詞体系)」は、どちらも臨海方言の三種の指示機能を持つ形態素についての研究である¹¹。卢笑予(2017)は、三つのうちで最も近いものを指示する“以=”について、この形態素が呉方言に広く分布するtc-類近称指示詞に由来することを指摘した上で、中国語方言全体の指示詞体系の中に位置づけた。また、卢笑予(2018)は、臨海方言の三種の指示機能を持つ形態素の具体的な用法について記述し、機能の違いについて詳細に整理したものである¹²。これらの研究業績は、それぞれ意義のあるものではあるが、体系的な研究であるとは言えず、この点で本格的な研究が待たれる。

⁹ 臨海方言の声調と連読変調については第二章で述べる。

¹⁰ 声母・韻母・声調については第二章で詳しく述べる。

¹¹ “以=”の右上の記号「=」は当該の文字と同音の形態素であることを表す。言い換えれば、その文字の音だけを問題としているのであって、文字の表す意味は問題としないということである。

¹² より具体的な内容については、注36を参照。

1. 1. 4. 3 文法

文法現象を主題とするものでは、蔡海燕(1997)「臨海方言的状态词(臨海方言における状態語)」があり、臨海方言の形容詞の用法のうち、状態を描写するのに用いられる用法(重ね型など)について整理・分析している。卢笑予(2013a)「臨海方言非谓语前置詞的语法多功能性分析(臨海方言における非述語前置詞の文法的多機能性についての分析)」は、複数の意味役割を持つ前置詞“拨”の用法について分析し、その文法化の過程について見解を出すと同時に、“拨”と同様に複数の意味役割を持つ“搭”についても言及し、両者の意味地図(semantic map)を作成している。

いずれも意義のある重要な研究であるが、個別的な現象を扱うものであり、他の文法現象についてはほとんど本格的な先行研究が無いのが現状である。

1. 1. 4. 4 総合的な研究

臨海方言の概況についてまとめたものとして、臨海市志编纂委员会(1989)『臨海县志(臨海県誌)』第三章(傳国通による)と蔡勇飞(2015)「臨海方言音系及有关词汇、语法特点的研究(臨海方言の音韻体系及び関連する語彙、文法の特徴についての研究)」が挙げられる。両者とも臨海方言の音韻体系と語彙や文法の特徴的だと考えられる点について紹介している。いずれも臨海方言について簡単に書かれたものであり、体系的な記述ではない。なお、後者は前者と基本的に内容が一致するものである。

1. 2 研究の目的と方法

1. 2. 1 研究の目的および期待される意義

本論文は、これまで体系的な文法研究がなされてこなかった臨海方言について、以下に述べる方法によりその音韻体系・文法体系の概略を記述した上で、文法に関して特にヴォイス範疇およびアスペクト範疇がどのように構造化・体系化されているかを明らかにすることを目的とする。その上で、ヴォイスに関しては、中国語方言類型論的な観点から、使役構文において被使役者を導くマーカ―をとりあげ、その文法化と機能拡張の通時的プロセスを推定することを試みる。また、アスペクトに関しては、実現相を表す二つの助詞“爻”と“□lɜʔo”について、その機能差異を明らかにする。文法範疇のなかで、ヴォイス・アスペクトを選択したのは、それ自体が一般言語学的に重要な言語現象であるために他ならないが、以下で述べるように、これらが中国語方言類型論的な観点においても重要であると考えられるからである。

臨海方言の文法研究は、言語の記述的研究が普遍的に備える価値に止まらず、中国語方言類型論、ひいては言語類型論に対して貴重なデータを提供するという成果も期待できる。

例えば、呉方言に属する各方言では、“拨”をはじめとする「与える」という意味を持つ動詞、すなわち授与動詞に由来する介詞が、受動構文の動作者マーカ―として広く用いら

れている¹³。先述（1. 1. 3参照）のとおり、呉方言に属する上海方言では、もともと授与を表す動詞であった“拨”が、文法化によって特殊な使役構文の被使役者マーカースの用法を獲得した上で、受動構文の動作者マーカースに機能拡張したという通時的プロセスが推定されている（木村・楊 2008）。ところが、臨海方言にも、授与動詞に由来しヴォイス標示に用いられる介詞“拨”が存在するものの、受動構文の動作者マーカースとはならない（第四章参照）。よって、その通時的な文法化・機能拡張のプロセスは上海語とは別のものを想定した方が良いと考えられる。臨海方言の“拨”の文法化・機能拡張のプロセスを解明することは、中国語方言類型論における新たな材料を提供することにつながる。また、以上のような中国語方言類型論における成果が集積されていけば、系統関係のない言語との対照研究も視野に入れることが可能になり、ひいては言語類型論に貢献することも期待できよう。

また、アスペクト表現形式がどのような体系をなしているかについても、中国語方言類型論の上での貢献が期待できる。例えば、後述するように、臨海方言において実現相を表す形式には二つの形式があるが、どちらが生起するのかは「結果の残存の有無」という意味要素と関わっていると考えられる（第五章参照）。他の中国語方言に関する先行研究には、このような意味要素が実現相を表す形式の生起条件に関わっているとの報告は未だ確認されない。仮に本論文の成果がきっかけとなり、他の方言についてもこのような観点から実現アスペクト範疇の構造化のあり方が再検討されることになれば、アスペクトに関する中国語方言類型論に新たな材料を提供することになると言えるであろう。

1. 2. 2 研究の方法

1. 2. 2. 1 記述・分析の方法

上述のように本論文の内容は、共時的な記述（概説、ヴォイス・アスペクト範疇がどのように構造化されているか）と通時的観点による機能語の文法化・機能拡張のプロセスに関する推定である。

共時的な記述については、原則として、伝統的な記述言語学の手法に則る。ただし、中国語方言研究の場合、まずおよその文法体系を把握するために、インフォーマントに標準中国語の例文集を提示し、当該方言を用いた表現に翻訳してもらい、方言の用例を採取するということが広く行われている。本論文でも、文法体系の概況を把握する段階ではこの方法を採用する（《中国语言资源调查手册 汉语方言》pp.159-176 などを使用する）。しかし、ヴォイス・アスペクトを表現する各形式の厳密な生起条件の調査を行う段階では、臨海方言の体系性を重視しながら、類似の機能を有する形式が、様々な統語論的・語用論的環境に置かれた場合の適否やニュアンスの違いなどをインフォーマントに確認するという

¹³ 中国語学では一般に、副動詞(coverb)或いは前置詞(preposition)に相当する機能語を「介詞」と称する。本論文では p.6 で言及した刘丹青(2003)の定義に従い、「介詞」を前置詞・後置詞・周置詞の上位概念と定義しておく。

方法をとる。

通時的な文法化・機能拡張のプロセスを論ずる際には、文法化（grammaticalization）や再分析（reanalysis）といった歴史言語学で常用される概念を参照し、文法化や機能拡張の具体的なメカニズムの解釈に関しては、認知言語学的な視点も援用する。その際、可能な限り、得られた言語事実に基づきながら考察を進めることとする。このような言語事実を重視した研究方法が、通時理論における新たな発見に繋がりと考えるからである。

1. 2. 2. 2 調査の概要

臨海方言の記述資料の収集に当たっては、主に以下の五名のインフォーマントに協力していただいた。

【表:1-1 インフォーマント一覧】

氏名 イニシャル	生年	調査時の 年齢 ¹⁴	性別	出身地	使用可能言語	調査項目
HH	1974	35-44 歳	女	臨海	臨海方言、標準中国語、日本語	字音、例文、文法項目、会話資料
ZQ	1951	58 歳	女	臨海	臨海方言、上海方言、標準中国語	文法項目（部分）、会話資料
BY	1959	57 歳	男	臨海	臨海方言、標準中国語	字音（簡易）、例文、文法項目（部分）
CP	1961	55 歳	女	臨海	臨海方言、標準中国語	字音（簡易）、例文、文法項目（部分）
ZH	1964	52 歳	女	臨海	臨海方言、標準中国語	字音（簡易）、例文、文法項目（部分）

調査は 2009 年に札幌在住の HH 氏の協力により始められた。その後、HH 氏とは現在に至るまで定期的に面会し、調査に協力していただいていた。標準中国語による無意識の干渉を避けるために、調査は原則として日本語により行っている。本論文の核となるデータを提供して下さったのは HH 氏だと言える。また、HH 氏の母親である ZQ 氏にも、札幌滞在中に会話資料の収集に協力していただいたほか、例文の確認などの細かな点でもご協力いただいた。

BY 氏、CP 氏、ZH 氏の三名には 2016 年 10 月 17 日から 10 月 23 日にかけて、臨海にて調査を行った際にご協力いただいた。調査には標準中国語を用いた。

¹⁴ 年齢はそれぞれ調査を行った年のものである。具体的には、HH 氏は 2009-2018 年、ZQ 氏は 2009 年、BY 氏・CP 氏・ZH 氏は 2016 年の年齢である。表に示された年齢が近くとも、生年が必ずしも近いわけではないことに注意されたい。

1. 3. 本論文の構成

本論文の構成は次の通りである。第一章（本章）では、中国語方言の概略とその中での臨海方言の位置づけを確認し、中国語方言研究史の概略と現状および本論文の意義について述べた。また、研究方法についても述べた。

第二章と第三章は、臨海方言の概説である。第二章では、臨海方言の音韻体系について、その音節構造とそれぞれの成分（声母、韻母、声調）について紹介する。また、発話の際に現れる音声変化である小称変音と連読変調についても述べる。（なお、漢字の音については「付録1. 臨海方言同音字表」において、同音の文字をまとめた表を提示する。）第三章では、臨海方言の文法体系について、統語構造、品詞体系、構文の三つの点から整理する。（なお、主な根拠となるデータは「付録2. 臨海方言文法調査データ」にまとめる。）

第四章と第五章は各論である。第四章では、臨海方言におけるヴォイスの体系を、第五章では臨海方言におけるアスペクトの体系をそれぞれとりあげ、ヴォイス範疇・アスペクト範疇がどのように構造化・体系化されているかを提示する。その上で、ヴォイスに関しては使役構文の動作者を導く機能と処置構文の処置対象を導く機能とを含む複数の機能を担っている語について、その多機能性に着目し、用法を体系的に整理した上で、複数の用法の通時的な生成プロセスについて推定する。また、アスペクトに関しては、〈実現〉を表すと考えられる二つの形式について、共起する動詞によって現れる意味の違いを手がかりに、それぞれの形式の持つ意味について、より具体的な分析を試みる。

第六章では、本論文の成果ならびに今後の課題について述べる。

第二章 臨海方言音韻概説

第二章では、臨海方言の音韻体系について論じる。第一章で触れたように、臨海方言の音韻体系について言及する先行研究は複数存在するが、黄晓东(2007)の記述が最も筆者の調査結果に近いことを指摘した上で、第二章では HH 氏の音韻体系について整理していく¹⁵。

また、発話の際に現れる音声変化として確認することのできた、小称変音と連続変調についても紹介する。

2. 1 音節構造

臨海方言の音韻体系は、他の中国語諸方言と同じく音節を基本的な単位として記述することが可能である。そして、臨海方言の音節構造は標準中国語と同様に、声母（音節頭子音）、介音（声母と主母音との中間の母音的要素）、主母音（音節の中核をなす母音）、韻尾（末音）、声調（音節全体にかかる音の高低パターン）と解釈することができる¹⁶。このうち、介音・主母音・韻尾を併せて「韻母」と称する（【図 2-1】参照）。音節を構成するこれらの要素のうち、主母音は必須である。以下に音節構造の例として“臨”と“海”を挙げる¹⁷。

なお、周知のように中国語は基本的には一音節が一形態素に対応する単音節言語である¹⁸。

【図 2-1：臨海方言の音節構造】

・臨 liəŋ³¹

声母 l / 介音 i / 主母音 ə / 韻尾 ŋ / 声調 31

・海 he⁵³

声母 h / 介音 - / 主母音 e / 韻尾 - / 声調 53

声調	
声母	韻母 (介音/主母音/韻尾)

2. 1. 1 声母

臨海方言の声母は【表 2-1】のようにまとめられる。最も大きな特徴として閉鎖音および破擦音が、無声無気・無声有気・有声の三分類（例えば[p], [p^h], [b]）であることが挙げられる。多くの中国語方言では二分類（無声無気・無声有気）であることが多い中、これは呉方言に共通してみられる特徴であり、臨海方言もまた呉方言の特徴を持ち合わせていることが確認される。

先行研究（臨海市志編纂委員会(1989)、蔡勇飞(2015)など）との主な相違点は次のようにまとめられる。

¹⁵ 臨海方言には内部差異が見られ、臨海市西部で話される上郷腔（上郷なまり）と東部で話される下郷腔（下郷なまり）との間、あるいは世代間においても違いがあることが確認されている（臨海市志編纂委員会編(1989:649)）。本論文に協力してくださったインフォーマントの出身地はいずれも臨海市西部である。

¹⁶ 中国語学では、声調の範疇に含まれるのは音の高低に限られない。特に、閉鎖音韻尾を持つ音節が体系内にある場合、閉鎖音韻尾を持つ音節とそれ以外の音節がたとえ同一の声調調値を持っていたとしても、それぞれ別の声調（調類）と見なすことが一般的である。

¹⁷ 声調は発音記号の右上に五度制調値を用いて記す。五度制調値とは、声調の高低を1～5の数字を用いて表したものであり、1が最も低い調値、5が最も高い調値を表す。

¹⁸ 厳密に言うと“葡萄「ブドウ」”や“玻璃「ガラス」”など複音節の形態素も皆無ではない。

【表 2-1：臨海方言声母表】

p	p ^h	b	m	f	v
t	t ^h	d	n		l
ts	ts ^h	ɬ		s	z
tɕ	tɕ ^h	ɕ		ɕ	ʒ
c	c ^h	ɟ	ɲ	ç	
k	k ^h	g	ŋ	h	ɦ
∅					

①前よりの母音から始まる韻母の前でのみ使われる硬口蓋音[c/ c^h/ ɟ/ ç]と、それと相補分布の関係にある軟口蓋音[k/ k^h/ g/ h]とを合併させるか否か。本論文では、相補分布している事実を認めた上で、音声的な違いを重視することとし、両者を合併させず、別の声母として扱う。

②硬口蓋接近音[j]の有無。本論文では、HH 氏との調査結果に基づいて、[j]を声母として採用しない。臨海市志編纂委員会(1989)で声母[j]の例字として挙げられている字は以下の通りである。(例字の右に HH 氏の音価を示す。)

移 hi²¹/ 園 hyø²¹/ 朮 zyø²³

【表 2-2：臨海方言韻母表¹⁹⁾】

ɿ	i	u	y
a	ia	ua	
ɛ		ue	
e	ii	ue	
ø	uø		yø
ɔ	io		
o			
œ	iəu		
ã	iã	uã	
õ			yõ
əŋ	iəŋ	uəŋ	yəŋ
oŋ			yoŋ
ɐʔ	iɐʔ	uɐʔ	
ɜʔ		uɜʔ	
	ieʔ	uəʔ	
øʔ			yøʔ
ɔʔ			yɔʔ
oʔ			yoʔ
ŋ	ŋ	ŋ	l

2. 1. 2 韻母

韻母は【表 2-2】のようにまとめられ、成音節的子音[m/ ŋ/ ŋ/ l]を含む 48 ある²⁰⁾。介音は[i-/ u-/ y-]の三種があり、韻尾は[-u/ -ŋ/ -ʔ]の三種がある。

【表 2-2】では一行目と最後の行を除いて、左から順に介音がゼロ・i・u・y の順に並んでいる。例えば二行目であれば、介音ゼロである[a]、i 介音のある[ia]、u 介音のある[ua]と並んでいる。また、韻尾の種類によって、上から点線で、韻尾ゼロ・鼻音化母音・ŋ 韻尾・ʔ 韻尾・成音節的子音と区切ってある。

2. 1. 3 声調

臨海方言の単音節の声調体系は【表 2-3】のようにまとめられる。

調値は聴覚印象に基づき五度制調値で記述した。また、第六声、第七声の調値の下線は音節が相対的に短いことを表す²¹⁾。

第二声の調値が二通り挙げられているのは、揺れがあ

¹⁹⁾ [ɿ]は舌尖母音を表す。国際音声記号として認められていないが、中国語音韻学では一般的に用いられる記号である。歯茎破擦音・摩擦音から舌の位置を動かさずに発音される。(音声的には成音節的子音と解釈することも可能である。)

²⁰⁾ 「2. 1 音節構造」において、臨海方言では母音からなる主母音は必須と表現したが、成音節的子音[m/ ŋ/ ŋ/ l]は単独で音節を構成することから、母音相当であると見なすこととする。

²¹⁾ 本来、音節の持つ音の高低の問題である声調と音節の長さは直接的な関連は無いが、中国語方言では閉鎖音韻尾を持つ音節は相対的に短く発音される傾向があり、臨海方言の声調のうち、声門閉鎖を韻尾に持つ音節のみで構成される第六声、第七声は他の声調に比べて明らかに短く発音される。

るからである。具体的には、ŋ 韻尾があり音節が相対的に長くなる場合に 232 という調値で発音される傾向がある。

表に示した7つの声調の他に、調値の定まらない「軽声」と呼ばれる声調がある。機能語や接辞などストレスを置かれずに発音された音節に見られるもので、固有の声調がいわば失われたようになり、高低アクセントの音声的実現は前後の音声条件によって変化する。なお、軽声の調値は「0」で示す。

【表 2-3：臨海方言の声調】²²

調類	調値	例
第一声（陰平）	31	高安开天三飞
第二声（陽平）	21/232	穷平神近坐稻
第三声（上声）	53	古纸口老买有
第四声（陰去）	44	醉对唱菜送放
第五声（陽去）	113	大病树漏帽用
第六声（陰入）	5̣	一七福割铁发
第七声（陽入）	23	读白服月六药

2. 2 変調

単音節の形態素の声調については先に述べたとおりであるが、臨海方言による実際の会話の中では、同一の形態素（同一の漢字で表される）が異なる声調で発音される現象がしばしば確認される。こうした臨海方言にみられる声調の変化（「変調」という）は大きく二つに分けることができる。一つは、日常生活に密接に関わる語に見られるもので、中国語学では「小称変音」と呼ばれるものである。もう一つは、二つ以上の音節が連続して発音される際に現れる、いわゆる「連読変調」である。

2. 2. 1 小称変音

「小称変音」とは、小さいものや親しみを感じる日常の事物を表す語が発話される際に、読書音とは異なる音声として表現される現象である²³。標準中国語にも「r 化」あるいは“儿化”（“儿”は日本漢字の「兒」）と呼ばれる同様の現象が認められる。

「小称変音」と呼ばれる現象は中国語方言に広く見られるが、発話時に実際に起こる変化は一様ではない。具体的には、音声の変化と接辞の付加の二つに大別され、音声の変化が及ぶ範囲も様々である。例えば標準中国語の場合には、接辞“儿 ér[ɤ̌]”の付加とそれに伴う音声の変化（例：“玩 wán[uan]「遊ぶ」→“玩儿 wánr[uǎɤ̌]”では“儿”の付加により音

²² 調類の項において()内にある「陰平」などは中国語音韻学の用語である。これらの用語の詳細については「2. 2. 連読変調」で述べる。

²³ なお、読書音とは書面語を音読する際、あるいは漢字一字を単独で音読する際に用いられる音声のことである。

節末の音が変化するだけでなく、音節末尾に本来存在していた鼻音韻尾が脱落する²⁴⁾ が起こるが、声調は影響を受けない。

臨海方言の小称変音も接辞“儿”を語末に付加していると解釈できる²⁵⁾。しかし、標準中国語とは異なり、臨海方言では小称変音は二種類の変化により表される。一つは声調調値の変化であり、これは全ての形態素に適用される。単音節語の場合は語の声調調値が 242 或いは 353 となり、二音節語の場合は 22+242 (2+242) 或いは 33+353 (3+353) となる。もう一つの変化は、語末の音節の鼻音化である。これは語末の音節が閉鎖音韻尾を持つ場合にのみ適用される。具体的には、閉鎖音韻尾が脱落し、それに代わって母音の鼻化もしくは η 韻尾の付加が起こるといえるものである。

以下に単音節語と二音節語の小称変音の例をそれぞれ示す。どちらも声調調値の変化が起こっており、また、二音節語の例では第二音節の閉鎖音韻尾が脱落し η 韻尾の付加が起こっている。

“鸟「鳥」” niɔ⁵³ → “鸟儿” niɔ³⁵³
 “隔壁「隣人」” keŋ²pieŋ² → “隔壁儿” keŋ²piəŋ³⁵³

なお、二音節語の小称の調値は、以下で述べる連読変調の「陰平+陽平(33+353)」、「陽平+陽平(22+242)」と一致することを指摘しておきたい。

2. 2. 2 連読変調

「連読変調」とは、音節固有の声調が、前後の音節との関係により規則的に変化する現象を指す²⁶⁾。例えば標準中国語では、第三声の音節が連続すると、前音節が第二声に替わる。声調交替の類型は様々であるが、吳方言、閩方言に属する諸方言でよく見られ、比較的研究が進んでいるのも吳方言、閩方言である。その類型を岩田(1994:194)により概括すると、代表的なものに①第一音節の声調だけが保たれて第二音節以下の声調が中和される「第一音節優勢型」(“tonal envelope” “Right spreading”とも言う。北部吳方言などに見られる)、②最終音節の声調だけが保たれて先行音節が中和されるか声調交替を起こす「最終音節優勢型」(南部吳方言、閩方言に見られる)などが挙げられる。

臨海方言の連読変調は、原則として音声的条件により生ずる現象であり、声調の組み合わせを条件とする。但し、継起的関係において隣接する音節が必ず変調を起こすわけではなく、典型的には二音節語のように結びつきの強い音節が連続して発話される場合に

²⁴⁾ 本論文では、標準中国語と臨海方言が文中に現れる際には“ ”で括る。また、必要があれば“ ”内に「 」で意味を記す。標準中国語はピンインを使って発音を併記する(例: “我 wǒ「私」”)。臨海方言には必要な場合を除き発音記号は併記しない。

²⁵⁾ 単独で用いられる“儿”との混乱を避けるため、接辞は“儿”と表すこととする。

²⁶⁾ このような声調交替の本質的な機能について橋本(1981)は、シンタグマ・マーキングという観点から論じている。その主旨を要約すれば、連読変調の本質は、「句のまとまり」を示し、IC(直接構成素)を把握するのを助けることにあるという。

が起りやすい²⁷。

【表 2-4】は本論文による臨海方言における連読変調のパターンの調査結果をまとめたものであるが、これについては説明しておくべきことが少なくない。まず、【表 2-4】では声調の分類を、「陰声」など中古音（隋代の漢字音）の枠組みをも組み込む形で示している。これは、臨海方言の連読変調のパターンを十全に記述するためには、純粋に共時的な観点から分析するだけでは不十分であり、中古音の声調体系をも考慮に入れて検討する必要があることによる。具体的には、共時的には同じく第二声に属する字が、連読変調のパターンにおいては二種類に分かれるという現象がみられるのである（【表 2-4】参照）。この時、第二声に属するそれぞれの字がいずれの類に属することになるのかは、中古音段階での声調の違いを条件としている。中古音の声調は、平声・上声・去声・入声の四種があったことが知られており（それぞれ単に「平」「上」「去」「入」と称することもある）、後に声母の有声・無声、有気・無気などを条件に分裂したと推定されている。それらの声調のうち、中古音で無声声母であった音節に由来するものは「陰」を冠して呼ばれ（「陰平」など）、有声声母であった音節に由来するものは「陽」を冠して呼ばれる（「陽上」など）。【表 2-4】に示したように、臨海方言の第二声は、「陽平」（中古の平声のうち有声声母であった音節に由来するもの）であるものと、「陽上」（中古の上声のうち有声声母であった音節に由来するもの）であるものが含まれるが、この中古段階での声調の違いによって、これを第二音節にとった場合に異なる連読変調のパターンが現れることになる。

ここで【表 2-4】に示された連読変調のパターンを改めて検討すると、第一音節では少数の例外を除き、ほとんどが 22、33、44 など平板な調形へと変化していることがわかる。一方で第二音節では、調値は異なっても元来の調形（昇・降・平）が保たれる傾向が認められる。このことから、臨海方言の連読変調は、上述の「最終音節優勢型」に属すると考えられることを指摘しておきたい²⁸。

²⁷ 連読変調が起りにくいものとしては書面語などが考えられる。例えば、臨海方言ではあまり用いられない書面的な表現である“好像「よく-似ている」”では変調が起らないことを確認している。

²⁸ なお、二音節だけではなく、三音節で連読変調が起っている例も確認しているが、網羅的な調査は行っていないため、変調の条件などは不明である。三音節の連読変調のパターンの解明は今後の課題としておきたい。

【表 2-4：二音節連読変調の調値²⁹】

第二音節 \ 第一音節	第一声 (陰平) 31	第二声 (陽平) 21	第二声 (陽上) 21	第三声 (上声) 53	第四声 (陰去) 44	第五声 (陽去) 113	第六声 (陰入) 5	第七声 (陽入) 23
第一声 (陰平) 31	35-22	33-353	33-21	33-53	55-55	55-55	44-5	44-5
第二声 (陽平) 21	35-22	22-242	33-21	33-53	24-55	24-55	44-5	44-5
第二声 (陽上) 21	33-21	33-21	33-21	33-53	22-55	22-224	22-5	22-45
第三声 (上声) 53	33-21	33-21	33-21	33-53	22-55	22-224	22-5	22-45
第四声 (陰去) 44	33-21	33-21	33-21	33-53	55-55	55-55	44-5	44-5
第五声 (陽去) 113	33-21	33-21	33-21	33-53	45-55	45-55	44-5	44-5
第六声 (陰入) 5	3-21	3-21	3-21	1-53	2-55	2-224	2-5	2-45
第七声 (陽入) 23	3-21	3-21	3-21	1-53	2-55	2-224	2-5	2-45

【表 2-5：二音節連読変調の例】

第二音節 \ 第一音節	第一声 (陰平) 31	第二声 (陽平) 21	第二声 (陽上) 21	第三声 (上声) 53	第四声 (陰去) 44	第五声 (陽去) 113	第六声 (陰入) 5	第七声 (陽入) 23
第一声 (陰平) 31	医生	工人	兄弟	青草	青菜	山洞	中国	阴历
第二声 (陽平) 21	田鸡	羊皮	行动	长短	芹菜	强盗	毛笔	阳历
第二声 (陽上) 21	稻秧	市民	罪犯	重点	野菜	部队	负责	动物
第三声 (上声) 53	祖宗	好人	鼓动	火腿	比赛	准备	指甲	小学
第四声 (陰去) 44	汽车	算盘	印象	报纸	兴趣	笑话	印刷	性别
第五声 (陽去) 113	汗衫	地球	大道	字典	大蒜	豆腐	外国	蛋白
第六声 (陰入) 5	浙江	足球	黑市	脚底	百货	革命	法国	黑白
第七声 (陽入) 23	蜜蜂	毒蛇	力士	药水	热气	绿豆	蜡烛	腊肉

²⁹ 表中の「第三声」は「上声」とのみ表記しているが、すべての中古上声字が含まれるわけではなく、中古音の陰上と次濁上声(=中古声母として鼻音或いは流音を有していた上声の音声。陽上の一部に相当する)だけが含まれる。全濁上声(陽上のうち次濁上声を除いたもの)は「第二声(陽平)」に合流している。

なお、以上の中古音の枠組みおよび用語については、原則として李思敬著、慶谷壽信・佐藤進訳(1987)に基づく。特に用語については、慶谷・佐藤両氏の訳注による。

第三章 臨海方言文法概説³⁰

第三章では臨海方言の文法の概略について述べる。臨海方言の基本語順は SVO であるが、修飾語と被修飾語の語順は典型的な SVO 言語と異なり、修飾語が被修飾語に前置される。この点は、標準中国語と共通する特徴である。臨海方言の文法体系は、全体として標準中国語と共通する要素が多いが、使用される具体的な形態素（語）については、異なることも多い。また、語順など一部の文法現象についても、標準中国語との違いがしばしば見られ、刘丹青(2003)が、吳方言の特徴として指摘した、被動作者が主語と述語動詞との間に副主題として生起する現象が、臨海方言においても存在することを確認した。

3. 1 統語構造

ここでは、臨海方言の統語構造について、基本語順について説明した後、六つの基本構造について詳しく見ていく。

臨海方言の基本的な語順は SVO であると考えられる。例(3-1)のような単純な構造の文が特殊な語用論的な条件を設けずに発話される場合、(3-1a)の SVO の語順以外は許容されないことから、この構造が基本であると考えられるものである。

(3-1) a. 渠 望 书。 (※SVO)

彼 読む 本

ge²¹mɔ̃⁵³ɕy³¹

b. *渠 书 望。 (※SOV)

彼 本 読む

ge²¹ɕy³¹mɔ̃⁵³

c. *书 渠 望。 (※OSV)

本 彼 読む

ɕy³¹ge²¹mɔ̃⁵³

「彼は本を読む」

³⁰ 例文は、但し書きのあるものを除いて、一行目に簡体字で臨海方言、二行目にグロス、三行目に IPA、四行目「」内に日本語訳という構成となっている。

臨海方言の例文において、漢字の同定ができなかった音節は「□」および音韻表記で示した(例: □dze²¹)。{ } 内に「/」で区切られて並列されているものは、入替可能な形式であることを表す(例: {□dze²¹/让/被}は三つの語のいずれか一つを選択し使用することができることを表している)。() 内に入れられている成分は省略可能であることを表す。

グロスについては、本論文では直感的な理解の助けとすることを第一の目的とし、出来る限り近い意味の日本語で訳をつけることとした。日本語に訳しにくい場合は、〈 〉内に意味概念を、或いは()内に品詞を記した。また、例文の前に付された「*」は文が不成立であることを、「?」は文が不自然であることをそれぞれ表す。

例文番号は章番号と例文番号によって()内に示される(例: 第四章の第一例文は(4-1))。なお、第三章の例文のうち「付録 2: 臨海方言文法調査データ」に収められているものは、付録における例文番号と話者のイニシャルが例文の末尾に記してあるので適宜参照されたい。

一方で、呉方言の特徴の一つとしてよく言われるような、SOV の語順が許容されやすい傾向も認められる。例(3-2)の各文について、標準中国語においては、SOV の語順である (3-2b) の許容度が明らかに低いのに対し、臨海方言ではどの語順でも問題無く成立する。

(3-2) a. 我 去 过 日本。 (※SVO)

私 行く〈経験〉日本

ŋe⁵³k^he⁴⁴ku⁰nie²³pəŋ⁵³

b. 我 日本 去 过。 (※SOV)

私 日本 行く〈経験〉

ŋe⁵³nie²³pəŋ⁵³k^he⁴⁴ku⁰

c. 日本 我 去 过。 (※OSV)

日本 私 行く〈経験〉

nie²³pəŋ⁵³ŋe⁵³k^he⁴⁴ku⁰

「私は日本に行ったことがある。」

しかし、言語類型論の枠組みから見た場合、SVO 言語の一般的な修飾構造は後置修飾であるにも関わらず、臨海方言は標準中国語ならびに多くの中国語方言と同様に修飾語が被修飾語に前置される構造をとる。例えば、述語を修飾する主な成分として介詞句と副詞が挙げられるが、いずれも述語（動詞・形容詞）を修飾する際には前置される³¹。また、名詞を修飾する場合も形容詞であれ名詞句であれ、いずれも一般的には前置される。

標準中国語と同様に、臨海方言においても、文は一般的に“主語＋述語”という構造を有する。そしてこの文の主語と述語とが、それぞれ一語または複数の語からなる「句」から構成されている。朱德熙(1985/1999:340)も指摘するように、中国語の統語体系を記述する場合、この「句」を単位とした記述をすることが有効である。なぜなら、文の統語成分は句または語によって担われるが、文のレベルでも、句のレベルでも、統語成分が構造をなすパターン（これを「基本構造」と呼ぶ）は原則として一致しており、文はその基本構造の組み合わせとして記述できるからである。例えば、標準中国語の“开飞机 kāifēiji「飛行機を操縦する」”は、この形式のままで「飛行機を操縦せよ」という意味の文としても用いられるし、“开飞机很容易 kāifēijihěnróngyì「飛行機を操縦するのは簡単だ」”のように文の主語を構成する句としても用いられる（朱德熙 1985/1999:337）。

以下、臨海方言の文法体系を成す六種の基本構造（主述構造、偏正構造、動目構造、述補構造、並列構造、連動構造）を紹介する。

³¹ 介詞句が述語に後置されることもあるが、この場合の介詞句は述語を修飾しているのではなく、補語(3. 1. 3参照)として用いられていると解釈できる。

3. 1. 1 主述構造

主述構造とは、前項と後項とが主語と述語との関係にあるものである。例(3-3)では、“渠「彼」が主語であり、“是臨海人「臨海の人である」”が述語である。主述構造には、意味の上では多様な関係のものが含まれるが、主語が〈動作者〉を、述語が〈動作行為〉を担うもの、或いは主語が〈主題〉を、述語が〈叙述〉を担うものなどがその典型である。なお、文の最も高い階層は、通常はこの主述構造であるのが原則である（命令文などは例外）。なお、文脈から明らかな場合、主語は往々にして省略されることも補足しておきたい。

(3-3) 渠 是 臨海人。

彼 ~である 臨海の人

ge²¹zɿ²¹liəŋ³¹he⁵³ɲiəŋ²⁴²

「彼は臨海の人である。」

3. 1. 2 動目構造

動目構造とは、前項と後項とが動詞³²と目的語との関係にあるものである。例(3-4)の“望書「本を読む」”が動目構造であり、“望「読む」”が動詞、“書「本」”が目的語である。動目構造は、意味上、動詞は〈動作行為〉を、目的語は動作行為の〈被動作者〉を表すものが典型であるが、動詞が移動動詞の場合は、目的語が〈到達点〉を表し、動詞が作成動詞である場合は、目的語が〈作成物〉を表すなど、動詞と目的語の関係は〈動作行為〉と〈受動者〉には限られない。

(3-4) 渠 望 書。

彼 読む 本

ge²¹mɔ̃⁵³cy³¹

「彼は本を読む。」

なお、臨海方言においても標準中国語と同じように、動詞の種類によっては、二重目的語を要求することがある。基本的には、標準中国語と同様の「動詞+間接目的語+直接目的語」という語順をとる。二重目的語を要求する動詞には、授与を意味する動詞のほか、取得・剥奪に関わる動詞が見られる。

具体例を示すと、例(3-5)では、授与を表す動詞である“拨「与える」”の後に、間接目的語である“尔「あなた」”と、直接目的語“一本□fic¹¹³厚个书「一冊のとても厚い本」”とが、この順で現れる。また、例(3-6)では騙し取ることを表す動詞である“骗「騙す」”の後に、間接目的語

³² ここでの「動詞」は品詞としての名称ではなく、統語構造を構成する統語成分としての名称である。これに関して、杉村博文・木村英樹両氏が、動目構造における「動」を「動語」と表現し、品詞の「動詞」と区別した(朱徳熙著、杉村博文・木村英樹訳『文法講義』、白帝社、1995年)。この表現は論理的には一貫しているが、一般的とは言えない。本論文では「動詞」という用語を、品詞としての名称と、統語成分としての名称の二種を兼ねるものとして扱う。

である“渠「彼」”と、“一千块钞票「1000元のお金」”とが、この順で現れる。

(3-5) 老师 拨 尔 一本 □fiœ¹¹³ 厚 个 书 哇?

先生 与える あなた 1 冊 とても 厚い(助詞) 本 (疑問)

lɔ³³sɿ²¹pøŋ²⁵ŋ⁵³ieŋ²⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³œ⁵³ke⁰cy³¹ua⁰

「先生はあなたに一冊のとても厚い本をあげたでしょう?」(0034. HH)

(3-6) □ke⁵³ 个 卖药个 骗 □lɜ⁰ 渠 一千 块 钞票。

あの 薬売り だます (実現) 彼 1000 元 お金

ke⁵³ke⁴⁴ma¹¹³fiœ²²³ke⁴⁴p^hi⁴⁴lɜ⁰ge²¹ieŋ²⁵tɕ^hir³¹k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

「あの薬売りが彼から千円だまし取ったのだ。」(0035. HH)

3. 1. 3 述補構造

述補構造とは、述語³³と補語とからなる構造であり、述語は動詞であるものと形容詞であるものがある。前者をとくに動補構造と呼ぶことがある。述補構造は、補語部分の意味機能・統語形式の種類により、結果補語、方向補語、可能補語、状態補語に分けられる³⁴。

3. 1. 3. 1 結果補語

結果補語は、述語動詞の直後に形容詞あるいは別の動詞が補語として添えられた形式をとり、意味的には補語部分が前項動詞の〈結果状態〉を表すものである。そのうち構造全体として他動的な意味を持つ典型的な類は、「前項動詞の表す動作行為によって、対象に、後項動詞の表す結果状態を生ぜしめる」という広い意味での使役義を備え、いわゆる「結果構文(resultative construction)」の一種とみてよい。結果補語となるのは、原則として非意図性を意味特徴とする自動詞および形容詞である。

臨海方言における結果補語は、構造全体としては標準中国語と大きな違いはみられないが、具体的な補語の種類とその生起条件には、標準中国語と異なる点が認められる。一例として、例(3-7)では〈離れる〉という結果状態を表す補語として“去”が用いられている。標準中国語では〈離れる〉という結果状態を表す場合には“走 zǒu”が常用されるが、臨海方言では用いられない。

³³ ここでの補語に対する「述語」は、主述構造における主語に対する「述語」とは区別されるべきものであり、中国語では前者を“述语(日本漢字では「述語」)”，後者を“谓语(日本漢字では「謂語」)”として区別する。ただし、両者が判別し難い文脈は多くはないため、本論文では標準中国語の概説書の慣例にしたがって「述語」と訳しておく(馬真著、鳥居克之編訳『マーチェン・簡明実用中国語文法―初級から上級までの文法参考書―』駿河台出版社、1997年など)。

³⁴ 述補構造と、3. 1. 6で述べる連動構造についてはどちらも広義の動詞連続の一種であると考えられる。この動詞連続は中国語のほか、クメール語、タイ語などの東アジアの孤立語タイプの言語に広く存在する述語形式である。(峰岸(2000)など)

(3-7) 帽 □ $\phi\epsilon^{21}$ 风 吹 去 爻□ $fi\omicron^0$ 。 (※標準中国語では“帽子被风吹走了。”)

帽子 ~によって 風 吹く 離れる (発生)

$m\omicron^{113}\phi\epsilon^{21}fo\eta^{21}\phi^h y^{55}k^h e^{55}fi\omicron^0 fi\omicron^0$

「帽子は風に飛ばされてしまった。」(0010. HH)

3. 1. 3. 2 方向補語

方向補語は、動詞の直後に方向動詞が補語として添えられた形式をとり、意味的には補語部分が前項動詞の〈方向性〉を表すものである。例(3-8)では“跳上「飛び乗る」”の“上「上がる」”、“走回「歩いて帰る」”の“回「返る」”が方向補語に当たる。

(3-8) 渠 跳 上 末班车 走 爻□ $fi\omicron^0$ 。我 迟 到 一步，

彼 跳ぶ 乗る 最終便 去る (実現) 私 遅れる 着く 一步

$ge^{21}t^h i\omicron^{44}z\ddot{o}^{113}m\omicron\eta^{23}pe^{31}ts^h o^{55}ts\omicron\epsilon^{53}fi\omicron^0 fi\omicron^0, \eta\epsilon^{53}\phi\eta^{21}t\omicron^{44}ie\eta^{55}bu^{113},$

只 能 自己 慢慢 □ $z\eta^{21}$ 走 回 学堂。

~だけ できる 自分で のろのろ (助詞) 歩く 帰る 学校

$t\epsilon yo\eta^{55}n\omicron\eta^{21}z\eta^{113}ci^{53}me^{113}me^{113}z\eta^{21}ts\omicron\epsilon^{53}fue^{21}fi\omicron^{23}d\ddot{z}^{21}$

「彼は最終便に飛び乗って行った。私は一步遅かったので、自分でのろのろと歩いて学校に戻るしかなかった。」(0043. HH)

臨海方言における方向補語は、先に述べた結果補語と同様に、構造全体としては標準中国語と大きな違いはみられない。しかし、例(3-9)のような事態を表すには、臨海方言では方向補語を用いることはできないが、標準中国語では方向補語である“上”の派生的な用法として“装上 *zhuāngshàng* 「取り付ける」”のように、動作行為の〈結果の定着〉を表すことができるなど、具体的な用法には標準中国語との違いがみられる。

(3-9) 渠 搭人 拨 教室 都 □ $k\omicron^{44}$ □ $l\ddot{z}\eta^0$ 空调。(※標準中国語では“他们把教室都装上了空调。”)

彼 (複数) ~に 教室 全て 取り付ける (実現) エアコン

$ge^{22}t\ddot{z}\eta^{21}n\omicron\eta^{242}p\omicron\eta^{53}k\omicron^{44}\phi ie\eta^{55}t\omicron\eta^{53}k\omicron^{44}l\ddot{z}\eta^0 k^h o\eta^{55}d\ddot{i}\omicron^{55}$

「彼らは教室すべてにエアコンを取り付けた。」(0009. HH)

3. 1. 3. 3 可能補語

可能補語は、結果補語・方向補語の派生形式であり、動詞と結果補語あるいは動詞と方向補語との間に“得”、“弗”を挿入し、可能性(“得”)と不可能性(“弗”)を表す³⁵。

動詞が目的語を伴っている場合、例(3-10a)“讲弗过渠”のような“動詞+得/弗+結果/方向補語+目的語”という語順と、例(3-10b)“讲渠弗过”のような“動詞+目的語+得/弗+結果/方向補語”という語順の二種がみられる。

³⁵ “弗”については否定副詞(3. 2. 7. 2)参照。

(3-10)a. 我 讲 弗过 渠, □ka⁴⁴ 人 都 讲 弗过 渠。

私 話す 超えられない 彼 誰 みな 話す 超えられない 彼

ŋe⁵³kɔ̃⁵³fəŋ²¹ku⁵⁵ge²¹, ka⁴⁴ŋiəŋ²¹toŋ²¹kɔ̃⁵³ge²¹fəŋ²¹ku⁵⁵ (0049. ZH)

b. 我 讲 渠 弗过, □ka⁴⁴ 人 都 讲 渠 弗过。

私 話す 彼 超えられない 誰 みな 話す 彼 超えられない

ŋe⁵³kɔ̃⁵³ge²¹fəŋ²¹ku⁵⁵, ka⁴⁴ŋiəŋ²¹toŋ²¹kɔ̃⁵³ge²¹fəŋ²¹ku⁵⁵ (0049. BY)

「私は彼を言い負かすことができない。誰も彼を言い負かすことはできない。」

3. 1. 3. 4 状態補語

状態補語は、述語となった動詞あるいは形容詞の後に“得” (例(3-11a)) あるいは“□lɜŋ⁰” (例(3-11b)) を付加した上で、その後ろに形容詞句・動詞句などを伴い、述語の表す動作行為あるいは性質などについて、程度・状態を補足するものである。

(3-11)a. 我 算 得 快 猛 算 错算 爻□fiə⁰, 特 我 重新 算 一 遍。

私 計算する (助詞) 速い とても 計算する 計算間違い (出現) 私 改めて 計算する 1 回

ŋe⁵³sə⁴⁴tɕ⁰ŋ⁰k^hua⁴⁴mã⁵³sə⁴⁴tɕ^ho⁴⁴sə⁴⁴fiə⁰fiə⁰, dɔŋ²³ŋe⁵³dʒyɔŋ²¹ciəŋ³¹sə⁴⁴ieŋ²⁵pi⁴⁴ (0026. BY)

b. 我 算 □lɜŋ⁰ 太 快 算 错 □lɜŋ⁰, 我 重新 算 一 次。

私 計算する (助詞) ~すぎる 速い 計算する 間違える (語気) 私 改めて 計算する 1 回

ŋe⁵³sə⁴⁴lɜŋ⁰t^ha⁴⁴k^hua⁴⁴sə⁴⁴tɕ^ho⁴⁴lɜŋ⁰, ŋe⁵³dʒyɔŋ²¹ciəŋ³¹sə⁴⁴ieŋ²⁵ts^hɿ⁴⁴ (0026. ZH)

「私は速く計算しすぎて計算し間違えました。私にもう一度計算しなおさせてください。」

3. 1. 4 偏正構造

偏正構造は、修飾語と被修飾語 (中心語) からなる構造で、通常は修飾語が前、被修飾語が後となる。

被修飾語が名詞性である場合、しばしば助詞“个”が修飾語の直後に付加される。

(3-11) 老师 拨 尔 一 本 □fiə¹¹³ 厚 个 书 哇?

先生 与える あなた 1 冊 とても 厚い (連体) 本 (疑問)

lɔ³³sɿ²¹pəŋ²⁵ieŋ²⁵pəŋ⁵³fiə¹¹³œ⁵³ke⁰cy³¹ua⁰

「先生はあなたに一冊の厚い本をあげたでしょう?」 (0034. HH)

“个”が付加される条件は複雑であるが、修飾語と被修飾語 (中心語) とが社会的関係に基づく (領属) 関係を表す場合、“个”の付加は不要である。

(3-12) □ka⁴⁴ 人 □tɕ^hiã³¹□ci⁴⁴ 在 讲 我老师?

誰 さっき (進行) 話す 私 先生

ka⁴⁴ɲiəŋ²¹tɕ^hiã³¹ci⁴⁴ze²¹kɔ̃⁵³ŋe⁵³lo³³sɿ²¹

「誰がさっき私の先生のことを話していたのか？」(0028. HH)

例(3-13)における“卖药「薬を売る」”のように、修飾語が動詞性の統語成分の場合、“个”が必須である。“動詞句+个”の形式は、これ自体で動作行為の動作者を表すことができる(例(3-13a))が、一般的には“人”が続く方(例(3-13b))が自然な言い方のようなのである。

(3-13)a. □ke⁵³ 个 卖药个 骗 □lɜ^{ʔ0} 渠 一千 块 钞票。

あの 薬売り だます (実現) 彼 1000 元 お金

ke⁵³ke⁴⁴ma¹¹³fie^{ʔ23}ke⁴⁴p^hi⁴⁴lɜ^{ʔ0}ge²¹ie^{ʔ25}tɕ^hi³¹k^hue⁴⁴ts^hɔ̃⁵³p^hio⁴⁴ (0035. HH)

b. □ke⁵³ 个 卖药个人 骗 □lɜ^{ʔ0} 渠 一千 块 钞票。

あの 薬売り だます (実現) 彼 1000 元 お金

ke⁵³ke⁴⁴ma¹¹³fie^{ʔ23}ke⁴⁴ɲiəŋ²¹p^hi⁴⁴lɜ^{ʔ0}ge²¹ie^{ʔ25}tɕ^hi³¹k^hue⁴⁴ts^hɔ̃⁵³p^hio⁴⁴ (0035. ZH)

「あの薬売りが彼から千元だまし取ったのだ。」

3. 1. 5 並列構造

並列構造とは、前項と後項とが並列関係にある構造である。両者の前後関係は、時間的あるいは論理的に必然性を備えていないため、原則として交換可能である。なお、前項と後項との間に、接続詞“搭「〜と」”が挿入されることもある。

(3-14) 日本 搭 中国

日本 〜と 中国

ɲie^{ʔ23}pəŋ⁵³tɜ^{ʔ25}tɕyoŋ³¹ko^{ʔ25}

「日本と中国」

3. 1. 6 連動構造

連動構造とは、時間的あるいは論理的な前後関係により配列され、継起的意味関係をなす前項動詞・後項動詞からなる構造である。一般には「〜してから〜する」という意味を表す。標準中国語におけるものと大きな違いはみられない。例(3-15)では、“去电影院「映画館に行く」”と“望《刘三姐》「『劉三姐』を観る」”が連動構造となっており、「映画館へ行って(から)『劉三姐』を観る」という意味を表している。

(3-15) 叫 小強 □tso²² 队 去 电影院 望 《刘三姐》。

呼ぶ 小強 一緒に 行く 映画館 見る 『劉三姐』

ciø⁴⁴ciø³³jiã³⁵³tso²²de²²⁴ke⁴⁴di¹¹³iəŋ⁵³fiyø¹¹³mō¹¹³liəu²²se²²tɕia²⁴²

「小強を呼んで一緒に映画館へ行って『劉三姐』を観よう。」(0006.a. BY)

3. 2. 品詞分類

3. 2. 1 品詞体系

標準中国語と同様に、臨海方言も体系的な形態変化を持たないため、形態的特徴に基づいて品詞を分類することは難しい。このため統語・意味的側面から分類することが有効であると考えられる。以下の表は、北京語を対象とした朱徳熙(1983)の体系を参照しつつ、臨海方言の言語事実に則して修正を加えたものである。

【表 3-1：臨海方言の品詞分類】

実質語	1.名詞（一般名詞・場所詞・方位詞） 2.数詞 3.代詞（人称代詞・指示代詞・疑問代詞） 4.動詞（一般動詞・助動詞） 5.形容詞 6.副詞
機能語	7.量詞 8.介詞 9.接続詞 10.構造助詞 11.文末助詞

上表における実質語とは、意味面では語彙的意味を持つもので、統語機能面では単独で何らかの統語成分（主述・動目・述補・偏正・並列・連動の各構造を構成する成分）になり得るものである。機能語とは、意味面では語彙的意味が希薄であり、主に文法機能を担うもので、統語機能面では単独で統語成分を担うことはできず、他の統語成分に付加されるものである。以上は典型的なものについての定義であり、実際には、介詞のように、意味面では機能語的であるが、統語機能面では実質語的である中間的な品詞もある。

3. 2. 2 名詞

名詞は意味的には事物を表すもので、文法的には主述構造の主語、動目構造の目的語を担い、原則として単独では主述構造の述語を担い得ないものである。名詞の下位分類として場所詞・方位詞を立てるのは、場所・方位を表す名詞性の語の一部が、文法的特徴から

名詞と区別されるためである。

名詞には、標準中国語と同じく、性・数・格などの文法範疇は存在せず、形態変化は見られない。但し、連体修飾語になる時にはしばしば助詞“个”を伴う。人を表す名詞など有生性 (animacy) の高い一部の名詞については、“搭人”、“班人”³⁶を後続させることで複数を表す有標形式がある。

(3-16) 学生 搭人 / 学生 班人

学生 〈複数〉 学生 〈複数〉

ɦɔʔ²³sã³¹tɛʔ⁰ɲiəŋ²¹ / ɦɔʔ²³sã³¹pɛ³¹ɲiəŋ²¹

「学生たち」

3. 2. 2. 1 場所詞

場所詞は、意味的には場所を表し、かつ単独で“在「～に、で」”や“搭「～に、まで」”などの場所を導く介詞の目的語となることができるものである。地名や施設(“车站「駅」”、“学堂「学校」”など)のほか、合成方位詞(3. 2. 2. 2参照)が含まれる。場所詞は“□ka⁴⁴□i⁰「どこ」”でたずねることができ、“□køʔ⁵头「ここ」”や“□kɛ⁵³头「あそこ」”で指示することができる。

(3-17) 我 搭人 是 在 车站 买 个 车票。

私 〈複数〉 である ～で 駅 買う (助詞) 切符

ŋɛ⁵³tɛʔ⁰ɲiəŋ²¹zɿ²¹zɛ²¹ts^ho⁵⁵ɰz⁵⁵ma⁵³kɛ⁰ts^ho⁵⁵p^hi⁵⁵

「私たちは乗車券を駅で買ったのです。」(0014. HH)

場所詞以外の一般的な名詞は単独で“在「～に、で」”や“搭「～に、まで」”の目的語となることができない。一般名詞は“头”などの方位詞を付加してはじめて場所詞相当の句(場所詞句)となり、“在”や“搭”の目的語となることができる。以上のような場所詞と一般名詞との関係は標準中国語にもみとめられるが、臨海方言における状況は、以下の二点において異なっている。

第一点は、標準中国語では一般名詞に付加されて場所詞句を構成する方位詞が非常に豊富であり(“上 shàng「～の上」”、“里 lǐ「～の中」”など)、当該の場所詞句の意味に応じて選択される。これに対して臨海方言では、標準中国語と同様に場所詞句の意味に応じた方位詞が用いられるだけでなく(3. 2. 2. 2参照)、特定の位置関係を表さない汎用的な方位詞“头”が存在する。

³⁶ この他に標準中国語で同様の文法的役割を担っている“们”を使うこともできるが、使用頻度では“搭人”、“班人”に比べるとかなり劣る。

(3-18) 墙头 一张 地图 □peŋ⁵得。 (※標準中国語では“墙上”)

壁 一 枚 地図 貼ってある

ziã²⁴dœ⁵⁵ieŋ²³tɕiã²¹di³³du²¹peŋ⁵tɕi⁰

「壁に一枚の地図が貼ってある。」(0015. BY)

(3-19) □køŋ⁵河头 □fiœ¹¹³多 小 鱼 在 划。 (※標準中国語では“河里”)

この 川 とても 多い 小さい 魚 〈進行〉 泳ぐ

køŋ⁵fiœ²¹dœ¹¹³fiœ¹¹³to³¹ɕio³³ŋ²¹ze²¹fiua²¹

「この川ではたくさんの小さな魚が泳いでいる。」(0017. CP)

(3-20) 渠 像 生病人 样 个 墮 沙发头。 (※標準中国語では“沙发上”)

彼 似ている 病人 様子 〈助詞〉 もたれる ソファ

ge²¹ziã²¹sã³³biœŋ³³ŋiœŋ³³fiã¹¹³kɕi⁰ge¹¹³so⁴⁴fɕi²⁵dœ¹¹³

「彼は病人のようにソファにもたれている。」(0041. BY)

第二点は、臨海方言では一般名詞に“头”が付加されて場所詞句が作られた場合、“在”や“搭”などの場所を導く介詞が省略されることが多いということである。

(3-21) 渠 跳 上 末班车 去 爻, 我 迟 一步,

彼 跳ぶ 乗る 最終便 去る 〈実現〉 私 遅れる 一步

□bɕi²³只 自己 慢慢 □zɿ⁰走 (搭) 学堂头 转 去。

〈連接〉 ~しかない 自分で のろのろ 〈助詞〉 歩く まで 学校 帰る 行く

ge²¹tiœ⁴⁴zõ¹¹³møŋ²³pe³¹ts^ho⁵⁵ke⁴⁴fiœ⁰ŋe⁵³dzi²¹ieŋ²⁵bu¹¹³,

bɕi²³tɕyoŋ²⁵zɿ¹¹³ci⁵³mœ¹¹³mœ¹¹³zɿ²¹tsœ⁵³(tɕi⁰)fiœ²³dõ²¹dœ¹¹³tɕyo⁵³ke⁴⁴fiœ⁰

「彼は最終便に飛び乗って行った。私は一步遅かったので、一人のろのろ歩いて学校に戻るしかなかった。」(0043. CP)

3. 2. 2. 2 方位詞

方位詞は、意味面では空間的・時間的な位置関係を表すものであり、一つの形態素からなる単純方位詞と二つの形態素からなる合成方位詞とに分けられる。単純方位詞には“上「上」、下「下」、前「前」、后「後ろ」、里「中」、外「外」、内「内(うち)」, 中「中」、左「左」、右「右」、东「東」、西「西」、南「南」、北「北」が含まれ、後ろに“边, 面, 头「~の辺り、~の側(がわ)」を付加することで合成方位詞を作ることができる(【表3-2】参照)。単純方位詞は、原則的には単独で使用されず、他の名詞に付加されて使用される(例えば、“名詞X+上”であれば「Xの上」という意味になる)。一方、合成方位詞は単独で用いることができる。方位詞を一般の名詞から独立させるのは、一般名詞が直接“在「~に、で」”や“搭「~に、まで」”などの場所を導く介詞の目的語となることができないのに対して、方位詞は、“名詞+単純方位詞”あるいは合成方位詞が直接これらの場所を導く介詞の目的語になることができるからである。

【表 3-2：臨海方言の合成方位詞】

※「－」は成立しないことを表す。

	边	面	头
上	上边	上面	上头
下	下边	下面	下头
前	前边	前面	前头
后	后边	后面	后头
里	里边	里面	里头
外	外边	外面	外头
内	内边	内面	－
中	中边	－	－
左	左边	左面	左头
右	右边	右面	右头
东	东边	东面	东头
西	西边	西面	西头
南	南边	南面	南头
北	北边	北面	北头

3. 2. 3 数詞・量詞（数量詞）

数詞・量詞は数量表現に関わる品詞であり、数詞は序数および数量的「数」を、量詞は事物・動作行為の数量を数える際の単位（加算的事物の単位、度量衡を含む不可算的事物の単位）を表す。量詞は単独で用いられないので、機能語に分類されるものであるが、中国語学では「数詞＋量詞」という形式の句を「数量詞」と呼び、品詞のうちの一つ（実質語相当）に準ずる扱いをすることが一般的であるため、本論文においてもここで数詞と量詞についてまとめて言及しておく。

臨海方言では、標準中国語と同じく、数詞が名詞を修飾する際には必ず量詞を伴い、「数量詞（＝数詞＋量詞）＋名詞」という形式を取らなければならない。

(3-22) 上次 只 买 爻 一 本书, 今日 要 多 买 几 本。

前回 ～だけ 買う 〈実現〉 一 冊 本 今日 ～しよう 多く 買う いくつか 冊

zɔ̃²¹ts^h₁⁴⁴tɕyoŋ²⁵ma⁵³ieŋ⁵³pəŋ⁵³ɕy³¹, ci²²niəŋ²⁴²io⁴⁴to³¹ma⁵³ci⁵³pəŋ⁰

「前回は一冊の本しか買わなかったから、今日は何冊か多く買おう。」(0050. CP)

ただし、量詞は数量表現にだけ用いられるのではなく、指示代詞（3. 2. 4. 2 参照）が名詞を修飾する場合にも名詞の前に用いられ、「指示代詞＋量詞＋名詞」という形式をとる（例(3-23a)）。この場合には量詞が省略されることもある（例(3-23b)）。

(3-23)a. □køŋ⁵ 个 毛巾 □fiɛ¹¹³ 邈邈 爻, 丢 □kɔ⁰.

この 〈量詞〉 布巾 ととも 汚い 〈実現〉 捨てる

køŋ⁵ke⁴⁴mɔ²¹ciəŋ³¹fiɛ¹¹³lɜŋ²³tɜŋ⁵fiɔ⁰, tiɔ³¹kɔ⁰ (0013. ZH)

b. □køŋ⁵ 毛巾 □fiɛ¹¹³ 邈邈 爻, □bã²¹ 爻 fiɔ⁰.

この 布巾 ととも 汚い 〈実現〉 捨てる 〈出現〉

køŋ⁵mɔ²¹ciəŋ³¹fiɛ¹¹³lɜŋ²³tɜŋ⁵fiɔ⁰, bã²¹fiɔ⁰fiɔ⁰ (0013. HH)

「この布巾はひどく汚れてしまった (ので)、捨ててしまおう。」

臨海方言において、どの量詞を用いるかは名詞の種類によって定められるが、標準中国語の“个 ge”と同じように、ほとんどの名詞に用いることのできる汎用量詞“只”も存在する。標準中国語では汎用量詞の“个”が人を数える際にも用いられるが、臨海方言では、一般に人を数える際には汎用量詞の“只”は用いられず、標準中国語と同形式の“个”を用いる。

なお、標準中国語と同様に、「2」を表す語として“二”と“两”の二つが用いられる。序数では前者が用いられ、数量を表す場合には後者が用いられる³⁷。

(3-24) 我去 爻□fiɔ⁰, 尔 两个 坐 □tɕ^hiã³¹ 湊。

私 行く 〈発生〉 あなた 二人 座る しばらく 更に

ŋe⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰, ŋ⁵³liã⁵³ke⁰zo²²tɕ^hiã³¹ts^hœ⁴⁴

「私は行きます。あなた方二人はもうしばらく座っててください。」(0048. BY)

3. 2. 4 代詞

代詞は指示(直示および文脈指示)と代替の機能を有するものである。以下、人称代詞、指示代詞、疑問代詞の順に論じる。

3. 2. 4. 1 人称代詞

人称代詞は、話し手(一人称)、聞き手(二人称)、その他(三人称)という、人称の役割によって体系をなす代詞である。臨海方言の人称代詞には標準中国語と同様に、性・格の区別はない。しかし、数の範疇は文法化されており、単数の場合、一人称が“我”、二人称が“尔”、三人称が“渠”であり、複数は接辞を用いて表される(【表 3-3】参照)。

複数を表す形式はそれぞれの人称でいくつかあるが、統語的な分布に違いは見られない。但し、一人称の複数を表す“我搭人”、“我班人”と“我奈”の間には、北京方言の“我们 wǒmen”〔聞き手を含まない 私たち〕と“咱们 zánmen”〔聞き手を含む 私たち〕のような排除式(聞き手

³⁷ 標準中国語で用いられる“两个 liǎnge”の合音である“俩 liǎ”に相当する語は、臨海方言には無い。

を含まない) と包括式 (聞き手を含む) という意味の対立が存在する³⁸。

なお、標準中国語では二人称の敬称として“您 nín”を用いるが、臨海方言の人称代詞に敬称はない。

【表 3-3：一人称・二人称・三人称】

	単数	複数
一人称	我	我搭人, 我班人, 我奈
二人称	尔	尔搭人, 尔班人
三人称	渠	渠搭人, 渠班人

※全て名詞性のものである。

その他の人称代詞として、文中に既出の同一の人物が繰り返し指し示される時には、再帰代詞“自己「自身」”が用いられる。他の人称代詞と異なり、連用修飾語となり得る。これは標準中国語の“自己 ziji”と共通する特徴である。

(3-25) 渠 跳 上 末班车 走 爻□fio⁰。我 迟 到 一步,

彼 跳ぶ 乗る 最終便 去る 〈実現〉 私 遅れる 着く 一步

ge²¹h⁴⁴z⁵z¹¹³mø²³pe³¹ts^ho⁵⁵tsø⁵³fio⁰fio⁰, ŋe⁵³ɬ²¹to⁴⁴ie²⁵bu¹¹³,

只 能 自己 慢慢 □z²¹ 走 回 学堂。

~だけ できる 自分で のろのろ 〈助詞〉 歩く 帰る 学校

tɕyo²⁵nəŋ²¹z¹¹³ci⁵³me¹¹³me¹¹³z²¹tsø⁵³fue²¹fio²³d⁵2¹

「彼は最終便に飛び乗って行った。私は一步遅かったので、自分でのろのろと歩いて学校に戻るしかなかった。」(0043. HH)

また、文脈の前後に現れたある人物に対する「それ以外の人」を表す語として、“别个(人)「別の人」”が用いられる。

(3-26) 我 无□tɕy³³ 怪 别□ke⁰, □be²³ 只 怪 自己。

私 できない 責める 他人 〈連接〉 ~だけ 責める 自分

ŋe⁵³m³³tɕy³³kua⁴⁴bie²³ke⁰, be²³tɕyo²⁵kua⁴⁴z¹¹³ci⁵³

「私は他人を責めることはできない。自身を責めることしかできない。」(0038. BY)

3. 2. 4. 2 指示代詞

指示代詞は、指示の際の距離感の違いにより、近称と遠称の対立がある。

³⁸ インフォーマントである BY 氏によれば、“我奈”の“奈”は本来は二人称代詞“尔”だったとのことである。“奈”が“尔”であった確証は未だ得られていないが、指示対象に聞き手を含むことや、複数を表す他の二つの接辞(“搭人”、“班人”)と違い有生性の高い名詞に後接して複数を表すことができないこと、音声的な類似(どちらも鼻音であること)から、説得力のある意見であると考えられる。

【表 3-4：指示代詞】

	近称	遠称
人、事物	□køʔ ⁵ 个「これ/この」	□ke ⁵³ 个「あれ/あの」
場所	□køʔ ⁵ 头「ここ」	□ke ⁵³ 头「あそこ」
方法、程度	□t ^h ieʔ ⁵ 「こんな」	□ke ⁵³ □t ^h ieʔ ⁵ 「あんな」

なお、“□køʔ⁵”よりも更に近くを指示することのできる“以”という形態素も存在することが報告されている³⁹。

3. 2. 4. 3 疑問代詞

疑問代詞は、何らかの要素の回答を求めるといった疑問機能を備えた代詞である。

以下、臨海方言の疑問代詞について説明した後、疑問代詞の非疑問用法についても述べる。

【表 3-5：疑問代詞】

誰	□ka ⁴⁴ 人
何/どのような	□ka ⁴⁴ □m ⁰
どこ	□ka ⁴⁴ □i ⁰
なぜ/どうやって	□tseʔ ⁵ □səŋ ⁴⁴

3. 2. 4. 3. 1 一般的な用法

臨海方言における疑問詞を用いた疑問文は、標準中国語と同様に、回答を求める要素に対応する疑問詞を平叙文と同じ統語的位置に置くことによって作られる（「3. 7. 1. 4 疑問詞疑問文」参照）。人をたずねる時には“□ka⁴⁴人「誰」”、物をたずねる時には“□ka⁴⁴□m⁰「何」” 場所をたずねる時には“□ka⁴⁴□i⁰「どこ」”、理由や方法をたずねる時には“□tseʔ⁵□səŋ⁴⁴「なぜ、どのように」”をそれぞれ用いる。“□ka⁴⁴□m⁰”は、標準中国語の“什么 shénme「何」”と同様に、名詞の直前に置いて連体修飾語として用い、「どんな～」という意味を表すことができる（例(3-27a,b)）。

(3-27)a. 尔 在 唱 □ka⁴⁴□m⁰?

あなた〈進行〉 歌う 何

ŋ⁵³ze²¹ts^h5⁴⁴ka⁴⁴m⁰

³⁹ 卢笑予(2018)では、“以”、“□køʔ⁵”、“□ke⁵³”の三つの指示詞の用法について検討し、これらの指示する範囲や、複合指示詞を作る能力について分析している。卢氏によれば、これら三つの指示詞は「近一中一遠」といったように対等に対立しているわけではなく、“□køʔ⁵”と“□ke⁵³”は「近一遠」で対立しているが、“以”の指示する範囲は“□køʔ⁵”の指示する範囲に含まれている。また、他の要素と結びついて場所や時間などを表す複合指示詞を作る能力にも差があり、“以”は“□køʔ⁵”、“□ke⁵³”と比べて生産性が低いとされている。

b. 尔 在 唱 □ka⁴⁴□m⁰ 歌 啊?

あなた〈進行〉 歌う どのような 歌 (語気)

ŋ⁵³ze²¹ts^{h544}ka⁴⁴m⁰ko³¹a⁰

「あなたは何を歌っているの?」

3. 2. 4. 3. 2 疑問代詞の非疑問用法

臨海方言の疑問代詞は、標準語の疑問代詞と同様に、疑問用法以外に用いられる非疑問用法も備えている。その一つは「例外無く全て」を意味する用法であり、疑問代詞がこの用法に用いられる場合には、“也「～も」”や“都「すべて」”といった副詞が共起することが多い。

(3-28) 我 讲 渠 弗过, □ka⁴⁴人 都 讲 渠 弗过。

私 話す 彼 超えられない 誰 みな 話す 彼 超えられない

ŋe⁵³kɔ̃⁵³ge²¹fə^{ʔ2}ku⁵⁵, ka⁴⁴ŋiəŋ²¹to^{ʔ2}kɔ̃⁵³ge²¹fə^{ʔ2}ku⁵⁵

「私は彼を言い負かすことができない。誰も彼を言い負かすことはできない。」(0049. BY)

もう一つは、二つの疑問代詞を連用し、前項の疑問代詞で任意の指示対象を設定し、後項ではそれと同一の指示対象を表す用法である。

(3-29) □kə^{ʔ2} 是 □ka⁴⁴人 写 个 诗?

これ ～である 誰 書く〈助詞〉 詩

kə^{ʔ2}zɿ²¹ka⁴⁴ŋiəŋ²¹ciä⁵³ke⁰sɿ³¹

□ka⁴⁴人 猜 出来 我 □pɜ^{ʔ2} 奖励 拨 □ka⁴⁴人 十 块 钞票。

誰か 推測する 当てる 私〈連接〉 賞する あげる 誰か 10 元 お金

ka⁴⁴ŋiəŋ²¹ts^{h53}te^{h53}hyə^{ʔ2}le²¹ŋe⁵³pɜ^{ʔ2}ciä⁵³li¹¹³pə^{ʔ2}ka⁴⁴ŋiəŋ²¹zie^{ʔ2}k^{h53}ue⁴⁴ts^{h53}p^{h53}i⁴⁴

「これは誰が書いた詩ですか?当てられた人には私が賞金として十元あげます。」(0044. HH)

3. 2. 5 動詞

動詞は、意味の面では動作行為あるいは状態を表し、統語機能面では主に主述構造の述語、動目構造の動詞⁴⁰を担うものである。そのうち目的語を伴うことができるものを他動詞、目的語を伴えないものを自動詞と呼ぶ。なお、標準中国語と同様に、臨海方言でも動詞と形容詞はどちらも述語を担うことができる。この場合、形容詞と自動詞との区別が問題になるが、程度を表す副詞(3. 2. 7. 1. 2参照)の修飾を受けることができるものを形容詞、受けることが出来ないものを自動詞とする。以下、動詞の重ね型とアスペクト助詞について紹介した後、特殊な他動詞である助動詞について述べる。

⁴⁰ ここでの「動詞」は品詞ではなく、統語成分の一つとしての名称である。(注 32 参照)

3. 2. 5. 1 動詞の重ね型

多くの動詞は、それを二回重複させた重ね型を構成することで、当該の動作行為が短時間行われることや、当該の動作行為を試すといった意味を表すことができる。動詞を二回重複させただけの重ね型は標準中国語にもあり、臨海方言でも同じ形式を用いることができるが、動詞を重ねた直後に“相”を置いた形式が臨海方言の本来のものであると考えられる。なお、二音節動詞（例えば“研究”）でも“相”を直後に置いた重ね型を構成することができる。

(3-30) 尔 吃吃相 渠 做 个 点心 再 去。

あなた 食べてみる 彼 作る 〈助詞〉 おやつ それから 行く

ŋ⁵³tɕ^hyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵çiã⁰ge²¹tso⁴⁴ke⁰tir⁵³çiəŋ³¹tse⁴⁴k^he⁴⁴

「あなたは彼の作ったおやつを食べてみてから出発しなさいよ。」(0022. ZH)

(3-31) 尔 算算相, 点料 钞票 有 得用 爻 哇?

あなた 計算してみる これだけ お金 ある 使える 〈発生〉〈疑問〉

ŋ⁵³sə⁵⁵sə⁵⁵çiã⁰, tir²²liə²²⁴ts^hɔ²²p^hiə⁵⁵iəu⁵³tɕ²⁵fiyŋ¹¹³fiə⁰ue⁰

「あなたが計算してみて。これだけのお金で払うのに足りませんか?」(0033. BY)

また、単音節の動詞を四回重ねることで「～しながら」という意味を表すことができる。この形式は二音節以上の動詞には用いることができない。

(3-32) 渠 在 电视机 前 望, 望望望望 困 开 爻。

彼 ~で テレビ 前 見る 見ながら 眠る 始める 〈発生〉

ge²¹ze²¹di¹¹³zɿ¹¹³ci³¹zi²¹mɔ̃¹¹³, mɔ̃¹¹³mɔ̃⁰mɔ̃¹¹³mɔ̃⁰k^huəŋ⁴⁴k^he³¹fiə⁰

「彼はテレビの前で(テレビを)見ていて、見ながら眠ってしまった。」(0032. HH)

3. 2. 5. 2 動詞の接尾辞

臨海方言には、動詞の直後に置かれ、実現を表す“□lɜʔ⁰”、“爻”、経験を表す“过”という接尾辞がある。これらの接尾辞については第五章で他のアスペクト関連表現と併せて詳しく論じる。

(3-33) 小张 昨日_儿 钓 □lɜʔ⁰ 一 □kuã⁵³ 大 鱼, 我 无有 钓 来。

〈人名〉 昨日 釣る 〈実現〉 1 匹 大きい 魚 私 〈否定〉 釣る 来る

çiə³³tɕiã³⁵³zəŋ²ɲiəŋ²⁴²tiə⁴⁴lɜʔ⁰ieŋ²⁵kuã⁵³do¹¹³ŋ²¹, ŋe⁵³m³³ɲiəu⁵³tiə⁴⁴le²²

「小张は昨日一匹の大きな魚を釣り、私は魚を釣ることができなかった。」(0001. CP)

(3-34) □kɔʔ² 场 电影 渠 望 过 爻□fiɔ⁰。

これ (量詞) 映画 彼 見る (経験) (出来事の発生)

kɔʔ²ɕiã³⁵³di³³iəŋ⁵³ge²¹mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「その映画なら彼は観たことがあるよ。」(0006.b. HH)

3. 2. 5. 3 動詞句の接尾辞

3. 2. 5. 2で述べたものは動詞に直接付着する接尾辞であったが、その他に動詞句(「動詞+目的語」あるいは「動詞+補語」など)全体に付着する接尾辞もある。“湊「更に」”、“先「先に」”などがそれであり、意味的には副詞に相当するものである。後置副詞と見なす立場もあるが、統語的な機能を重視して「副詞」は被修飾語に前置されるもののみとし、動詞句の接尾辞と見なしておく。動詞句接尾辞は、広東語などの南方方言にもみとめられるが、標準中国語には存在しないものである。

“湊”は動作行為の重複・累加を表す。似たような意味を持つものとして、動詞に前置される時間副詞の“再「再び」”があるが、“再”は動作行為が継起的に行われることを主に表し、“湊”は専ら同一の動作行為の重複・累加を表していると考えられる。両者は共起することもあれば(例(3-35b))、それぞれ単独で用いられることもある(例(3-35a))。

(3-35)a. 尔 只 吃 □lɔʔ⁰ 一 碗 饭, 吃 碗 湊 哇。

あなた ~だけ 食べる (実現) 1 杯 ご飯 食べる 杯 更に (語気)

ŋ⁵³tɕyoʔ²tɕhyoʔ²lɔʔ⁰ieʔ²uø⁵³ve¹¹³, tɕhyoʔ²uø⁵³ts^hæ⁴⁴ua⁰ (0030. BY)

b. 尔 □peʔ⁰ 只 吃 一 碗 饭, 再 吃 一 碗 湊 □nieʔ⁰。

あなた (接続) ~だけ 食べる 1 杯 ご飯 再び 食べる 1 杯 更に (語気)

ŋ⁵³peʔ⁰tɕyoʔ²tɕhyoʔ²ieʔ²uø⁵³ve¹¹³, tse⁴⁴tɕhyoʔ²ieʔ²uø⁵³ts^hæ⁴⁴nieʔ⁰ (0030. CP)

「あなたはご飯を一杯食べただけです。もう一杯食べましょうよ。」

“先”は、ある行為を先に行うことを表す。同じ語形式で動詞に前置され、同様の意味を表す時間副詞“先”もあるが、両者は共起することができない。

(3-36) 让 小老人 班人 走 过 先,

(使役) 子供 (複数) 行く 過ぎる 先に

niã¹¹³ciø⁵³lɔ⁵³niəŋ²¹pe³¹niəŋ²¹tsæ⁵³ku⁴⁴ci³¹,

尔 再 拨 展览 仔仔细细 个 望 一 遍。

あなた それから ~を 展示 よく (助詞) 見る 1 (量詞)

ŋ⁵³tse⁴⁴pøʔ²tɕi³³le⁵³tsɿ⁵³tsɿ⁵³ci⁴⁴ci⁴⁴ke⁰mɔ̃¹¹³ieʔ²pi⁴⁴

「子供たちを先に行かせましょう。あなたはもう一度展示を細かく観てください。」(0031.CP)

3. 2. 5. 4 助動詞

助動詞は、専ら動詞句を目的語にとる他動詞の一種であると中国語学では位置づけられる(朱德熙(1982:61))。意味的には、目的語となった動詞句の内容に対する話し手の判断などのモダリティの意味を表すことが多い。以下にいくつかの助動詞の例を挙げる。

近い将来の出来事を推測する時には、標準中国語と同様に“要”を用いる。

(3-37) 快 要 落 雨 □fio⁰, 尔 搭 人 □cia⁴⁴ 出 去。

もうすぐ ~しそう 降る 雨 (発生) あなた(複数) (禁止) 出る 行く

k^hua⁴⁴i^o31l^oʔ²³y⁵³fio⁰, η²¹t³ʔ⁵niəŋ²¹cia⁴⁴t^høʔ⁵k^he⁴⁴

「もうすぐ雨が降りそうだから、あなたたちは出掛けないで。」(0012. HH)

“要”は必要性を表す場合にも用いられる。標準中国語では“要 yào”の他に“得 děi”を用いることもあるが、臨海方言では“要”以外の形式は用いられないようである。

(3-38) 只 写 □l³ʔ⁰ 一 半, 还 要 写 落 去。

~だけ 書く (実現) 半分 まだ ~すべき 書く 続ける

t^hyoʔ⁵cia⁵³l³ʔ⁰ieʔ²pø⁵⁵, f^hue²¹i^o44cia⁵³l³ʔ⁰k^he⁰

「半分しか書いていないので、まだ書き続けなければならない。」(0029. HH)

可能を表すには“能”が用いられる。標準中国語の“不能 bùnéng「~することができない」”に相当する表現としては“无□t^hy³³”と“弗能”の二つが用いられるようであるが、意味に差異があるかは不明である。

(3-39)a. 我 无□t^hy³³ 怪 别 个, □beʔ²³ 只 怪 自 己。

私 できない 責める 他人 (連接) ~だけ 責める 自分

ŋe⁵³m³³t^hy³³kua⁴⁴bieʔ²³ke⁰, beʔ²³t^hyoʔ⁵kua⁴⁴z¹113ci⁵³ (0038. BY)

b. 我 弗能 怪 别 个人, 只 能 怪 自 己。

私 できない 責める 他人 ~だけ できる 責める 自分

ŋe⁵³føʔ⁵nəŋ²¹kua⁴⁴bieʔ²ke⁰niəŋ²⁴², t^hyoʔ⁵nəŋ²¹kua⁴⁴z¹113ci⁵³ (0038. ZH)

「私は他人を責めることはできない。自身を責めることしかできない。」

可能性があることを述べるときに用いられる助動詞は“会「~だろう」”である。可能性が無いことを表す際には、否定副詞“弗”(3. 2. 7. 2 参照)を用いた“*弗会 f^høʔ⁵fue¹¹³”ではなく“非 fi³¹”が用いられるが、これは“*弗会”の合音と考えられる。

(3-40) 天日_ル王经理 会 搭 公司 来 吗?

明日 王さん ~だろう ~に 会社 来る (疑問)

tʰi³³ɲiã³⁵³fiɔ̃²¹ciəŋ³¹li⁵³fiue¹¹³tɜʔ²koŋ³¹ɕi³¹le²¹ma⁰

「明日は王さんが会社に来ることはありますか?」(0039.a. HH)

——我 望 渠 非 来。

私 考える 彼 ~しないだろう 来る

ŋe⁵³mɔ̃¹¹³ge²¹fi³¹le²¹

「私が考えるに彼は来ません。」(0039.b. HH)

3. 2. 6 形容詞

形容詞は、意味面では性質・状態を表し、統語機能面では主に主述構造の述語、偏正構造の修飾語を担う。動詞との違いは、一般に目的語をとることができないこと、無標のまま修飾語となり得ること、程度を表す副詞の修飾を受けることができることなどである。形容詞は一般に単独で、或いは副詞に修飾される形で用いられるが、特殊な形式で用いられることも多い。以下、そのような形式のうち確認できたものを挙げる。

「形容詞+“蛮”+形容詞」は形容詞の程度が高いことを表す。また、程度の高さを表すだけではなく、描写性の高い表現になる。例(3-41)では形容詞“壮「太っている」”を用い、“壮蛮壮「丸々とした」”という意味を表している。なお、“蛮「とても」”は副詞として形容詞に前置され、程度の高いことを表すこともできる(3. 2. 7. 1. 2参照)。

(3-41) 前面 走来 一个 壮蛮壮 个 男小人。

前方 歩く 来る 1 (量詞) 丸々とした (助詞) 男の子

zi²⁴mi⁵⁵zœ⁵³le²¹ie²¹ke⁰tɕyɔ̃⁴⁴me⁰tɕyɔ̃⁴⁴ke⁰nø²²ciɔ̃²²ɲiəŋ²⁴²

「前から一人の丸々とした男の子が歩いてきた。」(0018. CP)

3. 2. 7 副詞

副詞の表す意味は多様であり、動作行為あるいは状態・性質の程度・範囲・時間・否定などを表す。統語機能面では連用修飾語としてのみ用いられ、一般に動詞(助動詞を含む)、形容詞、介詞に前置される。ここでは、範囲・程度・時間に関わる例をいくつか挙げたのうち、用法が複雑な否定副詞についてやや詳しく述べ、さらに副詞と密接に関係する副詞接尾辞について述べる。

3. 2. 7. 1 一般的な副詞

3. 2. 7. 1. 1 範囲副詞

動作行為に関わる数量や範囲が期待よりも小さいことを表す場合、“只”を用いる。標準

中国語では“只 zhǐ”の他に、類似の意味を表す副詞として「ようやく、やっと」という意味の“才 cǎi”も用いられるが、臨海方言では“只”のみが用いられる。

(3-42) 只 写 □lɜŋ⁰ 一半, 还 要 写 落去。

～だけ 書く 〈実現〉 半分 まだ ～すべき 書く 続ける

tɕyoŋ²⁵ɕia⁵³lɜŋ⁰ieŋ²⁵pø⁵⁵, hue²¹io⁴⁴ɕia⁵³lɜŋ⁰ke⁰

「半分しか書いていないので、まだ書き続けなければならない。」(0029. HH)

(3-43) 上次 只 买 爻 一本书, 今日 要 多 买 几 本。

前回 ～だけ 買う 〈実現〉 一 冊 本 今日 ～しよう 多く 買う いくつか 冊

zɕ²¹ts^hɿ⁴⁴tɕyoŋ²⁵ma⁵³ieŋ²⁵pəŋ⁵³ɕy³¹, ci³³ɲiəŋ³⁵³io⁴⁴to³¹ma⁵³ci⁵³pəŋ⁰

「前回は一冊の本しか買わなかったから、今日は何冊か多く買おう。」(0050. CP)

(3-44) 尔 □peŋ⁰ 只 吃 一碗 饭, 再 吃 一碗 凑 □ɲieŋ⁰。

あなた 〈接続〉 ～だけ 食べる 1 杯 ご飯 再び 食べる 1 杯 更に 〈語気〉

ŋ⁵³peŋ⁰tɕyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uo⁵³ve¹¹³, tse⁴⁴tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uo⁵³ts^hɕe⁴⁴ɲieŋ⁰

「あなたのご飯を一杯食べただけです。もう一杯食べましょうよ。」(0030. CP)

標準中国語には「～でさえも」という強調の意味で用いられる“连 lián～都 dōu”あるいは“连 lián～也 yě”という統語形式がある(“连”は介詞、“都”、“也”は副詞)。臨海方言にも同じ形式が存在するが、“都”や“也”のみで同様の意味が表される。

(3-45) □køŋ²⁵□t^hieŋ²⁵ 做生活 后生人 都 熬 弗劳。

このような 仕事をする 若者 ～も 我慢する できない

køŋ²⁵t^hieŋ²⁵tso⁴⁴sã³¹uoŋ²³ɕe⁵³sã³¹ɲiəŋ²⁴²toŋ²⁵ŋo²¹føŋ²⁵lo²¹

「こんな風に仕事をすれば若者であっても疲れ切ってしまう。」(0042. BY)

3. 2. 7. 1. 2 程度副詞

程度が高いことを表す副詞の中で最もよく用いられるものとして“□fiœ¹¹³「とても」”、“蛮「とても」”がある。両者とも標準中国語の“很 hěn”に相当すると考えられる。両者は原則として入れ替え可能である(例(3-46))が、固定された表現形式において入れ替え不可能な場合もある(3. 2. 6参照)。

(3-46) 王先生 个 刀 开 得 {□fiœ¹¹³/蛮} 好, 手术 蛮 成功。

王先生 〈連体〉メス 開く 〈連用〉 とても 良い 手術 とても 成功する

fiœ²¹ɕiŋ³¹sã³¹ke⁰to³¹ke³¹tɕ²⁵{fiœ¹¹³/ me⁴⁴}ho⁵³, ɕiəu⁵³zyøŋ²²³me⁴⁴ziəŋ²¹koŋ³¹

「王先生(※患者)の手術はとてもうまくいった。」(0037.b. CP)

「何らかの基準値よりも多い」ことを表す副詞には“多”がある。

(3-47) 上次 只 买 爻 一本书, 今日 要 多 买 几 本。

前回 ~だけ 買う 〈実現〉 一 冊 本 今日 ~しよう 多く 買う いくつか 冊

zɔ̃²¹ts^hɿ⁴⁴tɕyoŋ²⁵ma⁵³ieŋ²⁵pəŋ⁵³ɕy³¹, ci³³ɲiəŋ³⁵³iɔ⁴⁴to³¹ma⁵³ci⁵³pəŋ⁰

「前回は一冊の本しか買わなかったから、今日は何冊か多く買おう。」(0050. CP)

3. 2. 7. 1. 3 時間副詞

時間副詞のうち、近過去を表す副詞には“□k^hœ⁴⁴□tɕ^hiã³¹”もしくは“□tɕ^hiã³¹□ci⁴⁴”という形式がある。

(3-48)a. □ka⁴⁴人 □tɕ^hiã³¹□ci⁴⁴ 在 讲 我 老师?

誰 さっき 〈進行〉 話す 私 先生

ka⁴⁴ɲiəŋ²¹tɕ^hiã³¹ci⁴⁴ze²¹kɔ̃⁵³ŋe⁵³lɔ̃³³sɿ²¹ (0028. HH)

b. □ka⁴⁴人 □k^hœ⁴⁴□tɕ^hiã³¹ 讲 我 老师 □ne⁰?

誰 さっき 話す 私 先生 〈語気〉

ka⁴⁴ɲiəŋ²¹k^hœ⁴⁴tɕ^hiã³¹kɔ̃⁵³ŋe⁵³lɔ̃³³sɿ²¹ne⁰ (0028. BY)

「誰がさっき私の先生のことを話していたのか？」

標準中国語にみられる「~するとすぐ~する」「一 yī + 動詞句 + 就 jiù + 動詞句」という形式に機能上相当する“一 + 動詞句 + □pɜ²⁵ + 動詞句”の形式が存在する。臨海方言における副詞“□pɜ²⁵”の用法は標準中国語の“就”のそれとおおよそ重なる。

(3-49) 渠 一 高兴 □pɜ²⁵ 唱 起来 爻。

彼 ひとたび 楽しい すぐ 歌う 始める 〈実現〉

ge²¹ieŋ²⁵kõ⁵⁵ɕiəŋ⁵⁵pɜ²⁵ts^hɔ̃⁴⁴c^hi³³le²¹ɦio⁰

「彼は楽しくなるとすぐに歌い出した。」(0027. CP)

動作行為の重複・累加を表す場合、標準中国語では副詞“再 zài”が用いられる。臨海方言でも同形式である“再”が用いられる。なお、同様の意味を表す動詞句接尾辞に“湊”がある(3. 2. 5. 3参照)。

(3-50)a. 尔 只 吃 □lɜ⁰ 一 碗 饭, 再 吃 一 碗 □ɦio⁰。

あなた ~だけ 食べる 〈実現〉 1 杯 ご飯 再び 食べる 1 杯 〈語気〉

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵lɜ⁰ieŋ²⁵uø⁵³ve¹¹³, tse⁴⁴tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uø⁵³ɦio⁰ (0030. ZH)

b. 尔 □peŋ⁰ 只 吃 一碗 饭, 再 吃 一碗 凑 □nieŋ⁰.

あなた 〈連接〉～だけ 食べる 1 杯 ご飯 再び 食べる 1 杯 更に 〈語気〉

ŋ⁵³peŋ⁰tɕyoŋ²⁵tɕhyoŋ²⁵ieŋ²⁵uo⁵³ve¹¹³, tse⁴⁴tɕhyoŋ²⁵ieŋ²⁵uo⁵³ts^hœ⁴⁴nieŋ⁰ (0030. CP)

「あなたはご飯を一杯食べただけです。もう一杯食べましょうよ。」

ある行為を先に行うことを表す表現としては、標準中国語と同様に“先”を用いる。同形式の動詞接尾辞もある（3. 2. 5. 3 参照）が、両者の意味に違いがあるかは不明である。

(3-51) 让 小老人 们 先 走, 尔 再 好好 个 望 一 遍 展览。

〈使役〉 子供 〈複数〉先に 行く あなた それから よく 〈助詞〉見る 1 〈量詞〉 展示

niã¹¹³ciɔ⁵³lo⁵³niãŋ²¹məŋ⁰ciɪ³¹tsœ⁵³ŋ⁵³tse⁴⁴hɔ³³hɔ⁵³ke⁰mɔ̃¹¹³ieŋ²⁵pi⁴⁴tɕi³³le⁵³

「子供たちを先に行かせましょう。あなたはもう一度展示を細かく観てください。」(0031. ZH)

3. 2. 7. 2 否定副詞

臨海方言の否定副詞には“弗”と“无有”の二つがある。その機能差異は、以下にみるように標準中国語の“不 bù”と“没有 méiyǒu”の機能差異にほぼ対応すると考えられる。すなわち、臨海方言の“弗”は標準中国語の“不”の如く、おおよそ変化を伴わない状態や習慣的な動作、或いは変化を伴う事態のうち未然のものの否定に用いられ、“无有”は標準中国語の“没有”の如く、おおよそ変化を伴う已然の事態の否定に用いられる⁴¹。但し、標準中国語の“没有”は“没”だけで用いられる場合があるのに対し、“无有”は必ず“无有”の形式でなければならない。また、この二つの否定副詞の大きな特徴としては、単独で否定の応答に用いることができるという点が挙げられる。

習慣的な行動の否定には“弗”を用いる。

(3-52) 尔 平时 吃 香烟 哇?

あなた 普段 吸う 煙草 〈疑問〉

ŋ⁵³biãŋ²²zɪ²⁴²tɕhyoŋ²⁵çiã³⁵i²²ua⁰

「あなたは普段煙草を吸いますか？」(0002.a. HH)

——弗, 我 弗 吃 香烟。

いいえ 私 〈否定〉吸う 煙草

fɔŋ²⁵, ŋe⁵³fɔŋ²⁵tɕhyoŋ²⁵çiã³⁵i²²

「いいえ、私は煙草を吸いません。」(0002.b. HH)

⁴¹ なお、標準中国語では変化を伴う未然の事態を否定する場合には、一般に“不 bù”だけでは否定されず、“不会 búhui”が用いられる。一方、臨海方言では変化を伴う未然の事態を否定する場合にも、しばしば“弗”だけで否定することができる。この点では標準中国語と完全には一致していないことになる。

「実現」(例(3-53))、「進行」(例(3-54))、「経験」(例(3-55))の否定には“无有”を用いる。

(3-53) 小张 昨日 儿 钓 □lɿʔ⁰ 一 □kuã⁵³ 大 鱼, 我 无有 钓 来。

〈人名〉 昨日 釣る〈実現〉 1 匹 大きい 魚 私〈否定〉 釣る 来る

ɕio³³tɕiã³⁵³zɔʔ²ɲieŋ²⁴²tiɔ⁴⁴lɿʔ⁰ieʔ⁵kuã⁵³do¹¹³ŋ²¹, ŋe⁵³m³³ɲiəu⁵³tiɔ⁴⁴le²²

「小张は昨日一匹の大きな魚を釣り、私は魚を釣ることができなかった。」(0001. CP)

(3-54) 我 无有 在 唱, 我 在 放 录音机 □e⁰。

私〈否定〉〈進行〉 歌う 私〈進行〉 流す レコーダー 〈語気〉

ŋe⁵³m¹³ɲiəu⁵³ze²¹ts^hɔ⁴⁴, ŋe⁵³ze²¹fɔ⁴⁴loʔ²³iəŋ³¹ci³¹e⁰

「私は歌っていません。私は録音を流しているのです。」(0023.b. HH)

(3-55) 我 吃 过 毛兔肉, 尔 吃 过 无有?

私 食べる〈経験〉 ウサギ肉 あなた 食べる〈経験〉 無い

ŋe⁵³tɕ^hyoʔ⁵ku⁰mɔ²¹t^hu⁴⁴ɲyoʔ²³, ŋ⁵³tɕ^hyoʔ⁵ku⁰m³³ɲiəu⁵³

「私はウサギの肉を食べたことがあります。あなたは食べたことがありますか？」(0024.a. HH)

——无有, 我 无有 吃 过。

〈否定〉 私〈否定〉 食べる〈経験〉

m³³ɲiəu⁵³, ŋe⁵³m³³ɲiəu⁵³tɕ^hyoʔ⁵ku⁰

「いいえ、私は食べたことはありません。」(0024.b. HH)

3. 2. 7. 3 副詞接尾辞

標準中国語では二音節以上の副詞・形容詞などが連用修飾語として用いられる場合に接尾辞“地 de”を付加することがある。臨海方言では、“个”、“□zɿ⁰”が同様の役割を担う。以下の例(3-56)では、形容詞の重ね型である“仔仔细细「詳細に」”に“个”を後接させている。

(3-56) 让 小老人 班人 走 过 先,

〈使役〉 子供 〈複数〉 行く 過ぎる 先に

ɲiã¹¹³ɕio⁵³lo⁵³ɲiəŋ²¹pɛ³¹ɲiəŋ²¹tsoe⁵³ku⁴⁴ɕi³¹,

尔 再 拨 展览 仔仔细细 个 望 一 遍。

あなた それから ~を 展示 よく 〈助詞〉 見る 1 〈量詞〉

ŋ⁵³tse⁴⁴pøʔ⁵tɕi³³le⁵³tsɿ⁵³tsɿ⁵³ci⁴⁴ci⁴⁴ke⁰mō¹¹³ieʔ⁵pi⁴⁴

「子供たちを先に行かせましょう。あなたはもう一度展示を細かく観てください。」(0031. CP)

3. 2. 8 介詞

介詞は名詞句に付加され、当該の名詞句を述語と関係づける機能を持つ。以下に介詞のリスト⁴²を挙げる。このうちヴォイスに関連する介詞については、第四章で詳しく論じる。

【表 3-5：臨海方言の介詞】

臨海方言 (標準中国語)	例文	主な機能
在[ze ²¹] (在/打)	(3-57) 渠 □k ^h œ ⁴⁴ 在 我奈 前头 走 过去。 彼 正に (介詞) 私たち 前 歩く 過ぎて行く ge ²¹ k ^h œ ⁴⁴ ze ²¹ ŋe ⁵³ na ⁰ zɪ ²¹ dœ ²¹ tsœ ⁵³ ku ⁴⁴ k ^h e ⁴⁴ 「彼は今私たちの前を通り過ぎて行った。」 (3-58) 人 在 生病 □ke ⁰ 时节, 常常 想念 亲人。 人 (介詞) 病気 (助詞) 時 しばしば 想う 親しい人 ŋiəŋ ²¹ ze ²¹ sã ³¹ biəŋ ¹¹³ ke ⁰ zɪ ²¹ ɕieɪ ²¹ zɔ̃ ²¹ zɔ̃ ²¹ ciã ⁵³ ŋi ¹¹³ ɕ ^h iəŋ ³¹ ŋiəŋ ²¹ 「人は病気の時に、しばしば親しい人を想う。」	1.動作行為の場所を導く 2.動作の発生する時間を導く
从[zyoŋ ²¹] (从/由/自/打/自从)	(3-59) 从 天津 到 北京 只 要 两个 钟头。 ～から 天津 ～まで 北京 ～だけ かかる 2 (量詞) 時間 zyoŋ ²¹ t ^h i ³¹ ɕiəŋ ³¹ tɔ̃ ⁴⁴ poɪ ²¹ ciəŋ ³¹ ɕyoɪ ²¹ io ⁴⁴ liã ⁵³ ke ⁰ ɕyoŋ ³¹ dœ ²¹ 「天津から北京まで二時間しかかからない。」 (3-60) 汽车 从 大桥 上 开 过去 □e ⁰ 。 車 ～から 大きい 橋 ～の上 走る 過ぎて行く (語気) c ^h i ⁴⁴ ts ^h o ³¹ zyoŋ ²¹ do ¹¹³ jiɔ̃ ²¹ zɔ̃ ¹¹³ k ^h e ⁵³ ku ⁴⁴ k ^h e ⁴⁴ e ⁰ 「車は大きな橋の上を通って行くよ。」 (3-61) 渠 从 小 □bɜ ²³ 喜欢 画画。 彼 ～から 小さい (副詞) 好き 描く 絵 ge ²¹ zyoŋ ²¹ ciɔ̃ ⁵³ bɜ ²³ ɕi ⁵³ huɔ̃ ³¹ fua ¹¹³ fua ¹¹³ 「彼は小さな頃から絵を描くのが好きだ。」	1.動作行為の起点を導く 2.動作の通過点を導く 3.動作の開始時間を導く
朝[ɕio ²¹] (朝)	(3-62) 李虎 朝 天上 开 □lɜ ⁰ 两 枪。 人名 ～に向かって 天上 撃つ (実現) 2 (量詞) li ⁵³ hu ⁵³ ɕio ²¹ t ^h i ³¹ zɔ̃ ¹¹³ k ^h e ⁵³ lɜ ⁰ liã ⁵³ ɕiã ³¹ 「李虎は天上に向かって二発撃った。」	面している方向を導く

⁴² 介詞のリストは根岸美聡(2011)のリストを元に作成した。

往[mɔ̃ ⁵³ /uɔ̃ ⁵³] (往)	(3-63) 往 西 走 二 百 步 □bɔ̃ ²³ 到 屋 里 □e ⁰ 。 ～に向かって 西 歩く 200 (量詞) (副詞) 着く 家 (語気) mɔ̃ ⁵³ ci ³¹ tsœ ⁵³ ŋ ¹¹³ pe ² bu ¹¹³ bɔ̃ ²³ tɔ̃ ⁴⁴ o ² li ⁵³ e ⁰ 「西に向かって二百歩歩けば家に着くよ。」	動作行為の方向 を導く
沿[fi ²¹] (沿着)	(3-64) 我 奈 沿 湖 边 散 步 去。 我々 沿う 湖岸 散歩する 行く ŋe ⁵³ na ⁰ fi ²¹ fu ²¹ pi ³¹ sɛ ⁴⁴ bu ¹¹³ ke ⁴⁴ 「私たちは湖岸に沿って散歩しよう。」	動作行為の経路 を導く
□[tɔ̃ ²⁵] (到)	(3-65) 天 □ni ⁴⁴ , 渠 □tɔ̃ ²⁵ 上 海 去 办 点 事 干。 明日 彼 ~へ 上海 行く する 少し 用事 t ^h i ³¹ ni ⁴⁴ ge ²¹ tɔ̃ ²⁵ zɔ̃ ²¹ he ⁵³ k ^h e ⁴⁴ be ¹¹³ tir ⁵ zɪ ¹¹³ kø ³¹ 「明日、彼は上海へ行って用事を済ませる。」	動作の終点を導く
对[te ⁴⁴] (对/于/对于/将)	(3-66) 老 李 对 人 很 热 情 □ke ⁰ 。 人名 ~に対して 人 ととも 親切 (助詞) lo ⁵³ li ⁵³ te ⁴⁴ ŋi ^{əŋ} ²¹ fi ^œ ¹¹³ ŋie ²³ zi ^{əŋ} ²¹ ke ⁰ 「李さんは人に対してとても親切だ。」 (3-67) 吃 香 烟 对 身 体 无 益 有 害。 吸う 煙草 ~にとって 身体 無益有害 t ^h yo ² ci ^ä ³¹ i ³¹ te ⁴⁴ ci ^{əŋ} ³¹ t ^h i ⁵³ m ¹³ ie ² i ^{əu} ⁵³ fi ^œ ¹¹³ 「煙草を吸うことは身体にとって無益有害だ。」	1.動作行為の対象や関係者を導く 2.動作の影響を受ける者を導く
搭[tɔ̃ ²⁵] (和/跟/同)	(3-68) □kø ²⁵ 件 事 干 搭 你 无 有 关 系。 これ (量詞) 事 ~と あなた (否定) 関係 kø ²⁵ ŋi ²¹ zɪ ¹¹³ kø ³¹ tɔ̃ ²⁵ ŋ ⁵³ m ¹³ ŋi ^{əu} ⁵³ ku ^œ ³¹ i ⁴⁴ 「この事はあなたとは関係ない。」	動作を一緒に行う対象を導く
为[fi ^œ ²²] (为)	(3-69) 为 大 家 出 力 是 应 该 □ke ⁰ 。 ~のために 皆 尽力する ~である 当然 (助詞) fi ^œ ²² da ¹¹³ cia ³¹ t ^h yo ² lie ²³ zɪ ²¹ i ^{əŋ} ³¹ ke ³¹ ke ⁰ 「皆のために尽力することは当然だ。」	奉仕の対象を導く
拨[pø ²⁵] (给/把/将)	(3-70) 我 曾 经 拨 渠 回 过 一 封 信。 私 かつて ~に 彼 返す (経験) 1 (量詞) 手紙 ŋe ⁵³ tsəŋ ³¹ ci ^{əŋ} ³¹ pø ²⁵ ge ²¹ fi ^œ ²¹ ku ⁴⁴ ie ² fəŋ ³¹ ci ^{əŋ} ⁴⁴ 「私はかつて彼に一通の手紙を返したことがある。」 (3-71) 请 拨 我 门 开 开。 (依頼) ~のために 私 ドア 開ける t ^h i ^{əŋ} ⁵³ pø ²⁵ ŋe ⁵³ məŋ ²¹ k ^h e ³¹ k ^h e ⁰ 「私のためにドアを開けてください。」	1.動作の受け手を導く 2.奉仕の対象を導く 3.動作とその影響の受け手を導く

	(3-72) 撥 小老人 培养 成 有用 □ke ⁰ 人。 ~を 子供 育てる ~になる 有用だ (助詞) 人 pøŋ ⁵ ciø ⁵³ lɔ ⁵³ niəŋ ²¹ be ²¹ iã ⁵³ ziəŋ ²¹ iəu ⁵³ hyoŋ ¹¹³ ke ⁰ niəŋ ²¹ 「子供を有用な人間に育てる。」	
代[de ¹¹³] (替)	(3-73) 你 碰着渠, 代 我问渠好。 あなた 遇う 彼 ~の代わりに 私 問う 彼 良い ŋ ⁵³ p ^h oŋ ⁴⁴ tciø ⁷⁵ ge ²¹ de ¹¹³ ŋe ⁵³ məŋ ¹¹³ ge ²¹ hø ⁵³ 「彼に会ったら、私の代わりに彼に挨拶しておいて。」	動作や奉仕の対象を導く
□[ɬε ²¹] (叫/让)	(3-74) 录音机 □[ɬε ²¹] 小王 装倒 爻□fiø ⁰ 。 レコーダー ~によって 人名 する 倒す (出来事の発生) loŋ ²³ iəŋ ³¹ ci ³¹ ɬε ²¹ ciø ⁵³ fiø ²¹ tsɔ ³¹ tø ⁵³ fiø ⁰ 「レコーダーは王さんに壊された。」	受動文の動作者を導く
让[niã ¹¹³ /ziã ¹¹³] (被/让)	(3-75) 渠 弗管 走到 □ka ⁴⁴ □i ⁰ , 都 让人 尊敬。 彼 ~に関わらず 行く ~へ どこ 全て ~によって 人 尊敬する ge ²¹ føŋ ⁵ kuø ⁵³ tsø ⁵³ tø ⁴⁴ ka ⁴⁴ tø ⁵³ niã ¹¹³ niəŋ ²¹ tsəŋ ³¹ ciəŋ ⁴⁴ 「彼はどこへ行っても人に尊敬される。」 (3-76) 我 渠去, 但是 渠无有去。 私 ~させる 彼 行く しかし 彼 (否定) 行く ŋe ⁵³ niã ¹¹³ ge ²¹ k ^h e ⁴⁴ te ⁵³ z ¹ ge ²¹ m ⁰ niəu ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「私は彼に行かせたが、彼は行かなかった。」	1.受動文の動作者を導く 2.使役文の動作者を導く
叫[ciø ⁴⁴] (叫)	(3-77) 我 渠早点 屋里 去。 私 ~させる 彼 早い 少し 家 ~の中 行く ŋe ⁵³ ciø ⁴⁴ ge ²¹ tsø ⁵³ tir ⁵³ oŋ ⁵³ li ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「私は彼を早めに帰らせた。」	使役文の動作者を導く
讴[ɔ ³¹] (让)	(3-78) 渠 弗 我到 机场 里去。 彼 (否定) ~させる 私 ~へ 飛行場 ~の中 行く ge ²¹ føŋ ⁵ ɔ ³¹ ŋe ⁵³ tø ⁴⁴ ci ³¹ dziã ²¹ li ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「彼は私を飛行場に行かせない。」	使役文の動作者を導く
比[pi ⁵³] (比)	(3-79) 姐 比 妹 壮 点。 姉 ~より 妹 太っている 少し tciã ⁵³ pi ⁵³ me ¹¹³ tcyɔ ⁴⁴ tir ⁵³ 「姉は妹よりも少し太っている。」	比較の対象を導く
问[məŋ ¹¹³] (向)	(3-80) 你 经常 别人 借 钞票。 あなた いつも ~に 他人 借りる お金 ŋ ⁵³ ciəŋ ³¹ zɔ ²¹ məŋ ¹¹³ bieŋ ²³ ke ⁰ niəŋ ²¹ tciã ⁴⁴ ts ^h ɔ ⁵³ p ^h iø ⁴⁴ 「あなたはいつも他の人にお金を借りている」	動作の対象を導く

<p>按[ø⁴⁴] (按)</p>	<p>(3-81) 按 制度 办 事。 ~に従って 制度 する 事 ø⁴⁴tɕi⁴⁴du¹¹³bɛ³³ʒl¹¹³ 「制度に従って物事を行う」</p>	<p>従っている規定・条件・基準を導く</p>
<p>照[tɕio⁴⁴] (依/照/据)</p>	<p>(3-82) 照 我 望, 大家 □ke⁰ 水平 都 弗 低。 ~に拠る 私 見る 皆 (助詞) レベル 全て (否定) 低い tɕio⁴⁴ŋe⁵³mɔ̃³¹do¹¹³cia³¹ke⁰ɕy⁵³biəŋ²¹to²fəŋ²ti³¹ 「私の見たところでは、皆のレベルはいずれも低くない。」</p> <p>(3-83) 渠 □kəŋ⁵ 件 衣裳 是 照 □kəŋ⁵ 只 样子 做 □ke⁰。 彼 これ (量詞) 服 ~である ~に拠る これ (量詞) 様式 作る (助詞) ge²¹kəŋ⁵ʃi²¹i³¹zɔ̃²¹ʒl²¹tɕio⁴⁴kəŋ⁵tɕyoŋ²fia¹¹³tsɿ⁵³tso⁴⁴ke⁰ 「彼のこの服はこの様式に照らして作ったものだ。」</p> <p>(3-84) 照 天气预报 讲, 天□niä⁴⁴ 有 大风。 (介詞) 天気予報 言う 明日 ある 大風 tɕio⁴⁴h³¹c^hi⁴⁴ŋy¹¹³pɔ̃⁴⁴kɔ̃⁵³h³¹niä⁴⁴iəu⁵³da¹¹³fəŋ³¹ 「天気予報の言うところによれば、明日は大風が吹く。」</p>	<p>1. 依拠している規定・方法・基準を導く 2. 従っている規定・条件・基準を導く 3. 前提や根拠としているものを導く</p>
<p>凭[biəŋ²²] (凭)</p>	<p>(3-85) 要 凭 证据 下 结论。 ~しなければならない (介詞) 証拠 下す 結論 io³¹biəŋ²²tɕiəŋ⁴⁴cy⁴⁴ɕia⁴⁴cieŋ²ləŋ¹¹³ 「証拠に基づいて結論を下さなければならない」</p>	<p>根拠を導く</p>
<p>论[ləŋ¹¹³] (论)</p>	<p>(3-86) 香烟 都 论 包 卖, 弗 零 卖。 煙草 全て (介詞) 包み 売る (否定) 細かく 売る ɕiä³¹i³¹to²ləŋ¹¹³pɔ̃³¹ma¹¹³, fəŋ²liəŋ³¹ma¹¹³ 「煙草はみな包みで売っていて、バラ売りはしない。」</p> <p>(3-87) 论 学习, 你 比 渠 好, ~について 勉強 あなた ~に比べて 彼 良い 论 身体, 渠 比 你 强。 ~について 身体 彼 ~に比べて あなた 強い ləŋ¹¹³fəŋ²zieŋ²³, ŋ²¹pi⁵³ge²¹hə⁵³, ləŋ¹¹³ɕiəŋ³¹t^hi⁵³, ge²¹pi⁵³ŋ²¹ʃiä²¹ 「勉強についてはあなたが彼より優れていて、 身体については彼があなたより強い。」</p>	<p>ある単位・分類に基づいて、或いはある面を根拠に言うということを表す</p>
<p>为[fue²²] (为/为着)</p>	<p>(3-88) 大家都 为 渠 □ke⁰ 精彩 表演 热烈 鼓掌。 皆 全て (介詞) 彼 (助詞) 素晴らしい 演技 熱心に 拍手する da¹¹³cia³¹to²fue²²ge²¹ke⁰tɕiəŋ³¹ts^he⁵³pio⁵³i³¹nieŋ²³lieŋ²³ku⁵³ts⁵³ 「皆が彼の素晴らしい演技に熱心に拍手した」</p>	<p>1. 原因を導く 2. 目的を導く</p>

	(3-89) 为 帮助 后进 学生, 老师 经常 早 来 晚 去。 (介詞) 助ける 進歩の遅い 学生 先生 いつも 早く 来る 遅く 去る fue ²¹ pɔ ³¹ zu ¹¹³ œ ⁵³ tɕiəŋ ⁴⁴ ɔ ²³ sã ³¹ lo ⁵³ sɿ ³¹ ciəŋ ³¹ zɔ ²¹ tso ⁵³ le ²¹ me ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「進歩の遅い学生を助けるために、先生はいつも早く来て遅く帰る。」	
连[li ²¹] (连)	(3-90) 连 盒 都 □tso ⁵³ 队 驮 去。 (介詞) 容器 みな 一緒に 持って 行く li ²¹ ɦøŋ ²³ toŋ ⁵³ tso ⁵³ de ¹¹³ do ²¹ k ^h e ⁴⁴ 「容器も一緒に持って行って」	話題や対比の焦点を導く
除了[ɕy ²² le] (除了)	(3-91) □køŋ ⁵ 头 除了 我□niã ¹¹³ 两 □ke ⁰ 人, 无有 别□ke ⁰ 人。 ここ (介詞) 私たち 2 (量詞) 人 いない 他の人 køŋ ⁵ dœ ²¹ ɕy ²¹ lɜŋ ²³ ɦe ⁵³ niã ¹¹³ liã ⁵³ ke ⁰ niəŋ ²¹ , m ³³ niəu ⁵³ bieŋ ⁰ ke ⁰ niəŋ ²¹ 「ここには私たち二人を除いて他の人はいない。」	計算に入れていないことを表す
趁[tɕ ^h iəŋ ⁴⁴] (趁)	(3-92) 趁 实习 □ke ⁰ 机会, 渠搭人 收集 □lɜŋ ⁰ 很 多 标本。 (介詞) 実習 (助詞) 機会 彼ら 収集する 〈実現〉とても 多い 標本 tɕ ^h iəŋ ⁴⁴ zieŋ ²³ zieŋ ²³ ke ⁰ ci ³¹ ɦue ¹¹³ , ge ²¹ tɜŋ ⁰ niəŋ ² ciəu ³¹ zieŋ ²³ lɜŋ ⁰ ɦue ¹¹³ to ³¹ piɔ ³¹ pəŋ ⁵³ 「実習の機会に乗じて、彼らはたくさんの標本を収集した。」	条件や機会を利用することを表す
驮[do ²²] (-) ⁴³	(3-93) □køŋ ⁵ 把 椅 驮 坐。 これ (量詞) 椅子 (介詞) 座る køŋ ⁵ po ⁵³ y ⁵³ do ²² zo ²¹ 「この椅子に座って。」	動作の方法、道具、対象を導く

3. 2. 9 接続詞

接続詞は、語や句を結びつける役割を持つ語である。句を結びつけるものとしては、逆接を表す“亦「しかし」”(例(3-94))、順接を表す“哈呗「そして」”、累加を表す“再加上「加えて」”などがある。

(3-94) 渠 拨 桔儿 皮 剥, 亦 无有 吃。

彼 ~を ミカン 皮 剥く 〈逆接〉 〈否定〉 食べる

ge²¹pøŋ⁵cyəŋ²⁴²bi²¹pøŋ⁵, ɦieŋ²³m³³niəu⁵³tɕyoŋ⁵

「彼はミカンの皮を剥いたが、食べなかった。」(0008. HH)

3. 2. 10 構造助詞

構造助詞は実質的な意味を持たない機能語の一種であり、語や句に付加され、ある特定の文法的な性質を持つ構造を作り上げる助詞である。例として、偏正構造の連体修飾語に

⁴³ “驮”に対応する標準中国語の介詞は無い。詳しくは根岸(2009)を参照されたい。

後接する“个”（3. 1. 4 参照）、状態補語を導く“□lɜʔ⁰”“得”（3. 1. 3. 4 参照）などがある。

3. 2. 1. 1 文末助詞

文末助詞は文末に付加され、文のアスペクト的意味やモダリティ的意味など様々な意味を表す。以下、臨海方言の主な文末助詞を紹介していく。

3. 2. 1. 1. 1 “爻□fiɔ⁰”、“□fiɔ⁰”

“爻□fiɔ⁰”、“□fiɔ⁰”は已然の事態について、その出来事が発生したことを表すほか、近接した未来においてその出来事が発生することを表すのに用いられる。標準中国語の文末助詞“了le”（いわゆる“了₂”）にはほぼ相当する⁴⁴。なお、“爻□fiɔ⁰”と“□fiɔ⁰”の機能差異については不明である。

(3-95) 学生 坐 汽车 坐 □lɜʔ⁰ 两 整 日 □fiɔ⁰。

学生 乗る 車 乗る 〈実現〉 2 完全な 日 〈出来事の発生〉

fiɔʔ²³sã³¹zo²¹ç^hi⁴⁴ts^ho³¹zo²¹lɜʔ⁰liã⁵³tɕiəŋ⁵³ɲieʔ²³fiɔ⁰

「学生たちは車にまる二日乗っている。」(0021. HH)

(3-96) 我 洗 过 澡 爻□fiɔ⁰, 今日 弗 打 篮球 □fiɔ⁰。

私 洗う 〈経験〉 洗う 〈出来事の発生〉 今日 〈否定〉 する バスケットボール 〈出来事の発生〉

ŋe⁵³çⁱku⁴⁴ts^ho³¹fiɔ⁰fiɔ⁰, çⁱɲiəŋ³⁵³fɔʔ²⁵tã⁵³le²¹ɲiəu²¹fiɔ⁰

「私は身体を洗ったので、今日は（もう）バスケットボールはやりません。」(0025. HH)

(3-97) 我去 爻□fiɔ⁰, 尔 两个 坐 □tɕ^hiã³¹ 湊。 (※近接未来)

私 行 〈出来事の発生〉 あなた 二人 座る しばらく 更に

ŋe⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰, ŋ⁵³liã⁵³ke⁰zo²²tɕ^hiã³¹ts^hœ⁴⁴

「私は行きます。あなた方二人はもうしばらく座っててください。」(0048. BY)

3. 2. 1. 1. 2 “哇”

臨海方言では諸否疑問文（3. 3. 1. 1 参照）は、平叙文の文末に“哇”、“□ue⁰”を付加することで構成される。このうち“□ue⁰”はおそらく“哇 ua⁰”に注意を促すような意味を表す文末助詞“□e⁰”が後接され合音となったものであると考えられる。また、諸否疑問文の文末助詞として“吗”が用いられることもあるが、標準中国語からの借用であると考えられる。

⁴⁴ 標準中国語の“了le”はその統語的分布と機能によって、“了₁”と“了₂”に分けることができる。“了₁”は動詞に後接するアスペクト助詞（動詞接尾辞とも呼ばれる）であり、“了₂”は文末に置かれる文末助詞（語気助詞とも呼ばれる）である。例えば、朱德熙(1982)では“了₁”は動詞接尾辞であり、動詞の直後に置かれ、動作の完了を表し、“了₂”は文末のみに現れ、新たな状況の出現を表すと説明されている。

(3-98)a. 天日_ル王经理 会 搭 公司 来 吗?

明日 王さん ~だろう ~に 会社 来る (疑問) (0039.a.HH)

tʰi³³niã³⁵³hĩ²¹ciəŋ³¹li⁵³fiue¹¹³tʰɔ²⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ma⁰

b. 王经理 天日_ル搭 公司 来 哇?

王さん 明日 ~に 会社 来る (疑問) (0039.a.BY)

hĩ²¹ciəŋ³¹li⁵³tʰi³³niã³⁵³tʰɔ²⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ua⁰

「明日は王さんが会社に来ることはありますか？」

3. 2. 1 1. 3 “呢”

臨海方言において、疑問詞疑問文の文末に用いられるのは、“呢 ne⁰” および “□nie^{ʔ0}” である。“□nie^{ʔ0}” は “呢 ne⁰” に注意を促すような意味を表す文末助詞 “□e⁰” が後接され合音となったものであると考えられる。なお、標準中国語の “呢 ne” と同じく、“呢” および “□nie^{ʔ0}” が付加されなくとも、疑問詞疑問文は成立する。

(3-99) 我奈 用 □ka⁴⁴□m⁰ 车 从 南京 往 □kø^{ʔ5}头 运 家具 □nie^{ʔ0}?

私たち 使う どんな 車 ~から 南京 ~まで ここ 運ぶ 家具 (語気)

ŋe⁵³na⁰fiyøŋ¹¹³ka⁴⁴m⁰ts^ho³¹zyøŋ²¹nø²¹kiəŋ³¹mĩ⁵³kø^{ʔ5}dœ²¹fiyøŋ¹¹³cia³¹jy¹¹³nie^{ʔ0}

「私たちはどんな車を使って南京からここまで家具を運ぶの？」(0040.HH)

3. 3 構文

臨海方言の文は、上述の基本構造の組み合わせより構成されるが、ある特定の機能を表すために、固定的な統語構造が用いられることがある（多くは上述の基本構造の組み合わせからなる統語構造である）。本論文ではこのような統語構造を構文と呼んでおく。以下、構文の機能・構造に着目した分類に基づき、疑問を表す各種構文（諾否疑問文、選択疑問文、正反疑問文、疑問詞疑問文、推測疑問文）、命令文、“是～的” 分裂文、動詞コピー構文の順に実例を示していく。

3. 3. 1 疑問を表す構文

3. 3. 1. 1 諾否疑問文

諾否疑問文とは、命題の真偽を問う疑問文であり、標準中国語では平叙文の文末に “吗” を付加することによって構成されるが、臨海方言では平叙文の文末に “哇” 或いは “□ue⁰” を付加する（3. 2. 1 1. 1 参照）。なお、肯定の回答には “□ŋ⁵³” が、否定の回答には “弗” もしくは “无有” が用いられる（3. 2. 7. 2 参照）。

(3-100) 尔 平时 吃 香烟 哇?

あなた 普段 吸う 煙草 (疑問)

ŋ⁵³biəŋ²²zɿ²⁴²tɕ^hyoŋ²⁵çiã³⁵i²²ua⁰

「あなたは普段煙草を吸いますか？」(0002.a. HH)

——弗, 我 弗 吃 香烟。

いいえ 私 (否定) 吸う 煙草

føŋ²⁵, ŋe⁵³føŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵çiã³⁵i²²

「いいえ、私は煙草を吸いません。」(0002.b. HH)

(3-101) 尔 搭 渠 讲 过 □køŋ²⁵ 事 干 爻 □ue⁰?

あなた ~に 彼 話す (経験) この こと (発生) (疑問)

ŋ⁵³tɕŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³ku⁴⁴køŋ²⁵zɿ³³køŋ²¹fɔ̃⁰ue⁰?

「あなたは彼にこのことを伝えましたか？」(0003.a. CP)

——□ŋ⁵³, 对 个, 我 搭 渠 讲 过 爻。

はい、 そうです 私 ~に 彼 話す (経験) (発生)

ŋ⁵³, te⁵⁵ke⁵⁵, ŋe⁵³tɕŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³ku⁴⁴fɔ̃⁰

「はい、私は彼に伝えました。」(0003.b. CP)

なお、臨海方言でも標準中国語と同じ疑問助詞“吗”が用いられることもあるが、これは標準中国語からの借用だと考えられる(3. 2. 1 1. 1 参照)。

(3-102) 天日_ル 王经理 会 搭 公司 来 吗?

明日 王さん ~だろう ~に 会社 来る (疑問)

t^hi³³niã³⁵³fɔ̃²¹ciəŋ³¹li⁵³fue¹¹³tɕŋ²⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ma⁰

「明日は王さんが会社に来ることはありますか？」(0039.a. HH)

3. 3. 1. 2 選択疑問文

選択疑問文とは、二項または複数項の選択肢を示して、いずれかを選択することを要求する疑問文である。臨海方言では、標準中国語と同じように“还是”を選択項の間に置くことで構成される。

(3-103) 尔 吃 米饭 还是 吃 馒头?

あなた 食べる ご飯 それとも 食べる マントウ

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵mi²²ve²²⁴fue²²zɿ²²tɕyoŋ²⁵me²²dœ²⁴²?

「あなたはご飯を食べますか?それともマントウを食べますか?」(0004. HH)

3. 3. 1. 3 正反疑問文

正反疑問文とは、動詞または形容詞の肯定形と否定形とを並列し、そのいずれかを選択することを要求する疑問文である。二音節の動詞や形容詞の場合、肯定形と否定形を並列した“漂亮弗漂亮”（例(3-104a)）という形式だけでなく、肯定形の二音節目を省略した“漂亮弗漂亮”（例(3-104b)）の二種類の形式があり得る⁴⁵。

(3-104)a. 渠 漂亮 弗 漂亮?

彼女 きれい 〈否定〉 きれい

ge²²p^hio⁴⁴liã¹¹³fɔŋ⁵p^hio⁴⁴liã¹¹³?

b. 渠 漂 弗 漂亮?

彼女 きれい 〈否定〉 きれい

ge²²p^hio⁴⁴fɔŋ⁵p^hio⁴⁴liã¹¹³?

「彼女はきれいですか？きれいでありませんか？」

なお、動詞が接尾辞“过”などを伴っている場合、否定形には“弗”ではなく“无有”を用いる（3. 2. 7. 2 参照）。この場合、“吃过无有”という形式（例(3-105a)）か、あるいは肯定形に“有”を用いることで否定形と対応させる“有无吃过”という形式（例(3-105b)）で表される。

(3-105)a. 我 吃 过 毛兔肉, 尔 吃 过 无有?

私 食べる 〈経験〉 ウサギ肉 あなた 食べる 〈経験〉 無い

ŋe⁵³tɕ^hyoŋ⁵³ku⁰mɔ²¹h⁴⁴nyoŋ²³, ŋ⁵³tɕ^hyoŋ⁵³ku⁰m³³niəu⁵³(0024.a. HH)

b. 我 吃 过 毛兔肉, 尔 有 无有 吃 过 啊?

私 食べる 〈経験〉 ウサギ肉 あなた ある 無い 食べる 〈経験〉 〈語気〉 (0024.a. ZH)

ŋe⁵³tɕ^hyoŋ⁵³ku⁰mɔ²¹h⁴⁴nyoŋ²³, ŋ⁵³iəu⁵³m³³niəu⁵³tɕ^hyoŋ⁵³ku⁰a⁰

「私はウサギの肉を食べたことがあります。あなたは食べたことがありますか？」

形容詞の正反疑問文は“A 弗 A”の形式となる。

(3-106) 尔 望望相, □køŋ⁵点 钞票 够 弗够 用 □e⁰?

あなた 見てみる これだけ お金 足りる 足りない 使う 〈語気〉

ŋ⁵³mɔ̄⁴⁴mɔ̄⁴⁴çiã⁰, kɔŋ⁵tɕ^hti²²ts^hɔ²²p^hio⁵⁵kœ⁴⁴fɔŋ⁵kœ⁴⁴ŋyoŋ¹¹³e⁰

「あなたが計算してみて。これだけのお金で払うのに足りるですか？」(0033. CP)

⁴⁵ なお、HH氏によれば、例(3-104a)のような省略しない形式を用いることが多いようである。

3. 3. 1. 4 疑問詞疑問文

疑問詞疑問文とは、特定の統語成分の位置に疑問代詞を用いて、当該の疑問代詞の問う特定の要素についての回答を要求する疑問文である。疑問代詞には、事物を問う“□ka⁴⁴□m⁰”、人を問う“□ka⁴⁴人”などがある（疑問代詞の具体的な種類については、3. 2. 4. 3参照）。語順変化などではなく、標準中国語との違いは語彙的な相違にとどまるようである。

(3-107) 尔 在 唱 □ka⁴⁴□m⁰?

あなた〈進行〉歌う 何

ŋ⁵³ze²¹ts^{h544}ka⁴⁴m⁰

「あなたは何を歌っているの？」(0023.a. HH)

(3-108) □ka⁴⁴人 □tɕ^hiã³¹□ci⁴⁴ 在 讲 我 老师?

誰 さっき 〈進行〉話す 私 先生

ka⁴⁴ŋiəŋ²¹tɕ^hiã³¹ci⁴⁴ze²¹kɔ̃⁵³ŋe⁵³lɔ̃³³sɿ²¹

「誰がさっき私の先生のことを話していたのか？」(0028. HH)

なお、標準中国語においては、諾否疑問に用いられる語気助詞“吗”は疑問詞疑問文とは共起せず、“呢”のみが用いられ得るとい現象がみられる。臨海方言も同様であり、疑問詞疑問文には、文末助詞“哇”は用いられず、“呢”や“□nie⁰”などが用いられる（3. 2. 1 1. 3参照）。

(3-109) 我 奈 用 □ka⁴⁴□m⁰ 车 从 南京 往 □kø²⁵头 运 家具 □nie⁰?

私たち 使う どんな 車 ～から 南京 ～まで ここ 運ぶ 家具 〈語気〉

ŋe⁵³na⁰fiyŋ¹¹³ka⁴⁴m⁰ts^ho³¹zyŋ²¹nø²¹kiəŋ³¹mɔ̃⁵³kø²⁵dœ²¹fiyŋ¹¹³cia³¹jy¹¹³nie⁰

「私たちはどんな車を使って南京からここまで家具を運ぶの？」(0040. HH)

3. 3. 1. 5 推測疑問文

推測疑問文とは、話者の推測を聞き手に伝え、同意を求める疑問文である。臨海方言の推測疑問文には、“哇”や“哪”といった語気詞が用いられるようである。

(3-110)a. 老师 拨 尔 一 本 □fiœ¹¹³ □gœ²¹ 个 书 哇?

先生 与える あなた 1 冊 とても 厚い 〈連体〉本 〈疑問〉

lɔ̃³³sɿ²¹pø²⁵ŋ⁵³ie²⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³gœ⁵³ke⁰cy³¹ua⁰ (0034. ZH)

b. 老师 拨 □lɔ̃⁰ 尔 一 本 □fiœ¹¹³ 厚 个 书 哪?

先生 与える 〈実現〉 あなた 1 冊 とても 厚い 〈連体〉本 〈疑問〉

lɔ̃³³sɿ²¹pø²⁵lɔ̃⁰ŋ⁵³ie²⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³œ⁵³ke⁰cy³¹na⁰ (0034. CP)

「先生はあなたに一冊の厚い本をあげたでしょう？」

3. 3. 2 命令文

命令文は、それを明示する専用の文法形式は存在せず、二人称に対する働きかけを含意する文が発話されるという語用論的条件を満たしたものを命令文と見なすことにする。ただし、実際はほとんどの場合に文末に語気助詞“□ko⁰”や“□o⁰”が付加される。

(3-111)a. □kø^{ʔ5} 毛巾 □fiœ¹¹³ 邈邈 爻, □bã²¹□bã²¹ □ko⁰.

この 布巾 とても 汚い 〈実現〉 捨ててみる 〈語気〉 (0013. HH)

kø^{ʔ5}mø²¹ciəŋ³¹fiœ¹¹³lɔ^{ʔ23}tɔ^{ʔ5}fiœ⁰, bã²¹fiœ⁰fiœ⁰

b. □kø^{ʔ5} 面巾 □t^hie^{ʔ5} 齷齪 爻□fiœ⁰, 丟 □o⁰.

この 布巾 こんなに 汚い 〈発生〉 捨てる 〈語気〉

kø^{ʔ5}mi¹¹³ciəŋ³¹t^hie^{ʔ5}fiœ^{ʔ23}tɕ^hyœ^{ʔ5}fiœ⁰fiœ⁰, tiœ³¹o⁰

「この布巾はひどく汚れてしまった(ので)、捨ててしまいなさい。」(0013. BY)

禁止を表す否定命令文は動詞の前に“□çia⁴⁴”や“□nie^{ʔ23}”が付加される。これらの語は、何かの合音である可能性があるが、語源についての詳細は不明である。

(3-112)a. 快 要 落 雨 □fiœ⁰, 尔 搭人 □çia⁴⁴ 出去。

もうすぐ ~しそう 降る 雨 〈発生〉 あなた 〈複数〉 〈禁止〉 出る 行く

k^hua⁴⁴io³¹lɔ^{ʔ23}y⁵³fiœ⁰, ŋ²¹tɔ^{ʔ5}ŋiœŋ²¹çia⁴⁴tɕ^hø^{ʔ5}k^he⁴⁴ (0012. HH)

b. 快 要 落 雨 □fiœ⁰, 尔 搭人 □nie^{ʔ23} 出去 □fiœ⁰.

もうすぐ ~しそう 降る 雨 〈発生〉 あなた 〈複数〉 〈禁止〉 出る 行く 〈発生〉

k^hua⁴⁴io³¹lɔ^{ʔ23}y⁵³fiœ⁰, ŋ²¹tɔ^{ʔ5}ŋiœŋ²¹nie^{ʔ23}tɕ^hø^{ʔ5}k^he⁴⁴fiœ⁰ (0012. ZH)

「もうすぐ雨が降るから、あなたたちは出掛けなさい。」

3. 3. 3 存現文

事物の存在、現象の出現・消失を表す場合に、その主体を目的語として表現し、場所(存在する場所あるいは現象が発生する場所)を主語に据えた構文が用いられることがある。これをそれぞれ存在文、現象文と呼び、一括して存現文と称する。臨海方言の存現文は、次のいくつかの類型に分けられる。

まず、事物の存在を表す存在文は、“場所主語+動詞+□lɔ^{ʔ0}/着/得+目的語(=存在主体)”という統語形式を構成する。存在主体は不定のものに限られる。動詞は他動詞であるもの(例(3-113))も、自動詞であるもの(例(3-114))も含まれる。

(3-113)a. 墙 上 □pe^{ʔ5} □lɔ^{ʔ0} 一 张 地图。

壁 ~の上 貼る 〈実現〉 1 (量詞) 地図

ziã²⁴zɔ⁵⁵pe^{ʔ5}lɔ^{ʔ0}ie^{ʔ5}tɕiã²¹di³³du²¹ (0015. HH)

b. 墙上 □peŋ⁵ 着一张地图。

壁 ~の上 貼る 1 (量詞) 地図

ziã²⁴zõ⁵⁵peŋ⁵ɬieŋ⁰ieŋ³ɬiã²¹di³³du²¹ (0015. ZH)

「壁に一枚の地図が貼ってある。」

(3-114) 眠床里 倒 得 一个老人家。

ベッド ~の中 倒れる (構造助詞) 1 (量詞) 老人

mi²²zõ²⁴²li⁵³tõ⁵³ɬieŋ⁰keŋ³lo³³niãŋ²¹ciã³¹

「ベッドに一人の老人が横たわっている。」(0016. CP)

標準中国語の存在文とは動詞の後に用いられる助詞が異なっているだけのようにであるが、臨海方言では動態的な意味を表す行為動詞 ((3-115)における“划「泳ぐ」”) の場合は、この文型は用いられず、他の文型が用いられる⁴⁶。

(3-115) □køŋ⁵ 河头 □fiẽ¹¹³ 多 小鱼在划。 (※標準中国語では“河里游着好多小鱼。”)

この 川 (方位詞) とても 多い 小さい 魚 (進行) 泳ぐ

køŋ⁵fiõ²¹dẽ¹¹³fiẽ¹¹³tõ³¹ciõ³³ŋ²¹ze²¹fiua²¹

「この川ではたくさんの小さな魚が泳いでいる。」(0017. CP)

現象の出現・消失を表す現象文では、“場所主語+動詞+爻/□lɜŋ⁰+目的語 (=現象の主体)” という統語構造をとる。現象の出現を表すものも消失を表すものもあり、標準語とは動詞の後に用いられる助詞が異なっている。

(3-116) 前面来 □lɜŋ⁰ 一个 胖胖 个 小老头。

前方 来る (実現) 1 (量詞) 丸々とした (量詞) 男の子

zi²⁴mi⁵⁵le²¹lɜŋ⁰ieŋ³ke⁰p^{h544}p^{h544}ke⁰ciõ²²lo²²dẽ⁵⁵

「前から一人の丸々とした男の子が歩いてきた。」(0018. HH)

(3-117) 渠屋里 一记死 爻 三只猪。

彼 家 一度に 死ぬ (実現) 3 (量詞) 豚

ge²¹oŋ⁵li⁵³ieŋ³ci⁴⁴sŋ⁵³fiõ⁰se³¹tsaŋ⁵tsŋ³¹

「彼の家はいっぺんに三頭の豚を亡くした。」(0019. HH)

3. 3. 4 “是…个” 分裂文

これは、既に起こった出来事について、動詞以外の統語成分、特に動作の場所・時点・方式などに焦点をあてる場合に用いられる構文である。動詞に前置された焦点をあてたい

⁴⁶ 本論文で言う行為動詞は、“走「歩く」”、“唱「歌う」”、“望「見る」”のように一定時間続けることが可能な動作行為を表す動詞を指すこととする。“跳「跳ぶ」”、“踢「蹴る」”などの、もともとは持続性を持たないが繰り返しによって一定時間続けることが可能な動作行為を表す動詞も含める。(【表 5-2b】下の説明を参照。)

統語成分の直前に“是”を置き、動詞の直後に“个”を置くことで構成される。目的語がある場合、“个”は(3-118)のように動詞と目的語の間に入る場合もあれば、目的語の後に置かれる場合もある。これを“是…个”分裂文と呼ぶこととする。標準中国語では分裂文には“是…的”構文が用いられる。

(3-118) 我 搭人 是 在 车站 买 个 车票。

私 (複数) である ~で 駅 買う (助詞) 切符

ŋe⁵³te⁷⁰ŋiaŋ²¹z¹ze²¹ts^ho⁵⁵ɕz⁵⁵ma⁵³ke⁰ts^ho⁵⁵p^hio⁵⁵

「私たちは乗車券を駅で買ったのです。」(0014. HH)

3. 3. 5 動詞コピー構文

動詞コピー構文とは、動補構造を構成する動詞が動作量あるいは動作の持続時間を表す成分を補語として伴っている場合、或いは動作の状態を表す補語を伴っている場合に、その動補構造の前に同じ動詞を使った動目構造を置くことで、目的語と補語の両方を同時に一文に表現する構文である⁴⁷。同一の動作行為を表す動詞が文中に二度現れるため、「動詞コピー構文」と呼ばれる。臨海方言でも標準中国語と同じ形式が用いられる。

例えば、例(3-119)では“坐「乗る」”が二回現れ、目的語である“汽车「車」”と時量補語である“两整日「まる二日」”とがそれぞれ後置されている。

(3-119) 学生 坐 汽车 坐 个 两 整 日 个。

学生 乗る 車 乗る (実現) 2 完全な 日 (発生)

fiŋ²²³sã³¹zo²¹c^hi⁴⁴ts^ho³¹zo²¹lɜ⁰liã⁵³ɕiaŋ⁵³ɲie²²³fiŋ⁰

「学生たちは車にまる二日乗っている。」(0021. HH)

3. 3. 6 目的語主題化構文

他動詞文型の基本語順は、標準中国語と同じく SVO 型、すなわち“主語+ [動詞+目的語]”である (3. 1 参照)。しかし臨海方言では、意味上の目的語がしばしば主題 (T) として動詞の前に置かれ、STV の語順が出現する。この STV の語順は、標準中国語では意味上の目的語が対比される文脈など、極めて特殊な条件でしか発生しないものであるが、臨海方言では意味上の目的語が定的なものであれば、むしろ STV 語順が基本語順といえる。また、例(3-121)の“一个同学「一人のクラスメイト」”のように不定的なものであっても STV の語順をとることがあり得る。

なお、この他、標準中国語と同じく、意味上の目的語を文頭に置く、TSV の語順もみられる。この語順は、意味上の目的語が既知のもので、それを話題にする場合に生ずる語順

⁴⁷ 動詞コピー構文は、標準中国語と同様に、臨海方言においても非常に生産性が高く、体系内において重要な位置を占める構文である。

である。

・ SVO (S=小张/ V=釣/ O=魚)

(3-120) 小张 昨日 釣 □lɜŋ⁰ 一 □kuã⁵³ 大 魚, 我 无有 釣 来。

〈人名〉 昨日 釣る 〈実現〉 1 匹 大きい 魚 私 〈否定〉 釣る 来る

ciɔ³³tɕiã³⁵³zɔŋ²⁴²niɛŋ²⁴²tiɔ⁴⁴lɜŋ⁰ieŋ²⁵kuã⁵³do¹¹³ŋ²¹, ŋe⁵³m³³niəu⁵³tiɔ⁴⁴le²²

「小张は昨日一匹の大きな魚を釣り、私は魚を釣ることができなかった。」(0001. CP)

・ STV (S=我/ T=同学/ V=碰)

(3-121) 我 □k^hu³¹□ciəŋ³¹ 一 个 同 学 碰 着 爻。

私 朝 1 (量詞) クラスメイト 会う 〈結果補語〉 〈実現〉

ŋe⁵³k^hu³¹ciəŋ³¹ieŋ²⁵ke⁰doŋ²¹fiɔ²²³p^hoŋ⁴⁴ɕyɔ²²³fiɔ⁰

「私は朝、一人のクラスメイトに会った。」

・ TSV (T=电影/ S=渠/ V=望)

(3-122) 叫 小 强 □tso²² 队 搭 电 影 院 望 《刘 三 姐》。

呼ぶ 小強 一緒に ~まで 映画館 見る 『劉三姐』

ciɔ⁴⁴ciɔ³³jiã³⁵³tso²²de²²⁴teŋ²⁵di¹¹³iəŋ⁵³fiyɔ¹¹³mɔ̃¹¹³liəu²²se²²tɕiã²⁴²

「小強を呼んで一緒に映画館へ行って『劉三姐』を観よう。」(0006.a. HH)

——□kɜŋ²⁵ 场 电 影 渠 望 过 爻□fiɔ⁰。 (※こちらが TSV の語順)

これ (量詞) 映画 彼 見る 〈経験〉 〈出来事の発生〉

kɜŋ²⁵ɕiã³⁵³di³³iəŋ⁵³ge²¹mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「その映画なら彼は観たことがあるよ。」(0006.b. HH)

第四章 臨海方言のヴォイス体系

第四章では臨海方言のヴォイス体系について論じる。形態変化の無い臨海方言では、標準中国語を含む他の中国語方言と同様に、ヴォイスを表す形式として介詞が重要な役割を果たしている。方言調査により得られたヴォイスに関わる介詞を、構文的意味によって分類し、それぞれの介詞の持つ機能を整理し、その差異を検討する。さらに、使役構文の動作者を導く機能と処置構文の処置対象を導く機能を兼ねる介詞“拨”の多機能性に着目し、その用法を体系的に整理した上で、介詞“拨”の各用法の通時的生成プロセスについて考察する。

4. 1. 共時的体系

4. 1. 1 概略⁴⁸

臨海方言のヴォイス転換も、標準中国語や他の中国語方言と同様に、原則として名詞句の統語的な位置転換と名詞句への介詞の付加或いは削除によって表現される。下表は臨海方言においてヴォイスと関わる介詞をまとめたものである。“拨”が使役構文と処置構文とを、“让”が使役構文と受動構文とを構成する機能を兼ねていることが注目される。

【表 4-1：臨海方言の受動構文・使役構文・処置構文を構成する介詞】

介詞	例文	意味機能
□dɛ ²²	录音机 □dɛ ²² 小王 装倒 爻□fiɔ ⁰ 。 レコーダー ～によって 人名 壊す (出来事の発生) lo ²² iəŋ ³¹ ci ³¹ dɛ ²¹ ciɔ ⁵³ fiɔ ²¹ tsɔ ³¹ to ⁵³ fiɔ ⁰ fiɔ ⁰ 「レコーダーは小王によって壊された。」	受動構文の動作者を導く
让 ⁴⁹	1. 渠 弗管 走 搭 □ka ⁴⁴ □i ⁰ , 都 □让 人 尊敬。 彼 ～に関わらず 行く ～へ どこ みな ～によって 他人 尊敬する ge ²¹ fə ²⁵ kuə ⁵³ tsə ⁵³ to ⁴⁴ ka ⁴⁴ to ²⁵ niã ¹¹³ niãŋ ²¹ tsəŋ ³¹ ciəŋ ⁴⁴ 「彼はどこへ行こうとも、人に尊敬される。」 2. 我 □让 渠 去, 但是 渠 无有 去。 私 ～させる 彼 行く しかし 彼 (否定) 行く ŋe ⁵³ niã ¹¹³ ge ²¹ k ^h e ⁴⁴ te ⁵³ zɿ ²¹ ge ²¹ m ⁰ niəu ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「私は彼を行かせたが、彼は行かなかった。」	1.受動構文の動作者を導く 2.使役構文の動作者を導く

⁴⁸ 4. 1. 1～4. 1. 4は根岸(2011)の内容に基づく。

⁴⁹ “让”[niã¹¹³]と[ziã¹¹³]の二つの発音があるが、意味機能に違いは見出し難い。

叫	我 [叫] 渠 早点 屋里 去。 私 ~させる 彼 早い 少し 家 行く ŋe ⁵³ ciə ⁴⁴ ge ²¹ tso ⁵³ tir ⁵³ o ²¹ li ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「私は彼を早めに帰宅させた。」	使役構文の動作者を 導く
讴	渠 弗 [讴] 我 搭 机场 里 去。 彼〈否定〉 ~させる 私 ~へ 飛行場 ~の中 行く ge ²¹ fə ²¹ o ²¹ ŋe ⁵³ tso ⁴⁴ ci ³¹ tɕi ²¹ li ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「彼は私を飛行場に行かせない。」	使役構文の動作者を 導く
拨	1. 我 [拨] 渠 早点 屋里 去。 私 ~させる 彼 早い 少し 家 行く ŋe ⁵³ pə ²¹ ge ²¹ tso ⁵³ tir ⁵³ o ²¹ li ⁵³ k ^h e ⁴⁴ 「私は彼を早めに帰宅させた。」 2. [拨] 小老人 培养 成 有用 □ke ⁰ 人。 ~を 子供 育てる ~になる 有用 (助詞) 人 pə ²¹ tɕiə ⁵³ lo ⁵³ niə ²¹ be ²¹ iä ⁵³ ziə ²¹ iəu ⁵³ fiyŋ ¹¹³ ke ⁰ niə ²¹ 「子どもたちを有用な人間に育てあげる。」	1.使役構文の動作者 を導く 2.処置構文の処置対 象を導く

なお、これらのヴォイスに関わる介詞のうち、□tɕe²²以外には動詞としての用法が確認できる。具体的な用法は以下の通りである。

動詞	意味	例文
让	譲る	我 让 拨 渠。 私 譲る 与える 彼 ŋe ⁵³ niä ¹¹³ pə ²¹ ge ²¹ 「私は彼に譲る」
叫	叫ぶ/鳴く/呼ぶ	小狗 在 叫。 子犬 〈進行〉 鳴く ciə ⁵³ kœ ⁵³ ze ²¹ ciə ⁴⁴ 「子犬が鳴いている」
讴	呼ぶ	我 去 讴 渠。 私 行く 呼ぶ 彼 ŋe ⁵³ k ^h e ⁴⁴ o ²¹ ge ²¹ 「私は彼を呼びに行く」

拨	与える	我 拨 渠 一 本书。 私 与える 彼 1 册 本 ŋe ⁵³ pøŋ ²⁵ ge ²¹ ieŋ ⁵³ pəŋ ⁵³ cy ³¹ 「私は彼に一冊の本を与えた」
---	-----	--

以下、受動構文、使役構文、処置構文といった構文ごとに、それらを構成する複数の形式の機能差異まで踏み込んで検討する。

4. 1. 2 受動構文

臨海方言において、受動文を構成し、その動作主を導く介詞には“□dɛ²²”、“让”、“被”がある。このうち“被”は、臨海方言の話者には、明らかに“洋话（外来の言葉）”であると考えられており、臨海方言固有の介詞であるとは見なしがたい⁵⁰。そのため、ここでは“□dɛ²²”と“让”を用いた受動構文の用法についてのみ言及する。これらの受動構文の文法機能は標準中国語の“让”を用いた受動構文とおおよそ一致する。以下、具体的に見ていく。

4. 1. 2. 1 基本的な特徴

①一般に文中には結果補語を伴うか、動詞（対象への影響を含意するもの）が動作行為の実現を表すアスペクト助詞や事態の発生を表す文末助詞を伴う形式をとる（例(4-1)、(4-2)）。ここから、受動構文は意味的には動作によって主語が強い影響を受ける事態を表す構文だと考えられ、この構文的意味に明確に反するものは許容されない（例(4-3)）。また、動詞が対象（主語）に影響を与えうるものであっても、動作行為の実現を表すアスペクト助詞や事態の発生を表す文末助詞を伴っていないものは成立しない（例(4-4)）。

(4-1) 我 □ke⁰ 书 {□dɛ²²/让/被} 渠 驮 去 爻□fio⁰。

私 ~の 本 ~によって 彼 持つ 去る (出来事の発生)

ŋe⁵³ke⁰cy³¹{dɛ²²/niã¹¹³/bi⁵³}ge²¹do²¹k^he⁴⁴fio⁰fio⁰

「私の本は彼に持ち去られた。」

(4-2) 渠 {□dɛ²²/被} 别□ke⁰ 人 (拨) 打 爻□fio⁰。

彼 ~によって 他の人 毆る (出来事の発生)

ge²¹{dɛ²²/bi⁵³}bieŋ⁰ke⁰niãŋ²¹(pøŋ²³)tã⁵³fio⁰fio⁰

「彼は人に毆られた。」

⁵⁰ ここで言う“洋话”とは、文体的価値の上で“土话（土地の言葉）”と対になる概念である。即ち、臨海方言の話者の意識において、所謂“洋话”は臨海方言固有のものではなく、書面語や標準中国語等の外来の言語に由来する言語成分のことを指す。

(4-3) *我 □ke⁰ 书 {□ɕε²²/被} 渠 驮。

私 ~の本 ~によって 彼 持つ

ŋe⁵³ke⁰çy³¹{ɕε²²/bi⁵³}ge²¹do²¹

「私の本は彼に持たれた。」

(4-4) *渠 {□ɕε²²/被} 人 (拨) 打。

彼 ~によって 人 毆る

ge²¹{ɕε²²/bi⁵³}niəŋ²¹(pøʔ²³)tã⁵³

「彼は人に毆られる。」

② “□ɕε²²” 或いは“让”の目的語（動作者）は必須である（例(4-5)~(4-6)）。標準中国語で受動文の動作者を導く“被 bèi「~によって」”の目的語は省略することができるが、臨海方言の“□ɕε²²”では動作者を省略すると非文となる（例(4-7)~(4-8)）。

(4-5) 我 □ke⁰ 衣裳 {□ɕε²²/被} 渠 装 碎 爻□fiɔ⁰。

私（助詞） 服 ~によって 彼 する 粉々 〈出来事の発生〉

ŋe⁵³ke⁰i³¹zɔ̃²¹{ɕε²²/bi⁵³}ge²¹tsɔ̃³¹se⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「私の服は彼に破られた。」

(4-6) 屋 {□ɕε²²/被} 我 弟 (拨) 卖 爻□fiɔ⁰。

家 ~によって 私 弟 売る 〈出来事の発生〉

oʔ⁵{ɕε²²/bi⁵³}ŋe⁵³di³⁴³(pøʔ²³)ma¹¹³fiɔ⁰fiɔ⁰

「家は私の弟によって売られた。」

(4-7) *我 □ke⁰ 衣裳 □ɕε²² 装 碎 爻□fiɔ⁰。（※標準中国語“我的衣服被破了。”は成立する。）

私 ~の 服 ~によって する 粉々 〈出来事の発生〉

ŋe⁵³ke⁰i³¹zɔ̃²¹ɕε²²tsɔ̃³¹se⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「私の服は破られた。」

(4-8) *屋 □ɕε²² 卖 爻□fiɔ⁰。（※標準中国語“房子被卖了。”は成立する。）

家 ~によって 売る 〈出来事の発生〉

oʔ⁵ɕε²²ma¹¹³fiɔ⁰fiɔ⁰

「家は売られた。」

③ “□ɕε²²” 或いは“让”を用いた受動文の被動作者は一般にみな定的 (definite) な名詞句であり（例(4-9)~(4-10)）、不定の場合は非文となる（例(4-11)~(4-12)）。

(4-9) 我 □ke⁰ 脚踏车 {□ɕε²²/让/被} 别 □ke⁰ 人 踏 去 爻□fiɔ⁰。

私 ~の 自転車 ~によって 他 ~の 人 乗る 去る (出来事の発生)

ŋe⁵³ke⁰ciɛ²dɜ²³ts^ho³¹{ɕε²²/niã¹¹³/bi⁵³}bie²²³ke⁰niəŋ²¹dɜ²³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「私の自転車は人に乗って行かれた。」

(4-10) 渠 {□ɕε²²/让/被} 公司 派 搭 北京 去 爻□fiɔ⁰。

彼 ~によって 会社 派遣する ~へ 北京 行く (出来事の発生)

ge²¹{ɕε²²/niã¹¹³/bi⁵³}koŋ³¹sɿ³¹p^ha⁴⁴ts²po²ciəŋ³¹k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「彼は会社によって北京へ派遣された。」

(4-11) *一部 脚踏车 {□ɕε²²/让/被} 别 □ke⁰ 人 踏 去 爻□fiɔ⁰。

一 台 自転車 ~によって 他 ~の 人 乗る 去る (出来事の発生)

ie²bu¹¹³ciɛ²dɜ²³ts^ho³¹{ɕε²²/niã¹¹³/bi⁵³}bie²²³ke⁰niəŋ²¹dɜ²³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「一台の自転車が人に乗って行かれた。」

(4-12) *有 人 {□ɕε²²/让/被} 公司 派 搭 北京 去 爻□fiɔ⁰。

ある 人 ~によって 会社 派遣する ~へ 北京 行く (出来事の発生)

iəu⁵³niəŋ²¹{ɕε²²/niã¹¹³/bi⁵³}koŋ³¹sɿ³¹p^ha⁴⁴ts²po²ciəŋ³¹k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「ある人が会社によって北京へ派遣された。」

④否定形式は、標準中国語の“让 ràng”を用いた受動構文の否定形式と同様に、述語動詞の前ではなく、“□ɕε²²” 或いは“让”の前に否定詞をつける (例(4-13)、(4-14))。

(4-13) 我 □ke⁰ 书 无有 {□ɕε²²/让/被} 渠 驮 去 爻□fiɔ⁰。

私 ~の 本 (否定) ~によって 彼 持つ 去る (出来事の発生)

ŋe⁵³ke⁰cy³¹m¹³niəu⁵³{ɕε²²/niã¹¹³/bi⁵³}ge²¹do²¹k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「私の本は彼に持ち去られていない。」

(4-14) *我 □ke⁰ 书 {□ɕε²²/让/被} 渠 无有 驮 去 爻□fiɔ⁰。

私 ~の 本 ~によって 彼 (否定) 持つ 去る (出来事の発生)

ŋe⁵³ke⁰cy³¹{ɕε²²/niã¹¹³/bi⁵³}ge²¹m¹³niəu⁵³do²¹k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「私の本は彼/彼女に持ち去られていない。」

4. 1. 2. 2 介詞による差異

これまで述べてきたとおり、“□ɕε²²”と“让”は統語的分布には大きな違いは無いと言える。しかし、注目すべき点として、“□ɕε²²”を用いた受動構文は語用論レベルでの制限を受けるということが挙げられる。即ち、“□ɕε²²”を用いた受動構文は当該の文脈において「被害」のニュアンスを伴っており、話者がある種の「不幸」と捉える内容を表す文でのみ用いることが出来る。この点は標準中国語の受動構文と異なる。例(4-15)、(4-16)の表す内容はいずれも通常の文脈では(具体的な文脈を設定しなければ)「被害」とは考えに

くく、「不幸」と捉えることが難しいため、“□ $\text{ɕ}\epsilon^{22}$ ”を用いることはできない。

(4-15) 渠 弗管 走 搭 □ ka^{44} □ i^0 , 都 {让/被/*□ $\text{ɕ}\epsilon^{22}$ } 人 尊敬。

彼 ~に関わらず 行く ~へ どこ 全て ~によって 人 尊敬する

$\text{ge}^{21}\text{f}\text{o}\text{ŋ}^2\text{ku}\text{o}^53\text{ts}\text{œ}^53\text{t}\text{s}\text{ɿ}^2\text{ka}^{44}\text{i}^0, \text{to}\text{ŋ}^5 \{ \text{ni}\text{ä}^{113}/\text{bi}^{53}/ * \text{ɕ}\epsilon^{22} \} \text{ni}\text{ə}\text{ŋ}^{21}\text{ts}\text{ə}\text{ŋ}^{31}\text{ci}\text{ə}\text{ŋ}^{44}$

「彼はどこへ行っても、人に尊敬される。」

(4-16) 渠 {让/被/*□ $\text{ɕ}\epsilon^{22}$ } 我 奈 选 为 代表 爻□ fio^0 。

彼 ~によって 我々 選ぶ ~として 代表 〈出来事の発生〉

$\text{ge}^{21}\{ \text{ni}\text{ä}^{113}/\text{bi}^{53}/ * \text{ɕ}\epsilon^{22} \} \text{ge}^{21}\text{na}^0\text{c}\text{y}\text{o}^53\text{fi}\text{ue}^{21}\text{de}^{113}\text{pi}\text{o}^53\text{fi}\text{o}^0\text{fi}\text{o}^0$

「彼は我々によって代表に選ばれた。」

また、以下に挙げる例(4-17)については、この文は「被害」の意味を伴うとは限らない。しかし、話者が“生活都□ $\text{ɕ}\epsilon^{22}$ 渠搭人做完爻□ fio^0 。「仕事は全て彼らによって終えられた。」”ということを「不幸」なこと（例えば、そのために自分に仕事が回って来なくなり収入が得られないなど）だと見なすと、この文には語用論的に「被害」の意味が賦与され、そのことによりこの文は成立することとなる。言い換えれば、この文に文脈上「被害」の意味が伴わないのであれば、“□ $\text{ɕ}\epsilon^{22}$ ”を使うことはできない。

(4-17) 生活 都 {□ $\text{ɕ}\epsilon^{22}$ /让/被} 渠搭人 做 完 爻□ fio^0 。

仕事 全て ~によって 彼ら する 終える 〈出来事の発生〉

$\text{s}\text{ä}^{31}\text{fi}\text{u}\text{ə}\text{ŋ}^2\text{to}\text{ŋ}^5 \{ \text{ɕ}\epsilon^{22}/\text{ni}\text{ä}^{113}/\text{bi}^{53} \} \text{ge}^{21}\text{t}\text{s}\text{ɿ}^2\text{ni}\text{ə}\text{ŋ}^{21}\text{ts}\text{o}^{44}\text{u}\text{o}^21\text{fi}\text{o}^0\text{fi}\text{o}^0$

「仕事は全て彼らによって終えられた。」

4. 1. 3 使役構文

臨海方言において使役文を構成し、その動作者を導く介詞には、“让”、“返”、“叫”、“拨”がある(例(4-18)、(4-19))。このうち“返”と“叫”の統語的分布はおおよそ一致しているが、“返”は“土话(土地の言葉)”の文体的価値を伴う。言い換えれば、“叫”は新しい形式であり、標準中国語からの借用であると考えられる。以下で、これらの介詞を用いた使役構文の基本的な特徴を紹介し、その上で、確認することのできた差異について述べる。

(4-18) 我 {让/返/叫/拨} 渠 早 点 屋 里 去。

私 ~にさせる 彼 早い 少し 家 ~の中 行く

$\text{ŋ}\text{e}^{53}\{ \text{ni}\text{ä}^{113}/\text{o}^{31}/\text{ci}\text{o}^{44}/\text{p}\text{o}\text{ŋ}^2 \} \text{ge}^{21}\text{ts}\text{o}^53\text{ti}\text{r}^53\text{o}^2\text{li}^53\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}$

「私は彼/彼女を早めに帰らせた。」

(4-19) 尔 {让/讴/叫/拨} 渠 出来!

あなた ～にさせる 彼 出る 来る

ŋ⁵³{niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/pøŋ⁵}ge²¹ts^hyøŋ⁵le²¹

「あなたが彼に出てこさせなさい！」

4. 1. 3. 1 基本的な特徴

① “让”、“讴”、“叫”、“拨”を用いた使役文は述語動詞の表す動作の実現を必ずしも保証しない。(例(4-20))

(4-20) 我 {让/讴/叫/拨} 渠 去, 但是 渠 无有 去。

私 ～にさせる 彼 行く しかし 彼 〈否定〉 行く

ŋe⁵³{niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/pøŋ⁵}ge²¹k^he⁴⁴, de¹¹³z¹ge²¹m¹³niəu⁵³k^he⁴⁴

「私は彼を行かせたが、彼は行かなかった。」

②否定形式は、否定詞を述語動詞の直前ではなく、“让”、“讴”、“叫”、“拨”の直前に置く。(例(4-21)、(4-22))

(4-21) 渠 弗 {让/讴/叫/拨} 我 搭 机场 里去。

彼 〈否定〉 ～にさせる 私 ～へ 飛行場 ～の中 行く

ge²¹føŋ⁵{niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/pøŋ⁵}ŋe⁵³tɔ⁵ci³¹ɬiã²¹li⁵³k^he⁴⁴

「彼は私を飛行場へ行かせない。」

(4-22) 渠 弗 {让/讴/叫/拨} 我 望 照片。

彼 〈否定〉 ～にさせる 私 見る 写真

ge²¹føŋ⁵{niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/pøŋ⁵}ŋe⁵³mɔ¹¹³tciɔ⁴⁴p^hi⁴⁴

「彼は私に写真を見せない。」

4. 1. 3. 2 介詞による差異

臨海方言の“让”、“讴”、“叫”、“拨”を用いた使役文には、以下の如く多少の差異が存在する。

① “拨”を用いた使役文の出現には意味或いは語用論上の制限があると考えられる。例えば以下の使役文では“拨”を用いることができない。この現象を引き起こす要因についてはいまだ不明である⁵¹。

⁵¹ “拨”が複数の意味機能を持つ多機能語であるため、文が成立した場合に使役構文の動作者を導く機能以外の解釈が優先されるのではないかと考えてインフォーマントに確認したが、“拨”を用いる文そのものが成立しにくいとのことであった。

(4-23) 渠 {让/诶/叫/*拨} 你 搭 办公室里 去。

彼 ～にさせる あなた ～へ 事務所 ～の中 行く

ge²¹{niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/*pøŋ²⁵} η²¹tsŋ⁵³be¹¹³koŋ³¹çieŋ⁵³li⁵³k^he⁴⁴

「彼はあなたを事務所に行かせる。」

(4-24) 主任 {让/诶/叫/*拨} 小李 搭 广州 出差。

主任 ～にさせる 人名 ～へ 広州 出張する

ɕe⁵³ziŋ¹¹³{niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/*pøŋ²⁵} ciɔ⁵³li⁵³tsŋ⁵³kɔ⁵³ɕiəu³¹ɕ^hyøŋ²⁵ts^ha³¹

「主任は小李を広州に出張させる。」

② “让” を用いた使役文にも意味或いは語用論上の制限が存在すると考えられる。例えば以下の用例のようにインフォーマントにより“让”が許容されないことがある⁵²。

(4-25) 姆妈 打电话 {?让/诶/叫/*拨} 渠 出来。

母 する 電話 ～にさせる 彼 出る 来る

m³³ma⁵⁵tã⁵³di¹¹³fua¹¹³{? niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/*pøŋ²⁵} ge²¹ɕ^hyøŋ²⁵le²¹

「お母さんは電話を掛けて彼を出てこさせた。」

(4-26) 渠 捺 门铃 {?让/诶/叫/*拨} 我 出来。

彼 押す 呼び鈴 ～にさせる 私 出る 来る

ge²¹nɔŋ²³məŋ²¹liəŋ³¹{? niã¹¹³/ɔ³¹/ciɔ⁴⁴/*pøŋ²⁵} ηe⁵³ɕ^hyøŋ²⁵le²¹

「彼は呼び鈴を押して私を出てこさせた。」

4. 1. 4 処置構文

臨海方言で処置文を構成し、その動作の受け手を導く介詞は“拨”である。その役割は標準中国語の“把”とほぼ一致する。以下、具体的な用法について述べる。

4. 1. 4. 1 基本的な特徴

① 述語動詞は動作性の高い動詞でなければならない (例(4-27))。

(4-27) 我々 拨 作业 都 做 完 爻□fio⁰。

我々 ～を 宿題 全て する 終わる 〈出来事の発生〉

ηe⁵³na⁰pøŋ²⁵tsɔŋ²⁵nieŋ²³toŋ²⁵ tso⁴⁴fuo²¹fio⁰fio⁰

「我々は宿題を全て終わらせた。」

⁵² この現象の具体的な意味、あるいは語用論上の制限を明らかにするのは難しいが、一つの要因として、これらの文が連動文に由来するため前後の項の意味的な親和性が関わっている可能性がある。例(4-25)、(4-26)について言えば、“诶”も“叫”も本来の動詞としての意味が声を出して対象に働きかけること(「呼ぶ」)であるため、本来の動詞としての意味が「譲る」である“让”よりも相対的になじむのかもしれない。

②一般に述語動詞は、結果補語、様態補語、方向補語、数量補語などの動作の結果や動作量を表す文法成分を伴うか（重ね型の形式を含む）、動詞（対象の状態変化を含意するもの）が動作行為の実現を表すアスペクト助詞や事態の発生を表す文末助詞を伴う形式をとる（例(4-28)~(4-34)）。ここから、意味的には動作行為により“拨”の目的語に状態変化を生じさせることを表す構文だと考えられる。

(4-28) 我 弗 想 拨 □^{tʰieŋ⁵} 多 □^{ke⁰} 钞票 都 借 拨渠。 (※結果補語)

私 〈否定〉 ~したい ~を こんなに 多い (助詞) お金 全て 貸す 与える 彼

ŋe⁵³fəŋ⁵³ciã⁵³pəŋ⁵tʰieŋ⁵to³¹ke⁰tsʰɔ⁵³pʰiɔ⁴⁴toŋ⁵ciã⁴⁴pəŋ⁵ge²¹

「私はこんなに多くのお金を全て彼に貸したくはない。」

(4-29) 小老人 拨 屋里 装 □^{lɜŋ⁰} 乱七八糟。 (※様態補語)

子供 ~を 家 ~の中 する (助詞) めちゃくちゃ

ciɔ⁵³lɔ⁵³niəŋ²⁴²pəŋ⁵oŋ⁵li⁵³tsɔ³¹lɜŋ⁰lɔ¹¹³tʰieŋ⁵pɜŋ⁵tsɔ³¹

「子供(たち)は家の中をめちゃくちゃにした。」

(4-30) 请 尔 拨 椅 驮 出去。 (※方向補語)

~してください あなた ~を 椅子 持つ 出る 行く

tʰieŋ⁵³ŋ⁵³pəŋ⁵y⁵³do²¹tʰyɔŋ⁵kʰe⁴⁴

「椅子を持って行ってください。」

(4-31) 大家都 要 拨 □^{kəŋ⁵} 课书 抄 三遍。 (※数量補語 (動作量))

皆 全て ~しなければならない ~を この テキスト 写す 3 回

da¹¹³ciã³¹toŋ⁵ciã⁴⁴pəŋ⁵kəŋ⁵kʰo⁴⁴ey³¹tʰiɔ³¹se³¹pi⁴⁴

「全員このテキストを三回写さなければならない。」

(4-32) 大家都 要 拨 □^{kəŋ⁵} 课书 读 三十分钟。 (※数量補語 (時間))

皆 全て ~しなければならない ~を この テキスト 読む 30 分間

da¹¹³ciã³¹toŋ⁵ciã⁴⁴pəŋ⁵kəŋ⁵kʰo⁴⁴ey³¹toŋ²³se³¹ziɛŋ²³fəŋ³¹tɕyɔŋ³¹

「全員このテキストを三十分間読まなければならない。」

(4-33) 尔 周末 要 拨 门 修修过。 (※重畳形式)

あなた 週末 ~しなければならない ~を ドア 少し直す

ŋ⁵³tɕiəu³¹məŋ²³ciã⁴⁴pəŋ⁵məŋ²¹tɕiəu³¹tɕiəu³¹ku⁰

「あなたは週末にドアを少し直して。」

(4-34) □^{ka⁴⁴} 人 拨 蛋糕 吃 了 □^{fio⁰}? (※実現のアスペクト助詞)

誰 ~を ケーキ 食べる 〈実現〉 〈出来事の発生〉

ka⁴⁴niəŋ²¹pəŋ⁵dɛ¹¹³kɔ³¹tʰyɔŋ⁵fio⁰fio⁰

「誰がケーキを食べたの？」

③ “拨”の目的語は一般に定的(definite)な名詞句でなければならない。例えば、(4-35)が成立するためには「十冊セットのうちの一冊」などの文脈が必要である。

(4-35) ?渠 拨 一 本 书 装 落 爻□fio⁰。

彼 ～を 1 (量詞) 本 する 落とす (出来事の発生)

ge²¹pøŋ²⁵ieŋ²⁵pəŋ⁵³cy³¹tsɔ̃³¹loŋ²³fiɔ⁰fio⁰

「彼は一冊の本を落とした。」

4. 1. 4. 2 注目すべき用法

①否定形式は、原則として否定詞を“拨”の前に置く(例(4-36))。但し、否定詞が述語動詞の前に置かれることもある(例(4-37))。否定詞を述語動詞の前に置くことについての許容度はインフォーマントによって違いが見られたが、おおよそ例(4-37)のような対比の文では許容度が高くなる傾向が確認された。

(4-36) 渠 无 有 拨 我 □ke⁰ 书 拍 碎 □e⁰。

彼 (否定) ～を 私 (助詞) 本 破る 粉々 (語気)

ge²¹m¹³niəu⁵³pøŋ²⁵ŋe⁵³ke⁰cy³¹p^hvøŋ²⁵se⁴⁴e⁰

「彼は私の本を破っていないよ。」

(4-37) 渠 拨 我 □ke⁰ 书 无 有 拍 碎, 渠 拨 我 □ke⁰ 簿 拍 碎 爻□fio⁰。

彼 ～を 私 ～の 本 (否定) 破る 粉々 彼 ～を 私 ～の ノート 破る 粉々 (出来事の発生)

ge²¹pøŋ²⁵ŋe⁵³ke⁰cy³¹m¹³niəu⁵³p^hvøŋ²⁵se⁴⁴, ge²¹pøŋ²⁵ŋe⁵³ke⁰bu¹¹³p^hvøŋ²⁵se⁴⁴fiɔ⁰fio⁰

「彼は私の本を破ったのではなく、私のノートを破ったのだ。」

②“拨”を用いた処置構文は標準中国語の“把”を用いた処置構文と同様に、述語動詞が可能補語を伴う場合には成立しない。但し、臨海方言では、当該の文が感嘆や反語といった語気を表す場合であれば、述語動詞が可能補語を伴う文も文法的に適切となる(4-38、39、40)。

(4-38) 尔 拨 □t^hie²⁵ 重 □ke⁰ 箱 都 搬 得 动 □a⁰?

あなた ～を こんなに 重い(助詞) 箱 ～も 持つ (可能) 動かす (語気)

ŋ⁵³pøŋ²⁵t^hieŋ²⁵ɬzyoŋ²¹ke⁰ciä³¹toŋ²⁵pø³¹tsɔ̃²⁵doŋ²¹a⁰

「あなたはこんなに重い箱も持ち上げられるの？」(※感嘆・反語のどちらの解釈も可能)

(4-39) 尔搭人 拨 □køŋ²⁵ 本 书 都 望 得 懂 □a⁰?

あなたたち ～を あれ (量詞) 本 ～も 見る (可能) 理解する (語気)

ŋ⁵³tsɔ̃²⁵niəŋ²¹pøŋ²⁵køŋ²⁵pəŋ⁵³cy³¹toŋ²⁵mɔ̃⁴⁴tsɔ̃²⁵doŋ²¹a⁰

「あなたたちはあの本を読んで理解できるの？」(※感嘆・反語のどちらの解釈も可能)

(4-40) 渠 拨 □køʔ⁵ □tʰieʔ⁵ 重 个 箱 □eʔ⁵ 搬 得 动。

彼 ~を あれ ~くらい 重い(連体) 箱 ~も 持つ(可能) 動かす

ge²¹pøʔ⁵køʔ⁵□tʰieʔ⁵dzyon²¹ke⁰ciã³¹eʔ⁵ pø³¹tʂ⁵don²¹

「彼はあんなに重い箱も持ち上げることができる。」(※感歎)

4. 1. 5 介詞“拨”のもたらす多義性とその軽減方法

これまで述べてきたように“拨”は、「使役構文の動作者を導く」、「処置構文の処置対象を導く」というヴォイス表現機能を持つほか、介詞として複数の機能を持つ。従って、それぞれの用法に生起する上での制限が無ければ、“拨”の生起する文は多義的になるが、それを解消する手段が全く存在しないとは考えにくい。ここでは、“拨”の生起する文が、その多義性をどのように回避しているかを確認しておく⁵³。手掛かりとするのは、介詞“拨”が多機能的であるために、多義性がもたらされる“N1+拨+N2+V+N3”という統語形式である。この形式において、①特定の文脈が設定されない場合に介詞“拨”がどの用法であるとの解釈が優先されるか、②その場合に他の介詞に交換可能か、という調査を行うことにより、各用法の間に差異がみられるかどうかを検討した。以下に、例文を具体的に示す(例文では、「→」の先に他の形式による言い換えを示す)⁵⁴。

(4-41) 渠 拨 我 打 电话。

彼 (拨) 私 かける 電話

ge²¹pøʔ⁵ŋe⁵³tã⁵³di¹¹³hua¹¹³

(a) 彼が私に電話をくれる。(能動文の授与目標)

(b) 私のために彼が電話をかけてくれる。(能動文の受益者) →渠为我打电话。

(c) 彼が私に電話をかけさせてくれる。(許容使役構文の被使役者) →渠让我打电话。

(4-42) 渠 拨 我 望 照片。

彼 (拨) 私 見る 写真

ge²¹pøʔ⁵ŋe⁵³mɔ̃⁴⁴tɕiɔ⁴⁴pʰi⁴⁴

(a) 彼が私に写真を見せる。(使役性授与構文の授与目標)

⁵³ 本論文では、介詞“拨”のヴォイス表現機能として、使役構文・処置構文などをとりあげ、受益者を導く用法などとは別のものとして扱っているが、これらを含む概念を表しているとの解釈も成り立つ可能性もある。例えば、言語によっては、ヴォイス体系を構成するものとして適用態構文(applicative construction)がみとめられることがある。これは、他の態においては前置詞の目的語として導入されるなど、動詞の項とはならなかった付加的な名詞句が動詞の項に加えられるようになる構文である(新たに加えられた動詞の項は、しばしば「適用目的語」と呼ばれる)。例えば米田(2009)によれば、ヘレロ語では動詞に適用形派生接辞がつくと、動詞には「~のために」という意味が加えられ、適用目的語は主に受益者の意味役割を担うという。そして適用目的語は受益者だけでなく、被害者、理由・動機、受容者、着点、場所といった動作者と対象を除く、様々な意味役割を担い得るという。

臨海方言の介詞“拨”の担う諸機能についても、それらを含めて検討する視点も重要であるかもしれない。しかし現状では、中国語方言に適用態構文の概念を導入した研究は、管見の及ぶ限り存在せず、この概念を導入することがどれほど妥当性を備えているのかは、慎重な検討が必要であろう。

⁵⁴ 日本語訳の後ろの()内に示されているのは“拨”に後置される名詞の意味である。詳しくは4. 2. 1. 2で述べる。

(b) 彼が私に写真を見させてくれる。(許容使役構文の被使役者) →渠让我望照片。

以上を整理すると、①“N1+撥+N2+V+N3”という統語形式においては、特定のコンテキストが設定されない場合には、“撥”が授与目標マーカ―(能動文・使役性授与構文)であるという意味解釈が他の用法よりも優先され、②“撥”の授与目標マーカ―以外の用法においては、他の介詞に交換可能だということがわかる。よって、授与目標マーカ―以外の用法において、多義性が生ずる可能性のある文脈では、他の介詞に交換されることで多義性が解消されることになる。以上の①、②により、“N1+撥+N2+V+N3”という統語形式の多義性が軽減され、“撥”の多機能性が維持され得ているのだと考えられる。

4. 2. 介詞“撥”の多機能性の分析

上述したように、介詞“撥”が用いられる構文は単一のヴォイス表現を担うのではない。しかも、この語はヴォイス表現以外にも複数の機能を備えており、非常に多機能的であると言える。実は介詞“撥”は呉方言に属する多くの地域において、ヴォイス表現をはじめとする様々な機能を担っており、なおかつ少なからぬ方言では臨海方言には見られない受動表現の用法を備えるなど、その多機能性の内実も一様ではない⁵⁵。呉方言地域において重要な役割を果たすこの介詞“撥”が、如何なる通時的プロセスを経てヴォイス表現機能を獲得するに至ったかは、中国語方言文法研究において重要な研究課題だと考える。この問題を解明するためには、各方言の介詞“撥”について共時的機能を体系的に明らかにした上で、通時的変遷のプロセスを推定した研究が行われる必要がある。今後、このような研究が集積されていけば、呉方言地域全体における介詞“撥”の通時的変遷のプロセスと機能拡張のメカニズムとが浮かび上がってくることになろう。

本節では、以上を踏まえ、臨海方言における介詞“撥”について、①共時的な機能を分析・整理した上で(4. 2. 1)、②介詞“撥”の各用法の通時的な生成プロセスを推定することを試みる(4. 2. 2)。

⁵⁵ 介詞“撥”のヴォイス表現に関わる用法としては、主に呉方言地域において受動構文の動作者マーカ―・処置構文の処置対象マーカ―などとして広く用いられる。近年作製された中国語方言地図集である曹志耘主編(2008)によれば、前者の用法は、江蘇省南部・上海市から浙江省北部にかけての地域に、後者の用法は浙江省北部から東部(東南部)にかけての地域に分布する。そうすると、浙江省北部などでは、介詞“撥”が前者と後者の双方の用法に用いられる地域が少なからず存在することになる。曹志耘主編(2008)には、このような方言として、浙江省内だけでも上虞市・天台县・寧海市などの20カ所ほどの方言が示されている。なお、“撥”がヴォイス表現に関わる用法を持つ多くの方言では、この語が授与動詞としても用いられている。

授与動詞としての“撥”は、文献に登場するのは遅く、許宝华・宮田一郎主編(1999:3293)は、19世紀の韓邦慶により著された呉方言を反映する小説『海上花列伝』などの清末の用例を挙げるに止まっている。しかし、太田(1956)は、上古で授与の意味を持っていた“界”(Schuessler(2009)による上古再構成音は**pis*)に由来すると考えており、そうであれば長い歴史を持つ語だということになる。

なお、このような介詞“撥”の語源について、全く異なる立場をとる研究もある。戴昭銘(2004)がそれで、古代中国語で「つかむ、とる」という意味の動詞“把”が、「促化(glottalization)」を経て入声音となり(音節が短促となり、音節末尾に?を伴うようになったという意味だと考えられる)、一方では文法化を経て受動表現の介詞となったと考えている。戴昭銘(2004)の説では、動詞“把”が同じく実質語である授与動詞へと変化した際に「促化」を生じたと仮定しなければならぬことになるが、本論文はその根拠は必ずしも十分なものではないと考える。

4. 2. 1 共時的状況

4. 2. 1. 1 用語の定義

介詞“拨”の共時的機能を分析する際、ここまでの分類よりも詳細な、方言類型論的観点によるヴォイス構文の分類に基づくことが有効だと考えるため、木村(2012)で提案された中国語のヴォイス構文の枠組みを踏まえつつ、分析を行うこととする。木村(2012)は、標準中国語におけるヴォイスを表す構文を五つに分けて整理し、いずれも【主語となる名詞句 X + 介詞 + 介詞に導かれる名詞句 Y + 述語】という形式をとり、述語には「動作行為を表す A (動詞)」と「状態 (結果状態を含む) を表す S (動詞・形容詞)」のいずれか、もしくは両方がたつことを指摘した上で、次のような分類を提示している。(例文は全て標準中国語である。)

- (I) 指示使役文【X 叫 Y A】: 主語にたつ人物 X が人物 Y に、動作・行為 A を遂行させようとしむける事態を述べる構文 (X=我/Y=小红/A=念课文)

我 叫 小红 念 课文。

私 〈使役〉 人名 読む テキスト

「私はシャオホンにテキストを朗読させようとした」

- (II) 許容使役文【X 让 Y A】: 人物 Y が動作・行為 A を遂行することを人物 X が許容する、ないしは放任するという事態を述べる構文 (X=你/Y=我/A=好好儿想想)

(你 别 逼 我!)你 让 我 好好儿 想想。

あなた 〈禁止〉 迫る 私 あなた 〈使役〉 私 よく 考える

「(私をせっつかないで!) 私によ〜く考えさせてちょうだい」

- (III) 誘発使役文【X 使 Y S】: Y に何らかの状態または変化が生じる状況 S を X が誘発するという事態を述べる構文 (X=他的信/Y=我/S=很高兴)

他的 信 使 我 很 高兴。

彼 ~の 手紙 〈使役〉 私 とても 嬉しい

「彼の手紙は私をととてもうれしがらせた。」

- (IV) 受影文【X 被 Y AS】: 主語にたつ対象 X が Y の動作・行為 A の結果、何らかの具体的な影響 S を受けることを述べる構文 (X=我/Y=小红/A=拽/S=倒)

我 被 小红 拽 倒 了。

私 〈受動〉 人名 引く 倒れる (語気)

「私はシャオホンに引き倒された」

- (V) 執行使役文【X 把 Y AS】: X が動作・行為 A をした結果、Y がある状況 S になると

いうことを表す構文 (X=小红/Y=我/A=拽/S=倒)

小红 把我 拽倒 了。

人名 ～を 私 引く 倒す (語気)

「シヤオホンは私を引き倒した」

上述の木村(2012)の体系は、中国語研究内部から提出されたものであり、中国語の方言類型論的研究を進める際にも有用であると考えられる。すなわち、標準中国語以外でも、それぞれの使役文を別のマーカーで表す方言もあり、後述するように臨海方言を記述する際にも、「使役」をこのように分類しておくことが有効だと考えられるのである。ただし、本論文ではこれらが「構文」であることを積極的に示すために、「～文」はすべて「～構文」と表現し、かつ木村氏の用語が必ずしも一般的ではないことを鑑みて、「受影文」は「受動構文」、「執行使役文」は「処置構文」と表現することとする。また、本論文では「指示使役構文」、「許容使役構文」、「誘発使役構文」の三つを統括した「使役構文」という表現も用いることがある。これは「使役構文」の下位にこれら三種の構文を位置づけておくということである。

4. 2. 1. 2 介詞“拨”の用法の整理

“拨”は本来「与える」という意味の動詞であった(例えば“我**拨**渠一本书「私は彼に一冊の本を与えた」”)。動詞“拨”が文法化したと考えられる介詞“拨”は、4. 2. 1. 1で言及したようなヴォイス体系を構成する構文(後述④～⑥)で用いられるほか、ヴォイスに関わらない文や構文(後述①～③)においても用いられる。これらの用法の分析を行う際、説明の便宜のため、“N1(=主語名詞)+拨+N2(=介詞目的語)+Vp”という統語形式を基本的な枠組みとして、「N1」「N2」「Vp」といった表現を用いることにする。

①能動文の授与目標マーカー

まず、“拨”が、能動文においてN1がVpの表す動作・行為を通して授与を行う対象であるN2をマークする用法がある。例えば、(4-43)において“拨”は、主語の位置に立つ“我「私」(=N1)”が“送一本书「一冊の本を贈る」(=Vp)”を行う対象である“渠「彼」(=N2)”をマークしている。このようなものを「授与目標マーカー」と呼ぶことにする。

述語動詞は、例(4-43)の“送「贈る」”のように〈授与〉の意味が含意されているのが典型であると考えられる。しかし、例(4-44)の“买「買う」”のように動詞そのものが〈授与〉の意味を含意しない場合であっても、〈作製〉や〈獲得〉などの意味を持つ場合には、動作・行為の結果として得られたものを授与する対象であるN2を“拨”でマークする用法がある。この用法も授与を行う対象であるN2をマークする機能を有するという点では上述の用法と共通するため、授与目標マーカーに含める。

(4-43) 我 [撥] 渠送 □lɜŋ⁰ 一 本 书。

私 ～に 彼 贈る 〈実現〉 1 (量詞) 本

ŋe⁵³pøŋ²⁵ge²¹soŋ⁴⁴lɜŋ⁰ieŋ²⁵pəŋ⁵³çy³¹

「私は彼に一冊の本を贈った。」

(4-44) 小红 [撥] 小王 买 □lɜŋ⁰ 一 件 毛线衫。

〈人名〉 ～に 〈人名〉 買う 〈実現〉 1 (量詞) セーター

çio⁵³fiŋ²¹pøŋ²⁵çio⁵³fiŋ²¹ma⁵³lɜŋ⁰ieŋ²⁵ji²¹mo²¹çir⁴⁴se⁵³

「シャオホンは王さんにセーターを1枚買った。」

②使役性授与構文の授与目標マーカ―

“撥”が、N1による具体物の提供や提示を受けて動作・行為(Vp)を行うN2をマークする用法がある。例えば、(4-45)において、“撥”は“小红「シャオホン」(=N1)”からの“照片「写真」”の提供を受けて“望照片「写真を見る」(=Vp)”を行う“小王「王くん」(=N2)”をマークしている。この構文は、何かがN1からN2へと供される点では前述した一般の授与構文と共通し、文の成立に具体物の提供や提示が必要である点で、本質的には授与構文の一種であると考えられる。例えば、例(4-46)は実物の富士山を見せようとする文としては成立しない。その一方、Vpの表す動作・行為を行うのが主語名詞であるN1ではなく“撥”に導かれるN2である点で、使役構文としての性格も備えるものとも言える。以上から、本論文では、この構文を、仮に「使役性授与構文」と呼ぶことにする。“撥”はこの構文においてN1が授与を行う対象を導く、授与目標マーカ―を担っていることになる。

(4-45) 小红 [撥] 小王 望 照片。

シャオホン ～に 王くん 見る 写真

çio⁵³fiŋ²¹pøŋ²⁵çio⁵³fiŋ²¹mɔ⁴⁴çio⁴⁴p^hi⁴⁴

「シャオホンは王さんに写真を見せてやった。」

(4-46) *小红 [撥] 小王 望 富士山。

シャオホン ～に 王くん 見る 富士山

çio⁵³fiŋ²¹pøŋ²⁵çio⁵³fiŋ²¹mɔ⁴⁴çio⁴⁴p^hi⁴⁴fu⁴⁴z¹se³¹

「シャオホンは王さんに富士山を見せてやった。」

③能動文の受益者マーカ―

例(4-47)において“撥”は、“小红「シャオホン」(=N1)”の行う“梳头「髪を梳かす」(=Vp)”により恩恵や利益に与る対象である“小王「王くん」(=N2)”をマークしている。このような“撥”を「受益者マーカ―」と呼ぶ。但し、Vpには意味的な制限があり、〈奉仕〉〈服務〉〈労役〉の意味を読み込むことの容易な動詞のみが用いられる。

(4-47) 小红 **拨** 小王 梳 头。

シャオホン ～に 王くん 梳かす 頭

ciɔ⁵³fiŋ²¹pøŋ⁵³ciɔ⁵³fiɔ²¹sɿ³¹dœ²¹

「シャオホンは王くん髪を梳かしてやった。」

④許容使役構文の被使役者マーカー

使役構文のうち、N2 が動作・行為 (Vp) を遂行することを N1 が許容する、ないしは放任するという事態を述べるのが、許容使役構文である。“拨”は、許容使役構文の被使役者 (N2) のマーカーとして用いることができる。例(4-48)では、“我「私」 (=N1)”が“小王「王くん」 (=N2)”が“先搭屋里去「先に帰宅する」 (=Vp)”を行うことを許容している。

(4-48) 我 **拨** 小王 先 搭 屋 里 去。

私 ～に 王くん 先に ～へ 家 ～の中 行く

ŋe⁵³pøŋ⁵³ciɔ⁵³fiɔ²¹ciɿ³¹tsɿ⁵³oŋ⁵³li⁵³k^he⁴⁴

「私は王くん先に帰宅させましょう。」

⑤誘発使役構文の被使役者マーカー

使役構文のうち、N2 に何らかの状態または変化 (Vp) が生じる状況を N1 が誘発するという事態を述べるのが、誘発使役構文である。“拨”は誘発使役文の被使役者 (N2) のマーカーとして用いることが出来る。例(4-49)では、“渠「彼」 (=N1)” (或いは彼が遅れているということ) が“人「人」 (=N2)”を“急死「気をもむ」 (=Vp)”という状態にさせている。

但し、誘発使役構文に“拨”を用いることを疑問視するインフォーマントもいる。このことは、誘発使役構文の被使役者マーカーとしての用法が“拨”の機能として確立していないと解釈することもできるが、実際は誘発使役構文が臨海方言で用いられること自体が少ないようである。

(4-49) 渠 □tseŋ⁵³□səŋ⁴⁴ 还 弗 来, 老实 **拨** 人 急死。

彼 なぜ まだ〈否定〉来る 本当に ～に 人 気をもむ

ge²¹tseŋ⁵³səŋ⁴⁴fiue²¹føŋ⁵³le²¹, lo⁵³zieŋ²³pøŋ⁵³niəŋ²¹cieŋ⁵³sɿ⁵³

「彼はなぜまだ来ないのだろう、本当に気をもませる。」

⑥処置構文の処置対象マーカー

N1 が動作・行為をした結果、N2 が何らかの結果状態になるという事態を表すのが処置構文である。“拨”は、処置構文の処置対象である N2 をマークすることができる。例(4-50)では“小红「シャオホン」 (=N1)”の行う“赶「追う」”という行為により“狗「犬」 (=N2)”が“去「去る」”という状況になっている。

(4-50) 小红 𠵼 狗 赶 去 爻⁰fiɔ⁰。

シャオホン ～を 犬 追う 去る (出来事の発生)

ciɔ⁵³fiɔŋ²¹pəʔ⁵¹kœ⁵³kø⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

「シャオホンは犬を追い払った。」

4. 2. 2 介詞“𠵼”の通時的な機能拡張プロセスの推定

以上のような臨海方言における共時的状況は、如何なる通時的プロセスによって生成されたものであろうか。以下では、その可能性の一つを推定してみたい。その際、手掛かりとするのは以下の二点である。

第一の手がかりは、“𠵼”が臨海方言のみならず呉方言に属する多くの方言において、「与える」という意味を表す二重目的語をとり得る授与動詞として用いられることである。前述したように、呉方言地域では介詞としての“𠵼”が多く用いられ、方言により様々な機能を備えているが、それらはいずれも直接的或いは間接的に授与動詞の“𠵼”が文法化(grammaticalization)⁵⁶を経て生成されたものであると推定される。

第二の手がかりは、文法化に基づいた機能拡張に関する一般的な原則である。具体的には、機能的に「遠い」用法へと拡張したと仮定するよりも、機能的に「近い」用法へと拡張したと仮定する方を優先すること、或いは意味の漂白化(bleaching)の進展の低い、抽象度の低い用法から、それが高い用法へとという方向で機能拡張が生じる傾向があるのを踏まえること、といったことである。

以上の二点は、いずれも“𠵼”の機能拡張の方向性を判断する決定的な根拠とはできないが、暫定的な推定を行う際の手がかりとはできると考える。以上のような手がかりに基づいた“𠵼”の通時的な機能拡張プロセスについての推定を、【表 4-2】に示しておく。ただし、“𠵼”を用いる誘発使役文については、その存在自体を疑問視するインフォーマントも複数いるため、以下の通時的機能拡張プロセスの推定には含めないでおく。各用法における具体的な機能拡張のプロセスは、以下で説明することとする。

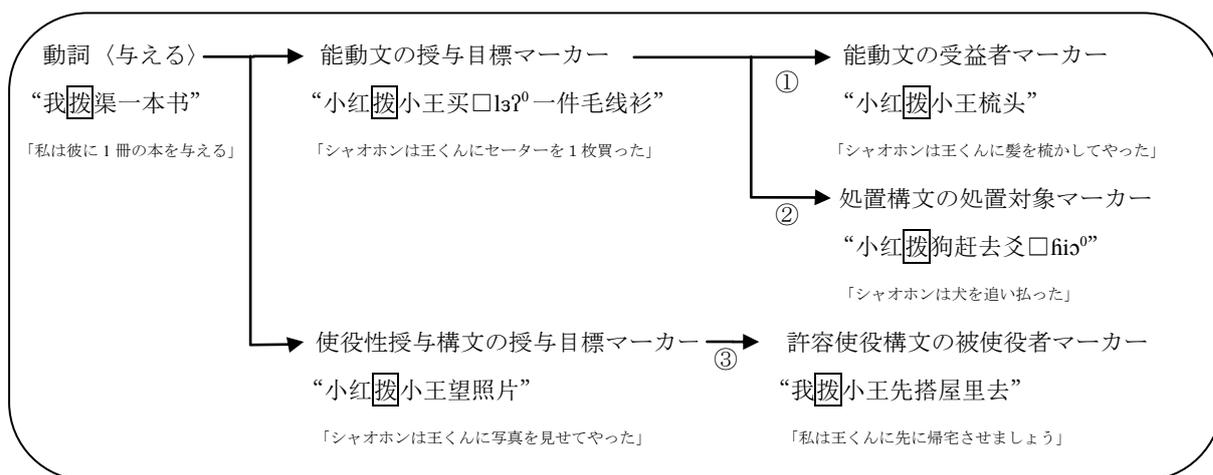
なお、“𠵼”の処置対象マーカ―としての用法の成立プロセスについては、卢笑予(2013:74)も言及している。卢氏は、臨海方言の“𠵼”は、「つかむ、とる」という意味の動詞“把”が語源であるとし、“把”が音声変化を伴った意味拡張を経て授与動詞となった後に、受益者マーカ―(卢氏の用語では“受益者标示”)へと文法化し、受益者マーカ―から処置文の処置対象マーカ―(卢氏の用語では“処置式标示”)に機能拡張したと考えている⁵⁷。しか

⁵⁶ 文法化は、論者によってその意味する内容・範囲が異なるが、ここでは Hopper and Traugott(1993)で展開された議論を踏まえ、暫定的に「何らかの言語単位(典型的には実質語)が、文法的意味を表す文法形式へと変化していく現象」と定義しておく。文法化は何らかの条件の下で、意味面では語彙的意味の漂白化(bleaching)、と文法的意味の獲得が、統語分布の面では自由度の低下が生じ、しばしば音声面での弱化もみられる。現代中国語の機能語の多くは、実質語が文法化することにより生成されたものと推定される。中国語における文法化を体系的に論じたものに Chappell and Peyraube (2011)・石毓智(2011)などがある。

⁵⁷ 卢氏が“𠵼”の語源を“把”とする根拠は戴昭铭(2004)の説である。戴昭铭(2004)については注 55 参照。なお、本論文はこの説を支持しない。

しながら、卢氏が主張した文法化および意味拡張のプロセスには、「つかむ、とる」という意味の動詞と授与動詞とには相当な意味的な距離があること、さらにそれを引き起こした要因が特定し難いことなどの問題があり、俄には受け入れがたい⁵⁸。

【表 4-2：“拨”の通時的機能拡張プロセスについての推定】



上表に示した各段階における機能拡張のメカニズムは次のようであったと推定しておく。

① [能動文の授与目標マーカ― → 能動文の受益者マーカ―]

これは「N1の動作・行為によって生じた成果物(事物)を受け取る N2 をマークする機能」から「N1の動作・行為によって生じた抽象的な恩恵や利益を受け取る N2 をマークする機能」への拡張である。

授与目標マーカ―のうち、「N1の行った〈作製〉や〈獲得〉の意味を持つ動作・行為 Vp によって得られた成果を受け取る N2 をマークする」もの(例(4-42)“小红拨小王买□l3?0一件毛线衫「シャオホンは王さんにセーターを1枚買った。」”)が、「N1の行った〈奉仕〉・〈服務〉・〈労役〉と解釈できる動作・行為 Vp による恩恵や利益を受け取る N2 をマークする」受益者マーカ―(例(4-45)“小红拨小王梳头「シャオホンは王さんに髪を梳かしてやった。」”)へと機能拡張していったと推定する。

② [能動文の授与目標マーカ― → 処置構文の処置対象マーカ―]

これは「N1の動作・行為によって生じた成果物(事物)を受け取る N2 をマークする機能」から「N1の動作・行為によって生じた抽象的な結果状態を受け取る N2 をマークする

⁵⁸ また、卢氏は授与目標マーカ―(卢氏の用語では“接受者标记”)について、動詞に後置される用法(“我送□l3?0一本书拨渠。”)が優勢であること主張し、処置対象マーカ―との直接的な関連づけは行っていない。しかし、本論文の調査では、授与目標マーカ―が動詞に前置される形式(“我拨渠送□l3?0一本书。”)も自然な表現として成立するのであり、授与動詞から授与目標マーカ―へと文法化し、授与目標マーカ―から処置対象マーカ―へと機能拡張したと推定する本論文の推定も、語順の面でその成立を妨げられることは無いと考える。

機能」へという拡張である。

この機能拡張に関しては、4. 2. 2冒頭で言及した二点の他に、一定の条件の下では、“撥”処置構文の述語動詞として可能補語が生起し得るという例(4-38)、(4-39)、(4-40)に見られる共時的現象を、通時的プロセスを推定するための手がかりに加えたい⁵⁹。すなわち、前述したように標準中国語の“把”処置構文は、その述語動詞として可能補語が生起することを許容しないが、これは杉村(1982)が指摘するように、標準語の可能補語が「非完了性」という意味特徴を備えるために、“把”処置構文が要求する強い結果性と整合し難いからことによるのであろう。

一方、臨海方言の“撥”処置構文は、通時的には、授与の意味を備える文（“撥”が授与目標マーカ―を担う能動文）に由来するために、標準中国語の“把”処置構文ほど述語動詞句に対して強い結果性を要求しないのだと推定される。とりわけ文全体が感歎や反語の語気を表す場合は、現実性の高い具体的な動作行為を表すわけではないため、“撥”処置構文の述語動詞に対する結果性の要求度が一段と低くなり、結果として可能補語の生起が許容されるのだと考えたい。そして、以上の推定が正しければ、“撥”処置構文は、授与の意味を備える“撥”が授与目標マーカ―を担う能動文から拡張したことになる。またその場合、介詞“撥”が授与目標マーカ―から処置構文の処置対象マーカ―へと機能拡張することと平行して、授与される対象が「動作・行為によって生じた作成物や成果物」から「動作・行為によって生じた結果状態」へと拡張したことになる。

③ [授与目標マーカ― (使役性授与構文) → 許容使役文の被使役者マーカ―]

これは「N1 の与える具体物を受け取って動作・行為を行う N2 をマークする機能」から「N1 の与える抽象的な許可や権利を受け取って動作・行為を行う N2 をマークする機能」へという拡張である。

すなわち、使役性授与構文の授与目標マーカ―の N1 が具体物を提供したり提示したりすることによって N2 に動作・行為をさせるような用法（例(4-45)“小红 拨 小王 望 照片。「シャオホンは王くんに写真を見せてやった。」）から、N1 が与えるものが抽象化して許可や権利となり、許容使役文の被使役者マーカ―となった（例(4-48)“我 拨 小王 先 搭 屋里 去。「私は王くんに先に帰宅させましょう。」）と考えられる。

⁵⁹ 本文で述べた手がかり以外に、否定詞が介詞“拨”の前ではなく、述語動詞の直前に位置することも許容されるという例(4-36)“渠 无 有 拨 我 书 拍 碎。「彼は私の本を破っていないよ。」や(4-37)“渠 拨 我 书 无 有 拍 碎、渠 拨 我 簿 拍 碎 交 我 簿。「彼は私の本を破ったのではなく、私のノートを破ったのだ。」で述べた現象も、本論文の推定に有利な材料であるのかもしれない。標準中国語では、否定詞が“把”処置構文に生起する場合、原則として述語動詞の直前ではなく介詞“把”の前に置かれるが、これは、“把”処置構文が歴史的には「取る」という意味の動詞“把”を V1 に用いた連動構造に由来するためである。なお、中国語における連動構造とは、“N1+V1+N2+V2(+N3)”のように、二つの動詞句(V+O)が動詞行為が発生する順に従って継起的に配列された構造である。二つの動詞句の表す動作行為を否定する場合、V1 の前に否定詞が置かれる。この構造における V1 が文法化により介詞となり、元々連動構造の前項動詞句であった部分が、後項動詞を連用修飾する介詞句へと変化した後も、否定詞は介詞句の前に置かれるのが原則である。

これに対して、臨海方言の“拨”処置構文では、否定詞が述語動詞の直前に置かれることが許容されるが、これは標準語の“把”処置構文とは異なり、授与構文に由来し、連動構造に由来しないことによるのかもしれない。

以上、介詞“撥”の機能拡張のプロセスを推定することを試みた。むろん上記の通時的プロセスは、ひとまず方言間接触の影響などを考慮に入れずに、臨海方言内部に限られた言語現象を手掛かりとして提出された仮説にすぎず、以後の研究の進展による修正を前提としている。今後、近隣の方言における介詞“撥”についても同様の検討を集積していき、本論文のモデルに修正を加えていくことによって、当該のモデルの妥当性を高めていくことが必須であろう。それは今後の課題としておきたい。

第五章 臨海方言のアスペクト体系

第五章では臨海方言のアスペクト体系について論じる。臨海方言のアスペクト範疇がどのように構造化・体系化されているかを明らかにするために、筆者の調査データに基づき臨海方言に見られるアスペクトに関する様々な表現形式を整理する。また、実現相を表すと考えられる二つのアスペクト助詞“□lɿʔ”と“爻”の具体的な意味機能について、両者の対比や、述語動詞のアスペクト的特徴による分析を試みる。

5. 1 概略

ここでは、これまでの調査で得られた臨海方言のアスペクト表現形式の体系について、標準中国語と対照しながら紹介する。「アスペクト」という概念については、Comrie (1976:1-6)(0.1. Definition of aspect)の議論を参考に、暫定的に「動詞句或いは文全体の表す事態の内的な時間構成」という概念として定義し、臨海方言の中でアスペクトと深く関連する表現形式をまとめて「臨海方言のアスペクト表現体系」として紹介していく。

臨海方言においてアスペクトは、標準中国語と同様に様々な統語形式をとって表現される。【表 5-1】はこれまでの調査で得られた臨海方言のアスペクト表現形式のおおよその機能を標準中国語のアスペクト表現形式と対照する形で整理したものである。

ここから、臨海方言のアスペクト表現形式は、標準中国語と同じ形式（同源の形態素の組み合わせ）を用いるものもあるが、全く異なる形式を用いるものが少なくないことが確認される。

また、統語的な分布についても、動詞に前置されるもの（開始・進行）、動詞に後置されるもの（起動・持続・継続・実現・経験・終結）、文末に置かれるもの（出来事の発生）、二つの要素が動詞句の前と後ろにそれぞれ置かれるもの（将然）があり、標準中国語と同様に、特定の統語的な位置がアスペクトの表現を担っているわけではないことも確認することができる。

【表 5-1】

機能	臨海方言	標準中国語
将然「もうすぐ～しそうだ」	“快/快要/要”+動詞句+“□fiɔ ⁰ ”	“快/快要/要”+動詞句+“了 ₂ ” ⁶⁰
開始「～しつある」	“□k ^h œ ²⁴ 想”+動詞	【※対応する表現なし】
起動「～し始める」	動詞+“起来”	動詞+“起来”
持続「～している」	動詞+“□kɔ ⁰ □tɔ ⁰ ”	動詞+“着”
進行「～しているところだ」	“在(□kɔ ⁰)”+動詞	“在”+動詞
継続「～し続ける」	動詞+“落去”	動詞+“下去”
実現「～した」	動詞+“□lɔ ⁰ ” 動詞+“爻”	動詞+“了 ₁ ”
経験「～したことがある」	動詞+“过”	動詞+“过”
終結「～し終わる」	動詞+“完”	動詞+“完”
出来事の発生「～した」	文+“爻□fiɔ ⁰ /□fiɔ ⁰ ”	文+“了 ₂ ”

これらの臨海方言におけるアスペクト表現形式の意味機能について、より具体的に記述するためには、共起する動詞の語彙的アスペクトを考慮する必要がある。そこで、動詞の語彙的アスペクトの性質に注目しつつ、動詞(句)との共起の可否を調査した。以下の【表 5-2a】と【表 5-2b】は、その結果を示したものである。表の「+」は共起可能であることを表し、「-」は共起不可であることを表す。「*」は共起可能ではあるが、慣用的な表現があるのみであることを表す。

以下では、臨海方言のアスペクト表現形式を意味的観点から①将然・開始・起動、②持続・進行・継続、③実現・経験・終結・出来事の発生に大きく分類した上で、それぞれの機能をより具体的に記述していく。

⁶⁰ 標準中国語の“了”については注 44 参照。

【表 5-2a】

動詞	状態動詞					心理動詞		思考動詞	
	是 である	在 いる・ ある	像 似てい る	有 ある	晓得 わかっ ている	相信 信じる	爱 愛する	忖 考える	烦恼 悩む
“快/快要/要” ~ “□fiɔ ⁰ ” 「もうすぐ~しそうだ」	-	-	-	+	+	+	-	-	-
“□k ^h œ ²⁴ 想” + 動詞 「~しつつある」	-	-	-	-	-	+	-	-	-
動詞+ “起来” 「~し始める」	-	-	+	* 61	-	+	-	+	+
動詞+ “□kɜ ⁰ □tɜ ⁰ ” 「~している」	-	-	-	+	-	-	-	-	-
“在 (□kɜ ⁰) ” + 動詞 「~しているところだ」	-	-	-	-	-	-	-	+	+
動詞+ “落去” 「~し続ける」	-	+	-	-	-	+	-	+	+
動詞+ “□lɜ ⁰ ” 「~した」	-	+	-	-	-	-	-	+	+
動詞+ “爻” 「~した」	-	+	-	-	+	-	-	+	+
動詞+ “过” 「~したことがある」	-	+	+	+	-	+	+	+	+
動詞+ “完” 「~し終わる」	-	+	+	-	+	-	-	+	+
~ “爻□fiɔ ⁰ /□fiɔ ⁰ ” 「~した」	+	+	+	+	+	+	+	+	+

⁶¹ 渠 □te^hiã³²□ci³³ 有 起来。

彼 今 金を持っている ~し始める

ge²²te^hiã³²ci³³iəu⁵³ch⁰le⁰。

「彼は今裕福になり始めた。」

上の文は問題無く成立するが、文中の“有”はここでの考察対象である「所有する」という意味ではなく、「金を持っている」という慣用的な意味で解釈される。

【表 5-2b】

動詞（句）	行為動詞		二段階動詞		変化動詞		動詞＋ 結果補語	動詞＋ 数量補語
	/吃/類 食べる	/拍/類 叩く	坐 座る	开 開ける	去 行く	死 死ぬ	寻着 探し当てる	唱一只歌 一曲歌う
“快/快要/要”～“□fio ⁰ ” 「もうすぐ～しそうだ」	+	+	+	+	+	+	+	+
“□k ^h œ ²⁴ 想”＋動詞 「～しつつある」	+	+	+	+	+	+	－	+
動詞＋“起来” 「～し始める」	+	+	+	+	－	－	－	+
動詞＋“□k ³ ?□t ³ ? ⁰ ” 「～している」	－	－	－	+	－	－	－	－
“在（□k ³ ?）”＋動詞 「～しているところだ」	+	+	+	+	－	－	－	+
動詞＋“落去” 「～し続ける」	+	+	+	+	－	－	－	－
動詞＋“□l ³ ? ⁰ ” 「～した」	+	+	+	+	+	－	+	+
動詞＋“爻” 「～した」	+	+	+	+	+	+	+	+
動詞＋“过” 「～したことがある」	+	+	+	+	+	+	+	+
動詞＋“完” 「～し終わる」	+	+	+	+	+	+	+	+
～“爻□fio ⁰ /□fio ⁰ ” 「～した」	+	+	+	+	+	+	+	+

【説明】

ここで挙げた動詞（句）の分類は太田 1947/1995 の標準中国語動詞研究、影山等 2001 の日英語動詞研究などを参考にし、語彙の意味の観点から独自に行ったものである。臨海方言の各動詞（句）がどの分類に属するかは、意味内容を踏まえた上で、臨海方言のアスペクト表現との共起の可否により判断した。今、動詞（句）の表す事態の内的な展開の局面を〔動作行為／変化→（結果）状態〕という枠組みで整理すると、それぞれの動詞（句）の含意する局面は、以下のように記述することができる。

- ・状態動詞は、凡そ静的な状態のみを表す動詞である。内的展開の局面のうち、状態のみが含意される。〔状態〕
- ・心理動詞は、凡そ心理的な状態や感情を表す動詞である。可視的な動作行為は無いが、ある種の心理的

な動作行為を表す。但し、動作行為の動態性は低い（〔動作行為〈一動態性〉〕）

・思考動詞は、可視的な動作行為は無いが、頭の中での何らかの動作行為を表す。但し、動作行為の動態性は低い。（〔動作行為〈一動態性〉〕）

・行為動詞のうち、/吃/類は“走「歩く」、”“唱「歌う」、”“望「見る」”などの一定時間続けることの可能な動作行為を表す典型的な行為動詞である。/拍/類は“跳「跳ぶ」、”“踢「蹴る」”などのもともとは持続性を持たないが繰り返しによって一定時間続けることが可能な動作行為を表す動詞である。（〔動作行為〕）

・二段階動詞は、動詞の意味内容に動態的な動作行為とその後の結果状態の両方が含意されているものである。動態的な動作行為のみを表す場合と、動態的な動作行為とその後の結果状態とを表す場合とがある。（〔動作行為〕 或いは〔動作行為→結果状態〕）

・変化動詞は、凡そある状態から別の状態への変化を表す動詞である。（〔変化→結果状態〕）

・結果補語を含む動詞句は、動作行為／変化とその後の結果状態を表す。結果補語により動作行為／変化の終結点が明示されていることとなり、この構造における動作行為／変化には、強制的に〈一持続可能性〉という意味特徴が付与されると考えられる。（〔動作行為／変化〈一持続可能性〉→結果状態〕）

・数量補語を含む動詞句は、数量補語により動作行為の終結点が明示されている。（〔動作行為〈+終結点〉〕）

5. 2 アスペクト形式の機能と分布

5. 2. 1 将然・開始・起動

本論文で言う将然・開始・起動とは、凡そ動詞（句）或いは文全体の表す事態の始まりと関連するアスペクトを指す。臨海方言では“快/快要/要”～“□fiɔ⁰”、“□k^hœ²⁴ 想”+動詞、“動詞+“起来””がこのようなアスペクト機能を担う形式である。いずれの形式も以上のような意味的な制約から開始点が想定されない状態動詞とは共起しにくい。

5. 2. 1. 1 【将然】“快/快要/要”+動詞句+“□fiɔ⁰”。「もうすぐ～しそうだ」

「文の表す事態が開始点を超えようとしているところであることを表す」のが、“快/快要/要”～“□fiɔ⁰”の機能である。

当該の事態が話者にとって蓋然性が低いものであると成立しにくい傾向があり、外部から判断しにくい事態を表す心理動詞（“爱「愛する」”など）、思考動詞（“忖「考える」”、“烦恼「悩む」”など）とは共起しにくい。

副詞“快「もうすぐ」”と助動詞“要「～しようとしている」”との連用が固定化され、さらにこれが文末の語気助詞“□fiɔ⁰”と呼応して用いられるようになったものと考えられる。

(5-1) {快/快要/要} 落 雨 □fiɔ⁰。

もうすぐ 降る 雨（語気）

{k^hua⁴⁴/k^hua³³iɔ⁴⁴/iɔ⁴⁴}lɔ³y⁵³fiɔ⁰。

「もうすぐ雨が降りそうだ。」

(5-2) 田中 {快/快要/要} 倚 起来 (爻) □k^hɿo⁰。

(人名) もうすぐ 立つ 上がる (語気)

di³⁵tɕeyŋ⁴³{k^hua⁴⁴/k^hua³³iɔ⁴⁴/iɔ⁴⁴}ji²²c^hi⁰le⁰(fiɔ⁰)fiɔ⁰。

「田中さんはもうすぐ立ち上がる。」

(5-3) 我 {快/快要/*要} 相信 渠 □k^hɿo⁰。⁶²

私 もうすぐ 信じる 彼 (語気)

ŋe⁵³{k^hua⁴⁴/k^hua³³iɔ⁴⁴/*iɔ⁴⁴}ciã⁴⁴ciəŋ⁴⁴ge²²fiɔ⁰。

「私は彼を信じそうになっている。」

5. 2. 1. 2 【開始】“□k^hœ²⁴想” + 動詞「~しつつある」

「動詞（句）の表す、動作主の意志でコントロール可能な事態が開始点を超えようとしていることを表す」のが、「□k^hœ²⁴想” + 動詞」の機能である。

変化動詞や数量補語・結果補語を含む動詞句のような終了点が含意あるいは明示されている動詞（句）と共起する場合も、終了点ではなく開始点の一步手前にあることを表す（例(5-6)(5-7)）。二段階動詞と共起する場合は、結果状態に移る前の段階にあることを表す（例(5-8)(5-9)）。

“□k^hœ⁴⁴”は単独で標準中国語の“正 zhèng「今まさに」”と同様の副詞として用いることができるが、ここで挙げる用法では“□k^hœ⁴⁴”を省略することはできない。この形式はおそらく“□k^hœ⁴⁴「今まさに」”と“想「~したい」”の連用が文法化を経て、意味の漂白化(bleaching)が進み、心理的な希求という概念が、事態の開始点を超えようとしていることを表すというアスペクト的概念へと転じたものであろう。しかし、元来の語彙的意味の影響もみとめられ、動作主の意志でコントロールできないものとは共起しない（例(5-10)）。

(5-4) 我 □k^hœ²⁴想 相信 渠 讲 □ke⁰ 话。

私 ~しつつある 信じる 彼 話す(助詞) 話

ŋe⁵³k^hœ²⁴ciã³²ciã⁴⁴ciəŋ⁴⁴ge²²kɔ̃⁵³ke⁰fua¹¹³。

「私は彼の話の信じている。」

(5-5) 渠 □k^hœ²⁴想 吃 酒。

彼 ~つつある 飲む 酒

ge²²k^hœ²⁴ciã³²tɕ^hyoŋ³tɕiəu⁵³。

「彼はお酒を飲みつつある。」

⁶² “要”でも文は成立するが、その場合“要”は助動詞として解釈され、「私は彼を信じなければならなかった」という意味になる。(3. 2. 5. 4参照)

(5-6) 渠 □k^hœ²⁴ 想 死。 (※変化動詞)

彼 ~しつある 死ぬ

ge²² k^hœ²⁴ ɕiã³² sɿ⁵³。

「彼は死のうとしている。」(※例えば、彼が屋上に立っているのを見て)

(5-7) 渠 □k^hœ²⁴ 想 起 一 座 屋。 (※数量補語)

彼 ~しつある 建てる 1 (量詞) 家

ge²² k^hœ²⁴ ɕiã³² c^hi⁵³ ieɿ²¹ zo²⁴ oɿ⁵。

「彼は一軒の家を建てようとしている。」

(5-8) 渠 □k^hœ²⁴ 想 开 箱。 (※二段階動詞)

彼 ~しつある 開ける 箱

ge²² k^hœ²⁴ ɕiã³² k^he³⁵ ɕiã⁴³。

「彼は箱を開けつつある。」(※箱に手を掛けて開けかけている)

(5-9) 田中 □k^hœ²⁴ 想 倚。 (※二段階動詞)

〈人名〉 ~しつある 立つ

di³⁵ tɕyoŋ⁴³ k^hœ²⁴ ɕiã³² ʒi²²。

「田中さんは立ち上がりつつある。」(※腰を浮かしている)

(5-10) *中国 人口 □k^hœ²⁴ 想 減少。

中国 人口 ~しつある 減少

tɕyoŋ³³ koɿ⁵ ɲiãŋ³³ k^hœ⁴² k^hœ²⁴ ɕiã³² kɛ³³ ɕiɔ⁴³。

「中国の人口は減少しつつある。」

5. 2. 1. 3 【起動】動詞+“起来”「~し始める」

「動詞(句)の表す動態的な事態が開始点を越えたことを表す」のが、「動詞+“起来”」の機能である。上がることを表す方向補語“起来”に由来すると考えられる(方向補語については、第三章 1. 3. 2 参照)。

“起来”は状態(結果状態を含む)の開始を表すことはできない。また、一定程度の動作行為の持続時間が含意されていない変化動詞や、結果補語を含む動詞句と共起することができない(例(5-13)(5-14))。

(5-11) 渠搭人 唱 起来 爻□fiɔ⁰。

彼ら 歌う 始める (語気)

ge³³ tɕɿ³³ ɲiãŋ³⁴³ ts^hɔŋ⁴⁴ c^hi⁰ le⁰ fiɔ⁰ fiɔ⁰。

「彼らは歌い出した。」

(5-12) 渠搭人 起 起来 一座屋。

彼ら 建てる 始める 1 (量詞) 家

ge³³tɕʰɿ³³niəŋ³⁴³ch^hi⁵³ch^hi⁰le⁰ieŋ²¹zo²⁴oŋ⁵。

「彼らは一軒の家を建て始めた。」

(5-13) *渠 死 起来 爻□fiɔ⁰。 (※変化動詞)

彼 死ぬ 始める (語気)

ge²²sɿ⁵³ch^hi⁰le⁰fiɔ⁰fiɔ⁰。

「?彼は死に始めた。」

(5-14) *渠 拨 锁匙 寻 着 起来 爻□fiɔ⁰。 (※結果補語)

彼 ~を 鍵 探す 当てる 始める (語気)

ge²²pøŋ³so⁵³zɿ²²ziəŋ³³dzieŋ⁰ch^hi⁰le⁰fiɔ⁰fiɔ⁰。

「*彼は鍵を探し当て始めた。」

5. 2. 2 持続・進行・継続

本論文で言う持続・進行・継続は、凡そ動詞(句)の表す事態が続いている、或いはこの先も続いていくことを表すアスペクトを指す。臨海方言では「動詞+“□kɕʰɿ⁰□tɕʰɿ⁰”」、「“(□kɕʰɿ⁰)”+動詞」、「動詞+“落去”」がこのようなアスペクト機能を担う形式である。

5. 2. 2. 1 【持続】動詞+“□kɕʰɿ⁰□tɕʰɿ⁰”「～している」

「動詞(句)の表す静態的な事態が続いていることを表す」のが、「動詞+“□kɕʰɿ⁰□tɕʰɿ⁰”」の機能である。“□kɕʰɿ²□tɕʰɿ⁴(ここ)”がどのような通時的变化を経てこのような機能を持つに至ったのかについては今のところ不明である⁶³。

(5-15) 我 书 还 有 □kɕʰɿ⁰□tɕʰɿ⁰。

私 本 还 持 有 (持続)

ŋe⁵³çy³¹fiue²²iəu⁵³kɕʰɿ⁰tɕʰɿ⁰。

「私はまだ(他にも)本を持っているよ。」

(5-16) 蟹 还 活 □kɕʰɿ⁰□tɕʰɿ⁰。

カニ 还 活 (持続)

ha¹¹³fiue²²fiue²³kɕʰɿ⁰tɕʰɿ⁰。

「カニはまだ生きていますよ。」

⁶³ 場所を表す形態素が動詞に後置されて持続の意味を表す現象は他の呉方言にも見られる。例えば標準中国語の“门开着 Ménkāizhe「ドアが開いている」”に対応する文において、紹興(“门开亨”)、黄岩(“门开□qa 帝”)などでも、場所を表すと考えられる形態素が動詞に後置されている(钱乃荣(1992:1026)参照)。

(5-17) 渠 披 衣裳 着 □k3ʔ⁰□t3ʔ⁰。

彼 ~を 服 着る (持続)

ge²²pøʔ³i³³zɔ³⁴³tɕieʔ⁵k3ʔ⁰t3ʔ⁰。

「彼は服を身につけているよ。」

5. 2. 2. 2 【進行】“在 (□k3ʔ⁰)” + 動詞「～しているところだ」

「動詞 (句) の表す動態的な事態が続いていることを表す」のが、「在 (□k3ʔ⁰)” + 動詞」の機能である。動作行為がここで行われているということを表す「在□k3ʔ²□t3ʔ⁴ (ここで)” + 動詞」が文法化を経て、場所を示す意味を失い、形式も“在□k3ʔ⁰” 或いは“在” となったと考えられる。

二段階動詞と共起した場合、動態的な動作行為が続いていることを表すことになり、動作が実現した後の結果状態が続いているという解釈にはならない (例(5-21)(5-22))。また、変化動詞とは共起しない (例(5-23))。

(5-18) 渠 一 (个) 星期 都 在(□k3ʔ⁰) 烦。

彼 1 (量詞) 週 すべて (進行) 悩む

ge²²ieʔ²(ke⁴⁴)ɕiəŋ³³ʃi⁴⁴toʔ⁵ze²²(k3ʔ⁰)ve²²。

「彼は一週間ずっと悩み続けている。」

(5-19) 渠 □k^hœ²⁴ 在(□k3ʔ⁰) 吃 饭。

彼 正に (進行) 食べる ご飯

ge²²k^hœ²⁴ze³²(k3ʔ⁰)tɕ^hyoʔ²¹ve²⁴。

「彼はご飯を食べているところだ。」

(5-20) 田中 在(□k3ʔ⁰) 走。

(人名) (進行) 歩く

di³⁵tɕyoŋ⁴³ze²²(k3ʔ⁰)tsœ⁵³。

「田中さんは歩いているところだ。」

(5-21) □fiœ¹¹³ 多 人 □k^hœ²⁴ 在(□k3ʔ⁰) 坐。

とても 多い 人 正に (進行) 座る

fiœ¹¹³to³³ʃniəŋ⁴⁴k^hœ²⁴ze³²(k3ʔ⁰)zo²²。

「多くの人が腰を下ろしているところだ。」⁶⁴

⁶⁴ “坐”が表すのが単数の動作主が行う一回性の動作である場合、“□k^hœ²⁴在”と共起することはできない。同じ二段階動詞である“开”を用いる(5-22)が単数の動作主が行う一回性の動作であっても成立するのは、“坐”が一般的に短い時間で行われる動作行為であるのに対し、“開箱”が時間をかけて行われることも想定できる動作行為だからだと考えられる。

(5-22) 渠 □k^hœ²⁴ 在(□k₃ŋ⁰) 开 箱。

彼 正に <進行> 開ける 箱

ge²²k^hœ²⁴ze³²(k₃ŋ⁰)k^he³⁵çiã⁴³。

「彼は箱を開けているところだ。」

(5-23) *□ke²¹ 只 狗 □k^hœ²⁴ 在(□k₃ŋ⁰) 死。

あの (量詞) 犬 正に <進行> 死ぬ

kε²¹tseŋ³kœ⁵³k^hœ²⁴ze³²(k₃ŋ⁰)sŋ⁵³。

「?あの犬は死んでいるところだ。」

5. 2. 2. 3 【継続】動詞+“落去”「～し続ける」

「動詞(句)の表す事態がこれからも続いていくことを表す」のが、「動詞+“落去”」の機能である。状態動詞とは一般に共起しないが、それは状態動詞自体に継続の意味が含まれているからだと考えられる。また、変化動詞や、結果補語・数量補語を含む動詞句のように終了点が含意或いは明示される動詞(句)とは共起しない(例(5-27)(5-28)(5-29))。

(5-24) 我在 □k₃ŋ²□t₃ŋ⁴ 住 落去。

私 ~に ここ 住む <継続>

ŋe⁵³ze²²k₃ŋ²t₃ŋ⁴dzy¹¹³lɔŋ⁰k^he⁰。

「私はここに住み続ける。」

(5-25) 尔 在 临海 在 落去 □b₃ŋ²³ 是 爻 □fiɔ⁰。

あなた ~に 臨海 いる <継続> (副詞) ~である (語気)

ŋ⁵³ze²²liəŋ³³he⁴²ze²²lɔŋ⁰k^he⁰b₃ŋ²³zŋ²²fiɔ⁰fiɔ⁰。

「あなたは臨海に居続ければいいの。」⁶⁵

(5-26) 我 一直 会 相信 落去 □ke⁰。

私 ずっと <可能性> 信じる <継続> (助詞)

ŋe⁵³ieŋ³dzieŋ⁵fiue¹¹³çiã⁴⁴çiəŋ⁴⁴lɔŋ⁰k^he⁰ke⁰。

「私はずっと信じ続ける。」

(5-27) *渠 去 落去。 (※変化動詞)

彼 去る <継続>

ge²²k^he⁴⁴lɔŋ⁰k^he⁰。

「*彼は去り続ける。」

⁶⁵ “在”は【表 5-2a】では暫定的に状態動詞に分類したが、表中に示したアスペクト表現形式との共起関係からも窺われるように、典型的な状態動詞ではない。臨海方言の“在”は標準中国語の“在”に比べ動態性が強いという意味特徴を有すると考えられる。(例(5-30)も参照。)

(5-28) *渠 起 落去 一 座 屋。 (※数量補語)

彼 建てる 〈継続〉 1 (量詞) 家

ge²²c^hi⁵³lɔ^ɾ0k^he⁰ie^ɾ21zo²⁴o^ɾ5。

「*彼は一軒の家を建て続ける。」

(5-29) *渠 寻 着 落去。 (※結果補語)

彼 探す 当てる 〈継続〉

ge²²ziəŋ³³ɬie^ɾ0lɔ^ɾ0k^he⁰。

「*彼は探し当て続ける。」

5. 2. 3 実現・経験・終結・出来事の発生

本論文で言う実現・経験・終結・出来事の発生とは、凡そ動詞（句）の表す事態、或いは文の表す出来事の実現と関連するアスペクトを指す。臨海方言では「動詞+“□lɔ^ɾ0”」、「動詞+“爻”」、「動詞+“过”」、「動詞+“完”」、「～“爻□fiɔ⁰/□fiɔ⁰”」がこのようなアスペクト機能を担う形式である。

5. 2. 3. 1. 【実現】動詞+“□lɔ^ɾ0”、動詞+“爻”「～した」

実現を表す「動詞+“□lɔ^ɾ0”」、「動詞+“爻”」については、本章の3節で詳しく述べるため、ここでは典型的な用例を挙げておくにとどめる。双方とも、動態的な動作行為が実現済みであることを表す。

(5-30) 渠 在 临海 {在 □lɔ^ɾ0 / 在 爻} 一 年 爻□fiɔ⁰。

彼 ～に 臨海 {いる〈実現〉 / いる〈実現〉} 1 年〈出来事の発生〉

ge²²ze²²liəŋ³³he⁴²{ze²²lɔ^ɾ0/ ze²²fiɔ⁰}ie^ɾ3³³fiɔ⁰fiɔ⁰。

「彼は臨海に一年いる。」

(5-31) 我 在 大学 {学 □lɔ^ɾ0 / 学 爻 / 学} □ke⁰ 物事 全部 都 忘记 爻□fiɔ⁰。

私 ～で 大学 {学ぶ〈実現〉 / 学ぶ〈実現〉 / 学ぶ} (助詞) もの 全て みな 忘れる〈出来事の発生〉

ŋe⁵³ze²²da³³fiɔ^ɾ5{fiɔ^ɾ23lɔ^ɾ0/fiɔ^ɾ23fiɔ⁰/fiɔ^ɾ23}ke⁰mø^ɾ21-z^ɿ24zyø²³bu⁴⁴to^ɾ5mɔ̃³³ci⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰。

「私は大学で学んだことは全て忘れてしまった。」

5. 2. 3. 2. 【経験】動詞+“过”「～したことがある」

「動詞（句）の表す事態を既に経験していることを表す」のが、「動詞+“过”」の機能である。動詞（句）の表す事態が、意味的に繰り返すことができないもの（“死「死ぬ」”など）、或いは動詞（句）の表す事態が実現すると実現前の状態に戻れないもの（“晓得「わかる」”など）など、動詞（句）自体の意味が「経験する」という概念にそぐわない場合（例(5-36)）を除けば、あらゆる動詞（句）と共起可能だと考えられる。

(5-32) 渠 早 时 像 过 渠 爸_儿。

彼 かつて 似る 〈経験〉 彼 父

ge²²tsɔ³²ʒɿ³³ziã²²ku⁰ge³³pã³⁴³。

「彼はかつて彼の父に似ていた。」

(5-33) 渠 有 过 一 座 屋。

彼 持つ 〈経験〉 1 (量詞) 家

ge²²iəu⁵³ku⁰ieŋ²¹zo²⁴oŋ⁵。

「彼は一軒の家を所有したことがある。」

(5-34) 我 □ke³² 支 路 走 过。

私 あの (量詞) 道 歩く 〈経験〉

ŋe⁵³ke³²tsɿ³³lu¹¹³tsœ⁵³ku⁰。

「私はあの道を歩いたことがある。」

(5-35) 渠 去 过 上 海。

彼 行く 〈経験〉 上海

ge²²k^he⁴⁴ku⁰zɔ³³he⁴²。

「彼は上海に行ったことがある。」

(5-36) *渠 晓得 过 □ke³² 件 事 干。

彼 わかる 〈経験〉 この (量詞) 事

ge²²çio⁵³tɕɿ²⁰ku⁰ke³²ʒɿ³³ʒɿ³²kø³³。

「*彼はこの事をわかったことがある。」

5. 2. 3. 3. 【終結】動詞+“完”「~し終わる」

「動詞（句）の表す動態的な事態が終結することを表す」のが、「動詞+“完”」の主な機能である。標準中国語にも同じ形態素を用いた同様の用法がある。

“完”は静態的事態を表す心理動詞とは共起しにくい。また、変化動詞、二段階動詞、結果補語を含む動詞句が一回性の動作行為を表す場合には共起することができず、複数の動作主が同じ一回性の動作を行う場合（例(5-40)）か動作行為の対象が複数である場合（例(5-41)(5-42)）のみ共起することができる。

(5-37) 尔 拨 □ke³³ 碗 饭 吃 完。

あなた ~を この (量詞) ご飯 食べる 〈終結〉

ŋ⁵³pøŋ²³ke³³uo⁴³ve¹¹³tɕ^hyoŋ²⁵fiuø⁰。

「あなたはこの茶碗のご飯を食べきって。」

(5-38) 渠 拍 完 手 爻 □bɜʔ²³ 坐 爻□fiɔ⁰。

彼 たたく〈終結〉手〈実現〉 (副詞) 座る〈出来事の発生〉

ge²²p^heʔ⁵uø⁰ciəu⁵³fiɔ⁰bɜʔ²³zo²²fiɔ⁰fiɔ⁰。

「彼は拍手をし終わるとすぐに座った。」

(5-39) 渠 起 完 一 座 屋, □bɜʔ²¹ □tɜʔ⁴ 上海 去 爻□fiɔ⁰。

彼 建てる〈終結〉 1 (量詞) 家 (副詞) ~へ 上海 行く〈出来事の発生〉

ge²²c^hi⁵³fiuø⁰ieʔ²¹zo²⁴oʔ⁵, bɜʔ²¹tɜʔ⁴zɔ²²he⁴²k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰。

「彼は家を一軒建て終わると、すぐに上海に行ってしまった。」

(5-40) 蟹 都 死 完 爻□fiɔ⁰。 (※複数の動作主)

カニ みな 死ぬ〈終結〉〈出来事の発生〉

ha¹¹³toʔ⁵sɿ⁵³fiuø⁰fiɔ⁰fiɔ⁰。

「カニはみな死んでしまった。」

(5-41) 瓶 盖 头 都 开 完 爻□fiɔ⁰。 (※複数の動作対象)

瓶 蓋 みな 開ける〈終結〉〈出来事の発生〉

biəŋ²²ke³²dœ³³toʔ⁵k^he³¹fiuø⁰fiɔ⁰fiɔ⁰。

「瓶の蓋は全て開け終えた。」

(5-42) 渠 拨 碗 都 打 碎 完 爻□fiɔ⁰。 (※複数の動作対象)

彼 ~を 茶碗 みな ぶつける 砕く〈終結〉〈出来事の発生〉

ge²²pøʔ³uø⁵³toʔ⁵tã⁵³se⁴⁴fiuø⁰fiɔ⁰fiɔ⁰。

「彼は茶碗を全て壊し終えた。」

但し、状態動詞 (例(5-43)、(5-44))・思考動詞 (例(5-45)、(5-46)) とは共起することがある。その場合、「動詞が表す静態的事態が、ある限度内の最高程度まで、或いは最長時間まで実現する (している) こと」を表す。なお、このような用法は標準中国語の「動詞+“完 wán”」には見られない。

(5-43) □ke³³ 爸 儿 □tɜʔ³ 儿 连 笑 都 像 完。 (※状態動詞)

あの 父 ~と 子 ~までも 笑う みな 似ている〈終結〉

ke³³pã³⁴³tɜʔ³ŋ³³li²²ciɔ⁴⁴toʔ⁵ziã²²fiuø⁰。

「あの父子は笑い方までそっくりだ。」

(5-44) 尔 在 完 爻 三 个 月 □bɜʔ²³ 好 去 □fiɔ⁰。 (※状態動詞)

あなた いる〈終結〉〈実現〉 3 (量詞) 月 (副詞) 〈許可〉 去る〈出来事の発生〉

ŋ⁵³ze²²fiuø⁰hɔ⁰se³¹ke⁰nyøʔ²³bɜʔ²³hɔ⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰。

「あなたは三ヶ月滞在し終わったらすぐに帰ってよい。」

(5-45) □ke⁵³ 事干 拨 渠 晓得 完 爻□fio⁰。 (※思考動詞)

この 事 ～に 彼 知る 〈終結〉〈出来事の発生〉

ke⁵³zɿ³²kø³³pøŋ³³ge³³çio⁵³tɿŋ⁰fiuø⁰fiɔ⁰fio⁰。

「彼に全て知られてしまった。」

(5-46) 办法 村 完 爻□fio⁰。 (※思考動詞)

方法 考える 〈終結〉〈出来事の発生〉

bɛ³³fɿŋ³³ts^həŋ⁵³fiuø⁰fiɔ⁰fio⁰。

「方法は考え尽くした。」

5. 2. 3. 4. 【出来事の発生】文+ “爻□fio⁰ / □fio⁰” 「～した」

「爻□fio⁰ / □fio⁰」は文末に用いられ、「文全体の表す事態が発生したことを表す」という機能を持つ⁶⁶。標準中国語の“了²”の機能に類似する(注44参照)。

“爻□fio⁰”と“□fio⁰”の使い分けの条件については、文全体の表す事態が実現済みであれば“爻□fio⁰”が、未実現であれば“□fio⁰”が選択されるといった傾向が見られるが、厳密な生起条件については本論文では保留しておきたい。

(5-47) 渠 □tɕ^hiã³²□ci³³ 是 老师 {爻□fio⁰ / □fio⁰}。

彼 現在 ～である 先生 〈出来事の発生〉

ge²²tɕ^hiã³²ci³³zɿ²²lɔ³²sɿ³³{fiɔ⁰fio⁰/fio⁰}。

「彼は現在先生になっている。」

(5-48) 渠 □tɕ^hiã³²□ci³³ 在 临海 {爻□fio⁰ / □fio⁰}。

彼 現在 いる 臨海 〈出来事の発生〉

ge²²tɕ^hiã³²ci³³ze²²liəŋ³³he⁴²{fiɔ⁰fio⁰/fio⁰}。

「彼は現在臨海にいる。」

(5-49) 我对 渠 已经 蛮 烦恼 爻□fio⁰。

私 ～に 彼 既に とても 悩む 〈出来事の発生〉

ŋɛ⁵³te⁴⁴ge²²i⁵³ciəŋ⁰mɛ⁴⁴vɛ³³no⁴⁴fiɔ⁰fio⁰。

「私は彼について既にひどく悩んでいる。」

(5-50) 我 已经 写 回信 爻□fio⁰。

私 既に 書く 返事 〈出来事の発生〉

ŋɛ⁵³i⁵³ciəŋ⁰çia⁵³fiue¹²çiaŋ⁴⁴fiɔ⁰fio⁰。

「私はすでに返事を書いた。」

⁶⁶ ここで言う「文」は、複文における節も含むものとする。(例(5-52)参照。)

(5-51) 渠坐爻蛮 长久 {爻□fiɔ⁰/□fiɔ⁰}。

彼 座る〈実現〉とても 長い間 〈出来事の発生〉

ge²²zo²²fiɔ⁰me⁴⁴ɬziã³³ciəu⁴²{fiɔ⁰fiɔ⁰/fiɔ⁰}。

「彼が座ってから随分と経った。」

(5-52) 渠 如果 死 {爻□fiɔ⁰/□fiɔ⁰}，我 □eɿ³ 弗 活 爻□fiɔ⁰。

彼 もし 死ぬ 〈出来事の発生〉 私 ~も 〈否定〉 生きる 〈出来事の発生〉

ge²²zy³³ko⁴⁴sɿ⁵³{fiɔ⁰fiɔ⁰/fiɔ⁰},ŋe⁵³eɿ³føɿ²⁵ɦuaɿ²³fiɔ⁰fiɔ⁰。

「彼がもし死んだら、私も死ぬ。」

(5-53) 渠 起 好 爻 一 座 屋 {爻□fiɔ⁰/□fiɔ⁰}。

彼 建てる 終わる〈実現〉 1 (量詞) 家 〈出来事の発生〉

ge²²c^hi³³ɦo⁴³fiɔ⁰ieɿ²¹zo²⁴oɿ²⁵{fiɔ⁰fiɔ⁰/fiɔ⁰}。

「彼は一軒の建物を建て終わった。」

5. 3 実現相を表す“□lɜɿ⁰”と“爻”

ここでは、臨海方言のアスペクト表現形式の中で〈実現〉の意味を担っていると考えられる二つの機能語（“□lɜɿ⁰”、“爻”）について、述語動詞のアスペクト的特徴に注目しつつ両者を対比することで、意味機能の相違を明らかにすることを試みる。両者の機能分担を明確にすることは、漢語方言における実現相のあり方を考える上で重要なことだと考えるからである。

5. 3. 1. 統語的な特徴

両者とも原則として動詞の直後に置かれる（例(5-54)）。補語と共起する場合には、両者とも結果補語の後、数量補語の前に置かれる（例(5-55)(5-56)）。この点では標準中国語の完了を表す助詞“了”（いわゆる“了₁”）と近い（注 44 参照）。

(5-54) 田中 唱 {□lɜɿ⁰/爻} 一 只 歌 爻□fiɔ⁰。

〈人名〉 歌う 〈実現〉 1 (量詞) 歌 〈出来事の発生〉

di³⁵tɕyɔŋ⁴³ts^hɔŋ⁴⁴{lɜɿ⁰/fiɔ⁰}ieɿ²¹tseɿ⁴⁴ko³¹fiɔ⁰fiɔ⁰。

「田中さんは一曲歌った。」

(5-55) 寻 着 {□lɜɿ⁰/爻} □bɜɿ²³ 高兴 □e⁰。

探す 当てる 〈実現〉 (副詞) 嬉しい (語気)

ziəŋ³³ɬziɿ²⁰{lɜɿ⁰/fiɔ⁰}bɜɿ²³ko³³ɕiəŋ⁴⁴e⁰。

「見つかって嬉しいね。」

(5-56) 渠 起 {□lɜʔ⁰/爻} 一座屋 □bɜʔ²³ 吃力 □fiɔ⁰。

彼 建てる 〈実現〉 1 軒家 (副詞) 疲れる 〈出来事の発生〉

ge²²c^hi⁵³{lɜʔ⁰/fiɔ⁰}ieʔ²¹zo²⁴oʔ⁵bɜʔ²³tɕ^hyoʔ³lieʔ³fiɔ⁰。

「彼は家を一軒建てて疲れた。」

5. 3. 2. 意味機能

以下では、“□lɜʔ⁰”および“爻”と共に起する動詞の aspekto 的特徴に注目しながら、臨海方言の“□lɜʔ⁰”と“爻”がそれぞれどのような意味機能を有しているか整理していきたい。なお、両者は、動態性の強い事態を表す動詞と共に起する傾向が強く、状態動詞や心理動詞とは共に起することが少ない。

5. 3. 2. 1. 行為動詞と共に起する場合

「行為動詞+“□lɜʔ⁰”」は、動作行為が実現された後、その動作行為が持続していることを表す。例(5-57)は、「田中さんがご飯を食べる」という動作行為が実現した後、持続していることを表すので、「一時間」は「食べ始めてからこれまでの時間」に相当する。

一方、「行為動詞+“爻”」は、動作行為が実現された後、一般にすでにその動作行為が終結していることを表す。例(5-58)は、「田中さんがご飯を食べる」という動作行為が実現し終結したことを表すので、「一時間」は「食べ終わってからこれまでの時間」に相当する。

(5-57) 田中 飯 吃 □lɜʔ⁰ 有 一 个 钟头 爻□fiɔ⁰。

(人名) ご飯 食べる 〈実現〉〈存在〉 1 (量詞) 時間 〈出来事の発生〉

di³⁵tɕyoŋ⁴³ve¹¹³tɕ^hyoʔ⁵lɜʔ⁰iəu⁵³ieʔ²ke⁴⁴tɕyoŋ³³dæ⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰。

「田中さんがご飯を食べ始めてから一時間経った。」

(5-58) 田中 飯 吃 爻 有 一 个 钟头 爻□fiɔ⁰。

(人名) ご飯 食べる 〈実現〉〈存在〉 1 (量詞) 時間 〈出来事の発生〉

di³⁵tɕyoŋ⁴³ve¹¹³tɕ^hyoʔ⁵fiɔ⁰iəu⁵³ieʔ²ke⁴⁴tɕyoŋ³³dæ⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰。

「田中さんがご飯を食べ終わってから一時間が経った。」

5. 3. 2. 2. 二段階動詞と共に起する場合

「二段階動詞+“□lɜʔ⁰”」は、動態的な動作行為が実現された後、その結果状態が持続していることを表す。例(5-59)は「田中さんが立つ」という動作行為が実現された後、「立っている」という結果状態が持続し、一時間が経過したということを表している。例(5-60)も同様に、「立つ」と「座る」という動作行為が実現した後のそれぞれの結果状態である「立っている」と「座っている」ということについて言及している。

一方、「二段階動詞+“爻”」は、動態的な動作行為が実現した後、一般に動作行為だけでなく結果状態も終結していることを表す。例(5-61)は「座る」という動作行為が実現した

後に、「座っている」という結果状態は少しの間続いたが既に終結しているということを表している。

(5-59) 田中 倚 □lɜŋ⁰ 有 一 个 钟头 爻 □fiɔ⁰。

〈人名〉立つ 〈実現〉 〈存在〉 1 (量詞) 時間 〈出来事の発生〉

di³⁵tɕyɔŋ⁴³ji²²lɜŋ⁰iəu⁵³ieŋ²ke⁴⁴tɕyɔŋ³³dœ⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰。

「田中さんは一時間立っている。」

(5-60) 坐 □lɜŋ⁰ 比 倚 □lɜŋ⁰ 舒服。

座る 〈実現〉 ～より 立つ 〈実現〉 心地よい

zo²²lɜŋ⁰pi⁵³ji²²lɜŋ⁰ɕy³³voŋ⁵。

「座っている方が立っているより心地よい。」

(5-61) 小王 椅 坐 爻 一 □tɕiã³⁵³, □bɜŋ²³ 走 爻 □fiɔ⁰。

〈人名〉 椅子 座る 〈実現〉 少しの間 (副詞) 去る 〈出来事の発生〉

ɕiɔ³²fiɔ³⁴³y⁵³zo²²fiɔ⁰ieŋ²tɕiã³⁵³, bɜŋ²³tɕœ⁵³fiɔ⁰fiɔ⁰。

「王くんは少しの間座るとすぐに立ち去った。」

5. 3. 2. 3. 変化動詞と共起する場合

「変化動詞+ “□lɜŋ⁰”」と「変化動詞+ “爻”」は、どちらもある状態から別の状態へという変化が実現したことを表す。注目すべきは「変化動詞+ “□lɜŋ⁰”」は実現された変化が参照時の事態に何らかの影響を及ぼしていることを含意していることである。

例(5-62)は「彼がどこかへ行った」だけの状況では成立せず、例えば「彼どこかに行ってから既に帰ってきて目の届く場所にいる」というような状況を必要とする⁶⁷。一方、“爻”を用いた例(5-63)では「彼」がもう二度と帰って来ないような状況が想像される。

もし当該の変化が参照時の事態に何の影響も与えていないのであれば、「変化動詞+ “□lɜŋ⁰”」は生起することができない(例(5-64))。一方「変化動詞+ “爻”」は、参照時の事態との関連は含意されておらず、変化が実現したことのみを表す(例(5-65))。

(5-62) 渠 □tɜŋ³ □ka²³□i⁴³ 去 □lɜŋ⁰?—渠 □tɜŋ³ 学堂 里 去 □lɜŋ⁰。

彼 ～へ どこ 行く 〈実現〉 彼 ～へ 学校 ～の中 行く 〈実現〉

ge²²tɜŋ³ka²³i⁴³ke⁴⁴lɜŋ⁰—ge²²tɜŋ³fiɔ³dɔ³³li⁵³ke⁴⁴lɜŋ⁰。

「彼はどこへ行っていたの?—学校へ行っていたよ。」

⁶⁷ なお、例(5-62)の質問文は、「ここにいたはずの彼が見当たらない」というような状況では、「彼はどこへ行ったの?」という意味で用いることもできる。

(5-63) 渠 □tɕʅ³ □ka²³□i⁴³ 去 爻?

彼 ~へ どこ 行く 〈実現〉

ge²²tɕʅ³ka²³i⁴³kʰe⁴⁴ɦɔ⁰。

「彼はどこへ行ってしまったの？」

(5-64) *□ke²¹ 只 狗 死 □lɕʅ⁰ 有 一 年 爻□ɦɔ⁰。

あの (量詞) 犬 死ぬ 〈実現〉 〈存在〉 1 年 〈出来事の発生〉

ke²¹tɕʅ⁰kɔ⁵³sɿ⁵³lɕʅ⁰iəu⁵³ieʅ⁰ɲi³³ɦɔ⁰ɦɔ⁰。

「あの犬が死んでから一年経った。」

(5-65) □ke²¹ 只 狗 死 爻 有 一 年 爻□ɦɔ⁰。

あの (量詞) 犬 死ぬ 〈実現〉 〈存在〉 1 年 〈出来事の発生〉

ke²¹tɕʅ⁰kɔ⁵³sɿ⁵³ɦɔ⁰iəu⁵³ieʅ⁰ɲi³³ɦɔ⁰ɦɔ⁰。

「あの犬が死んでから一年経った。」

5. 3. 2. 4 “□lɕʅ⁰”、“爻”の意味機能のまとめ

これまで“□lɕʅ⁰”と“爻”の意味機能の相違について、共起する動詞ごとに見てきたが、両者の区別が顕著に現れず、同じ事態を表すこともある。しかし、その場合でも、しばしば両者の選択によりニュアンスの違いが表現される。以下の例では“学□lɕʅ⁰”のみに「学んで一度は身についた」というニュアンス⁶⁸が付加される。「学ぶ」という動作行為の実現がもたらした「学んだことが身についた」という影響が、参照時において残存しているからであると解釈できる。

(5-31) 我 在 大学 {学 □lɕʅ⁰ / 学 爻 / 学 } □ke⁰ 物事 全部 都 忘记 爻□ɦɔ⁰。

私 ~で 大学 { 学ぶ 〈実現〉 / 学ぶ 〈実現〉 / 学ぶ } (助詞) もの 全て みな 忘れる 〈出来事の発生〉

ŋe⁵³ze²²da³³ɦɔ⁰⁵{ɦɔ⁰²³lɕʅ⁰/ɦɔ⁰²³ɦɔ⁰/ɦɔ⁰²³}ke⁰møʅ²¹-zɿ²⁴zyø²³bu⁴⁴toʅ⁵mɔ³³ci⁴⁴ɦɔ⁰ɦɔ⁰。

「私は大学で学んだことは全て忘れてしまった。」

以上より、“□lɕʅ⁰”と“爻”の意味機能の相違は以下のようにまとめることができる。

・“□lɕʅ⁰”

動詞（句）の表す動態的事態が実現し、且つその事態そのもの、或いはその事態がもたらした結果状態や何らかの影響が、参照時に残存していることを表す。

・“爻”

動詞（句）の表す動態的事態が実現したことのみを表す。その事態そのもの、或いはその事態がもたらした結果状態や影響などが、参照時に残存しているか否かには非関与的である。

⁶⁸ インフォーマントによれば、標準中国語の“学到 xuédào”のようなニュアンスがあるとのこと。標準中国語で“到 dào”が補語に用いられた場合、動作が達成されたことを表す。

なお、〈実現〉のAspectを表す“□lɜŋ⁰”は様態補語を導く際に用いられる機能語“□lɜŋ⁰”と同形式である。例えば、例(5-66)の“□lɜŋ⁰”は様態補語を導く助詞と実現のAspectとの二通りの解釈が可能であり、特定の文脈が設定されなければ、いずれであるのか判別は困難である。いずれも①意味的条件においては実現済みの動作につき、②統語面においては後ろに何らかの成分を伴い得る、という共通性を有していることから、両者が同源語である可能性が高いと考える。

(5-66) 渠 菜 烧 □lɜŋ⁰ □fiɕ¹¹³ 好 □ke⁰。

彼 料理 作る { (助詞) / 〈実現〉 } ととも 上手い (助詞)

ge²²ts^he⁴⁴ɕiɔ³¹lɜŋ⁰fiɕ¹¹³ho⁵³ke⁰。

「彼は料理がとともうまい。/彼は料理をととも上手く作った。」

第六章 終章

本論文の成果は以下のようにまとめられる。

第二章では、臨海方言の音韻体系を記述した。先行研究である黄晓东(2007)の提示した体系の信頼性を確認した上で、声調の調値について修正すべき点を指摘し、黄晓东(2007)が本格的には検討していなかった連読変調の体系を提示した。本論文で示した連読変調の体系は、先行研究たる張燕春(2006)の分析結果とは大きく異なるものである。

第三章では、臨海方言の文法体系の概説を行った。臨海方言の文法に関する先行研究はいずれも個別的な現象を論じたものであり、本論文では、臨海方言の各種の文法機能を表す機能語の体系、主要な構文のリストといった言語事実を体系的に提示した。これらの言語事実一つ一つが研究成果だと言い得る。また、刘丹青(2003)が、吳方言の特徴として指摘した、被動作者が主語と述語動詞との間に副主題として生起する現象が、臨海方言においても存在することを確認した。

第四章では、ヴォイス範疇がどのように体系化されているかを論じた。すなわち、「使役構文」「処置構文」「受動構文」について、それぞれがどのような介詞により構成されるのか、構文の生起条件が標準語と同様であるかを検討した。例えば受動構文が“□dze²¹”と“让”という異なる介詞によって構成されることがあり、両者では生起条件に違いが見られること、さらに“拨”から構成される処置構文は、標準中国語とは異なり、感歎や反語の語気を含む文であれば述語動詞が可能補語であっても文が成立するなど、標準語における対応する構文とは生起条件が異なることなどを指摘している。さらに、使役構文の動作者を導く機能と処置構文の処置対象を導く機能を兼ねた介詞“拨”の存在に着目し、この“拨”の多機能性の内実を分析した上で、通時的な機能拡張のプロセスについての仮説を提出した。

第五章では、アスペクト範疇が、臨海方言においてどのように体系化されているかを論じた。すなわち「将然」「開始」「起動」「持続」「進行」「継続」「実現」「経験」「終結」「出来事の発生」といった各アスペクトがどのような助詞、副詞等によって表現されるのかを提示している。そして多くのアスペクトは標準中国語と同源の形態素によって担われているが、「開始」を表す“□k^hœ²⁴想”のように形式と機能面で独自性の強い表現形式もあることを指摘した。さらに、「実現相」を表す形式に“□l₃ʔ⁰”、“爻”という二形式があることに着目し、それらの機能差異を分析した結果、前者は動態的事態のもたらした結果状態や何らかの影響が参照時に残存している〈実現・残存〉を表すものであり、後者は単に〈実現〉を表すもので動態的事態の結果状態や影響には非関与的であることを主張し、「結果状態や影響の残存」という意味特徴がアスペクト表現形式の使い分けに関与している可能性を指摘した。

本論文の第一の意義は、今まで体系的な文法記述がされたことのなかった臨海方言について、その統語構造および主要な機能語の体系を提示したところにある。また音韻体系についても、複雑な連読変調が先行研究とは大きく異なる条件で生じていることを指摘した

ことも本論文の主要な意義に挙げられる。現在、中国では標準中国語の普及とともに、少なからぬ中国語方言は消滅の危機に瀕している。そのような方言の一つであり、呉方言の中でも特徴的な文法体系を持った臨海方言を記述することは、それ自体に意義のあることだと考える。

その一方、本論文には限界と課題が少なくない。最も重要な限界は、本論文で記述し得た文法項目は限られたものであり、すべての機能語・構文について詳細な検討を加えることはできなかった点であろう。とりわけ指示詞の詳細な使い分け条件といったダイクシスに関わる事項はほとんど検討できなかった。もう一点は、本論文は臨海方言内部の言語事実の記述に重きを置いたため、近隣の方言との接触・相互影響といった臨海方言の言語体系を超えた問題については手つかずに近いことである。ヴォイスを論じた第四章では、介詞“撥”の通時的プロセスについての仮説を提出したが、本来は、呉方言全体のなかで論ずべき問題である。以上のことは、今後の課題としておきたい。

【参考文献】

(英語)

Chappell, Hilary and Peyraube, Alain. (2011) Grammaticalization in Sinitic Languages. In Bernd Heine and Heiko Narrog (eds.), *The Oxford Handbook of Grammaticalization*. Oxford:Oxford University Press.

Comrie, Bernard. (1976) *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.

Comrie, Bernard. (1981) *Language Universals and Linguistic Typology: Syntax and Morphology*. Oxford: Blackwell.

(※松本克己・山本秀樹訳(2001)『言語普遍性と言語類型論—統語論と形態論』、ひつじ書房)

Hopper, Paul J. and Traugott, Elizabeth Closs (1993) *Grammaticalization*, Cambridge University Press.

(※P.J.ホッパー・E.C.トラウゴット著、日野資成訳(2003)『文法化』九州大学出版会)

Schuessler, Axel(2009) *Minimal Old Chinese and Later Han Chinese, A Companion to Grammata Serica Recensa*, Honolulu: University of Hawai'i Press.

(中国語)

蔡海燕(1997)「临海方言的状态词」『台州师专学报(社会科学版)』第4期 pp.38-42

蔡勇飞(2015)「临海方言音系及有关词汇、语法特点的研究」『中国方言学报』第5期 pp.130-139

曹志耘、秋谷裕幸、太田斋、赵日新(2000)『吴语处衢方言研究』(日本)好文出版

曹志耘主编(2008)『汉语方言地图集 语法卷』商务印书馆

戴昭铭(2004)「弱化、促化、虚化和语法化——吴方言中一种重要的演变现象」『汉语学报』第2期 pp.26-34,95

根岸美聪(2011)「浙江临海话的介词系统」严翼相主编『中国方言中的语言学与文化意蕴』韩国文化社 pp.305-321

侯精一主编(2002)『现代汉语方言概论』上海教育出版社

黄伯荣等编著(2001)『汉语方言语法调查手册』广东人民出版社

黄晓东(2007)「浙江临海方言音系」『方言』第1期 pp.35-51

教育部语言文字信息管理司中国语言资源保护研究中心(2015)『中国语言资源调查手册 汉语方言』商务印书馆

临海市委编篡委员会编(1989)『临海市志』浙江人民出版社

刘丹青(2003)『语序类型学与介词理论』商务印书馆

卢笑予(2013a)「临海方言非谓语前置词的语法多功能性分析」『现代语文』第5期

卢笑予(2013b)「浙江临海方言的人称代词」『台州学院学报』第4期 pp.34-39,55

卢笑予(2017)「从临海方言“以”看 *tc*-类近指词在吴语区的分布与演变」『中国语文』第1期 pp.88-99

卢笑予(2018)「浙江临海古城方言的指示词系统」『方言』第2期 pp.214-220

钱乃荣(1992)『当代吴语研究』上海教育出版社

杉村博文(1982)「V得C、能VC、能V得C」『汉语学习』6 pp.23-33

石毓智(2011)『语法化理论—基于汉语发展的历史』上海外语教育出版社.

许宝华・宫田一郎主编(1999)『汉语方言大词典』中华书局出版

张燕春(2005)「临海方言单音节声调的实验研究」『南开语言学刊』第1期 pp.35-42

张燕春(2006)「临海方言双音节连读变调实验研究」『首都师范大学学报(社会科学版)』第4期
pp.73-82

赵元任(1956[1928])『现代吴语的研究』科学出版社

赵元任(1976/2002)「汉语中的歧义现象」吴宗济, 赵新那编『赵元任语言学论文集』pp.820-835

(原文: Aspects of Chinese Sociolinguistics, Essays by Yuan Ren Chao, ed. by Anwar S. Dil, Stanford University Press, 1976. 袁毓林译, 沈家煊校)

郑伟(2017)『吴语虚词及其语法化研究』上海教育出版社

中国社会科学院和澳大利亚人文科学院(1988)『中国语言地图集』香港: 朗文出版社

周静怡(2013)「临海方言中的古语词例释」『文教资料』第9期 pp.22-23

朱德熙(1980)「汉语句法里的歧义现象」『中国语文』1980年第2期

朱德熙(1982)『语法讲义』商务印书馆

(※杉村博文・木村英樹訳(2001)『文法講義 朱德熙教授の中国語文法要説』、白帝社)

朱德熙(1985/1999)『语法答问』商务印书馆 / 『朱德熙文集 第一卷』商务印书馆

(日本語)

岩田礼(1994)「現代中国方言学主要参考文献」W.A. グロータース著、岩田礼・橋爪正子訳(1994)
『中国の方言地理学のために』好文出版 pp.183-200

太田辰夫(1947/1995)「北京話における“進行”と“持続”」『中国語雑誌』2巻2号・3号 / 『中国語
文論集(語学篇・元雑劇篇)』汲古書院

太田辰夫(1956)『給』について』『神戸外大論叢』7-1・2・3

影山太郎編(2001)『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店

木村英樹(1996)『中国語はじめの一步』筑摩書房

木村英樹・楊凱榮(2008)「授与と受動の構文ネットワーク—中国語授与動詞の文法化に関する方
言比較文法試論—」生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一編著『ヴォイスの対照研究—東アジア
諸語からの視点—』くろしお出版 pp.65-92

木村英樹(2012)『中国語文法の意味とカタチ——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究』
白帝社

根岸美聡(2009)「浙江臨海方言における“驮[do²²]”の文法化」中国語学会『饕餮』第17号 pp.7-21

根岸美聡(2017)「浙江臨海方言のアスペクト表現形式——実現を表す“□lɿʔ⁰”、“爻”を中心に——」
『開篇』No.35 pp.254-268

橋本萬太郎(1981)『現代博言学』大修館書店

峰岸真琴(2000)「類型論から見た文法理論」『言語研究』117号 pp.101-127

三原健一(2004)『アスペクト解釈と統語現象』松柏社

米田信子(2009)「ヘレロ語における適用形構文と目的語の対称性」『アジア・アフリカの言語と
言語学』4, pp.5-37

李思敬著、慶谷壽信・佐藤進訳(1995)『音韻のはなし——中国音韻学の基本知識』(訂正) 光生
館

林璋・佐々木勲人・徐萍飛(2002)『東南方言比較文法研究—寧波語・福州語・厦門語の分析—』

好文出版

付録1 臨海方言同音字表

本表は臨海方言における約 3000 字の漢字の音（「字音」と呼ぶ）を一覧表にしたものである。字音は、漢字が通常表す形態素の音に相当する。ある言語の音韻体系を明らかにしようとする際、語彙を収集してから帰納的に音韻体系を求めていくという方法をとることが一般的であるが、中国語方言研究では漢字を共有するという利点を生かして、音韻体系の大枠を捉えるためにまず字音を調査するということが広く行われている。調査の結果をまとめたものが同音字表であり、共時的な音韻体系および中古音（隋代音）との通時的な対応関係を論ずる基礎資料として用いることができる。

臨海方言の字音については黄晓东 2007 が既に成果を上げている。今回の調査は黄氏の調査結果について HH 氏に確認していく形で行ったが、音韻体系については大きな差異は認められなかった（本文第二章参照）。個別の漢字について、黄氏の調査結果と異なったものには、一つには、HH 氏が読めない（使用しない）と答えた字がある。これについては当然のことながら、表中には記載していない。残りは異なった音で読む字であり、これについては表中に網掛けで示した。

調査をする上で、訓読音（当該字の表す形態素と同じ意味を備えた別の形態素の音）が出ることに注意する必要があったが、調査で得られた音が訓読音でないかどうかについては、中古音体系を参照しつつ個別に判断した。

基本的には字音をまとめた表であるが、調査の過程で漢字を特定できない形態素の存在が確認される場合があり、それについては表の該当する位置に“□”として入れ、その意味を注で示した。

【表について】

- ・ 1 枚の表には 1 つの韻母が対応する。韻母は表中の左上の欄に表示した。
- ・ 表は縦軸に声母、横軸に声調が当てられ、一つの四角に入る字は全て同じ音で読まれる。
- ・ なお、表中の空欄は臨海方言にその音節が存在しないことを必ずしも意味せず、その音で読まれる字が無いということの意味しているに過ぎない。
- ・ 表中の注（1、2、3…）は直前の字についての説明である。注には、意味によって発音が複数ある場合にどの意味に対応するか、漢字が無い場合（“□”）にどのような語に現れるかなどを記す。

【凡例】

□ 漢字が同定できない語或いは形態素

■ 黄晓东 2007 と結果が異なる字

[○+●] 稀に使われる漢字（方言字や合音字など）で、○と●の組み合わせによって一文字となる字。

（例：[禾+希]→「稀」）

“ ” 臨海方言

「 」 日本語訳

～ 注の中に用いられ、注がつけられている字（語或いは形態素）を表す

1	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
ts	猪知支枝肢资姿咨 脂之芝渚 ¹ □ ² 滋		煮紫纸旨指 ³ 子籽止 姊□ ⁴ 址	□ ⁵ 智致至置志誌 痣	
ts ^h	雌		鼠□ ⁶ 此侈耻齿	刺次厕□ ⁷ 賜	
ɕ		苜池驰迟雉持祠			箸 ⁸ 治 ⁹ 痔□ ¹⁰
s	梳筛斯施私师狮尸 司丝思诗		死始使史	絮四肆试□ ¹¹	
z		藟 ¹² 耳 ¹³ 鹁兹锄 ¹⁴ 匙 是氏瓷糍慈磁辞词 似巳士仕时市豉 □ ¹⁵			自示视字寺饲事侍 ¹⁶ 侍 ¹⁷

-
- 1 “桃~”「桃渚（地名）」
 - 2 “□dio¹³~”「もし…ならば」
 - 3 “~挥”「指揮する」
 - 4 “弗~□zo²¹”「非常に」
 - 5 “~饭”「ご飯をよそう」
 - 6 「引き裂く」
 - 7 「小雨」
 - 8 「箸」
 - 9 “~理”「整備する」
 - 10 “~笪”「食糧を貯蔵する大きな竹かご」
 - 11 “后~□fiit⁴⁴”「後頭部」
 - 12 “蕃~”「さつまいも」
 - 13 “木~”「キクラゲ」
 - 14 “~头”「くわ」
 - 15 副詞接尾辞
 - 16 “~卫”「護衛する」
 - 17 “服~”「世話をする」

i	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	尻鞭编边蝙蝠		鄙比扁匾	毙闭臂庇痹变遍蔽 敝	
p ^h	批披偏□ ¹			屁篇骗片	
b		毳皮疲脾被 ² 肥 ³ 便 ⁴ □ ⁵			弊币璧避秘备便 ⁶ 辩 辨
m		迷弥眉棉绵	米尾 ⁷ 免勉緬 ⁸	眯	味面麵
f	非飞妃		匪	费废肺痲□ ⁹	
v		肥 ¹⁰ 微尾 ¹¹ 维唯			未
t	低颠癡		底抵点典	帝帝 ¹² 店踮	
t ^h	梯添天		体舔	替涕剃嚏	
d		堤题提蹄啼奠甜甸 ¹³ 田 佃□ ¹⁴			第递地电殿佃垫
l		犁黎离篱 ¹⁵ 璃厘狸□ ¹⁶ 廉 帘连联怜莲	礼李里理鲤裏 ¹⁷ 脸		濾 ¹⁸ 例厉 ¹⁹ 励 ²⁰ 蛎丽 隶荔 ²¹ 梨利吏泪练 炼棟
s	先 ²²				
tʃ			挤	祭际制製济剂	
tʃ ^h	妻			砌	
ʃ	西犀□ ²³		洗	世势细 ²⁴ 婿	
ʒ		齐			誓逝

- 1 「手や歯を使ってはがす」
- 2 “~子”「掛け布団」
- 3 “~皂”「石鹸」
- 4 “~宜”「安い」
- 5 “一~砖”「一層のレンガ」
- 6 “随~”「自由だ」
- 7 “~巴”「しっぽ」
- 8 “~甸”「ミャンマー」
- 9 “刨~”「かんなくず」
- 10 “~料”「肥料」
- 11 “扫~”「仕上げる（最後の部分を終わらせる）」
- 12 「しづく」
- 13 “长~”「長甸（地名）」
- 14 「突起のある物が体に当たって心地が悪い」
- 15 “捞~”「網杓子」
- 16 “~槌”「洗濯物をたたくための木の棒」
- 17 “~头”「なか、うち」
- 18 “~浆”「液体を濾過する」
- 19 “~害”「すごい」
- 20 “鼓~”「励ます」
- 21 “~枝”「ライチ」
- 22 “~生”「医者（古い言い方）」
- 23 「うめく」
- 24 “粗~”「太さ」

c	鸡饥肌基机讥 箕其□ ¹ 今 ₁		几 ² 幾 ³ 帆己纪 ⁴ [金 +絮] ⁵ 殄筧 ⁶	计继繫 ⁷ 寄髻记既剑 躔几 ⁸	
c ^h	溪欺		启企起歉	契器弃气汽	
j		奇骑倚 ⁹ 妓祁鳍其棋期旗 祈□ ¹⁰ □ ¹¹ 岂□ ¹²			及 ¹³ 技忌健 ¹⁴
ɲ	拟研□ ¹⁵ □ ¹⁶	尼泥倪宜仪谊毅疑年阎 言严	染拟		艺义议验念
ç	牺嬉 ¹⁷ 熙希稀 □ ¹⁸		喜	戏	
fi		移姨炎盐 ¹⁹ 檐贤弦沿嫌 延遗 ²⁰			易 ²¹ 异焰盐 ²² 现□ ²³ 艳
0	伊医衣依阍烟 蔦 ²⁴		己以掩演	繫 ²⁵ 亿忆意仄[貝+ 匚] ²⁶ 燕	系 ²⁷ 繫 ²⁸

-
- 1 “□^{tc^hiä⁴⁴~}” 「現在」
 - 2 “茶~” 「茶卓（茶器を置く小さなテーブル）」
 - 3 “~个” 「いくつか」
 - 4 “年~” 「年紀」、 “~律” 「紀律」
 - 5 “钁~” 「鎌」
 - 6 “水~” 「筧（水を通すための竹の管）」
 - 7 “~鞋带” 「靴紐を結ぶ」
 - 8 “~乎” 「ほぼ…だ」（※但し“几乎”という語はあまり使わない）
 - 9 「立つ」
 - 10 “絮~身” 「綿入れの上着」
 - 11 “竖□^{dəŋ²¹~}” 「倒立」
 - 12 “洗~身” 「体を洗う」
 - 13 “来得~” 「間に合う」
 - 14 “~康” 「健康」
 - 15 「(帽子が) 曲がっている」
 - 16 「(ネジ、雑巾を) ねじる、ひねる」
 - 17 「遊ぶ」
 - 18 “~蛭” 「アゲマキ（貝）」
 - 19 (名詞) 「塩」
 - 20 “~传” 「遺伝」
 - 21 “容~” 「容易だ」
 - 22 (動詞) 「塩に漬ける」
 - 23 「小麦粉などでつくった食品」
 - 24 「しおれる、しなびる」
 - 25 “关~” 「関係」
 - 26 「大まかに測る」
 - 27 “中文~” 「中国語学部」
 - 28 “联~” 「連絡する、つながりを持つ」

u	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p			补谱	布怖	
p ^h	铺 ¹		普浦	铺 ² □ ³	
b		蒲部 ⁴ 葡脯 ⁵ □ ⁶ 葶			部 ⁷ 埠捕伏 ⁸
f	夫扶敷敷		府腑斧辅俘	付赋傅赴富副	
v		符扶 ⁹ 芙无 ¹⁰ 抚父舞 武侮鹵附戊浮妇 ¹¹ 负			务雾
t	都 ¹² □ ¹³		堵赌肚 ¹⁴		
t ^h			土吐 ¹⁵	吐 ¹⁶ 兔	
d		徒途涂图屠杜肚 17□ ¹⁸			度渡镀
n			努		怒奴
l		卢炉芦庐驴 ¹⁹	鲁卤虜		路露
ts	租		祖组阻		
ts ^h	粗初		楚础 ²⁰ 础 ²¹	醋措	
s	苏酥蔬蔬		数 ²²	素诉塑数 ²³	
z					助
k	姑孤		裹古估牯股鼓□ ²⁴	过故固雇顾	
k ^h	箍 ²⁵ □ ²⁶		苦	库裤□ ²⁷	

-
- 1 (動詞)「敷く、広げる」
 - 2 (名詞)「店」
 - 3 「タウンナギ」
 - 4 “~队”「部隊」
 - 5 “奶~头”「女性の胸」
 - 6 「溢れる」
 - 7 “一~车”「一台の車」
 - 8 「孵す」
 - 9 “~贫”「貧困者を援助する」
 - 10 “~产阶级”「プロレタリアート」
 - 11 “~女”「婦女」
 - 12 “首~”「首都」
 - 13 “一~桥”「一本の橋」
 - 14 “猪~”「豚の胃袋」
 - 15 “~痰”「痰を吐く」
 - 16 “呕~”「嘔吐する」
 - 17 “~皮”「腹の皮」
 - 18 “~赖”「(小さな子供が)だだをこねてまとわりつく」
 - 19 “~狗”「ロバ」(※[ly²¹]と迷う)
 - 20 “基~”「基礎」
 - 21 “礫~”「柱の下の石」
 - 22 (動詞)「数える」
 - 23 (名詞)「数」
 - 24 “面□ciəŋ³¹~”「頬」
 - 25 「寄せ集める」
 - 26 “~□ciəŋ³¹头”「朝」
 - 27 「竹ひごと紙で作った家(冥器)」

ŋ					誤悟互娛
h	呼乎□ ¹		虎浒		
fi		梧胡湖狐壺葫鬚蝴 瑚瑚			腐护糊 ²
0	乌汚□ ³		伍户沪妇 ⁴	□ ⁵ □ ⁶ □ ⁷ /□ ⁸	

1 「吸う」

2 「糊、よく火が通っている」

3 「(火が) 消える」

4 “新~” 「新婦」

5 「埋める、葬る」

6 “裂~” 「ひび」

7 「(小さな火で) 煮込む」

8 “~□lo⁴⁴” 「犬を呼ぶときの声」

y	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
l		驴 ¹	吕旅屡履		虑滤 ²
tɕ	诸株朱殊珠追		主嘴	驻註注蛀铸醉拄 ³□⁴□⁵	
tɕʰ	吹炊		取处 ⁶	处 ⁷ 趣/□ ⁸	
ɕ		除储署厨柱槌锤			住□ ⁹
ɕ	书舒须鬚需输 ¹⁰ 输 ¹¹ 尿虽		暑水	岁税 ¹²	
ʒ		徐殊序叙如竖乳脐 芥随髓遂绪隧			树睡垂瑞
c	居车 ¹³ 拘龟		举矩鬼轨	据锯句桂季贵	
cʰ	枢区驱趋				
ʃ		渠 ¹⁴ 巨拒距俱瞿跪 逯葵			柜具
ɲ		渔	女 ¹⁵ 语		愚遇寓御禦
ç	墟 ¹⁶ 虚	毀	许毀 ¹⁷		
ɦ		余徐孟榆逾愉围			誉预豫芋裕胃
0	于		与雨宇禹羽椅於		

-
- 1 “~狗”「ロバ」(※[lu²]と迷う)
 - 2 “过~”「瀆過する」
 - 3 (動詞)「支える、持ちこたえる」「短~」「肩の上に置いて物を担ぐのに使う木の棒」
 - 4 「靴底や靴の甲を縫う」
 - 5 “~夏”「立夏」
 - 6 “~理”「処理する」
 - 7 “保卫~”「保安部(学校などの安全を守る部門)」
 - 8 “大~”「ばか」
 - 9 “蛤蟆头~”「おたまじゃくし」
 - 10 「負ける」
 - 11 “运~”「輸送する」
 - 12 “收~”「貸貸する」
 - 13 “~马炮”「車・馬・炮(象棋のコマ)」
 - 14 “~道”「水路」
 - 15 “男~”「男女」
 - 16 (読書音)
 - 17 「歯が欠けている」

a	陰平 31	陽平 22	上声 53	陰去 44	陽去 113
p			摆	坝拜霸	
p ^h				派	
b		排牌			稗败罢
m		埋	买		卖骂 ¹
t				带戴 ²	
t ^h	拖 ³ 他 ⁴			太泰	
d					大 ⁵ 汰 ⁶ □ ⁷
n			奶乃		奈
l	拉 ⁸				赖癩 ⁹ 拉 ¹⁰
ts	斋抓 ¹¹			诈 ¹² 炸 ¹³ 债	
ts ^h	钗差 ¹⁴			蔡	
tʃ					寨
s	沙□ ¹⁵		洒驶	厦 ¹⁶	
z		豺柴			□ ¹⁷
k	皆阶街		解	介界芥疥疥 ¹⁸ 届戒 □ ¹⁹ □ ²⁰	
k ^h	揩		楷		
ŋ		崖涯			外□ ²¹
h			□ ²²		
f		鞋			械懈 ²³
0			矮		

-
- 1 (読書音)
 - 2 “~帽”「帽子を被る」
 - 3 「引く」
 - 4 “其~”「その他」
 - 5 “~学”「大学」
 - 6 「衣服をすすぐ」
 - 7 “一~”「(ひび、道など) 一本」
 - 8 “~车”「車引き」
 - 9 “~头”「疥癬にかかっている頭」
 - 10 “~尿”「放尿する」
 - 11 (読書音)
 - 12 “~骗”「だます」
 - 13 “~弹”「爆弾」
 - 14 “出~”「出張する」
 - 15 「投げ捨てる、放り投げる」
 - 16 “大~”「ビルディング」
 - 17 「痩せている」
 - 18 “碗~”「食器棚」
 - 19 “~人”「誰」
 - 20 「穀竿」
 - 21 (動詞)「逗留する」
 - 22 「牛を速く走らせるための掛け声」
 - 23 “松~”「だらけている」

ia	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
tɕ	抓 ¹		姐者	借	
tɕ ^h			且□ ² □ ³	[竹+且] ⁴	
ɕ			写	泻	
ʒ		邪斜			谢□ ⁵
c	家			驾嫁	
ʃ		茄			
ç				下 ⁶ 卸□ ⁷	
fi		衙耶椰爷			夜
0			亚野		

ua	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
k	瓜□ ⁸		寡拐	怪挂卦	
k ^h	夸		垮	快筷 ⁹	
h	花			化	
fi		华 ¹⁰ 划 ¹¹ 怀淮槐			坏画话
0	蛙歪				

-
- 1 “~痒”「痒いところを搔く」
 - 2 「酌む」
 - 3 「物を削る音」
 - 4 「斜めである」
 - 5 “白~馒头”「餡の無いマントウ」
 - 6 “~岗”「人員整理される」
 - 7 「~してはならない」
 - 8 “~生”「落花生」
 - 9 “卫生~”「使い捨ての箸、割り箸」
 - 10 “~东”「華東」、(姓)
 - 11 “~水”「泳ぐ」

ε	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	班斑扳		板版瓣□ ¹	扮	
p ^h	頒			盼	
b	月 ² □ ³ □ ⁴	般			办
m		慢□ ⁵	晩	蛮 ⁶	慢
f	翻番蕃幡		反□ ⁷	泛販販[疒+反] ⁸	
v		凡帆范 ⁹ 範 ¹⁰ 犯烦矾 繁			饭万
t	耽担 ¹¹ 丹单 ¹²		胆□ ¹³	担 ¹⁴ 旦	
t ^h	坍 ¹⁵ 滩摊		毯	炭叹	
d		譚谈痰淡檀坛弹 ¹⁶			诞弹 ¹⁷ 蛋
n		难 ¹⁸			难 ¹⁹
l		蓝篮兰拦栏榄	览揽 ²⁰		滥烂澜 ²¹
ts			斩盞□ ²²	蘸贊讚 ²³	
ts ^h	餐		铲		
dz		赚残 ₂ □ ²⁴			暂站栈□ ²⁵ □ ²⁶
s	三杉山删珊□ ²⁷		伞衫产 ²⁸ 散 ²⁹ □ ³⁰	散 ³¹	

-
- 1 “□¹□²□³□⁴” 「(質やレベルが) 低い」
 - 2 “柴~” (名詞) 「薪」
 - 3 「足を踏み出す」
 - 4 “鸡娘~” 「母鶏」
 - 5 「からかう」
 - 6 (副詞) 「とても」
 - 7 「押す」
 - 8 「気分が悪い、嘔吐する」
 - 9 (姓)
 - 10 “模~” 「模範」
 - 11 (動詞) 「担ぐ」
 - 12 “~干” 「個人経営 (農家など)」
 - 13 “讲白~” 「おしゃべりする」
 - 14 (名詞) 「ひとかつぎ」
 - 15 「崩れる」
 - 16 “~琴” 「琴を演奏する」
 - 17 “子~” 「打ち綿」
 - 18 (形容詞) 「難しい」
 - 19 (名詞) 「災い」
 - 20 「手で散乱した物を集める」
 - 21 「湿っている」
 - 22 「資質が良い」
 - 23 「飛び散る」
 - 24 (介詞) 「~される」
 - 25 「間違い」
 - 26 「実がしっかりと入っている」
 - 27 “出~” 「美しい」
 - 28 “生~” 「生産する」
 - 29 「靴紐がほどけた」
 - 30 “茶~” 「茶葉」
 - 31 「散らばる」

z		残 ₁			
k	艰间奸		减碱筒束拣 ¹ □ ² □ ³	鉴监	
k ^h	铅		檻 ⁴ 舰勘 ₂	嵌看 ⁵ 堪 ⁶ 勘 ₁	
g		□ ⁷ 衔 ⁸			□ ⁹
ŋ		岩颜	眼		雁
h			喊□ ¹⁰ □ ¹¹		
fi		函咸 ¹² 衔 ¹³ 闲			陷
0			馅限	晏 ¹⁴	

-
- 1 「選ひ出す」
 - 2 “~个”「あれ、あの」
 - 3 “一~”「(ミカンなど) ひとかけら」
 - 4 “地戸~”「敷居」
 - 5 (読書音)
 - 6 (読書音)
 - 7 “~鰓”「えら」
 - 8 「口でくわえる」
 - 9 「歯の穴を埋める」
 - 10 「唾の人」
 - 11 “谷~”「秕 (中身が入っていない実)」
 - 12 “~淡”「塩」、 “~丰” (元号の一つ)
 - 13 “军~” (軍人の階級の一つ)
 - 14 「(時刻が) 遅い」

uε	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
k	关		□ ¹	贯惯	
g		□ ²			贯 ³
h	環 ⁴			□ ⁵	
fi		还 ⁶ 环			
0	幻弯湾		挽		

1 “一~锁”「一つの錠」

2 (動詞)「背負う」

3 「投げる、手荒に扱う」

4 「(子供などが) お利口だ」

5 「一瞥する」

6 (動詞)「返す」、(副詞)「まだ」

e	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	杯碑卑悲			簸 ¹ 簸 ² 贝辈	
p ^h	胚坯			配	
b		培陪赔倍			佩背 ³ 焙
m		梅 ⁴ 枚媒煤霉	每美	梅 ⁵	妹昧□ ⁶
f				[弗+会]	
t	堆		□ ⁷	戴 ⁸ 对碓	
t ^h	胎苔台 ⁹ 推腿 ¹⁰ □ ¹¹ □ ¹²		腿	态退	
d		臺抬待怠逮 ¹³			贷代袋队兑□ ¹⁴
n					耐内
l		来雷□ ¹⁵	儡累 ¹⁶ 垒	□ ¹⁷	类泪 ₂ □ ¹⁸
ts	灾栽		宰	再载 ¹⁹ 最	
ts ^h	催崔		彩采睬猜	菜脆翠	
s	颯 ²⁰ 衰			赛碎 ²¹ 帅	
z		才材财裁纔在 ²² 罪			锐
k	该		改	个 ₁ 锯 ₁ 概溉	
k ^h	开		凯	去	
g		渠 ²³			隍 ²⁴
ŋ		呆	我		艾碍
h	□ ²⁵		海		
fi		孩			害

-
- 1 “米~”「箕」
 - 2 「箕で穀物を振るう」
 - 3 “~诵”「暗唱する」
 - 4 “杨~”「ヤマモモ（植物）」
 - 5 “~子”「梅」
 - 6 「土のついた雑草を集めて焼いて肥料にする」
 - 7 「引っ張る」
 - 8 （姓）
 - 9 “~州”「台州（地名）」
 - 10 “~猪,~鸡”「豚のモモ、鶏のモモ」
 - 11 「漂流する」
 - 12 “~□pe⁵³”「(質やレベルが) 低い」
 - 13 “~捕”「逮捕する」
 - 14 「(自重により電線や縄などの中央部が) たるむ」
 - 15 “~人”「老女」
 - 16 “~计”「累計」、「连~」「巻き添えにする」
 - 17 “~堆”「仕事が多い」
 - 18 「転がす、押し伸ばす」
 - 19 “~重”「積載する」
 - 20 “□ge³⁵~”「えら」
 - 21 「バラバラだ」
 - 22 「ある・いる、~から」
 - 23 「彼、彼女、それ」
 - 24 「寄りかかる」
 - 25 「ふかふかしている」

0			亥哀	浣 ¹ □ ² 愛	
---	--	--	----	---------------------------------	--

¹ 「糞便」

² 「(杖などで体を) 支える」

ii	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
t			点		
tɕ	尖占 ¹ 煎		剪展□ ²	占 ³ 箭战荐	
tɕ ^h	歼籤笠千迁□ ⁴		浅		
tʃ		钱			
ɕ	先 ⁵ 仙鲜 ⁶		陕癖	线扇掬	
ʒ		潜善蟪 ⁷ 鱗然单 ⁸ 前 燃			践贱
c	兼肩坚		检	剑见建	
c ^h	讦 ⁹ 谦牵 ¹⁰ □ ¹¹			欠	
ʃ		钳俭件乾□ ¹²			键健 ¹³
ɲ					廿
ç			险显	宪献	
ɦ				□ ¹⁴	□ ¹⁵
0	阉薦 ¹⁶ 焉		掩演	宴燕	

-
- 1 “~ト” 「占い」
 - 2 “~□” 「点心」
 - 3 “霸~” 「(土地などを) 巻き上げる」
 - 4 「(帽子が) 曲がっている」
 - 5 “~后” 「前後」
 - 6 “新~” 「新鮮」 “朝~” 「朝鮮」
 - 7 “蚰~” 「みみず」
 - 8 (姓)
 - 9 “火~” 「灰掻き」
 - 10 「牽引する、支える」
 - 11 「牛を左に曲がらせるための掛け声」
 - 12 “絮~身” 「綿入れ」
 - 13 “~康” 「力が強い、(老人が) 頑健である」
 - 14 “后□~” 「後頭部」
 - 15 「からかう」
 - 16 「食べ物が新鮮でない」

ue	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
k	規歸閏		詭	會 ¹ 劊繪	
k ^h	亏窺魁潰 ²		傀	塊	
h	盃恢灰揮輝徽賄		毀	晦悔烩	
fi		回茴圍危為違丸偽			匯謂會 ³ 惠慧衛位 □ ⁴ 魏
0	煨威		委偉苇	畏慰猬	

1 “~計”「會計」

2 “~瘍”「潰瘍」

3 “开~”「會議を開く」、「弗~」「可能性が無い」

4 「(子供が) 賢い」

ø	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	搬			半	
p ^h	潘			判□ ¹	
b		盘拌			伴叛
m		瞒	满		
t	端		短	断 ² 鍛	
t ^h	貪			探	
d		潭团断 ³ 糴			段緞
n		南楠男			□ ⁴
l		恋	卵	□ ⁵	乱□ ⁶
ts	簪钻 ⁷			钻 ⁸	
ts ^h	参 ⁹ 余		窳惨		
s	酸			算蒜	
z					蚕 ¹⁰
k	柑柑柑干 ¹¹ 肝		感敢秆赶竿		
k ^h	刊			看 ¹² 礮	
g		囁 ¹³			
h				汉憾	
fi		含寒韩□ ¹⁴			焊汗
0	庵安鞍□ ¹⁵		旱	暗按 ¹⁶ 案	

1 「収穫前の作物や樹木を見積もり販売する」

2 「話し合って決定する」

3 「断絶する」

4 「柔らかい」

5 “□⁴” 「犬を呼ぶ声」

6 “~梦” 「夢を見る」

7 (動詞) 「穴を開ける」

8 (名詞) 「錐、ドリル」

9 “~加” 「参加する」

10 “养~” 「養蚕」

11 “笋~” 「乾燥タケノコ」、 “~部” 「幹部」

12 “~守所” 「牢屋」

13 “打饱~” 「げっぷをする」

14 “地~头” 「畦」

15 “老~人” 「おばあさん」

16 “~照” 「抛る」

uø	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
k	官棺观 ¹ 冠 ²		管馆	灌 ³ 罐	
k ^h	宽		款		
h	欢				
fi		桓完			换
0			缓皖碗		

yø	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
tɕ	专砖		转 ⁴ 转 ⁵		
tɕ ^h	□ ⁶ 川穿			串	
ɕ		传 ⁷ 椽			传 ⁸
ɕ	闷宣		选		
ʒ		缠 ⁹ 全泉船			旋 ¹⁰
c	捐娟		捲	眷卷绢	
c ^h	圈		犬	劝券	
f		杈拳			
ɲ		元原源	软 ¹¹ 阮		愿
ɕ	鞋				
fi		圆员缘袁园援玄丸			院县
0	冤渊		远	怨	

1 “参~”「見学する」

2 “鸡~”「トサカ」、「~军」「第一位」

3 “~水”「(作物などに)水をやる」

4 “~变”「変わる」、「~一圈」「一周する」

5 “~业”「転業する」「中~」「乗り換えする」

6 “~豆”「空豆」

7 “~达”「伝達する」

8 “水浒~”「水滸伝」

9 “盘~”「巻き付く」

10 (名詞)「輪、丸」、(動詞)「回転する」

11 (読書音)

o	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	褒包胞		保堡煲宝饱	报豹□ ¹	
p ^h	抛俘 ²		跑 ³	炮泡 ⁴	
b		袍抱			暴爆刨 ⁵
m		毛茅猫锚麻 ⁶	卯		冒帽貌
f			□ ⁷		
t	刀		祷岛捣倒 ⁸	到倒 ⁹ □ ¹⁰	
t ^h			讨	套□ ¹¹	
d		逃淘陶萄道稻桃		盗导	
n			恼恼	闹	
l		劳牢涝唠	佬佬		
ts	遭糟		早蚤爪 ¹² 找 ¹³ □ ¹⁴	罩灶	
ts ^h	操抄 ¹⁵ □ ¹⁶		草炒吵钞	操糙剿	
ɕ					□ ¹⁷
s	骚臊稍□ ¹⁸		扫 ¹⁹ 嫂	燥□ ²⁰	
z		曹槽皂造□ ²¹ □ ²²			
k	高膏糕交郊胶菱		稿皎狡较搅 ²³ 搞	告教 ²⁴ 较 ²⁵ 觉 ²⁶	
k ^h	敲烤		考	靠	
ŋ		熬	咬		傲熬
h	□ ²⁷		好 ¹	好 ² 耗酵孝哮	

- 1 「(球を) 打つ」
- 2 “卵~”「女性器」
- 3 “~步”「走る」
- 4 “水~”「お茶をいれる」
- 5 (名詞)「かんな」
- 6 “~将”「マーじゃん」
- 7 “弗好「良くない」の合音
- 8 “打~”「打倒する」
- 9 “~水”「水を注ぐ」
- 10 “一~”「一重ね(紙など)」
- 11 “一~”「一周り」
- 12 “鸡脚~”「鶏の脚」
- 13 “~钞票”「釣り銭を出す」
- 14 「巻く」
- 15 “~家”「家を差し押さえる」
- 16 「牛や羊などが角をつき合わせる」
- 17 「入れ替える」
- 18 “犁壁~”「鋤のへら」
- 19 “~地”「地面を掃く」
- 20 “□^{hɔ}¹³~”「素早い」
- 21 “唠~”「ぶつぶつ言う」
- 22 “弗□^{tsɿ}⁵³~”「非常に」
- 23 「攪拌する、混ぜる」
- 24 “~书”「教師として勉強を教える」、「~育」「教育」
- 25 “比~”「比べる」
- 26 “睏~”「眠る」
- 27 “~猪”「ハリネズミ」

ひ		豪 ³ 壕 ¹ 毫 ⁴			号 ⁵ 效 ⁶ 校 ⁷ 浩 ⁶ 祆 ⁷
0	返 ⁸			奥 ⁹ 懊 ⁹ 忒 ¹⁰	

-
- 1 (形容詞)「良い」
 - 2 「好む」
 - 3 「犬が吠える」
 - 4 (助詞)
 - 5 “~碼”「番号」
 - 6 “~長”「校長」
 - 7 「(紙を)折る」
 - 8 「叫ぶ、呼ぶ」
 - 9 “珠~”「珠忒(地名)」
 - 10 「支える、手を貸す」

io	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	标標彪		表錶錶		
p ^h	飄		漂 ¹	票漂 ²	
b		瓢嫖藻 ³			
m		苗描謬	秒渺		庙妙
f			□ ⁴		
t	刁貂雕□ ⁵			钓吊	
t ^h	挑 ⁶			跳	
d		条调 ⁷ 答			调 ⁸ □ ⁹
l		捞聊辽廖	了 ¹⁰		料□ ¹¹ □ ¹²
tʃ	焦蕉椒招			照	
tʃ ^h	锹超抄 ¹³			俏	
ʈʂ		朝 ¹⁴ 潮赵兆召			
ʃ	消宵霄硝销烧萧箫		小少 ¹⁵	笑少 ¹⁶	
ʒ		绍			邵
c	骄娇浇		缴	叫校 ¹⁷	
c ^h	跷□ ¹⁸		巧□ ¹⁹	窍	
ʃ		乔侨桥莽□ ²⁰ □ ²¹ □ ²²			轿
ʃ		饶绕尧尿 ₂	鸟 ²³		
ʃ	器□ ²⁴		晓		
fi		摇窑姚□ ₂ ²⁵			耀鹞 ²⁶ 跃

- 1 “~白”「漂白する」
- 2 “~亮”「きれいだ」
- 3 「浮き草」
- 4 “弗晓”の合音。“~得”「知らない」
- 5 “酒~”「酒甕」
- 6 “~刺”「あら探しをする」
- 7 “~查”「調査する」
- 8 “~动”「(人を)動かす、動員する」、 “腔~”「節回し、口調」
- 9 “~□tsɿ³¹”「もし」
- 10 “~结”「決着をつける」、 “~解”「理解する」
- 11 「手を伸ばして取る」
- 12 “~稻秆”「藁を束ねる」
- 13 “~写”「書き写す」
- 14 “~代”「王朝」
- 15 “多~”「多少、いくらか」
- 16 “~年”「少年」
- 17 “上~”「大佐に当たる軍の階級」
- 18 「(布団や鍋蓋を)めくる、開ける」
- 19 「安い」
- 20 「(耳垢を)ほじる」
- 21 「支える、手を貸す」
- 22 「卸売りする」
- 23 “□toʔ⁵木~”「きつつき」
- 24 「狡猾である」
- 25 (助詞)
- 26 “紙~”「凧」

0	妖邀腰要 ¹ 凹		呂	要 ² □ ³	
---	---------------------	--	---	-------------------------------	--

1 “~求”「要求する」

2 「~したい」、「重~」「重要である」

3 “一~褲”「一着のズボン」

o	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	波菠坡玻巴 ¹ 芭疤		把 ²		
p ^h				破 ³ 怕 ⁴	
b		婆巴 ⁵ 爬琶杷钋菩			耙□ ⁶
m		魔磨 ⁷ 摩麻 ⁸ 麻蟆模 ⁹ 摹 □ ¹⁰ □ ¹¹	马码		磨 ¹² 暮慕墓募
t	多		朵	剝	
t ^h	拖 ₂		妥楠		
d		驼驮 ¹³ 舵惰陀 ¹⁴			大 ¹⁵
n		挪 ¹⁶ 哪 ¹⁷ 掇 ¹⁸	哪		糯
l	啰 ¹⁹	罗锣箩螺蜗鸱萝	虏裸□ ²⁰ □ ²¹ □ ²²		
ts	楂渣遮吒 ²³		左佐□ ²⁴ □ ²⁵	榨蔗做□ ²⁶	
ts ^h	搓叉杈差 ²⁷ 车 ²⁸			锉岔	
ʈʂ		茶查 ²⁹			
s	蓑梭嗦沙 ₁ 纱痧砂奢衫		锁捨	赦晒舍□ ³⁰	
z		坐蛇畚社麝 ₂ 余			座 ³¹ 射麝 ₁
k	哥歌戈家 ₁ 加嘉 ³² 佳		果假 ¹ 贾	假 ² 架驾 ₁ 嫁价□ ³	

- 1 “尾~”「しっぽ」
- 2 “一~”「ひとつかみ」
- 3 「切り開く」
- 4 “~倒霉”「恥ずかしがる」
- 5 “下~”「下あご」
- 6 「歯が出ている」
- 7 (動詞)「こする」
- 8 “莧~”「ヒマ (植物)」
- 9 “~具”「金型」、 “~范”「模範」
- 10 「砂を握る」
- 11 “~蚣”「バッタ」
- 12 (名詞)「挽き臼」
- 13 「持つ、抱える」
- 14 “阿弥~佛”「阿弥陀仏」
- 15 “~细”「大小」
- 16 “~用”「(資金を) 転用する」
- 17 “~吒”「哪吒太子」
- 18 「(体、衣服を) 揉む」
- 19 “~嗦”「くどくどしい」
- 20 「(服を) めくる」
- 21 「(菜っ葉を) ゆがく」
- 22 「(川などを) 歩いて渡る」
- 23 “哪~”「哪吒太子」
- 24 “~队”「一緒に」
- 25 “~公”「先祖」
- 26 “~~”「鶏を呼ぶ声」
- 27 “~弗多”「あまり差がない」
- 28 “汽~”「自動車」
- 29 “调~”「調査する」
- 30 “~□tɕyoʔ²⁵□ciəŋ³¹”「小ぶりのセミ」
- 31 “~位”「空席」
- 32 “~兴”「嘉興 (地名)」

k ^h	科窠		可	课□ ⁴ 颗	
ŋ		蛾俄牙芽衙 ₁	雅瓦		鹅 ⁵ 饿 ⁶ 卧
h	虾		火伙□ ⁷	货	
fi		河何荷 ⁸ □ ⁹ 霞			贺和 ¹⁰ 霞 ₁ 夏厦 ¹¹
0	阿 ¹² 窝鸦桠蜗锅 ¹³ □ ¹⁴		祸下 ¹⁵ 哑亚 ₁	扭 ¹⁶	

-
- 1 “真~”「真偽」
 - 2 “放~”「休暇」
 - 3 “天~”「天気」
 - 4 「つかむ、持つ」
 - 5 (読書音)
 - 6 (読書音)
 - 7 「(帽子を)脱ぐ」
 - 8 “~花”「蓮の花」、 “薄~”「ハッカ」
 - 9 “~头”「棺桶の両端の木の板」
 - 10 「混ぜ合わす」、 “~气”「穏やかである」
 - 11 “~门”「厦門」
 - 12 “~弥陀佛”「阿弥陀仏」
 - 13 “~炉”「ボイラー」
 - 14 「(肉を)煮込む」
 - 15 “~头”「下」
 - 16 「押しつける」

æ	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p ^h				剖 ¹	
m		谋	牡母 ²		茂留矛
f			否		
t	兜		斗 ³ 抖	鬥	
t ^h	偷		敌 ⁴	透特 ⁵	
d		头投			豆□ ⁶
l	□ ⁷	楼			漏
ts			走 ⁸	奏皱	
ts ^h				凑	
ɕ					驟
s	搜			嗽	
z		愁			
k	勾钩沟		狗	够构购	
k ^h			口	叩扣寇□ ⁹	
g		□ ¹⁰			
ŋ		牛	藕偶		
h	伺 ¹¹		□ ¹²	蚩 ¹³ 鼯 ¹⁴	
ɦ		候喉 ¹⁵ 猴 ¹⁶			候□ ¹⁷ □ ¹⁸
0	欧瓿呕殴		後后厚		

1 (読書音)

2 “~亲”「母親」

3 (単位)

4 「開く、広げる」、 “~气”「深呼吸する」

5 “模~”「モデル」

6 “~死”「薬殺する」

7 「掘る」

8 “~棋”「象棋を指す」

9 “~好”「ちょうど」、 “~到”「着いたばかり」

10 「屈める」

11 “~背”「せむしの人」

12 「ありったけの力でたたく」

13 「カブトガニ」

14 “打~睡”「いびきをかく」

15 (読書音)

16 (読書音)

17 (動詞)「譲る」

18 「非常に」

iəu	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
l		流刘留榴琉琉溜溜	柳		
tɕ	周舟州洲		酒帚	昼咒	
tɕ ^h	秋 ¹ 鞦抽		丑醜	臭	
ɕ		囚绸稠筹仇酬			售
ɕ	修收		手首守	秀锈锈兽	
ʒ		受			就袖寿授
c	纠阄□ ² □ ³		九久	救究	
c ^h	□ ⁴ 丘				
ʃ		求球白			旧灸 ⁵
ɲ	□ ⁶		纽扭有 ⁷ □ ⁸	□ ⁹ □ ¹⁰	
ʃ	休□ ¹¹		朽		
ɦ		由油游			诱又 ¹² 佑釉
0	优忧幽□ ¹³ 幼□ ¹⁴	尤邮	有友酉右		

-
- 1 “~天”「秋」、「~千」「ブランコ」
 - 2 “蟑~”「カマキリ」
 - 3 “鲤~”「コイ」
 - 4 「箍」、(名詞)「たが」、(動詞)「きつく巻き付ける、たがをはめる」
 - 5 “针~”「鍼灸」
 - 6 「(肌を) つねる」
 - 7 “无~”「無い」
 - 8 「捏ねてひとかたまりにする」
 - 9 「(目を) 閉じる」
 - 10 “~~”「ブタさん (幼児語)」
 - 11 「いぼ」
 - 12 (読書音)
 - 13 「隠れる」
 - 14 “~籃”「赤ちゃんが寝るためのかご」

ā	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	绷 ¹				
p ^h			砰 ²		
b		蚌彭 ³ □ ⁴ □ ⁵			膨髟 ⁶ □ ⁷ □ ⁸
m		盲 ⁹ 虻孟□ ¹⁰	猛		盲 ¹¹
t			打		
n					□ ¹²
l			冷		
ts			争睁 ¹³ □ ¹⁴		
ts ^h	撑□ ¹⁵			□ ¹⁶	
ʈʂ					□ ¹⁷ □ ¹⁸
s	生牲甥		省 ¹⁹		
k	更 ²⁰ 庚羹耕		梗 ²¹ 耿	更 ²² □ ²³	
k ^h	坑				
g		□ ²⁴			
ŋ					硬
ʃ		行 ²⁵ 衡桁			
0	櫻 ²⁶ □ ²⁷ □ ²⁸		杏幸		

-
- 1 “棕~”「シュロで編んだ床」
 - 2 「銃声」
 - 3 “肋~骨”「肋骨」
 - 4 「力を使って壊す」
 - 5 「投げる」
 - 6 「甕」
 - 7 “~着”「遭遇する」
 - 8 “聋~”「聾の人」
 - 9 “文~”「文盲」
 - 10 “~坑头”「粗末な便所」
 - 11 “摸~”
 - 12 “~起”「起き上がる」
 - 13 “手~头”「ひじ」
 - 14 “树~头”「木の節」
 - 15 「(目を)開く、(口を)開ける」
 - 16 「もがく」
 - 17 「詰め込む」
 - 18 (動詞)「穴を開ける」
 - 19 “~长”「省長」、 “节~”「節約」
 - 20 “三~”「真夜中」
 - 21 “~塞”「ふさがる」、 “桔~”「キキョウ (植物)」
 - 22 “~加”「更に」
 - 23 「草むらの中を無理やり進む」
 - 24 「詰まる」
 - 25 “~为”「行為」
 - 26 “~株”「さくらんぼ」
 - 27 「寄り添う」
 - 28 “小~刀儿”「ナイフ」

iā	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
l		良凉量 ¹ 粮梁梁	两 ²		亮凉量 ³ 輛
tɕ	将 ⁴ 浆张		蒋奖浆长 ⁵ 涨	酱将 ⁶ 帐账胀□ ⁷ 仗	
tɕ ^h	枪		抢厂	畅创□ ⁸	
dʒ		长 ⁹ 肠场丈杖			
ɕ	相 ¹⁰ 箱厢湘镶商伤		想羞	相 ¹¹	
ʒ		墙详祥象像橡			匠让
c	疆薑纒姜				
c ^h	腔				
ʃ		强 ¹²			
ɲ		娘□ ¹³ □ ¹⁴	仰	□ ¹⁵	酿让
ç	香乡□ ¹⁶		享响	向	
ɦ		羊洋烺杨阳扬痒 □ ¹⁷ □ ¹⁸			样
0	央秧		养痒		

uā	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
k			梗 ¹⁹ □ ²⁰		
ɦ		横			

-
- 1 (動詞)「量る」
 - 2 “~个”「二つ」、「二~酒」「二両(100グラム)の酒」
 - 3 “数~”「数量」
 - 4 “~来”「将来」
 - 5 “县~”「県長」
 - 6 “大~”「大将」
 - 7 「充分に水を吸う」
 - 8 “~□”「現在」
 - 9 “~短”「長短」
 - 10 “问问~”「試しにきいてみる」
 - 11 “望~”「看相」
 - 12 “~盗”「強盗」、「勉~」「強制する」
 - 13 “~鱼”「アユ」
 - 14 “核儿”「核」
 - 15 “天~”「明日」
 - 16 “钉~”「イヤリング」
 - 17 “溃~”「潰瘍」
 - 18 “□~”「大きめのセミ」
 - 19 “菜~”「茎」
 - 20 (量詞)

ō	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	帮邦磅浜 ¹		榜绑	泵	
p ^h				胖	
b		旁庞棒			
m		忙芒 ² 茫	莽蟒网		忘 ₁ 望 ₁
f	方肪芳		仿纺访	放	
v		妨房防亡			忘 ₂ 妄望 ₂
t	当 ³ 档		党挡	当 ⁴ 档□ ⁵	
t ^h	汤		□ ⁶	烫□ ⁷	
d		堂棠唐糖塘			荡 ⁸
n		□ ⁹			攘 ¹⁰
l		郎廊狼榔茺 ¹¹	朗□ ¹²	□ ¹³	浪□ ¹⁴
ts	庄装 ¹⁵ 章樟樟璋		掌	葬障脏脏 ¹⁶	
ts ^h	仓苍疮昌菖			唱倡	
s	桑丧霜□ ¹⁷		磔爽赏		
z		床常尝裳偿上 ¹⁸			状上 ¹⁹ 尚藏 ²⁰ 脏 ²¹
k	冈 ²² 钢纲缸扛 ²³ 光江 缸		广讲港	降 ²⁴ □ ²⁵ 刚 ²⁶ 岗杠	
k ^h	康糠			抗园肮吭坑 ²⁷	

-
- 1 “沙家~”「沙家浜」
 - 2 “~果”「マンゴー」
 - 3 “~时”「当時」、「~兵」「兵士になる」
 - 4 「質に入れる」
 - 5 「両手で力を入れて押す」
 - 6 「(皿や器を) 手にのせる」
 - 7 “光~”「つつるつつるしている」
 - 8 「ぶらぶらする」、「~秋千」「ぶらんこを揺らす」
 - 9 “~时”「いまごろ」
 - 10 「押す」
 - 11 “~蕘”「ワラビ (植物)」
 - 12 「稀である」
 - 13 “□da¹³~雨”「台風の時期の降ったり止んだりする雨」
 - 14 「陰干しする」
 - 15 “~车”「車に乗せる」、「する」
 - 16 “肮~”「汚い」
 - 17 “~□fia²²”「大きめのセミ」
 - 18 “~山”「山に登る」
 - 19 “~头”「上」
 - 20 “西~”「チベット」
 - 21 “心~”「心臓」
 - 22 “井~山”「井剛山」
 - 23 「上げる」
 - 24 “~落”
 - 25 “河~”「河岸」
 - 26 (読書音)
 - 27 「あなぐら」

g		□ ¹ □ ²			□ ³
h	荒慌		荒晃		
fi		行 ⁴ 航杭黄簧皇蝗王 凰降 ⁵			巷旺
0	汪		枉项	肮	

-
- 1 “一~字”「一行の文字」
 - 2 “地~畦沟”
 - 3 「二つの足場に板を架ける」
 - 4 “银~”「銀行」
 - 5 “投~”「投降する」

yō	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
tɕ	桩			壮	
tɕ ^h	窗		闯		
ɕ		旁庞棒			撞□ ¹
ɕ	双			□ ²	
c ^h	匡				
f		狂			
ç				况	
0			往		

1 「繩が重さで垂れる」

2 「足の底で蹴る」

əŋ	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	奔		本	□ ¹	
p ^h	噴 ²			噴 ³	
b		盆朋			笨
m		门□ ⁴ 蚊盟		闷 ₁ 炯 ⁵	问 ₁ 闷 ₂
f	分芬纷		粉	奋	
v		焚坟文纹闻 ⁶ [弗+ 曾] ⁷			愤份问 ₂
t	敦墩登灯□		等	顿凳钝炖蹬 ⁸	
t ^h	吞褪□ ⁹				
d		屯饨臀囤盾腾藤邓 □ ¹⁰			钝遁
n		能宁 ₁	暖		嫩
l		仑伦沦轮			论
ts	尊遵曾 ¹¹ 增蹲 ¹²				
ts ^h	村		付	衬寸	
s	森参 ¹³ 孙孙僧		损	□ ¹⁴	
z		存层赠			
k	跟根		□ ¹⁵		
k ^h	啃		垦恳肯		
g		□ ¹⁶			
h	亨		狠很		
fi		恒			恨
0	恩				

-
- 1 “~萁”「みの」
 - 2 “~泉”「噴水」
 - 3 “~香”「よく香る」
 - 4 「覆う」
 - 5 「残り火を使って食べ物に火を通す」
 - 6 “新~”「ニュース」
 - 7 (副詞)「まだ」
 - 8 「足踏みする」
 - 9 「天気が悪い、水準が低い」
 - 10 “竖~□_{ji}³⁵³”「倒立する」
 - 11 (姓)
 - 12 「鉢のような陶器」
 - 13 “人~”「ニンジン」
 - 14 “□_{tse}³³~”「どうして」
 - 15 「蓋」
 - 16 “~籽树”「ナンキンハゼ (植物)」

iəŋ	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p	斌彬宾缤冰兵		稟丙饼□ ¹	柄併	
p ^h	□ ² 焅□ ³		品聘	拼 ⁴	
b		贫频凭平坪评瓶 ⁵ 屏 萍			病
m		民□ ⁶ 鸣明名眠	闽敏		命
t	丁钉 ⁷ 疔		顶	□ ⁸ 钉 ⁹ 订瞪	
t ^h	厅		艇挺	听	
d		亭停廷庭蜓			定□ ¹⁰
l	林淋临邻鳞磷陵凌 菱灵零铃	□ ¹¹	领岭		令另
tɕ	襪 ¹² 针津珍真砧诊 疹徵蒸精 ¹³ 晶睛贞 侦正 ¹⁴ 征		枕拯井整	浸进晋镇振震□ ¹⁵ 证症正 ¹⁶ 政甑	
tɕ ^h	亲称清青		寝请侵	秤蛭	
ɕ		沉陈尘惩橙滕 ¹⁷ 呈 程情 ₂			阵剩郑□ ¹⁸
ɕ	心芯深伸 ¹⁹ 辛新薪 身申升声星腥□ ²⁰		沈审醒	渗信讯迅殉胜姓性 圣□ ²¹	
ʐ		寻匆秦尽神臣辰肾 ²² 仁覃绳乘承丞情 ₁ 晴靖静成城诚			甚任 ²³ 净盛 ²⁴

- 1 “冻~”「しもやけ」
- 2 “竹~”
- 3 “~钹”「谷钹」
- 4 “~命”「命をかける」、「~湊”「寄せ集める」
- 5 “热水~”「魔法瓶」
- 6 “~瓦”「砚台」
- 7 (名詞)
- 8 「水で清める」
- 9 (動詞)
- 10 “~被”
- 11 「哇」
- 12 “锄头~”「鋤のうえのくさび」、(動詞)「ふさぐ」
- 13 “~神”「精神」
- 14 “~月”「正月」
- 15 「粒の小さな栗の一種」
- 16 “~反”「正反」
- 17 “东~”「東脞(地名)」
- 18 “一~”(量詞)
- 19 (読書音)
- 20 “□k^hu³¹~头”「朝」
- 21 “喫茶~”「漢方薬を飲む(婉曲的な言い方)」
- 22 (読書音)
- 23 “责~”「責任」
- 24 “茂~”「茂る」

c	今 ₂ 金襟巾斤筋茎 京荆惊 ¹ 经□ ²		锦□ ³ 紧境景警颈	禁 ⁴ 劲敬镜径竟	
c ^h	卿轻		倾	钦揄庆顷	
j		琴禽擒勤芹近鲸竟			□ ⁵ □(铜)
ɲ		人银仍蝇迎宁 ₂	忍		认任(姓)韧
ç	欣 ₁ 兴□ ⁶ □ ⁷		擗	欣 ₂ 兴	
fi		淫寅盈赢形型刑营 萤荧			
0	音阴荫因姻殷莺鸚 英婴纓应 ⁸		饮引隐影颖□ ⁹	印映应 ¹⁰	

-
- 1 “~蛰”「啓蟄」
 - 2 “□so⁴⁴□tɕyo?⁵~”「小ぶりなセミ」
 - 3 “面~□ku⁵³”「頬」
 - 4 “~止”「禁止する」
 - 5 「自戒」
 - 6 “绍~”「紹興(地名)」
 - 7 “~蜓”「トンボ」
 - 8 “~该”「~のはずである」
 - 9 “~□zie?²³□vəŋ²⁴³儿”「トカゲ」
 - 10 “答~”「引き受ける」

uəŋ	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
k	昆崑		滾	棍□ ¹ □ ²	
k ^h	坤昏 ³		捆	困暍	
g		□ ⁴ 灌 ⁵			
h	昏 ⁶ 婚葷				
fi		魂馄			
0	温瘟		浑穩混		

yəŋ	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
tɕ	肫 ⁷		準准	俊	
tɕ ^h	椿春				
ɕ	笋榘			□ ⁸ 旬舜	
ʐ		巡循唇纯醇			顺润
c	均君军				
c ^h	菌				
f		裙			群
ɲ					□ ⁹
ɕ	薰 ¹⁰			□ ¹¹ 训勋	
fi		匀云雲耘			闰熨 ¹² 运
0			允		

-
- 1 「いぶす」
 - 2 「ごっごっしている」
 - 3 “黄~头”「黄昏」
 - 4 「くじく」
 - 5 「ただれる」
 - 6 “头~”「目眩がする」
 - 7 “鸡~”「砂肝」
 - 8 「険しい」
 - 9 「食べ物が湿気る」
 - 10 (読書音)
 - 11 「臭いをかぐ」
 - 12 “~斗”「アイロン」

on	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
p ^h			捧	碰	
b		棚 ¹ 蓬篷 ²			
m		蒙芒 ³			梦
f	风枫疯丰封峰峰锋 讽 ⁴				
v		冯逢缝 ⁵ 奉俸			凤缝 ⁶ [弗+用] ⁷
t	东冬		懂懂	冻栋□ ⁸	
t ^h	通		统	痛	
d		同铜桐筒童动桶			洞
n		农脓		□ ⁹	
l		笼聋隆龙咙砉□ ¹⁰	拢拢莖□ ¹¹		弄
ts	棕鬃宗踪踪		总	棕纵	
ts ^h	聪匆葱				
s	鬆			送宋□ ¹²	
z		丛 ¹³ 崇 ₁ 茸			讼
k	公工功		汞	攻贡	
k ^h	空 ¹⁴ 空 ¹⁵		孔控	空	
h	烘		哄 ¹⁶	轰	
fi		红虹 ¹⁷ 宏弘洪			
0	翁				

-
- 1 “搭~”「足場」
 - 2 “~尘”「ホコリ」
 - 3 “麦~”「麦ののぎ」
 - 4 “~刺”「風刺」
 - 5 (動詞)
 - 6 (名詞)
 - 7 「必要ない」
 - 8 “□~”「畦の隆起した部分」
 - 9 “挤~”「多くの人が很多人行き交う」
 - 10 「伸びる」
 - 11 “合~”「一緒になって人をばかにする」
 - 12 “弄~”「挑発する」
 - 13 “~书”「叢書」
 - 14 “~心”「空洞になっている」
 - 15 “有~”「空き時間がある」
 - 16 “起~”「大騒ぎする」
 - 17 (読書音)

yoŋ	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
tɕ	精中 ¹ 忠終鐘鍾盅□ ²		种 ³ 肿	中 ⁴ 众种 ⁵	
tɕ ^h	充冲鹵		宠	铤 ⁶	
ɕ		虫重 ⁷			仲
ɕ	春嵩 ⁸				
ʒ		从松 ⁹ 绒崇 ₂			诵颂
c	弓躬宫恭供 ¹⁰		巩		
c ^h			恐		
ʃ		琼穷			共 ¹¹
ɲ		浓			
ɕ	兄胸凶兇				
ɦ		荣熊雄融容蓉熔			用
0	雍拥塢 ¹² 庸		永泳咏甬勇涌		

-
- 1 “~心”「中心」
 - 2 “~生”「家畜」
 - 3 “~类”「種類」
 - 4 “射~”「命中する」
 - 5 “~树”「木を植える」
 - 6 “打瞌~”「うとうとする」
 - 7 “~复”「重複」、「轻~」「軽重」
 - 8 「嚴嵩（人名）」
 - 9 “~树”「松」
 - 10 “~给”「供養する」
 - 11 “一~”「全部で」、「~班」「同班」
 - 12 （形容詞）「灰尘大」、「~埴」「灰尘」

ɐʔ	陰入 5	陽入 23
p	百柏伯迫□ ¹	
p ^h	拍魄	
b		白
m		麦脉□ ² □ ³
ts	摘责隻 ⁴ 灸 ⁵ □ ⁶ □ ⁷	
ts ^h	拆坼 ⁸ 策册	
ɬ		泽宅
s	柵 ⁹	
z		□(滑(倒))
k	格革隔	
k ^h	客	
g		□ ¹⁰ □ ¹¹
ŋ	□ ¹²	额
h	赫	
0	扼輓□ ¹³	

1 “□”「貼る、貼り付ける」

2 “~夹”「女の子の生殖器を親しみを込めて言った表現。女の子を指すこともできる。」

3 “~□儿 da³⁴³”「穴の大きなふるい」

4 “一~鸡”「一羽の鶏」

5 “~日头”「日向ぼっこをする」

6 「絡みつく、足をかける、つまづく」

7 “~□səŋ⁴⁴”「どうして」

8 “皴”「しわ」

9 “□fu³³炉~”「ストーブの鉄柵」

10 “~棉花”「綿花の種をとる」

11 「水に漂うものが遮られる」

12 「ひねくれている」

13 「~も」

ie?	陰入 5	陽入 23
l		略掠
tɕ	着 ¹ □ ²	
tɕ ^h	鹊雀 ³	
dʒ		着 ⁴ □ ⁵
ɕ	削	
ʒ		芍若弱诺
c	脚胛	
c ^h	却	
ʃ		刷
ʃ̥		虐疟箬匿
ɦ		阅悦越穴药
0	约	

ue?	陰入 5	陽入 23
k	□ ⁶	
ɦ		获划 ⁷ 猾

-
- 1 (動詞)「着る」
 - 2 “~嘴”「口」
 - 3 “孔~”「クジャク」
 - 4 “火~”「火事になる」
 - 5 “打~□ル liəŋ³⁴³”「病気を患う」
 - 6 “~裂”
 - 7 “计~”「計画」

ʌʔ	陰入 5	陽入 23
p	八	
b		拔□ ¹ □ ² □ ³ □ ⁴
m		袜
f	法髮發	
v		乏伐筏罰□ ⁵
t	搭答 ⁶ 搭 ⁷ 遍 ⁸ 得 ¹ □ ⁹ □ ¹⁰ □ ¹¹ □ ¹² □ ¹³	
t ^h	塔癩□ ¹⁴ □ ¹⁵ 坦 ¹⁶	
d		踏达
n		纳捺 ¹⁷ □ ¹⁸ □ ¹⁹
l		辣腊蜡猎獵獵 ²⁰ 拉 ²¹ 肋得 ²
ts	扎 ²² 撒 ²³	
ts ^h	插擦察	
s	萨杀□ ²⁴ □ ²⁵	
z		闸□ ²⁶
k	甲夹袂挾 ²⁷ 峡 ²⁸ 个 ² □ ²⁹ □ ³⁰ □ ³¹ □ ³²	
k ^h	掐□ ¹	

-
- 1 “~肚”「おなかを壊す」
 - 2 「(こそ泥を) 捕まえる」
 - 3 “我~去”「私はすぐ行く」
 - 4 “~直”「まっすぐである」
 - 5 「あぶく」
 - 6 “~应”「返事をする、承諾する」
 - 7 “~袋”「洋服のポケット」
 - 8 “~邋~”「汚い」
 - 9 “我~你”「私とあなた」
 - 10 (方位詞)「上」
 - 11 “~肚”「おなか」
 - 12 “个~”「ここ」
 - 13 “□nʌʔ²³母~”「畜生め」に相当する
 - 14 「つける、塗る」
 - 15 「いためる」
 - 16 “~克”「戦車」
 - 17 「(茶碗のふちを) 覆う」「押す、押さえる」
 - 18 “~母□tsʔ²⁰” 「畜生め」に相当する
 - 19 “~头”「小さな四角い腰かけ」
 - 20 “~邋”「汚い」
 - 21 “伊~克”「イラク (国名)」
 - 22 “~实”「丈夫である」
 - 23 「袋の中の物が散らばる」、「~谷籽」「種もみをまく」
 - 24 “~□kʌʔ²⁵”「きつい、ひどい」
 - 25 “马头~”「馬頭墙」
 - 26 「である」
 - 27 “~菜”「料理をとる」
 - 28 “三~”「三峡」
 - 29 “~榄”「オリーブ」
 - 30 “~蝻儿”「バッタ」
 - 31 「まばたきをする」
 - 32 “□sʌʔ⁴~”「厉害」

g		挟 ² □ ³ □ ⁴ 略 ⁵
h	瞎喝□ ⁶	
fi		狭辖□ ⁷
0	压押鸭	

-
- 1 “手~窩儿”「腋の下のくぼんだところ」
 - 2 「脇の下に挟む、(かごを) もつ」
 - 3 “~姘头”「不適切な男女関係を持つ」
 - 4 「抱擁する」
 - 5 “~~抖”「クックッと身体が震える」
 - 6 “肚~”「空腹である」
 - 7 “谷~”「もみを蓄えるタンス」

u3?	陰入 5	陽入 23
k	括刮	
h	豁 ¹ 忽□ ²	
0	挖	

1 “~拳” 「じゃんけんをする・拳を打つ」

2 「振る・振り回す」

ie?	陰入 5	陽入 23
p	罄笔滄毕必瘳逼碧壁	
p ^h	撇匹[月+匹] ¹ 僻辟劈	
b		别鼻整 ²
m	滅 ³	灭密蜜□ ⁴
t	跌 ⁵ 的 ⁶ 滴 ⁷ 嫡点 ₃	
t ^h	贴帖铁踢剔□ ⁸ □ ⁹	
d		叠碟谍蝶笛敌彘
l		立列烈裂劣栗力歷曆□ ¹⁰ □ ¹¹ □ ¹²
tɕ	侧 ¹³ 接折 ¹⁴ 执汁哲浙节质即鲫织职积迹脊隻 ¹⁵ 绩□ ¹⁶ 截	
tɕ ^h	辑辑彻切七漆赤尺戚□ ¹⁷	
ɕ		蛰撤侄秩直值植殖擲 ¹⁸
ɕ	摄湿薛闪虱失室息熄识式饰惜释适锡析□ ¹⁹	
ʒ		捷涉集携习袭十什 ²⁰ 拾入舌疾实食藉席夕石□ ²¹
c	急级给 ²² 结洁吉击激□ ²³	
c ^h	却揭挈 ²⁴ 讫乞起□ ²⁵	
ʃ		及 ²⁶ 杰极
ʃ ^h		聂业热孽捏日逆□ ²⁷
ç	胁吸歇 ²⁸	

-
- 1 「女性器」
 - 2 「劣っている」
 - 3 「ひねる」
 - 4 “手□tɕie?⁵~头”「手の指」
 - 5 (読書音)
 - 6 “目~”「目的」
 - 7 (読書音)
 - 8 「きわめて」
 - 9 「このように」
 - 10 「水気をとる」
 - 11 “箒~钯”「松葉を集める道具」
 - 12 “□tɕir⁵³~”「菓子・軽食」
 - 13 「傾いて倒れる」
 - 14 「折り畳む」
 - 15 “独~手”「一本腕」
 - 16 “手~□mie?²³头”「手の指」
 - 17 「斜めに雨が降る、雨量が多い」
 - 18 (読書音)
 - 19 「牛を右に曲がらせるための掛け声」
 - 20 “~锦菜”「取り合わせの料理」
 - 21 “□iaŋ⁵³~□vəŋ³⁴³儿”「トカゲ」
 - 22 “供~”「供給する」
 - 23 「(箒で) はさむ」
 - 24 「手でささげる」
 - 25 “□nie?²³~”「(子供の) 落ち着きがない」
 - 26 “~格”「合格する」
 - 27 “~□c^hie?²⁵”「(子供の) 落ち着きがない」
 - 28 「休む」

h		叶页协亦 ¹ 译易 ² 液腋 ³
0	乙一益	

¹ 「また」

² “交~”「取引」

³ (読書音)

uəʔ	陰入 5	陽入 23
k	骨	
k ^h	阔窟	
g		□ ¹
ɦ		活滑划 ²
0	会 ³ □ ⁴	

1 「豪快に飲む」

2 “~算”「胸算用をする」

3 “~骑车”「自転車に乗れる」、「~吃饱」「腹一杯にできる」

4 “~水”「潜水して泳ぐ」

øʔ	陰入 5	陽入 23
p	不 ¹ □ ² □ ³	
p ^h	泼拨	
m		没 ⁴ 末沫抹 ⁵ 物 ⁶
f	弗 ⁷ 彿 ⁸	
v		佛物 ⁹
t	答 ¹⁰ 德掇 ¹¹ □ ¹² □ ¹³	
t ^h	脱秃	
d		夺突特 ¹⁴
l	粒	捋律勒□ ¹⁵
ts	卒则□ ¹⁶	
ts ^h	撮侧 ¹⁷ 测	
s	塞色索 ¹⁸ □ ¹⁹	
z	杂贼	
k	合 ²⁰ 割葛蛤 ²¹	
k ^h	磕瞌咳克刻	
g		□ ²²
h	黑	
ɦ		合 ²³ 盒核 ²⁴ □ ²⁵

-
- 1 (読書音)
 - 2 「与える」、「～を (…する)」
 - 3 “～斗” 「缶」、(動詞) 「つまむ」
 - 4 「溺れる」
 - 5 「ホコリを拭き取る」
 - 6 “～事” 「もの」
 - 7 「～でない」
 - 8 (読書音)
 - 9 “～理” 「道理」
 - 10 “回～” 「答える」
 - 11 「両手で捧げ持つ」
 - 12 「罵る」
 - 13 「時計の針の音」
 - 14 “～別” 「特別である」
 - 15 “～□søʔ⁵” 「ゴミ」
 - 16 “～谎” 「嘘をつく」
 - 17 “～面” 「側面」
 - 18 “勒～” 「ゆする、巻き上げる」
 - 19 “□løʔ²³” 「ゴミ」
 - 20 “～算” 「勘定に合う」
 - 21 “～蜊儿” 「シオフキ貝」
 - 22 「(かさぶたや氷が) 固まる」
 - 23 “結～” 「結びつける」
 - 24 “～桃” 「クルミ」
 - 25 “～□tɕ^{hy}” 「動物を追い払う時の掛け声」

yøʔ	陰入 5	陽入 23
tɕ	□ ¹	
tɕ ^h	出	
ɕ		□ ²
ɕ	刷雪说 ³ 戍蟀□ ⁴	
ʒ		绝术
c	决决橘菊	
c ^h	缺	
ɲ		月
ɕ	血	
ɦ		翼

-
- 1 「しっかりつかむ、引っ張る」
 - 2 「つまずいて倒れる音」
 - 3 “小~”「小説」
 - 4 「引き起こす」

ㄛʔ	陰入 5	陽入 23
p	博剥膊鸮 ¹	
b		薄 ² 雹泊箔瀑□ ³
m		膜幕摸摸 ⁴
t ^h	托託	
l		落骆烙烙络洛乐 ⁵ □ ⁶
ts	作斫 ⁷	
s	索 ⁸	
z		凿昨勺
k	各阁郭角觉 ⁹ □ ¹⁰	
k ^h	廓扩藿壳确□ ¹¹ □ ¹²	
ŋ	鄂鹤岳	
h	霍吓 ¹³	
fi		学醒 ¹⁴
0	恶握	

yㄛʔ	陰入 5	陽入 23
tɕ	捉 ¹⁵ 桌卓	
tɕ ^h	戳蚰 ¹⁶ 齧 ¹⁷	
ɕ		浊镯着 ¹⁸
ɕ	缩	
ɲ		□ ¹⁹

-
- 1 “~鸮”「ハト」
 - 2 “厚~”「厚み」、 “~荷”「ハッカ」
 - 3 「蚊に刺された後にできる腫れ物」
 - 4 “~特”「モデル」
 - 5 “快~”「楽しい」
 - 6 “~□k^hㄛʔ⁵”「強盗」
 - 7 「たたき斬る」
 - 8 “~钻”「大工が使う錐」
 - 9 “~悟”「目覚める」
 - 10 (小麦粉をこねて薄く円盤状に伸ばした食べ物を) 焼く」
 - 11 “□lㄛʔ²³~”「強盗」
 - 12 “清~”「きれい」
 - 13 「怖がる「脅かす」
 - 14 “~齧”「汚い」
 - 15 「かたづける、拾う」
 - 16 “~蟻”「ミミズ」
 - 17 “齧~”「汚い」
 - 18 “碰~”「ぶつかる」
 - 19 「(小麦粉を) こねる」

o?	陰入 5	陽入 23
p	北	
p ^h	朴 ¹ 扑覆 ²	
b		卜 ³ □ ⁴
m		默墨木目穆牧
f	福幅蝠复 ⁵ 腹覆 ⁶	
v		缚 ⁷ 服伏 ⁸ 袱
t	笃督□ ⁹ □ ¹⁰	
d		独读毒□ ¹¹
l	□ ¹²	鹿禄六陆录绿碌 ¹³
ts ^h	簇 ¹⁴	
s	速	
z		族□ ¹⁵
k	国谷穀□ ¹⁶ □ ¹⁷	
k ^h	哭	
fi		或域
0	屋	

1 “~素”「素朴である」

2 「腹ばいになる」

3 “~夢”「大根」

4 「皮膚にできるかたまり」

5 “重~”「重複する」、「~雑」「複雑だ」、「恢~」「回復する」

6 “~盖”「かぶさる」

7 “束~”「縛る」

8 “埋~”「潜伏する」

9 「(鶏や鳥が) ついばむ：(頭を) 垂れる」

10 「すべて」

11 “~~弾”「石蹴り遊び」

12 “~口”「口をすすぐ」

13 “骨~圓”「とてもまるい」

14 “~新”「新しい、最先端の」

15 「(鴨或いはガチョウが) ついばむ」

16 “~柵”「床板の下の木」

17 “~排凳”「四角の腰掛けの一種」

yoʔ	陰入 5	陽入 23
tɕ	只 ¹ 足竹筑祝烛□ ²	
tɕ ^h	喫促触	
ɕ		轴
ɕ	肃宿束	
ʒ		熟属俗续蜀辱
c	□ ³	
c ^h	屈麴曲	
ʃ		掘 ⁴ 局
ɲ		肉褥玉狱
ɕ	畜蓄	
ɦ		疫役育欲浴
0	郁	

成音節子音

	陰平 31	陽平 21	上声 53	陰去 44	陽去 113
m̩			某亩母 ⁵ □ ⁶		
n̩		儿尼泥倪宜仪谊疑毅	耳 ⁷ 女 ⁸		艺义议膩二貳□ ⁹
ŋ̩		吴鱼	五午 ¹⁰ 尔 ¹¹ □ ¹²		
l̩		而儿尔 ¹³			

1 “~有”「~してはじめて」

2 “□so⁴⁴~□ciəŋ³¹”「小ぶりのセミ」

3 「物体が突き出る」

4 “(挖~机)”「掘削機」

5 “阿~”「お母さん」

6 “□~”「アリ」

7 “~朵”「耳」

8 “男~”「男女」

9 「なぞなぞ」

10 “端~”「端午 (の節句)」

11 「あなた」

12 応答を表す。

13 “阿~及利亚”「アルジェリア」

付録2 臨海方言文法調査データ

ここに挙げた例文は『中国語言資源調査手冊』（pp.169-176）記載の50の例文と、それに対応する臨海方言の例文である。これらの例文は中国各地の方言調査の結果を踏まえ、方言間で差異が生じることの多い文法的な項目を織り込んで作られている。そのため、調査を行うことによって、当該方言の中国語方言としての特徴の一端を確認することができる。

これらの例文から得られた知見については、本論文の第二章にまとめてあるため、ここでは調査によって得られた文を列挙するのみとする。

【例文について】

- ・ 例文番号（0001～0050）の直後の文は標準中国語であり、「」内はその日本語訳である。
- ・ 例文の下にはインフォーマント（HH氏、BY氏、ZH氏、CP氏）による臨海方言の文とその発音がそれぞれ示されている。

【凡例】

- 漢字で表すことのできない語（直後に示された発音で読まれる）
- (●) 「●」は省略可能
- {●/○} 「●」と「○」のどちらも使用可能
- (※) 補足説明

0001. 小张昨天钓了一条大鱼，我没有钓到鱼。

「小张は昨日一匹の大きな魚を釣り、私は魚を釣ることができなかった。」

HH: 小张昨日_儿钓□lɜŋ⁰ 一□kuã⁵³ 大鱼，我无有钓着鱼。

çiɔ³³tɕiã³⁵³zɔŋ²ɲien²⁴²tiɔ⁴⁴lɜŋ⁰ieŋ⁵kuã⁵³do¹¹³ŋ²¹, ɲe⁵³m³³ɲiəu⁵³tiɔ⁴⁴ɬɕieŋ²⁰ŋ²¹

BY: 小张昨日_儿钓□lɜŋ⁰ 一□kuã⁵³ 大鱼，我无有钓着。

çiɔ³³tɕiã³⁵³zɔŋ²ɲien²⁴²tiɔ⁴⁴lɜŋ⁰ieŋ⁵kuã⁵³do¹¹³ŋ²¹, ɲe⁵³m³³ɲiəu⁵³tiɔ⁴⁴ɬɕieŋ²⁰

ZH: 小张昨日_儿钓□lɜŋ⁰ 一条大鱼，我无有钓到鱼。

çiɔ³³tɕiã³⁵³zɔŋ²ɲien²⁴²tiɔ⁴⁴lɜŋ⁰ieŋ⁵diɔ²²do¹¹³ŋ²¹, ɲe⁵³m³³ɲiəu⁵³tiɔ⁴⁴tɔ⁴⁴ŋ²¹

CP: 小张昨日_儿钓□lɜŋ⁰ 一□kuã⁵³ 大鱼，我无有钓来。

çiɔ³³tɕiã³⁵³zɔŋ²ɲien²⁴²tiɔ⁴⁴lɜŋ⁰ieŋ⁵kuã⁵³do¹¹³ŋ²¹, ɲe⁵³m³³ɲiəu⁵³tiɔ⁴⁴le²²

0002.a. 你平时抽烟吗?

「あなたは普段煙草を吸いますか?」

HH: 尔平时吃香烟哇?

ŋ⁵³biəŋ²²zɪ²⁴²tɕ^hyoŋ⁵çiã³⁵i²²ua⁰

BY: 尔平时吃香烟哇?

ŋ⁵³biəŋ²²zɪ²⁴²tɕ^hyoŋ⁵çiã³⁵i²²ua⁰

ZH: 尔平常抽弗抽烟?

ŋ⁵³biəŋ²²zɔ²⁴²tɕ^hyoŋ⁵çiã³⁵i²²

CP: 尔平时吃香烟□ue⁰?

ŋ⁵³biəŋ²²zɪ²⁴²tɕ^hyoŋ⁵çiã³⁵i²²ue⁰

0002.b. 不，我不抽烟。

「いいえ、私は煙草を吸いません。」

HH: 弗，我弗吃香烟。

fɔŋ⁵, ɲe⁵³fɔŋ⁵tɕ^hyoŋ⁵çiã³⁵i²²

BY: 弗，我弗吃个。

fɔŋ⁵, ɲe⁵³fɔŋ⁵tɕ^hyoŋ⁵ke⁴⁴

ZH: 弗抽。/弗抽烟。/弗。

fɔŋ⁵tɕ^hiəu³¹。 / fɔŋ⁵tɕ^hiəu³¹i²²。 / fɔŋ⁵。

CP: 弗，我弗吃个。

fɔŋ⁵, ɲe⁵³fɔŋ⁵tɕ^hyoŋ⁵ke⁴⁴

0003.a. 你告诉他这件事了吗?

「あなたは彼にこのことを伝えましたか?」

HH: 尔告诉渠□kɔŋ⁵件事干爻无有□e⁰?

ŋ⁵³kɔ⁵⁵su⁵⁵ge²¹kɔŋ³ɲi²¹zɪ³³kɔ²¹fiɔ⁰m³³ɲiəu⁵³e⁰?

BY: 尔搭渠讲□køŋ²⁵事干□fiə⁰哇?

ŋ⁵³tɜŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³køŋ²⁵zɿ³³kø²¹fiə⁰ua⁰?

ZH: □køŋ²⁵件事尔有无有搭渠讲爻□fiə⁰?

køŋ²⁵ɬɿ²¹zɿ³³ŋ⁵³iəu⁵³m³³ŋiəu⁵³tɜŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³fiə⁰fiə⁰?

CP: 尔搭渠讲过□køŋ²⁵事干爻□ue⁰?

ŋ⁵³tɜŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³ku⁴⁴køŋ²⁵zɿ³³kø²¹fiə⁰ue⁰?

0003.b. 是，我告诉他了。

「はい、私は彼に伝えました。」

HH: □ŋ⁵³，我告诉渠爻□fiə⁰。

ŋ⁵³，ŋe⁵³ko⁵⁵su⁵⁵ge²²fiə⁰fiə⁰

BY: 我搭渠讲爻□fiə⁰。

ŋe⁵³tɜŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³fiə⁰fiə⁰

ZH: □ŋ⁵³，搭渠讲爻□fiə⁰。

ŋ⁵³，tɜŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³fiə⁰fiə⁰

CP: □ŋ⁵³，对个，我搭渠讲过爻。

ŋ⁵³，te⁵⁵ke⁵⁵，ŋe⁵³tɜŋ²⁵ge²¹kɔ̃⁵³ku⁴⁴fiə⁰

0004. 你吃米饭还是吃馒头?

「あなたはご飯を食べますか？それともマントウを食べますか？」

HH: 尔吃米饭还是吃馒头?

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵mi²²vɛ²²⁴fiue²²zɿ²²tɕyoŋ²⁵mɛ²²dœ²⁴²?

BY: 尔吃饭还是吃馒头□ŋi⁰□e⁰?

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵vɛ²²⁴fiue²²zɿ²²tɕyoŋ²⁵mɛ²²dœ²⁴²ŋi⁰e⁰?

ZH: 尔吃米饭还是吃馒头□a⁰?

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵mi²²vɛ²²⁴fiue²²zɿ²²tɕyoŋ²⁵mɛ²²dœ²⁴²a⁰?

CP: 尔吃饭还是吃馒头?

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵vɛ²²⁴fiue²²zɿ²²tɕyoŋ²⁵mɛ²²dœ²⁴²?

0005. 你到底答应不答应他?

「あなたは結局彼に同意するのですか？しないのですか？」

HH: 尔到底答应弗答应渠?

ŋ⁵³tɔ̃³³ti⁵³tɜŋ²⁵iəŋ⁵⁵føŋ²⁵tɜŋ²⁵iəŋ⁵⁵ge²²?

BY: 尔到底答应弗答应渠?

ŋ⁵³tɔ̃³³ti⁵³tɜŋ²⁵iəŋ⁵⁵føŋ²⁵tɜŋ²⁵iəŋ⁵⁵ge²²?

ZH: 尔答应渠无有□a⁰?

ŋ⁵³tɜŋ²⁵iəŋ⁵⁵ge²²m³³ŋiəu⁵³a⁰?

尔到底有无有答应渠 a⁰?

ŋ⁵³tɔ³³ti⁵³iəu⁵³m³³niəu⁵³tɔ²iəŋ⁵⁵ge²²a⁰?

CP: 尔到底答弗答渠?

ŋ⁵³tɔ³³ti⁵³tɔ²fəŋ⁵⁵tɔ²ge²²?

尔到底无□kɔ⁵⁵弗无□kɔ⁵⁵渠?

ŋ⁵³tɔ³³ti⁵³m²²kɔ⁵⁵fəŋ⁵⁵m²²kɔ⁵⁵ge²²?

0006.a. 叫小强一起去电影院看《刘三姐》。

「小強を呼んで一緒に映画館へ行って『劉三姐』を観よう。」

HH: 叫小强□tso²²队搭电影院望《刘三姐》。

ciə⁴⁴ciə³³jiã³⁵³tso²²de²²⁴tɛŋ⁵⁵di¹¹³iəŋ⁵³fiyø¹¹³mɔ̃¹¹³liəu²²se²²tɕia²⁴²

BY: 叫小强□tso²²队去电影院望《刘三姐》。

ciə⁴⁴ciə³³jiã³⁵³tso²²de²²⁴k^he⁴⁴di¹¹³iəŋ⁵³fiyø¹¹³mɔ̃¹¹³liəu²²se²²tɕia²⁴²

叫小强□tso²²队去望电影《刘三姐》。

ciə⁴⁴ciə³³jiã³⁵³tso²²de²²⁴k^he⁴⁴mɔ̃¹¹³di¹¹³iəŋ⁵³liəu²²se²²tɕia²⁴²

ZH: 叫小强一起去电影院望《刘三姐》。

ciə⁴⁴ciə³³jiã³⁵³ieŋ²ci^hi⁵³k^he⁴⁴di¹¹³iəŋ⁵³fiyø¹¹³mɔ̃¹¹³liəu²²se²²tɕia²⁴²

CP: 叫小强□tso²²队搭电影院望《刘三姐》。

ciə⁴⁴ciə³³jiã³⁵³tso²²de²²⁴tɛŋ⁵⁵di¹¹³iəŋ⁵³fiyø¹¹³mɔ̃¹¹³liəu²²se²²tɕia²⁴²

0006.b. 这部电影他看过了。

「その映画なら彼は観たことがあるよ。」

HH: □køŋ⁵⁵场电影渠望过交□fiə⁰。

køŋ⁵⁵dziã³⁵³di³³iəŋ⁵³ge²¹mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiə⁰fiə⁰

BY: □køŋ⁵⁵电影渠望过□fiə⁰。

køŋ⁵⁵di³³iəŋ⁵³ge²¹mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiə⁰

渠望过□fiə⁰啦。

ge²²mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiə⁰la⁰

ZH: □køŋ⁵⁵部电影渠望过□fiə⁰(啦)。

køŋ⁵⁵bu²²⁴di³³iəŋ⁵³ge²¹mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiə⁰(la⁰)

CP: □køŋ⁵⁵部电影渠望过□fiə⁰。

køŋ⁵⁵bu²²⁴di³³iəŋ⁵³ge²¹mɔ̃¹¹³ku⁴⁴fiə⁰

0007. 你把碗洗一下。

「あなたはお碗を(ちょっと)洗って。」

HH: 尔拨碗洗□ɔ⁰。

ŋ⁵³pøŋ⁵⁵uø⁵³ci⁵³ɔ⁰

BY: 尔拨碗洗几。

ŋ⁵³pøŋ⁵³uø⁵³ci⁵³ci⁵³

ZH: 尔拨碗洗□a⁰。

ŋ⁵³pøŋ⁵³uø⁵³ci⁵³a⁰

CP: 尔拨碗洗几□e⁰。

ŋ⁵³pøŋ⁵³uø⁵³ci⁵³e⁰

0008. 他把橘子剥了皮，但是没吃。

「彼はミカンの皮を剥いたが、食べなかった。」

HH: 渠拨桔儿皮剥，亦无有吃。

ge²¹pøŋ⁵³cyəŋ³⁵³bi²¹pəŋ⁵³, fieŋ²²³m³³niəu⁵³təyoŋ⁵³

BY: 渠拨桔儿皮剥爻□fiə⁰，亦无有吃。

ge²¹pøŋ⁵³cyəŋ³⁵³bi²¹pəŋ⁵³fiə⁰fiə⁰, fieŋ²²³m³³niəu⁵³təyoŋ⁵³

ZH: 渠拨桔儿个皮剥，桔儿肉无有吃。

ge²¹pøŋ⁵³cyəŋ³⁵³ke⁴⁴bi²¹pəŋ⁵³, cyəŋ³⁵³nyoŋ²²³m³³niəu⁵³təyoŋ⁵³

CP: 渠拨桔儿个皮剥爻□fiə⁰，但是无有吃。

ge²¹pøŋ⁵³cyəŋ³⁵³ke⁴⁴bi²¹pəŋ⁵³fiə⁰fiə⁰, de³³zŋ²¹m³³niəu⁵³təyoŋ⁵³

0009. 他们把教室都装上了空调。

「彼らは教室すべてにエアコンを取り付けた。」

HH: 渠搭人拨教室都□kə⁴⁴□lɜŋ⁰空调。

ge²²tɜŋ²²niəŋ²⁴²pøŋ⁵³kə⁴⁴cieŋ⁵³toŋ⁵³kə⁴⁴lɜŋ⁰k^hoŋ⁵⁵diə⁵⁵

BY: 渠班人拨教室都按装空调爻□fiə⁰。

ge²²pe²²niəŋ²⁴²pøŋ⁵³kə⁴⁴cieŋ⁵³toŋ⁵³kə⁴⁴tsɔ³¹k^hoŋ⁵⁵diə⁵⁵fiə⁰fiə⁰ /

渠班人拨教室空调装来□o⁰。

ge²²pe²²niəŋ²⁴²pøŋ⁵³kə⁴⁴cieŋ⁵³k^hoŋ⁵⁵diə⁵⁵tsɔ³¹le²²o⁰

ZH: 渠班人拨教室放装空调。

ge²²pe²²niəŋ²⁴²pøŋ⁵³kə⁴⁴cieŋ⁵³fɔ⁴⁴tsɔ³¹k^hoŋ⁵⁵diə⁵⁵

渠班人拨{所有/全部}教室放装空调□lɜŋ⁰。

ge²²pe²²niəŋ²⁴²pøŋ⁵³{su³³iəu⁵³/zyø²²bu²²}kə⁴⁴cieŋ⁵³fɔ⁴⁴tsɔ³¹k^hoŋ⁵⁵diə⁵⁵lɜŋ⁰

CP: 渠班人拨{课室/教室}空调都装得。

ge²²pe²²niəŋ²⁴²pøŋ⁵³{k^ho⁴⁴cieŋ⁵³/kə⁴⁴cieŋ⁵³}k^hoŋ⁵⁵diə⁵⁵toŋ⁵³tsɔ³¹tɜŋ⁰

0010. 帽子被风吹走了。

「帽子は風に飛ばされてしまった。」

HH: 帽□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 风吹去□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ □ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{m}\text{ɔ}^{113}\text{d}\epsilon^{21}\text{f}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{y}^{55}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{55}\text{h}\text{ɔ}^0\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$

BY: 帽被风吹去□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ □ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{m}\text{ɔ}^{113}\text{b}\text{i}^{21}\text{f}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{y}^{55}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{55}\text{h}\text{ɔ}^0\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$

ZH: 帽被风吹去□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{m}\text{ɔ}^{113}\text{b}\text{i}^{21}\text{f}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{y}^{55}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{55}\text{h}\text{ɔ}^0$

CP: 帽□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 风吹去□ o^0 。

$\text{m}\text{ɔ}^{113}\text{d}\epsilon^{21}\text{f}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{y}^{55}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{55}\text{o}^0$

0011. 张明被坏人抢走了一个包，人也差点儿被打伤。

「張明さんは悪い人に鞆を一つ盗られ、もう少しで殴られて怪我をするところでもあった。」

HH: 张明被坏人抢去一只包，人也差点□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 打伤。

$\text{t}\epsilon\text{i}\tilde{\text{a}}^{33}\text{m}\text{i}\text{ɔ}\eta^{353}\text{b}\text{i}^{21}\text{h}\text{u}\text{a}^{33}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{i}\text{a}\eta^{22}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{55}\text{i}\epsilon\text{r}^{25}\text{t}\text{s}\epsilon\text{r}^{25}\text{p}\text{ɔ}^{31}$, $\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{v}\text{r}^{25}\text{t}\text{s}^{\text{h}}\text{a}^{31}\text{t}\text{i}\text{r}^{53}\text{d}\epsilon^{21}\text{t}\tilde{\text{a}}^{53}\text{c}\text{i}\tilde{\text{a}}^{31}$

BY: 张明□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 别个人包抢开□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ □ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ ，人也差点□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 渠打□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ □ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{t}\epsilon\text{i}\tilde{\text{a}}^{31}\text{m}\text{i}\text{ɔ}\eta^{22}\text{d}\epsilon^{21}\text{p}\text{i}\epsilon\text{r}^{23}\text{k}\epsilon^{44}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{p}\text{ɔ}^{31}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{i}\text{a}\eta^{53}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}\text{h}\text{ɔ}^0\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$,

$\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{v}\text{r}^{25}\text{t}\text{s}^{\text{h}}\text{a}^{31}\text{t}\text{i}\text{r}^{53}\text{d}\epsilon^{21}\text{g}\epsilon^{21}\text{t}\tilde{\text{a}}^{53}\text{h}\text{ɔ}^0\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$

张明包□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 别个(人)抢开□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ □ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ ，人也差点□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 渠打□ $\text{h}\text{ɔ}^0$ □ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{t}\epsilon\text{i}\tilde{\text{a}}^{31}\text{m}\text{i}\text{ɔ}\eta^{22}\text{p}\text{ɔ}^{31}\text{d}\epsilon^{21}\text{p}\text{i}\epsilon\text{r}^{23}\text{k}\epsilon^{44}(\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21})\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{i}\text{a}\eta^{53}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}\text{h}\text{ɔ}^0\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$,

$\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{v}\text{r}^{25}\text{t}\text{s}^{\text{h}}\text{a}^{31}\text{t}\text{i}\text{r}^{53}\text{d}\epsilon^{21}\text{g}\epsilon^{21}\text{t}\tilde{\text{a}}^{53}\text{h}\text{ɔ}^0\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$

ZH: 张明被坏人抢去□ $\text{l}\text{s}\text{r}^0$ 一个包，人也差点被打去。

$\text{t}\epsilon\text{i}\tilde{\text{a}}^{31}\text{m}\text{i}\text{ɔ}\eta^{22}\text{b}\text{i}^{21}\text{h}\text{u}\text{a}^{113}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{i}\text{a}\eta^{53}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}\text{l}\text{s}\text{r}^0\text{i}\epsilon\text{r}^{25}\text{k}\epsilon^{44}\text{p}\text{ɔ}^{31}$, $\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{v}\text{r}^{25}\text{t}\text{s}^{\text{h}}\text{a}^{31}\text{t}\text{i}\text{r}^{53}\text{b}\text{i}^{21}\text{t}\tilde{\text{a}}^{53}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}$

CP: 张明个包□ $\text{d}\epsilon^{21}$ 坏人抢开，人也差点打开。

$\text{t}\epsilon\text{i}\tilde{\text{a}}^{31}\text{m}\text{i}\text{ɔ}\eta^{22}\text{k}\epsilon^{44}\text{p}\text{ɔ}^{31}\text{d}\epsilon^{21}\text{h}\text{u}\text{a}^{113}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{i}\text{a}\eta^{53}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}$, $\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{v}\text{r}^{25}\text{t}\text{s}^{\text{h}}\text{a}^{31}\text{t}\text{i}\text{r}^{53}\text{t}\tilde{\text{a}}^{53}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}$

0012. 快要下雨了，你们别出去了。

「もう少し雨が降りそうだから、あなたたちは出掛けなないで。」

HH: 快要落雨□ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ ，尔搭人□ $\text{c}\text{i}\text{a}^{44}$ 出去。

$\text{k}^{\text{h}}\text{u}\text{a}^{44}\text{i}\text{ɔ}^{31}\text{l}\text{ɔ}^{\text{r}23}\text{y}^{53}\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$, $\eta^{21}\text{t}\text{s}\text{r}^{25}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{c}\text{i}\text{a}^{44}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{ɔ}^{\text{r}25}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}$

BY: (快)要落雨□ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ ，尔班人□ $\text{c}\text{i}\text{a}^{44}$ 出去{啊! / □ $\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^{23}$ 。} (※“啊!”は命令“□ $\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^{23}$ ”は提案)

$(\text{k}^{\text{h}}\text{u}\text{a}^{44})\text{i}\text{ɔ}^{31}\text{l}\text{ɔ}^{\text{r}23}\text{y}^{53}\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$, $\eta^{21}\text{p}\epsilon^{31}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{c}\text{i}\text{a}^{44}\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{ɔ}^{\text{r}25}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}\{\text{a}^0/\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^{23}\}$

ZH: 随节□ $\text{b}\text{s}\text{r}^{23}$ 要落雨□ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ ，尔奈□ $\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^0$ 搭□ ka^{44} 面去□ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{z}\text{y}^{21}\text{t}\epsilon\text{i}\epsilon\text{r}^{25}\text{b}\text{s}\text{r}^{23}\text{i}\text{ɔ}^{31}\text{l}\text{ɔ}^{\text{r}23}\text{y}^{53}\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$, $\eta^{21}\text{n}\text{a}^{113}\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^0\text{t}\text{s}\text{r}^{25}\text{k}\text{a}^{44}\text{m}\text{i}^{113}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$

快要落雨□ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ ，尔搭人□ $\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^0$ 出去□ $\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$ 。

$\text{k}^{\text{h}}\text{u}\text{a}^{44}\text{i}\text{ɔ}^{31}\text{l}\text{ɔ}^{\text{r}23}\text{y}^{53}\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$, $\eta^{21}\text{t}\text{s}\text{r}^{25}\text{j}\text{i}\text{ɔ}\eta^{21}\text{j}\text{i}\epsilon\text{r}^0\text{t}\epsilon^{\text{h}}\text{ɔ}^{\text{r}25}\text{k}^{\text{h}}\text{e}^{44}\text{h}\text{i}\text{ɔ}^0$

CP: 快要落雨□fio⁰, 尔搭人□cia⁴⁴ 出去□e⁰.
 k^hua⁴⁴io³¹lo²³y⁵³fio⁰, ŋ²¹tɔ²³ŋiəŋ²¹cia⁴⁴tɕ^hø²³k^he⁴⁴e⁰

0013. 这毛巾很脏了, 扔了它吧。

「この布巾はひどく汚れてしまった (ので)、捨ててしまいなさい。」

HH: □kø²⁵毛巾□fiœ¹¹³邈邈□fiɔ⁰, {□bã²¹爻□fio⁰/□bã²¹□bã²¹□ko⁰}.

kø²⁵mɔ²¹ciəŋ³¹fiœ¹¹³lɔ²³tɔ²³fiɔ⁰, bã²¹fiɔ⁰fio⁰/bã²¹bã²¹ko⁰

BY: □kø²⁵面巾□t^hie²⁵齷齪爻□fio⁰, 丢□o⁰.

kø²⁵mi¹¹³ciəŋ³¹t^hie²⁵fiɔ²³tɕ^hyɔ²⁵fiɔ⁰fio⁰, tiɔ⁴⁴o⁰

ZH: □kø²⁵个毛巾□fiœ¹¹³{邈邈/齷齪}爻, 丢□ko⁰.

kø²⁵ke⁰mɔ²¹tɕiəŋ³¹fiœ¹¹³{lɔ²³tɔ²³/fiɔ²³tɕ^hyɔ²⁵}fiɔ⁰, tiɔ⁴⁴ko⁰

CP: □kø²⁵毛巾□t^hie²⁵邈邈, 丢□o⁰.

kø²⁵mɔ²¹ciəŋ³¹t^hie²⁵lɔ²³tɔ²³, tiɔ⁴⁴o⁰

0014. 我们是在车站买的车票。

「私たちは乗車券を駅で買ったのです。」

HH: 我搭人是在车站买个车票。

ŋe⁵³tɕ²¹ŋiəŋ²¹zɿ²¹ze²¹ts^ho⁵⁵ɕzɔ⁵⁵ma⁵³kɔ²¹ts^ho⁵⁵p^hio⁵⁵

BY: 我奈是在车站买个车票。

ŋe⁵³na⁰zɿ²¹ze²¹ts^ho⁵⁵ɕzɔ⁵⁵ma⁵³kɔ²¹ts^ho⁵⁵p^hio⁵⁵

ZH: 车票我奈在车站买个。

ts^ho⁵⁵p^hio⁵⁵ŋe⁵³na⁰ze²¹ts^ho⁵⁵ɕzɔ⁵⁵ma⁵³kɔ²¹

CP: 我奈是在车站买个车票。

ŋe⁵³na⁰zɿ²¹ze²¹ts^ho⁵⁵ɕzɔ⁵⁵ma⁵³kɔ²¹ts^ho⁵⁵p^hio⁵⁵

0015. 墙上贴着一张地图。

「壁に一枚の地図が貼ってある。」

HH: 墙上□pe²⁵□lɔ⁰一张地图。

ziã²⁴zɔ⁵⁵pe²⁵lɔ⁰ie²³tɕiã²¹di³³du²¹

BY: 墙头一张地图□pe²⁵得。

ziã²⁴dœ⁵⁵ie²³tɕiã²¹di³³du²¹pe²⁵tɔ²³

ZH: 墙上□pe²⁵着一张地图。

ziã²⁴zɔ⁵⁵pe²⁵tɕie²⁰ie²³tɕiã²¹di³³du²¹

CP: 墙头□pe²⁵着一张地图。

ziã²⁴dœ⁵⁵pe²⁵tɕie²⁰ie²³tɕiã²¹di³³du²¹

0016. 床上躺着一个老人。

「ベッドに一人の老人が横たわっている。」

HH: 眠床上倒□lɔŋ⁰一个{老佗/老太婆}。(※“老佗”は男性、“老太婆”は女性)

mi²²zɔ̃²²zɔ̃²⁴²tɔ̃⁵³lɔŋ⁰ieŋ³kɔŋ⁰{lɔ²²kue⁵⁵/lɔ²²t^ha²²bo⁵⁵}

BY: 眠床上倒着一个老人。

mi²²zɔ̃²²zɔ̃²⁴²tɔ̃⁵³tɕieŋ⁰ieŋ³kɔŋ⁰lɔ³³ŋiəŋ²¹

ZH: 眠床倒着一个{老头/老太}。(※“老头”は男性、“老太”は女性)

mi²²zɔ̃²⁴²tɔ̃⁵³tɕieŋ⁰ieŋ³kɔŋ⁰{lɔ³³dœ²¹/lɔ²²t^ha⁵⁵}

CP: 眠床倒得一个老人家。

mi²²zɔ̃²⁴²tɔ̃⁵³tɔŋ⁰ieŋ³kɔŋ⁰lɔ³³ŋiəŋ²¹cia³¹

眠床里倒得一个老人家。

mi²²zɔ̃²⁴²li⁵³tɔ̃⁵³tɔŋ⁰ieŋ³kɔŋ⁰lɔ³³ŋiəŋ²¹cia³¹

0017. 河里游着好多小鱼。

「川の中にはとても多くの小さな魚が泳いでいる。」

HH: 港里有□fiœ¹¹³多小鱼在划。(※川の中にはとても多くの小さな魚が泳いでいる。)

kɔ̃⁵³li⁰iəu⁵³fiœ¹¹³to³¹ciə³³ŋ²¹ze²¹fua²¹

BY: □køŋ²河头小鱼多蛮多。(※この川には小さな魚がとても多い。)

køŋ²fio²¹dœ¹¹³ciə³³ŋ²¹to³¹me⁴⁴to³¹

ZH: □køŋ²个河里有□fiœ¹¹³多小鱼在头游。(※この川の中にはとても多くの小さな魚が泳いでいる。)

køŋ²kɔŋ²fio²¹li⁰iəu⁵³fiœ¹¹³to³¹ciə³³ŋ²¹ze²¹dœ¹¹³fio²¹

CP: □køŋ²河头□fiœ¹¹³多小鱼在划。(※この川ではとても多くの小さな魚が泳いでいる。)

køŋ²fio²¹dœ¹¹³fiœ¹¹³to³¹ciə³³ŋ²¹ze²¹fua²¹

0018. 前面走来了一个胖胖的小男孩。

「前から一人の丸々とした男の子が歩いてきた。」

HH: 前面来□lɔŋ⁰一个胖胖个{小老头/小细佬}。

zi²⁴mi⁵⁵le²¹lɔŋ⁰ieŋ³ke⁰p^hɔ̃⁴⁴p^hɔ̃⁴⁴ke⁰{ciə²²lɔ²²dœ⁵⁵/ciə²²ci²²lɔ⁵⁵}

BY: 前面走来一个□t^hieŋ²壮个男小人。

zi²⁴mi⁵⁵zœ⁵³le²¹ieŋ³ke⁰t^hieŋ²tɕyɔ̃⁴⁴ke⁰nø²²ciə²²ŋiəŋ²⁴²

ZH: {前头/前面}走来一个□fiœ¹¹³壮个男小人。(※“前头”は古い形式、“前面”は新しい形式)

{zi²⁴dœ⁵⁵/zi²⁴mi⁵⁵}zœ⁵³le²¹ieŋ³ke⁰fiœ¹¹³tɕyɔ̃⁴⁴ke⁰nø²²ciə²²ŋiəŋ²⁴²

CP: 前面走来一个壮蛮壮个男小人。

zi²⁴mi⁵⁵zœ⁵³le²¹ieŋ³ke⁰tɕyɔ̃⁴⁴me⁰tɕyɔ̃⁴⁴ke⁰nø²²ciə²²ŋiəŋ²⁴²

0019. 他家一下子死了三头猪。

「彼の家はいっぺんに三頭の豚を亡くした。」

HH: 渠屋里一记死爻三只猪。

ge²¹oŋ⁵³li⁵³ieŋ⁵³ci⁴⁴sŋ⁵³fi⁰se³¹tsaŋ⁵³tsŋ³¹

BY: 渠屋里一记生死爻三只猪。

ge²¹oŋ⁵³li⁵³ieŋ⁵³ci⁴⁴sã³¹sŋ⁵³fi⁰se³¹tsaŋ⁵³tsŋ³¹

ZH: 渠屋里一记死□lɜŋ⁰三只猪。

ge²¹oŋ⁵³li⁵³ieŋ⁵³tɕi⁴⁴sŋ⁵³lɜŋ⁰se³¹tsaŋ⁵³tsŋ³¹

CP: 渠屋里一记死爻三只猪。

ge²¹oŋ⁵³li⁵³ieŋ⁵³ci⁴⁴sŋ⁵³fi⁰se³¹tsaŋ⁵³tsŋ³¹

0020. 这辆汽车要开到广州去。 / 这辆汽车要开去广州。

「この車は広州まで行きます。」

HH: □køŋ³部汽车要开搭广州去。

køŋ³bu¹¹³c^hi⁴⁴ts^ho³¹i⁵⁴k^he³¹tɕŋ⁰kɔ̃⁵³tɕiəu³¹k^he⁴⁴

BY: □køŋ³部汽车要开搭广州去。

køŋ³bu¹¹³c^hi⁴⁴ts^ho³¹i⁵⁴k^he³¹tɕŋ⁰kɔ̃⁵³tɕiəu³¹k^he⁴⁴

ZH: □køŋ³辆车要搭广州去。

køŋ³liã¹¹³c^hi⁴⁴ts^ho³¹i⁵⁴tɕŋ⁰kɔ̃⁵³tɕiəu³¹k^he⁴⁴

CP: □køŋ³部车要驶搭广州去。

køŋ³bu¹¹³ts^ho³¹i⁵⁴sa⁵³tɕŋ⁰kɔ̃⁵³tɕiəu³¹k^he⁴⁴

0021. 学生们坐汽车坐了两整天了。

「学生たちは車にまる二日乗っている。」

HH: 学生坐汽车坐□lɜŋ⁰两整日□fi⁰。

fi⁰ŋ²³sã³¹zo²¹c^hi⁴⁴ts^ho³¹zo²¹lɜŋ⁰liã⁵³tɕiəŋ⁵³nieŋ²³fi⁰

BY: 学生班人坐汽车坐□lɜŋ⁰两日□fi⁰。

fi⁰ŋ²³sã³¹pɛ⁰ŋiəŋ²²zo²¹c^hi⁴⁴ts^ho³¹zo²¹lɜŋ⁰liã⁵³nieŋ²³fi⁰

ZH: 学生坐汽车坐□lɜŋ⁰整整两天爻。

fi⁰ŋ²³sã³¹zo²¹c^hi⁴⁴ts^ho³¹zo²¹lɜŋ⁰tɕiəŋ⁵³tɕiəŋ⁵³liã⁵³t^hi³¹fi⁰

CP: 学生{班人/搭人}坐(汽)车坐□lɜŋ⁰两整日爻。

fi⁰ŋ²³sã³¹{pɛ⁰ŋiəŋ²²/tɕŋ⁰ŋiəŋ²²}zo²¹(c^hi⁴⁴)ts^ho³¹zo²¹lɜŋ⁰liã⁵³tɕiəŋ⁵³nieŋ²³fi⁰

0022. 你尝尝他做的点心再走吧。

「あなたは彼の作ったおやつを食べてみてから出発しなさいよ。」

HH: 尔尝尝渠做个点心再走。

ŋ⁵³zõ²¹zõ²¹ge²¹tso⁴⁴ke⁰tir⁵³ciəŋ³¹tse⁴⁴tsœ⁵³

BY: 尔尝尝渠做个点心再去哇。

ŋ⁵³zõ²¹zõ²¹ge²¹tso⁴⁴ke⁰tir⁵³ciəŋ³¹tse⁴⁴ke⁴⁴ua⁰

ZH: 尔吃吃相渠做个点心再去。

ŋ⁵³tɕ^hyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵ciã⁰ge²¹tso⁴⁴ke⁰tir⁵³ciəŋ³¹tse⁴⁴ke⁴⁴

CP: 尔尝尝渠做个点心再去。

ŋ⁵³zõ²¹zõ²¹ge²¹tso⁴⁴ke⁰tir⁵³ciəŋ³¹tse⁴⁴ke⁴⁴

0023.a. 你在唱什么?

「あなたは何を歌っているの?」

HH: 尔在唱□ka⁴⁴□m⁰?

ŋ⁵³ze²¹ts^hɕ⁴⁴ka⁴⁴m⁰

BY: 尔在唱□ka⁴⁴□m⁰?

ŋ⁵³ze²¹ts^hɕ⁴⁴ka⁴⁴m⁰

ZH: 尔在唱□ka⁴⁴□m⁰歌啊?

ŋ⁵³ze²¹ts^hɕ⁴⁴ka⁴⁴m⁰ko³¹a⁰

CP: 尔在唱□ka⁴⁴□m⁰?

ŋ⁵³ze²¹ts^hɕ⁴⁴ka⁴⁴m⁰

0023.b. 我没在唱, 我放着录音呢。

「私は歌っていません。私は録音を流しているのです。」

HH: 我无有在唱, 我在放录音机□e⁰。

ŋe⁵³m¹³ŋiəu⁵³ze²¹ts^hɕ⁴⁴, ŋe⁵³ze²¹fɕ⁴⁴loŋ²²³iəŋ³¹ci³¹e⁰

BY: 我无有在唱, 在放录音□ŋieŋ⁰。

ŋe⁵³m¹³ŋiəu⁵³ze²¹ts^hɕ⁴⁴, ze²¹fɕ⁴⁴loŋ²²³iəŋ³¹ŋieŋ⁰

ZH: 我无有(在)唱□e⁰, 我在放录音。

ŋe⁵³m¹³ŋiəu⁵³(ze²¹)ts^hɕ⁴⁴e⁰, ŋe⁵³ze²¹fɕ⁴⁴loŋ²²³iəŋ³¹

CP: 我无有唱, 我在放录音啊。

ŋe⁵³m¹³ŋiəu⁵³ts^hɕ⁴⁴, ŋe⁵³ze²¹fɕ⁴⁴loŋ²²³iəŋ³¹a⁰

0024.a. 我吃过兔子肉, 你吃过没有?

「私はウサギの肉を食べたことがあります。あなたは食べたことがありますか?」

HH: 我吃过毛兔肉, 尔吃过无有?

ŋe⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰mɔ²¹th⁴⁴ŋyoŋ²²³, ŋ⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰m³³ŋiəu⁵³

BY: 我吃过毛兔肉, 尔吃过哇?

ŋe⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰mɔ²¹th^u44ŋyoŋ²³, ŋ⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰ua⁰

ZH: 我吃过毛兔肉, 尔有无有吃过啊?

ŋe⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰mɔ²¹th^u44ŋyoŋ²³, ŋ⁵³iəu⁵³m³³ŋiəu⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰a⁰

CP: 我吃过毛兔肉啊, 尔吃过无有□ue⁰?

ŋe⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰mɔ²¹th^u44ŋyoŋ²³a⁰, ŋ⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰m³³ŋiəu⁵³ue⁰

0024.b. 没有, 我没吃过。

「いいえ、私は食べたことはありません。」

HH: 无有, 我无有吃过。

m³³ŋiəu⁵³, ŋe⁵³m³³ŋiəu⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰

BY: 无有, 我无有吃过。

m³³ŋiəu⁵³, ŋe⁵³m³³ŋiəu⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰

ZH: 无有, 我无有吃过。

m³³ŋiəu⁵³, ŋe⁵³m³³ŋiəu⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰

CP: 无有, 我无有吃过。

m³³ŋiəu⁵³, ŋe⁵³m³³ŋiəu⁵³tɕ^hyoŋ²⁵ku⁰

0025. 我洗过澡了, 今天不打篮球了。

「私は身体を洗ったので、今日は（もう）バスケットボールはやりません。」

HH: 我洗过澡爻□fiə⁰, 今日_儿弗打篮球□fiə⁰。

ŋe⁵³ɕi⁵³ku⁴⁴ts^hɔ³¹fiə⁰fiə⁰, ci³³ŋiəŋ³⁵³fəŋ²⁵tā⁵³le²¹ŋiəu²¹fiə⁰

BY: 我洗肌身爻□fiə⁰, 今日_儿弗打篮球爻□fiə⁰。

ŋe⁵³ɕi⁵³ci³¹ɕiəŋ³¹fiə⁰fiə⁰, ci³³ŋiəŋ³⁵³fəŋ²⁵tā⁵³le²¹ŋiəu²¹fiə⁰fiə⁰

ZH: 我洗过{身体/人}□lɜŋ⁰, 今日_儿弗想打篮球□lɜŋ⁰。

ŋe⁵³ɕi⁵³ku⁴⁴{ɕiəŋ³¹t^hi⁵³/ŋiəŋ²²}lɜŋ⁰, ci³³ŋiəŋ³⁵³fəŋ²⁵ciā⁵³tā⁵³le²¹ŋiəu²¹lɜŋ⁰

CP: 我澡洗爻, 今日_儿弗打篮球爻。

ŋe⁵³ts^hɔ³¹ɕi⁵³fiə⁰, ci³³ŋiəŋ³⁵³fəŋ²⁵tā⁵³le²¹ŋiəu²¹fiə⁰

0026. 我算得太快算错了, 让我重新算一遍。

「私は速く計算しすぎて計算し間違えました。私にもう一度計算しなおさせてください。」

HH: 我算得快猛算错爻□fiə⁰, 让我重新算一遍。

ŋe⁵³sə⁴⁴tɜŋ⁰k^hua⁴⁴mā⁵³sə⁴⁴ts^ho⁴⁴fiə⁰fiə⁰, ŋiā¹¹³ŋe⁵³ɕyɔŋ²¹ɕiəŋ³¹sə⁴⁴ieŋ²⁵pi⁴⁴

BY: 我算得快猛算错算爻□fiə⁰, 特我重新算一遍。

ŋe⁵³sə⁴⁴tɜŋ⁰k^hua⁴⁴mā⁵³sə⁴⁴ts^ho⁴⁴sə⁴⁴fiə⁰fiə⁰, dəŋ²²³ŋe⁵³ɕyɔŋ²¹ɕiəŋ³¹sə⁴⁴ieŋ²⁵pi⁴⁴

ZH: 我算□lɜŋ⁰太快算错□lɜŋ⁰, 我重新算一次。

ŋe⁵³sə⁴⁴lɜŋ⁰t^ha⁴⁴k^hua⁴⁴sə⁴⁴ts^ho⁴⁴lɜŋ⁰, ŋe⁵³ɕyɔŋ²¹ɕiəŋ³¹sə⁴⁴ieŋ²⁵ts^hɿ⁴⁴

CP: 我算快猛算错算爻, 让我再算一遍。

ŋe⁵³sø⁴⁴k^hua⁴⁴mã⁵³sø⁴⁴ts^ho⁴⁴sø⁴⁴fiø⁰, niã¹¹³ŋe⁵³tse⁴⁴sø⁴⁴ieŋ²pi⁴⁴

0027. 他一高兴就唱起歌来了。

「彼は楽しくなるとすぐに歌い出す。」

HH: 渠一高兴□pɜŋ²唱起歌来爻□fiø⁰。

ge²¹ieŋ²kɔ⁵⁵çiaŋ⁵⁵pɜŋ²ts^hɔ⁴⁴c^hi³³ko³¹le²¹fiø⁰fiø⁰

BY: 渠高兴□lɜŋ⁰□pɜŋ²唱歌爻□fiø⁰。

ge²¹ieŋ²kɔ⁵⁵çiaŋ⁵⁵lɜŋ⁰pɜŋ²ts^hɔ⁴⁴ko³¹fiø⁰fiø⁰

ZH: 渠一高兴□pɜŋ²唱歌。

ge²¹ieŋ²kɔ⁵⁵çiaŋ⁵⁵pɜŋ²ts^hɔ⁴⁴ko³¹

CP: 渠一高兴□pɜŋ²唱起来爻。

ge²¹ieŋ²kɔ⁵⁵çiaŋ⁵⁵pɜŋ²ts^hɔ⁴⁴c^hi³³le²¹fiø⁰

0028. 谁刚才议论我老师来着?

「誰がさっき私の先生のことを話していたのか?」

HH: □ka⁴⁴人□tɕ^hiã³¹□ci⁴⁴在讲我老师?

ka⁴⁴niŋ²¹tɕ^hiã³¹ci⁴⁴ze²¹kɔ⁵³ŋe⁵³lɔ³³sŋ²¹

BY: □ka⁴⁴人□k^hœ⁴⁴□tɕ^hiã³¹讲我老师□ne⁰?

ka⁴⁴niŋ²¹k^hœ⁴⁴tɕ^hiã³¹kɔ⁵³ŋe⁵³lɔ³³sŋ²¹ne⁰

ZH: 刚才□ka⁴⁴人在讲我老师啊?

kɔ⁴⁴ze²²ka⁴⁴niŋ²¹ze²²kɔ⁵³ŋe⁵³lɔ³³sŋ²¹a⁰

CP: □ka⁴⁴人□k^hœ⁴⁴□tɕ^hiã³¹讲我老师□?

ka⁴⁴niŋ²¹k^hœ⁴⁴tɕ^hiã³¹kɔ⁵³ŋe⁵³lɔ³³sŋ²¹lɜŋ⁰

0029. 只写了一半, 还得写下去。

「半分しか書いていないので、まだ書き続けなければならない。」

HH: 只写□lɜŋ⁰一半, 还要写落去。

tɕyoŋ²çia⁵³lɜŋ⁰ieŋ²pø⁵⁵, fiue²¹io⁴⁴çia⁵³lɔŋ⁰k^he⁰

BY: □pɜŋ²只写□lɜŋ⁰一半, 还要写落去。

pɜŋ²tɕyoŋ²çia⁵³lɜŋ⁰ieŋ²pø⁵⁵, fiue²¹io⁴⁴çia⁵³lɔŋ⁰k^he⁰

ZH: 只写□lɜŋ⁰一半, 还要写落去。

tɕyoŋ²çia⁵³lɜŋ⁰ieŋ²pø⁵⁵, fiue²¹io⁴⁴çia⁵³lɔŋ⁰k^he⁰

CP: 只写一半, 还要写落去。

tɕyoŋ²çia⁵³ieŋ²pø⁵⁵, fiue²¹io⁴⁴çia⁵³lɔŋ⁰k^he⁰

0030. 你才吃了一碗米饭，再吃一碗吧。

「あなたのご飯を一杯食べただけです。もう一杯食べましょうよ。」

HH: 尔只吃一碗米饭，再吃碗。

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uø⁵³mi⁵³vɛ¹¹³, tse⁴⁴tɕ^hyoŋ²⁵uø⁵³

BY: 尔只吃(□lɜŋ⁰)一碗饭，吃碗凑哇。

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵(lɜŋ⁰)ieŋ²⁵uø⁵³vɛ¹¹³, tɕ^hyoŋ²⁵uø⁵³ts^hœ⁴⁴ua⁰

ZH: 尔只吃□lɜŋ⁰一碗饭，再吃一碗□iəu⁰。

ŋ⁵³tɕyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵lɜŋ⁰ieŋ²⁵uø⁵³vɛ¹¹³, tse⁴⁴tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uø⁵³iəu⁰

CP: 尔□pɛŋ⁰只吃一碗饭，再吃一碗凑□nieŋ⁰。

ŋ⁵³pɛŋ⁰tɕyoŋ²⁵tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uø⁵³vɛ¹¹³, tse⁴⁴tɕ^hyoŋ²⁵ieŋ²⁵uø⁵³ts^hœ⁴⁴nieŋ⁰

0031. 让孩子们先走，你再把展览仔仔细细地看一遍。

「子供たちを先に行かせましょう。あなたはもう一度展示を細かく観てください。」

HH: 让小人先走，尔拨展览仔仔细细望一遍。

niã¹¹³çio⁵³niəŋ²¹çir³¹tsœ⁵³, ŋ⁵³pøŋ²⁵tɕi³³le⁵³tsɿ⁵³çi⁴⁴çi⁴⁴mō¹¹³ieŋ²⁵pi⁴⁴

BY: (让)小人班人先去，尔再拨展览仔细个望一遍。

(niã¹¹³)çio⁵³niəŋ²¹pɛ³¹niəŋ²¹çir³¹k^he⁴⁴, ŋ⁵³tse⁴⁴pøŋ²⁵tɕi³³le⁵³tsɿ⁵³çi⁴⁴ke⁰mō¹¹³ieŋ²⁵pi⁴⁴

小人班人走过先，再仔细个拨展览望一遍。

çio⁵³niəŋ²¹pɛ³¹niəŋ²¹tsœ⁵³ku⁴⁴çir³¹, tse⁴⁴tsɿ⁵³çi⁴⁴ke⁰pøŋ²⁵tɕi³³le⁵³mō¹¹³ieŋ²⁵pi⁴⁴

ZH: (让)小老人(们)先走，尔再好好个望一遍展览。

(niã¹¹³)çio⁵³lɔ⁵³niəŋ²¹(məŋ⁰)çir³¹tsœ⁵³, ŋ⁵³tse⁴⁴hɔ³³hɔ³³ke⁰mō¹¹³ieŋ²⁵pi⁴⁴tɕi³³le⁵³

CP: {叫/让}小老人班人走过先，尔再拨展览仔仔细细个望一遍。

{çio⁴⁴/niã¹¹³}çio⁵³lɔ⁵³niəŋ²¹pɛ³¹niəŋ²¹tsœ⁵³ku⁴⁴çir³¹,

ŋ⁵³tse⁴⁴pøŋ²⁵tɕi³³le⁵³tsɿ⁵³tsɿ⁵³çi⁴⁴çi⁴⁴ke⁰mō¹¹³ieŋ²⁵pi⁴⁴

0032. 他在电视机前看着看着睡着了。

「彼はテレビの前で(テレビを)観ながら眠ってしまった。」

HH: 渠在电视机前望，望望望望困开爻。

ge²¹ze²¹di¹¹³zɿ¹¹³çi³¹zɿ²¹mō¹¹³, mō¹¹³mō⁰mō¹¹³mō⁰k^huəŋ⁴⁴k^he³¹fiɔ⁰

BY: 渠望电视望困开爻□fiɔ⁰。

ge²¹mō¹¹³di¹¹³zɿ¹¹³mō¹¹³k^huəŋ⁴⁴k^he³¹fiɔ⁰fiɔ⁰

ZH: 渠坐在电视机前望着望着就困开爻。

ge²¹zo²¹ze²¹di¹¹³zɿ¹¹³çi³¹zɿ²¹mō¹¹³tɕyɔŋ⁰mō¹¹³tɕyɔŋ⁰ziəu¹¹³k^huəŋ⁴⁴k^he³¹fiɔ⁰

CP: 渠在电视机前望着望着□bɜŋ²²困起爻。

ge²¹ze²¹di¹¹³zɿ¹¹³çi³¹zɿ²¹mō¹¹³tɕyɔŋ⁰mō¹¹³tɕyɔŋ⁰bɜŋ²²k^huəŋ⁴⁴c^hi⁵³fiɔ⁰

0033. 你算算看，这点钱够不够花？

「あなたが計算してみてください。これだけのお金で払うのに足りませんか？」

HH: 尔算算看，□køŋ⁰点钞票够弗够用？

ŋ⁵³sø⁵⁵sø⁵⁵k^hε⁴⁴, køŋ⁰tir²²ts^hɔ²²p^hiɔ⁵⁵kœ⁴⁴føŋ⁵kœ⁴⁴fiyon¹¹³

BY: 尔{算算相/望望相}，点料钞票有得用爻哇？

ŋ⁵³{sø⁵⁵sø⁵⁵çia⁰/ mɔ̃⁴⁴mɔ̃⁴⁴çia⁰}, tir²²liɔ²²⁴ts^hɔ²²p^hiɔ⁵⁵iəu⁵³tɔ⁵fiyon¹¹³fiɔ⁰ue⁰

ZH: 尔算计一下，点料钞票有得用爻哇？

ŋ⁵³sø⁵⁵ci⁴⁴ieŋ⁵çia⁴⁴, tir²²liɔ²²⁴ts^hɔ²²p^hiɔ⁵⁵iəu⁵³tɔ⁵fiyon¹¹³fiɔ⁰ua⁰

CP: 尔望望{相/看}，□køŋ⁵点钞票够弗够用□e⁰？

ŋ⁵³mɔ̃⁴⁴mɔ̃⁴⁴{çia⁰/ k^hε⁴⁴}, køŋ⁵tir²²ts^hɔ²²p^hiɔ⁵⁵kœ⁴⁴føŋ⁵kœ⁴⁴fiyon¹¹³e⁰

0034. 老师给了你一本很厚的书吧？

「先生はあなたに一冊の厚い本をあげたでしょう？」

HH: 老师拨尔一本□fiœ¹¹³厚个书哇？

lɔ³³sŋ²¹pøŋ⁵ŋ⁵³ieŋ⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³œ⁵³ke⁰çy³¹ua⁰

BY: 老师拨尔一本□fiœ¹¹³厚个书哇？

lɔ³³sŋ²¹pøŋ⁵ŋ⁵³ieŋ⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³œ⁵³ke⁰çy³¹ue⁰

ZH: 老师拨尔一本□fiœ¹¹³厚个书哇？

lɔ³³sŋ²¹pøŋ⁵ŋ⁵³ieŋ⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³œ⁵³ke⁰çy³¹ua⁰

CP: 老师拨□lɔŋ⁰尔一本□fiœ¹¹³厚个书□na⁰？

lɔ³³sŋ²¹pøŋ⁵lɔŋ⁰ŋ⁵³ieŋ⁵pəŋ⁵³fiœ¹¹³œ⁵³ke⁰çy³¹na⁰

0035. 那个卖药的骗了他一千块钱呢。

「あの薬売りが彼から千円だまし取ったのだ。」

HH: □ke⁵³个卖药个骗□lɔŋ⁰渠一千块钞票。

ke⁵³ke⁰ma¹¹³fiœŋ²³ke⁴⁴p^hi⁴⁴lɔŋ⁰ge²¹ieŋ⁵tɕ^hi³¹k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hiɔ⁴⁴

BY: □ke⁵³卖药个人拨渠钞票一千块哄去爻□fiɔ⁰。

ke⁵³ma¹¹³fiœŋ²³ke⁰ŋiəŋ²¹pøŋ⁵ge²¹ts^hɔ⁵³p^hiɔ⁴⁴ieŋ⁵tɕ^hi³¹k^hue⁴⁴哄 k^hε⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰

ZH: □ke⁵³个卖药个人骗□lɔŋ⁰渠一千块钞票。

ke⁵³ke⁰ma¹¹³fiœŋ²³ke⁰ŋiəŋ²¹p^hi⁴⁴lɔŋ⁰ge²¹ieŋ⁵tɕ^hi³¹k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hiɔ⁴⁴

CP: □ke⁵³卖药个骗□lɔŋ⁰渠一千块钞票□e⁰。

ke⁵³ma¹¹³fiœŋ²³ke⁰p^hi⁴⁴lɔŋ⁰ge²¹ieŋ⁵tɕ^hi³¹k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hiɔ⁴⁴e⁰

0036.a. 我上个月借了他三百块钱。(借出)

「私は先月彼に三百元貸した。」

HH: 我上个月借拨渠三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³ɬia⁴⁴pøŋ²⁵ge²¹se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

BY: 我上个月借拨渠三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³ɬia⁴⁴pøŋ²⁵ge²¹se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

我上个月借渠三百块钞票。(※「彼に貸す」「彼に借りる」のどちらの意味もある文)

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³ɬia⁴⁴ge²¹se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

ZH: 我上个月借给渠三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³ɬia⁴⁴ciøŋ²⁵ge²¹se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

CP: 我上个月借拨渠三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³ɬia⁴⁴pøŋ²⁵ge²¹se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

0036.b. 我上个月借了他三百块钱。(借入)

「私は先月彼から三百元借りた。」

HH: 我上个月借□lɔ⁰渠三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³ɬia⁴⁴lɔ⁰ge²¹se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

BY: 我上个月问渠借□lɔ⁰三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³məŋ¹¹³ge²¹ɬia⁴⁴lɔ⁰se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

ZH: 我上个月{从/在}渠□ke⁰边借□lɔ⁰三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³{zɔŋ²²/ze²²}ge²¹ke⁰pi³¹ɬia⁴⁴lɔ⁰se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

CP: 我上个月问渠借□lɔ⁰三百块钞票。

ŋe⁵³zō¹¹³ke⁰nyøŋ²²³məŋ¹¹³ge²¹ɬia⁴⁴lɔ⁰se³¹pøŋ²⁵k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

0037.a. 王先生的刀开得很好。

「先生(※医者)の手術はとてうまくいった。」

HH: 王医生个刀开□lɔ⁰□fiø¹¹³好个。

fiø²¹i³¹sã³¹ke⁰tɔ³¹k^he³¹lɔ⁰fiø¹¹³hɔ⁵³ke⁰

BY: 王{医生/医师} □køŋ²⁵次刀开得{□fiø¹¹³好个/非常成功}。(※“医师”が古い言い方)

fiø²¹{i³¹sã³¹/i³¹sɿ³¹}køŋ²⁵ts^hɿ⁴⁴tɔ³¹k^he³¹tɔ³¹{fiø¹¹³hɔ⁵³ke⁰/fi³¹zō²¹ziøŋ²¹koŋ³¹}

ZH: 王医生□køŋ²⁵次个手术做得□fiø¹¹³成功。

fiø²¹i³¹sã³¹køŋ²⁵ts^hɿ⁴⁴ke⁰ciø⁵³zɔŋ²²tso⁴⁴tɔ³¹fiø¹¹³ziøŋ²¹koŋ³¹

王医生□køŋ²⁵次个刀开得蛮好。

fiø²¹i³¹sã³¹køŋ²⁵ts^hɿ⁴⁴ke⁰tɔ³¹k^he³¹tɔ³¹me⁴⁴hɔ⁵³

CP: 王医师个刀开得□fiø¹¹³好。

fiø²¹i³¹sɿ³¹ke⁰tɔ³¹k^he³¹tɔ³¹fiø¹¹³hɔ⁵³

0037.b. 王先生的刀开得很好。

「王先生（※患者）の手術はとてうまくいった。」

HH: 王先生个刀开□lɜʔ⁰蛮好个。

ɦɔ̃²¹ci³¹sã³¹ke⁰tɔ̃³¹k^he³¹lɜʔ⁵mɛ⁴⁴hɔ̃⁵³ke⁰

BY: 王先生个刀开得{□fiœ¹¹³好个/□fiœ¹¹³成功个}。

ɦɔ̃²¹ci³¹sã³¹ke⁰tɔ̃³¹k^he³¹tɜʔ⁵{fiœ¹¹³hɔ̃⁵³ke⁰/fiœ¹¹³ziəŋ²¹koŋ³¹ke⁰}

ZH: 王先生□køʔ⁵次个手术做得□fiœ¹¹³成功。

ɦɔ̃²¹ci³¹sã³¹køʔ⁵tɜʔ^h⁴⁴ke⁰ciəu⁵³zyøʔ²²tso⁴⁴tɜʔ⁵fiœ¹¹³ziəŋ²¹koŋ³¹

CP: 王先生个刀开得{□fiœ¹¹³/蛮}好, 手术蛮成功。

ɦɔ̃²¹ci³¹sã³¹ke⁰tɔ̃³¹k^he³¹tɜʔ⁵{fiœ¹¹³/ mɛ⁴⁴}hɔ̃⁵³, ciəu⁵³zyøʔ²²mɛ⁴⁴ziəŋ²¹koŋ³¹

0038. 我不能怪人家, 只能怪自己。

「私は他人を責めることはできない。自身を責めることしかできない。」

HH: 我无□tɕy³³□ba⁴⁴别个人, 只能怪自己。

ŋe⁵³m³³tɕy³³ba⁴⁴bieʔ²³ke⁰ŋiəŋ²⁴², tɕyoʔ⁵nəŋ²¹kua⁴⁴zɿ¹¹³ci⁵³

BY: 我无□tɕy³³怪别个, □beʔ²³只怪自己。

ŋe⁵³m³³tɕy³³kua⁴⁴bieʔ²³ke⁰, beʔ²³tɕyoʔ⁵kua⁴⁴zɿ¹¹³ci⁵³

ZH: 我弗能怪别个人, 只能怪自己。

ŋe⁵³føʔ⁵nəŋ²¹kua⁴⁴bieʔ²³ke⁰ŋiəŋ²⁴², tɕyoʔ⁵nəŋ²¹kua⁴⁴zɿ¹¹³ci⁵³

CP: 我弗怪别个人, 只怪自己。

ŋe⁵³føʔ⁵kua⁴⁴bieʔ²³ke⁰ŋiəŋ²⁴², tɕyoʔ⁵kua⁴⁴zɿ¹¹³ci⁵³

0039.a. 明天王经理会来公司吗?

「明日は王さんが会社に来ることはありますか？」

HH: 天日_儿王经理会搭公司来吗?

t^hi³³ŋiã³⁵³ɦɔ̃²¹ciəŋ³¹li⁵³fiue¹¹³tɜʔ⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ma⁰

BY: 王经理天日_儿搭公司来哇?

ɦɔ̃²¹ciəŋ³¹li⁵³t^hi³³ŋiã³⁵³tɜʔ⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ua⁰

ZH: 天日_儿王经理会搭公司来吗?

t^hi³³ŋiã³⁵³ɦɔ̃²¹ciəŋ³¹li⁵³fiue¹¹³tɜʔ⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ma⁰

CP: 天日_儿王经理搭公司来哇?

t^hi³³ŋiã³⁵³ɦɔ̃²¹ciəŋ³¹li⁵³tɜʔ⁵koŋ³¹sɿ³¹le²¹ua⁰

0039.b. 我看他不会来。

「私が考えるに彼は来ません。」

HH: 我望渠非来。

ŋe⁵³mɔ̃¹¹³ge²¹f³¹le²¹

BY: 我望渠非来。

ŋe⁵³mō¹¹³ge²¹fi³¹le²¹

ZH: 我望渠非来。

ŋe⁵³mō¹¹³ge²¹fi³¹le²¹

CP: 我望渠非来。

ŋe⁵³mō¹¹³ge²¹fi³¹le²¹

0040. 我们用什么车从南京往这里运家具呢?

「私たちはどんな車を使って南京からここまで家具を運ぶの?」

HH: 我奈用□ka⁴⁴□m⁰车从南京往□kø^ʔ头运家具□jie^ʔ?

ŋe⁵³na⁰fiyoŋ¹¹³ka⁴⁴m⁰ts^ho³¹zyoŋ²¹nø²¹kiəŋ³¹mō⁵³kø^ʔdœ²¹fiyəŋ¹¹³cia³¹jy¹¹³jie^ʔ

BY: 我奈用□ka⁴⁴□m⁰车搭南京去搬裹生□jie^ʔ?

ŋe⁵³na⁰fiyoŋ¹¹³ka⁴⁴m⁰ts^ho³¹tə^ʔnø²¹kiəŋ³¹ke⁴⁴pø³¹ku⁵³sā³¹jie^ʔ

ZH: 我奈用□ka⁴⁴□m⁰车把南京个家具搬到□kø^ʔ头来?

ŋe⁵³na⁰fiyoŋ¹¹³ka⁴⁴m⁰ts^ho³¹po⁵³nø²¹kiəŋ³¹ke⁰cia³¹jy¹¹³pø³¹tə⁴⁴kø^ʔdœ²¹le²²

CP: 我奈用□ka⁴⁴□m⁰车从南京往□kø^ʔ头运裹生□jie^ʔ?

ŋe⁵³na⁰fiyoŋ¹¹³ka⁴⁴m⁰ts^ho³¹zyoŋ²¹nø²¹kiəŋ³¹mō⁵³kø^ʔdœ²¹fiyəŋ¹¹³ku⁵³sā³¹jie^ʔ

0041. 他像个病人似的靠在沙发上。

「彼は病人のようにソファにもたれている。」

HH: 渠□k^hœ⁵⁵□lɜ^ʔ个病人个隄在沙发□le⁰。

ge²¹k^hœ⁵⁵lɜ^ʔke⁰biəŋ¹¹³ŋiəŋ²¹ke⁰ge¹¹³ze²²so³¹fɜ^ʔle⁰

BY: 渠像生病人样个隄沙发头。

ge²¹ziā²¹sā³¹biəŋ¹¹³ŋiəŋ²¹hiā¹¹³ke⁰ge¹¹³so³¹fɜ^ʔdœ¹¹³

ZH: 渠像病人一样隄在沙发上。

ge²¹ziā²¹biəŋ¹¹³ŋiəŋ²¹ie^ʔhiā¹¹³ke⁰ge¹¹³ze²²so³¹fɜ^ʔzō¹¹³

CP: 渠□k^hœ⁵⁵□lɜ^ʔ个病人样个隄个沙发头。

ge²¹k^hœ⁵⁵lɜ^ʔke⁰biəŋ¹¹³ŋiəŋ²¹hiā¹¹³ke⁰ge¹¹³ke⁰so³¹fɜ^ʔdœ¹¹³

0042. 这么干活连小伙子都会累坏的。

「こんな風に仕事をすれば若者であっても疲れ切ってしまう。」

HH: □kø^ʔ□t^hie^ʔ做生活小后生都会吃力倒。

kø^ʔt^hie^ʔtso⁴⁴sā³¹fiuə^ʔciə⁵³œ⁵³sā³¹to^ʔfiue¹¹³t^hyo^ʔlie^ʔtə⁵³

BY: □kø^ʔ□t^hie^ʔ做生活后生人都熬弗劳。

kø^ʔt^hie^ʔtso⁴⁴sā³¹fiuə^ʔciə⁵³sā³¹ŋiəŋ²¹to^ʔfiə^ʔlɔ²¹

ZH: □køŋ⁵样做后生人也会吃力坏□ka⁰。
køŋ⁵fiã¹¹³tso⁴⁴œ⁵³sã³¹niəŋ²¹vŋ⁵fiue¹¹³tɕ^hyoŋ⁵lieŋ²³fiua¹¹³ka⁰

CP: □t^hieŋ⁵□bɜŋ²³做生活连后生人都熬弗劳□ɔ⁰。
t^hieŋ⁵bɜŋ²³tso⁴⁴sã³¹fiuəŋ²³li²¹œ⁵³sã³¹niəŋ²¹toŋ⁵ŋɔ²¹føŋ⁵lɔ²¹ɔ⁰

0043. 他跳上末班车走了。我迟到一步，只能自己慢慢走回学校了。

「彼は最終便（バス或いは列車）に飛び乗って行った。私は一步遅かったので、一人のろのろ歩いて学校に戻るしかなかった。」

HH: 渠跳上末班车走爻□fiɔ⁰。
ge²¹t^hiɔ⁴⁴zɔ̃¹¹³møŋ²³pɛ³¹ts^ho⁵⁵tsœ⁵³fiɔ⁰fiɔ⁰。
我迟到一步，只能自己慢慢□zɿ⁰走回学堂。
ŋe⁵³ɬɿ²¹tɔ⁴⁴ieŋ⁵bu¹¹³, tɕyoŋ⁵nəŋ²¹zɿ¹¹³ci⁵³mɛ¹¹³mɛ¹¹³zɿ²¹tsœ⁵³fiue²¹fiɔ²³dɔ̃²¹

BY: 渠跳上落脚班车开爻□fiɔ⁰。
ge²¹t^hiɔ⁴⁴zɔ̃¹¹³lɔŋ²³ciəŋ⁵pɛ³¹ts^ho⁵⁵k^he³¹fiɔ⁰fiɔ⁰。
我差点无有上去，哈□bɜŋ²³只自己慢慢个走转去。
ŋe⁵³ts^ho³¹tir⁵³m³³niəu⁵³zɔ̃¹¹³k^he⁴⁴, ha³³bɜŋ²³tɕyoŋ⁵zɿ¹¹³ci⁵³mɛ¹¹³mɛ¹¹³ke⁰tsœ⁵³tɕyø⁵³k^he⁴⁴

ZH: 渠坐最后一班车去□lɜŋ⁰。
ge²¹zo²²tsœ⁴⁴œ⁵³ieŋ⁵pɛ³¹ts^ho⁵⁵k^he⁴⁴lɜŋ⁰。
我迟□lɜŋ⁰一步，只能自己慢慢□zɿ⁰回学堂□lɜŋ⁰。
ŋe⁵³ɬɿ²¹lɜŋ⁰ieŋ⁵bu¹¹³, tɕyoŋ⁵nəŋ²²zɿ¹¹³ci⁵³mɛ¹¹³mɛ¹¹³zɿ²¹fiue²²fiɔ²³dɔ̃²¹lɜŋ⁰

CP: 渠跳上末班车去爻。
ge²¹t^hiɔ⁴⁴zɔ̃¹¹³møŋ²³pɛ³¹ts^ho⁵⁵k^he⁴⁴fiɔ⁰。
我迟一步，□bɜŋ²³只慢慢□zɿ⁰自己走(搭)学堂头转去爻。
ŋe⁵³ɬɿ²¹ieŋ⁵bu¹¹³, bɜŋ²³tɕyoŋ⁵mɛ¹¹³mɛ¹¹³zɿ⁰zɿ¹¹³ci⁵³tsœ⁵³(tɜŋ⁰)fiɔ²³dɔ̃²¹dœ¹¹³tɕyø⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰

0044. 这是谁写的诗?谁猜出来我就奖励谁十块钱。

「これは誰が書いた詩ですか?当てられた人には私が賞金として十元あげます。」

HH: □køŋ⁵是□ka⁴⁴人写个诗?
køŋ⁵zɿ²¹ka⁴⁴niəŋ²¹ɕia⁵³ke⁰sɿ³¹
□ka⁴⁴人猜出来我□pɜŋ⁵奖励拨□ka⁴⁴人十块钞票。
ka⁴⁴niəŋ²¹ts^he⁵³tɕyøŋ⁵le²¹ŋe⁵³pɜŋ⁵tɕiã⁵³li¹¹³pøŋ⁵ka⁴⁴niəŋ²¹zieŋ²³k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hiɔ⁴⁴

BY: □køŋ⁵是□ka⁴⁴人写个诗?
køŋ⁵zɿ²¹ka⁴⁴niəŋ²¹ɕia⁵³ke⁰sɿ³¹
□ka⁴⁴人猜出来我□pɜŋ⁵奖励□ka⁴⁴人十块钞票。
ka⁴⁴niəŋ²¹ts^he⁵³tɕyøŋ⁵le²¹ŋe⁵³pɜŋ⁵tɕiã⁵³li¹¹³ka⁴⁴niəŋ²¹zieŋ²³k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hiɔ⁴⁴

ZH: □køŋ⁵是个□ka⁴⁴人写个诗?
køŋ⁵ke⁰zɿ²¹ka⁴⁴niəŋ²¹ɕia⁵³ke⁰sɿ³¹

□ka⁴⁴ 人猜出来我就奖励□ka⁴⁴ 人十块钞票。

ka⁴⁴niəŋ²¹ts^he⁵³tɕ^hyøŋ²¹le²¹ŋe⁵³ziəu¹¹³tɕiã⁵³li¹¹³ka⁴⁴niəŋ²¹zieŋ²²³k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

CP: □køŋ⁵是□ka⁴⁴ 人写个诗?

køŋ⁵zɿ²¹ka⁴⁴niəŋ²¹cia⁵³ke⁰sɿ³¹

□ka⁴⁴ 人猜出来我□pɜŋ⁵奖励拨□ka⁴⁴ 人十块钞票。

ka⁴⁴niəŋ²¹ts^he⁵³tɕ^hyøŋ²¹le²¹ŋe⁵³pɜŋ⁵tɕiã⁵³li¹¹³pøŋ⁵ka⁴⁴niəŋ²¹zieŋ²²³k^hue⁴⁴ts^hɔ⁵³p^hio⁴⁴

0045. 我给你的书是我教中学的舅舅写的。

「私があなたにあげた本は中学校の先生をしている私のおじが書いたものです。」

HH: 我拨尔个书是我教中学个娘舅写个。

ŋe⁵³pøŋ⁵ŋ⁵³ke⁰cy³¹zɿ²²ŋe⁵³kɔ⁴⁴tɕyøŋ³¹fiɔŋ²²³ke⁰niã²¹ciəu⁴⁴cia⁵³ke⁰

BY: 我拨尔个书是我教中学个娘舅写个。

ŋe⁵³pøŋ⁵ŋ⁵³ke⁰cy³¹zɿ²²ŋe⁵³kɔ⁴⁴tɕyøŋ³¹fiɔŋ²²³ke⁰niã²¹ciəu⁴⁴cia⁵³ke⁰

ZH: 我拨尔个书是我教中学个舅舅写个。

ŋe⁵³pøŋ⁵ŋ⁵³ke⁰cy³¹zɿ²²ŋe⁵³kɔ⁴⁴tɕyøŋ³¹fiɔŋ²²³ke⁰ciəu⁴⁴ciəu⁴⁴cia⁵³ke⁰

CP: 我拨尔个书是我教中学个舅舅写个。

ŋe⁵³pøŋ⁵ŋ⁵³ke⁰cy³¹zɿ²²ŋe⁵³kɔ⁴⁴tɕyøŋ³¹fiɔŋ²²³ke⁰ciəu⁴⁴ciəu⁴⁴cia⁵³ke⁰

0046. 你比我高，他比你还要高。

「あなたは私より（背が）高く、彼はあなたよりもっと高い。」

HH: 尔比我高，渠比尔还要高。

ŋ⁵³pi⁵³ŋe⁵³kɔ³¹, ge²¹pi⁵³ŋ⁵³fiue²¹io⁴⁴kɔ³¹

BY: 尔比我高，渠比尔还高。

ŋ⁵³pi⁵³ŋe⁵³kɔ³¹, ge²¹pi⁵³ŋ⁵³fiue²¹kɔ³¹

ZH: 尔比我长，渠比尔还要长。

ŋ⁵³pi⁵³ŋe⁵³dziã²¹, ge²¹pi⁵³ŋ⁵³fiue²¹io⁴⁴dziã²¹

CP: 尔比我高，渠比尔还要高。

ŋ⁵³pi⁵³ŋe⁵³kɔ³¹, ge²¹pi⁵³ŋ⁵³fiue²¹io⁴⁴kɔ³¹

0047. 老王跟老张一样高。

「王さんと張さんは同じくらい（背が）高い。」

HH: 老王搭老张一样高□ke⁰。

lɔ⁵³fiɔ²¹tsɿ²¹lɔ⁵³tɕiã³¹ieŋ⁵fiã¹¹³kɔ³¹ke⁰

BY: 老王搭老张样高□ke⁰。

lɔ⁵³fiɔ²¹tsɿ²¹lɔ⁵³tɕiã³¹fiã¹¹³kɔ³¹ke⁰

ZH: 老王{跟/与}老张一样长。

lɔ⁵³fiɔ²¹{kəŋ³¹/y⁵³}lɔ⁵³tɕiã³¹ieŋ²¹fiã¹¹³dziã²¹

CP: 老王搭老张样高□ke⁰。

lɔ⁵³fiɔ²¹tɕiã³¹fiã¹¹³kɔ³¹ke⁰

0048. 我走了，你们俩再多坐一会儿。

「私は行きます。あなた方二人はもうしばらく座っててください。」

HH: 我走爻□fiɔ⁰，尔两个人再多坐□tɕhiã³¹。

ŋe⁵³tɕe⁵³fiɔ⁰fiɔ⁰, ŋ⁵³liã⁵³ke⁰ŋiãŋ²¹tse⁴⁴to³¹zo²²tɕhiã³¹

BY: 我去爻□fiɔ⁰，尔两个坐□tɕhiã³¹凑。

ŋe⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰, ŋ⁵³liã⁵³ke⁰zo²²tɕhiã³¹ts^hɕe⁴⁴

ZH: 我去爻，尔奈两个再坐一记。

ŋe⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰, ŋ⁵³na¹¹³liã⁵³ke⁰tse⁴⁴zo²²ieŋ²¹tɕiã⁴⁴

CP: 我去爻□fiɔ⁰，尔两个坐□tɕhiã³¹凑。

ŋe⁵³k^he⁴⁴fiɔ⁰fiɔ⁰, ŋ⁵³liã⁵³ke⁰zo²²tɕhiã³¹ts^hɕe⁴⁴

0049. 我说不过他，谁都说不过他这个家伙。

「私は彼を言い負かすことができない。誰もこいつを言い負かすことはできない。」

HH: 我讲弗过渠，□ka⁴⁴人都讲弗过□køŋ²¹家伙。

ŋe⁵³kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵ge²¹, ka⁴⁴ŋiãŋ²¹toŋ²¹kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵køŋ²¹cia³¹ho⁵³

BY: 我讲渠弗过，□ka⁴⁴人都讲渠弗过。

ŋe⁵³kɔ⁵³ge²¹føŋ²¹ku⁵⁵, ka⁴⁴ŋiãŋ²¹toŋ²¹kɔ⁵³ge²¹føŋ²¹ku⁵⁵

ZH: 我讲弗过渠，□ka⁴⁴人都{讲弗过渠/讲渠弗过}。

ŋe⁵³kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵ge²¹, ka⁴⁴ŋiãŋ²¹toŋ²¹{kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵ge²¹/ kɔ⁵³ge²¹føŋ²¹ku⁵⁵}

CP: 我讲弗过渠，□ka⁴⁴人都{讲弗过□køŋ²¹家伙/讲□køŋ²¹家伙弗过}。

ŋe⁵³kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵ge²¹, ka⁴⁴ŋiãŋ²¹toŋ²¹{kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵køŋ²¹cia³¹ho⁵³/ kɔ⁵³køŋ²¹cia³¹ho⁵³føŋ²¹ku⁵⁵}

我讲渠弗过，□ka⁴⁴人都搭□køŋ²¹家伙讲弗过。

ŋe⁵³kɔ⁵³ge²¹føŋ²¹ku⁵⁵, ka⁴⁴ŋiãŋ²¹toŋ²¹tɕiã³¹køŋ²¹cia³¹ho⁵³kɔ⁵³føŋ²¹ku⁵⁵

0050. 上次只买了一本书，今天要多买几本。

「前回は一冊の本しか買わなかったから、今日は何冊か多く買おう。」

HH: 上次只买□lɜŋ⁰一本书，今日_儿要多买{几本/两本}

zɔ²¹ts^hɿ⁴⁴tɕyoŋ²¹ma⁵³lɜŋ⁰ieŋ²¹pəŋ⁵³ɕy³¹, ci²²ŋiãŋ²⁴²iɔ⁴⁴to³¹ma⁵³{ci³¹pəŋ⁰/ liã⁵³pəŋ⁰}

BY: 上次□bɜŋ²³只买□lɜŋ⁰一本书，今日_儿要多买两本。

zɔ²¹ts^hɿ⁴⁴bɜŋ²³tɕyoŋ²¹ma⁵³lɜŋ⁰ieŋ²¹pəŋ⁵³ɕy³¹, ci²²ŋiãŋ²⁴²iɔ⁴⁴to³¹ma⁵³liã⁵³pəŋ⁰

ZH: 早世只买一本书, 今日儿要多买{几本/两本}。

tsɔ⁵³ci⁴⁴tɕyoŋ⁵ma⁵³ieŋ⁵pəŋ⁵³ɕy³¹, ci²²ŋiəŋ²⁴²iɔ⁴⁴to³¹ma⁵³{ci³¹pəŋ⁰/ liã⁵³pəŋ⁰}

CP: 上次只买爻一本书, 今日儿要多买{几本/两本}

zɔ²¹ts^hɿ⁴⁴tɕyoŋ⁵ma⁵³fiɔ⁴⁴ieŋ⁵pəŋ⁵³ɕy³¹, ci²²ŋiəŋ²⁴²iɔ⁴⁴to³¹ma⁵³{ci³¹pəŋ⁰/ liã⁵³pəŋ⁰}